まんが
日本の歴史
2000年
監修●田代　脩　埼玉大学教授
学研の
まるごと
シリーズ

日本の歴史で活やくした人々

平成
大正
安土桃山時代
2000
1900
1800
1700
1600
1500
1400
1300
1200
1100
昭和
明治
江戸時代
室町時代
鎌倉時代
明治天皇 1912 1852
昭和天皇 1989 1901
松平定信 1829 1758
ペリー 1858 1794
井伊直弼 1860 1815
勝海舟 1899 1823
徳川慶喜 1913 1837
西郷隆盛 1877 1827
大久保利通 1878 1830
木戸孝允 1877 1833
岩倉具視 1883 1825
板垣退助 1919 1837
大隈重信 1922 1838
伊藤博文 1909 1841
陸奥宗光 1897 1844
小村寿太郎 1911 1855
原 敬 1921 1856
犬養 毅 1932 1855
東条英機 1948 1884
吉田 茂 1967 1878
坂本龍馬 1867 1835
高杉晋作 1867 1839
東郷平八郎 1934 1847
田沼意次 1788 1719
徳川吉宗 1751 1684
徳川綱吉 1709 1646
足利義昭 1597 1537
織田信長 1582 1534
豊臣秀吉 1598 1536
淀君 1615 1567
徳川家康 1616 1542
徳川秀忠 1632 1579
徳川家光 1651 1604
武田信玄 1573 1521
明智光秀 1582 1528
石田三成 1600 1560
天草四郎時貞 1638 1621
上杉謙信 1578 1530
足利義政 1490 1436
足利義満 1408 1358
足利尊氏 1358 1305
北条高時 1333 1303
北条時宗 1284 1251
後醍醐天皇 1339 1288
フビライ=ハン 1294 1215
楠木正成 1336 ?
新田義貞 1338 1301
細川頼之 1392 1329
後白河天皇 1192 1127
以仁王 1180 1151
後鳥羽上皇 1239 1180
平 清盛 1181 1118
源 頼朝 1199 1147
北条時政 1138 1215
北条政子 1225 1157
北条義時 1224 1163
源 1106
源 頼政 1180 1104
源 義朝 1160 1123
源 義仲 1184 1154
源 義経 1189 1159
歌川広重 1858 1797
吉田松陰 1859 1830
北里柴三郎 1931 1852
野口英世 1928 1876
川端康成 1972 1899
朝永振一郎 1979 1906
湯川秀樹 1981 1907
松尾芭蕉 1694 1644
井原西鶴 1693 1642
近松門左衛門 1724 1653
本居宣長 1801 1730
伊能忠敬 1818 1745
杉田玄白 1817 1733
蓮如 1499 1415
雪舟 1506 1420
法然 1212 1133
親鸞 1262 1173
源 実朝 1219 1192

まんが

日本の歴史2000年

監修●田代　脩／まんが●人見倫平

学研のまるごとシリーズ

学研

もくじ

●歴史探検●……
吉野ヶ里遺跡 6

第1部 日本の国の成り立ち……13

1 日本のあけぼの 14
■土器を使い始めた縄文時代の人々…15
■大陸から米づくりが伝わった弥生時代…19
■邪馬台国の女王卑弥呼…23

2 大和の国々 27
■大和朝廷を中心に日本のもとが成立…28
■大王、豪族の大きな墓づくり…31
■大陸文化を取り入れた大和朝廷…33

3 天皇中心の国づくり 36
■天皇を中心とした聖徳太子の政治…37
■大化の改新…41
■皇位をめぐっておきた壬申の乱…45

カラー資料室……49

第2部 貴族の世の中……57

1 奈良の都と大仏 58
■はなやかな奈良の都…59
■命がけの遣唐使…62
■聖武天皇と大仏…65

2 平安の都と藤原氏 68
■平安京と政治の再建…69
■藤原氏の栄え…72

3 武士のおこりと平氏の政治 78
■地方の政治が乱れ、武士が登場…79
■力をのばした源氏と平氏…82
■平氏の政治…85

カラー資料室……89

※1ページ扉の写真は、群馬県伊勢崎市出土の盛装した女性の埴輪。(東京国立博物館蔵)

第3部　武士の世の中へ……97

1 源頼朝と鎌倉武士　98
■源氏が兵をあげ、平氏が滅亡…99
■源頼朝と鎌倉幕府…102
■源氏の将軍がほろび、北条氏が実権をにぎる…105
■元の襲来でおとろえた鎌倉幕府…108

2 室町幕府と民衆の動き　111
■建武の新政の始まり…112
■足利尊氏と南北朝の争い…114
■足利義満と室町幕府の栄え…116
■新しい村と農民の団結…119

3 戦国の世と天下の統一　122
■応仁の乱と戦国大名の登場…123
■鉄砲とキリスト教の伝来…127
■織田信長の天下統一事業…129
■豊臣秀吉の天下統一…133

カラー資料室……137

第4部　士農工商の世の中……145

1 徳川家康と江戸幕府　146
■徳川家康が開いた江戸幕府…147
■大名の取りしまりと参勤交代…151
■士農工商の身分制度…154
■キリスト教禁止と鎖国…156

2 大阪・江戸の文化　158
■商業が発達し、強まった町人の力…159
■大阪の町人文化と江戸の町人文化…162
■国学、蘭学などの新しい学問…165

3 武士の世のおとろえ　168
■徳川吉宗と享保の改革…169
■松平定信と寛政の改革…172
■大塩平八郎の乱と天保の改革…174

カラー資料室……177

第5部 明治からの新しい世の中……185

1 武家政治の終わり 186

■ペリーの来航と日本の開国…187

■安政の大獄と尊王攘夷運動…191

■江戸幕府の滅亡…195

2 新しい明治の政治 200

■明治維新…201

■富国強兵の政策と文明開化…204

■自由民権運動と国会開設…208

3 日清・日露の戦い 213

■日清戦争と三国干渉…214

■日露戦争と韓国併合…217

■不平等条約の改正…220

4 民主主義のめばえ 223

■第一次世界大戦と好景気の世の中…224

■大戦後の不景気と社会運動の高まり…227

■普通選挙の実現…230

カラー資料室……233

第6部 戦争から平和な世の中へ……241

1 十五年にわたる戦争 242

■中国大陸への侵略…243

■太平洋戦争と日本の敗戦…247

2 新しい日本の出発 251

■日本国憲法の制定…252

■独立の回復と国連加盟…255

■産業がめざましく発展した…257

カラー資料室……261

巻末資料

●歴史早わかりコーナー……268

①奈良の大仏は、このようにして作られた…268
②平城京・平安京のしくみ…268
③遣唐使船のしくみ…269
④源平の合戦の移り変わり…270
⑤元との二回の戦い…271
⑥有力戦国大名とおもな戦い…272
⑦火縄銃のしくみ…272
⑧信長・秀吉・家康の勢力拡大の様子…273
⑨鎌倉・室町・江戸幕府のしくみ…274
⑩江戸時代の大名配置…274
⑪幕末に活やくした人々…275
⑫近代工業の発展…276
⑬太平洋戦争の戦場…277

●日本の歴史年表……278

●さくいん……284

この本の特ちょうと使い方

●大昔から現代まで、日本の歴史の流れと、各時代のおもな人物の活やくが一冊でわかります。

●第一部から第六部までの六つに分け、それぞれとびらを設けて、各時代の特ちょうと時代区分を説明しています。

●各部はそれぞれ、まんがとカラー資料室から成っていて、カラー資料室では、その時代の文化や特ちょうがわかります。

●まんがは重要人物・重要事項の解説と一体化させて、歴史学習のポイントが理解できるようにしています。

●次の項目が巻末にあります。

「**歴史早わかりコーナー**」…図解を中心に構成し、歴史の理解を助けます。

「**年表**」…日本のできごとと世界のできごとが比べられます。

「**さくいん**」…人名や事がらを調べるときに便利です。

はじめに

歴史探検

吉野ケ里遺跡

今から二千年ほど前に栄えた吉野ケ里遺跡をさぐってみよう。

［弥生時代 前・中・後期］

⬆復元された吉野ヶ里遺跡の建物。土塁，城柵，物見やぐらなどが見える。

佐賀県神埼郡にある吉野ケ里遺跡は、今までに発見された弥生時代の遺跡としては最大の規模のものだ。この遺跡からは、多くの集落や倉庫のあと、強大な指導者の存在を思わせる墓なども発掘され、古代の国のスケールの大きさを教えてくれる。

集落のまわりは、はば六メートル、深さ

吉野ヶ里遺跡関連表

時代	年代	おもなできごと
縄文時代	紀元前	このころ，米づくりが始まる。
弥生時代	3世紀	〔前期〕 吉野ヶ里は，このころから紀元3世紀ころまで栄えた。 大形かめ棺墓がつくられる。 環濠集落がつくられる。
	紀元前 2世紀	〔中期〕 このころ，墳丘墓がつくられる。 かめ棺墓，大環濠集落がさかんにつくられる。
	紀元 57年	倭奴国王，後漢（中国）から金印を受ける。
		〔後期〕 鉄器が広く使われるようになる。
	239年	卑弥呼，魏（中国）から親魏倭王の金印を受ける。
		このころ，大和勢力が国家統一を始める。
大和時代	4世紀	前方後円墳がつくられる。

三メートルをこえる外ぼりで囲まれ、邪馬台国の女王卑弥呼の住まいであったといわれる物見やぐらやさくのあとも発掘された。このことから、吉野ヶ里遺跡は、邪馬台国と関係が深いものと考えられている。

これが弥生時代の「国」だ！

吉野ケ里遺跡から、古代の国を想像してみると、左の絵のようになる。人々は外敵から身を守るために二重のほりの中に住み、ほりの外にある水田に出かけて共同で働いた。とれた米は、倉庫にたくわえ、決まりによって使われた。

指導者は、共同作業を指導するだけでなく、国の決まりを定めたり、戦いを指導したりした。大切なことを決めるときには、占いが行われ、国の決まりを破る者には、ばつがあたえられた。

内ぼり

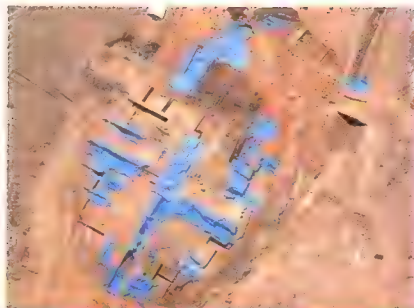
内ぼりは，はば３メートル，深さ２～2.5メートルであった。

物見やぐら

高さ12メートルもある物見やぐら。有明海も見えたといわれる。

柱穴とみぞ

城柵

高さ三メートル以上もあるさく。国を守るために建てられた。

墳丘墓

この国の支配者の墓と考えられる墳丘墓。

大きな柱のあな，まわりを囲むさくなどから，何か特別な区域(宮室)と思われる。

外ぼり

最大の深さは3.5メートル，はば6.5メートルもある外ぼり。集落をすっぽり囲んでいたらしい。

高床式倉庫

外ぼりの外に、大小十数棟あまりの高床式倉庫があった。

たて穴住居

七～八人が住めるたて穴住居。最大で千人以上の人々が住んでいた。

高い文化をほこった吉野ケ里

吉野ケ里遺跡からは、生活用具や武器、装飾品などが見つかっている。

生活用具

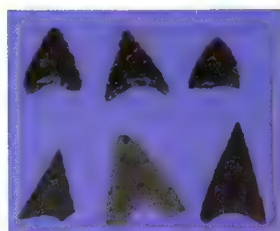
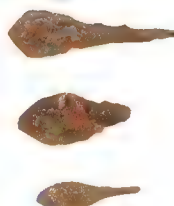
土器や、鉄器、石製品の出土品のなかには、日常生活に使う道具がたくさんある。

このように道具は、二千年ほど前の人々のくらしぶりをわたしたちに教えてくれる。遺跡の大きさや、さまざまな出土品からみて、吉野ケ里はゆたかに栄えた国だったにちがいない。

➡食べ物をもりつけた台つき鉢。

➡食べ物をたくわえたつぼ。ほぼ完全な形で出土した。

⬆木の実などをすりつぶすのに使った石皿と磨石。くぼみがよくわかる。

⬆鉄製手斧の復元模型。木をけずるのに使った。

⬆石製の矢じり。上は黒曜石のもの。矢の先につけた。

⬆鉄製の矢じり。狩りに使い，戦いのときは武器となった。

⬆しゃくしの形をした土製品。住まいのあとから発見され，汁をすくうのに使ったと思われる。

⬆鉄製の刀子。現在のナイフにあたり，木をけずったり，肉を切ったりした。

（佐賀県教育委員会）

権力のシンボル

吉野ケ里遺跡のなかでもっとも見晴らしのよい墳丘墓から、四本の銅剣が見つかっている。そのなかの一本は、長さ四十四・五センチで柄の頭にかざりがついており、王者の手にふさわしい堂々としたものである。また、力ある者のしるしといわれる鏡の破片も見つかっている。銅剣や鏡の持ち主たちが、吉野ケ里の支配者だとすれば、このような銅剣や鏡は支配者の権力を表すものとして大切にされたにちがいない。

↑柄の頭にかざりのある銅剣。かめ棺の中で，管玉といっしょに発見された。柄の頭にかざりのついた銅剣は，めずらしい。 国(文化庁)保管

↑剣の柄の頭につけるかざり。 国(文化庁)保管

↓鏡の裏側中央にあるひもを通す部分。

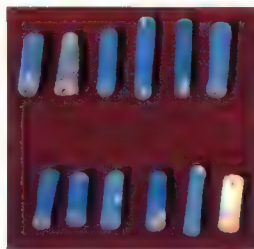
国(文化庁)保管

↑銅鏡の破片。権力者のシンボルとされた鏡は，破片になっても大切にされた。 国(文化庁)保管

↑細形銅剣。長さ約21センチで小型だが，今もするどい刃をしている。 国(文化庁)保管

装飾品

吉野ケ里の人々は、おしゃれも楽しんだらしい。出土品のなかには、土器・石器・鉄器などの日用の道具だけでなく、勾玉や管玉など身をかざるものもある。現代人が見ても、感心してしまうほどの美しさだ。

美しいもののなかに不思議な力を感じていた古代の人々は、おしゃれを楽しむだけでなく、お守りとしても大切にしていただろう。

→勾玉 (佐賀県教育委員会)

↑青くかがやくガラス製の管玉。このころのガラスは，今の宝石にあたるほどの貴重品だった。 国(文化庁)保管

儀礼と占い

ともえ形銅器をはじめ、生活に直接には役立たないが、古代の人々の願いや祈りを感じさせるものが出土している。

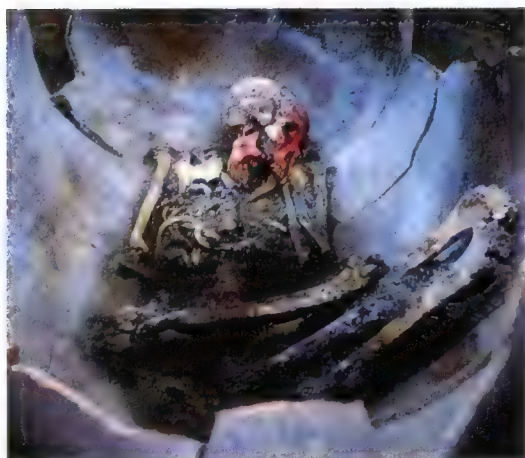
↓葬式に使ったと思われる土製品。

(佐賀県教育委員会)

ともえ形銅器の鋳型から復元された模型。盾などにとりつけた。 (佐賀県教育委員会)

激しい戦いがあった吉野ヶ里

かめ棺から見つかった首のない人骨。なぜ首がないのかは，よくわかっていない。

（佐賀県教育委員会）

顔に赤色顔料の朱がついている人骨。直接顔にぬったか，朱のついた布をかぶせたかと思われる。

空から見た志波屋四の坪遺跡。吉野ヶ里遺跡のひとつで，共同墓地であったと思われる。約1500個のかめ棺がならんでいた。

今から二千三百年ほど前、大陸から米づくりが伝わると、人々は低地に住みついて村をつくるようになった。やがて村は有力な指導者のもとにまとまり、大きくなって国となり、さらに強い国は弱い国を従えて成長していくようになった。日本のあちこちで、国どうしの激しい戦いが行われた。

吉野ヶ里遺跡からは、二千個以上のかめ棺が発見された。かめ棺の中から、首のない人骨や矢じりのささった人骨なども見つかっている。こうしたたくさんのかめ棺は、一か所にまとめられ、はば三〜四メートルの道の両側に規則正しくならべられている。

●弥生時代の様子については，19ページからの記事も参考にしてください。

日本の国の成り立ち

第１部では，旧石器時代・縄文時代・弥生時代・大和時代を通して，日本の国の成り立ちの様子を見てみよう。

1 日本のあけぼの 14

2 大和の国々 27

3 天皇中心の国づくり 36

(１万年前)　(2200年前)紀元元年　500年　1000年　1500年　明治　昭和

旧石器時代	縄文時代	弥生時代	大和時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	明治	大正	昭和	平成

1 日本のあけぼの

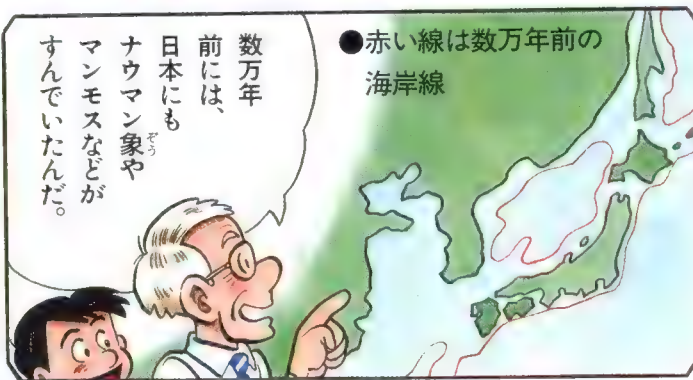
今から数十万年から約一万年前まで、日本はアジア大陸と陸続きだったことがあった。日本に住みついた人々は、北からはマンモス、南からはナウマン象などの動物を追って、移住してきたと考えられている。

旧石器時代

（野尻湖発掘調査団）（東北大学考古学研究室）

石を打ちかいた打製石器を使っていた時代で、日本では数十万年前から、現在の列島の形ができた約一万年前までをいう。大陸からナウマン象などを追ってきた人々が、岩かげやほら穴に住み、打製石器（写真右）や骨や角で作った骨角器（写真左）で狩りや漁をしてくらしていた。まだ土器を使っていなかったので、先土器（無土器）時代ともいう。

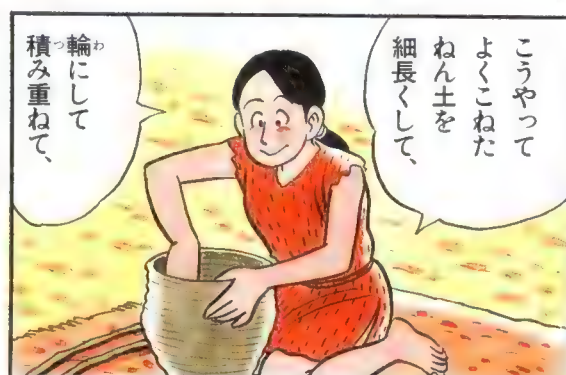
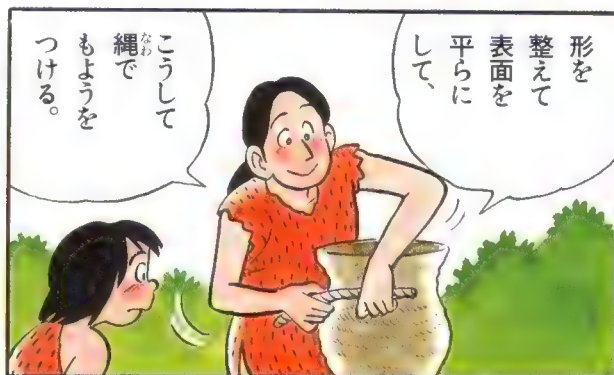
この時代を旧石器時代といって、このころの日本人は岩かげやほら穴に住み、狩りや漁をしてくらしていたんだ。

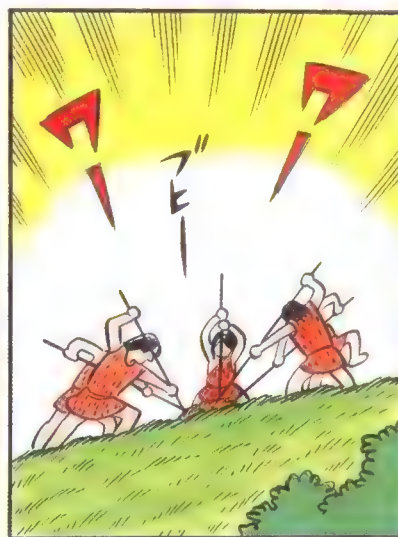
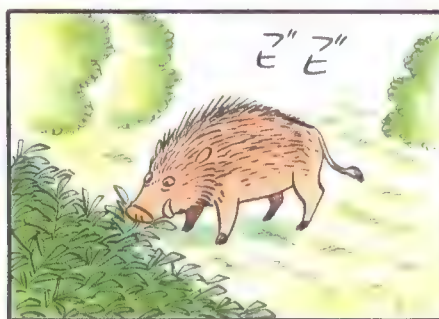
49ページからの カラー[illegible]しよう。

土器を使い始めた縄文時代の人々

岩宿遺跡

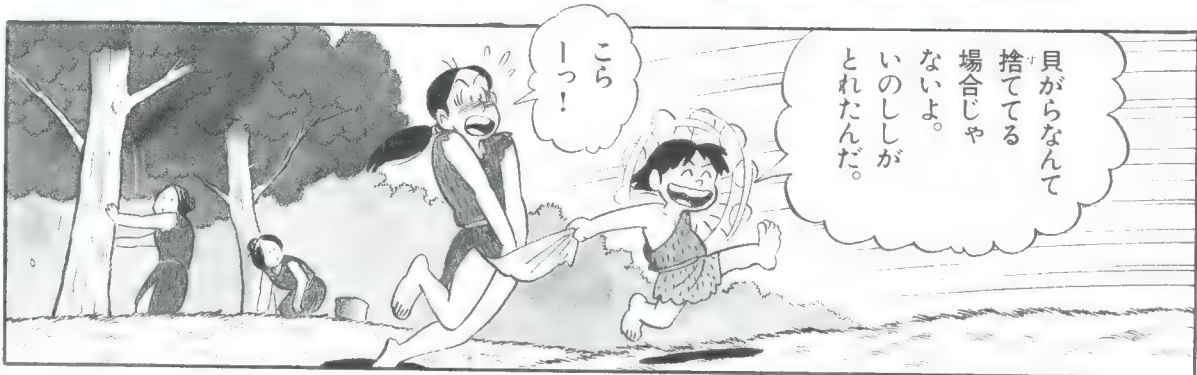
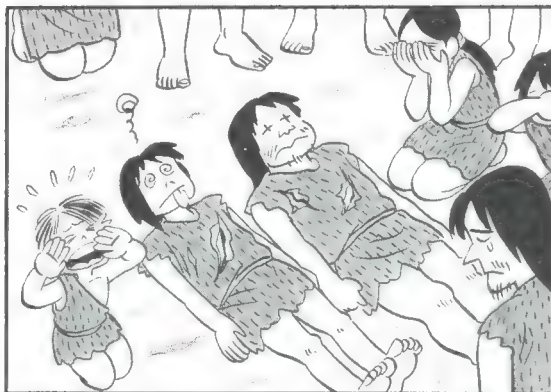
日本で最初に発見された旧石器時代の遺跡で、群馬県桐生市の近くにある。一九四九年、相沢忠洋さんによって打製石器が発見され、日本にも旧石器時代の人々がいたことがわかった。

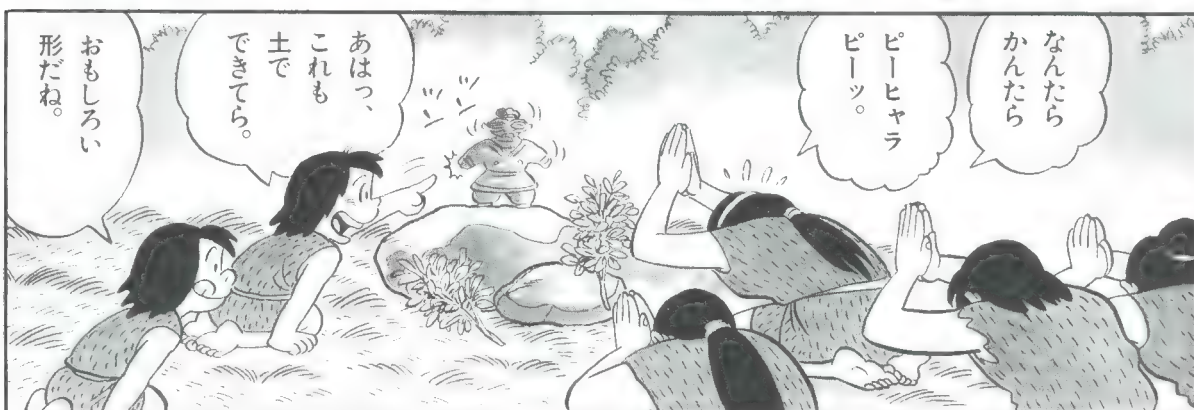
縄文時代

（南山大学人類学博物館）

縄目のもようのある縄文土器を使っていた時代。約一万年前から七～八千年ぐらい続き、人々は石をみがいて作った磨製石器を使うようになり、狩りや漁、植物の採集をしてくらしていた。

貝塚

縄文時代の人々が、食べた貝のからや動物の骨、いらなくなった物を捨てたごみ捨て場で、貝塚のある場所や出てくる物から、そのころの生活がわかる。人々は、狩りや漁・植物の採集につごうのよい、川や海に近い台地に、十戸ぐらいの集団をつくって住んでいた。住居は、地面を五十センチほどほりさげて、柱を立て、草で屋根をふいたたて穴住居で、中央に炉があり、四～五人の家族が住んでいた。

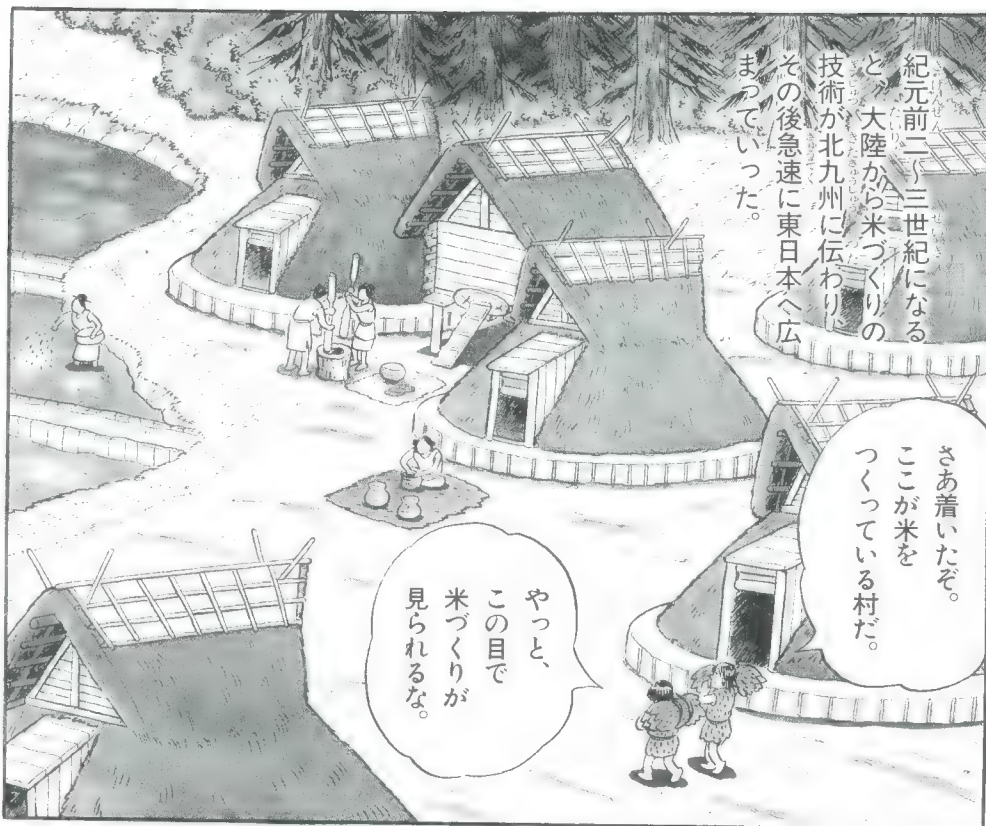
狩りと漁

右・大深山考古館　左・東北大学考古学研究室

縄文時代の人々は、弓矢ややり、おのなどの磨製石器を使って狩りをしたり、つり針、もりなどの骨角器やあみなどを使って漁をしていた。そのころは道具が発達していなかったので、人々は協力して動物や魚をとり、えものは公平に分けた。そして、えものや木の実などがなくなると、えものを求めて、小さな集団で移動した。しかし、生活はきびしく、うえ死にする者も多かった。

屈葬

死者の手足を折りまげて埋葬する方法。縄文時代には、ほとんどの人がこの方法で埋葬され、死者が身につけていた装身具に差がないことから、身分や貧富の差がなかったことがわかる。

土偶

東京国立博物館

縄文時代の土製の人形。女性を表す物が多く、豊かな収穫や家族が栄えることをいのったり、病気やけがなどを治すまじないや、魔よけとして使われたらしい。

大陸から米づくりが伝わった弥生時代

米づくり

紀元前三〇〇年ごろ、大陸から北九州に米づくりが伝わり、西日本から東日本へと広まっていった。人々は米づくりに適した低地に定住した。そして、共同で木製のくわやすきで湿地を耕して水田をつくり、田げたなどを使ってもみをまき、石ぼうちょうで穂をつみとった。静岡県の登呂遺跡からは、木製の農具、たて穴住居や高床式倉庫、水田のあとが発見されている。

まずはたんぼづくりからだ。
みんな、がんばっているだろう。
田に直接もみをまくのよ。
これは矢板を打ちこんでいるんだ。
田の周りの土がくずれるのを、防ぐんだ。

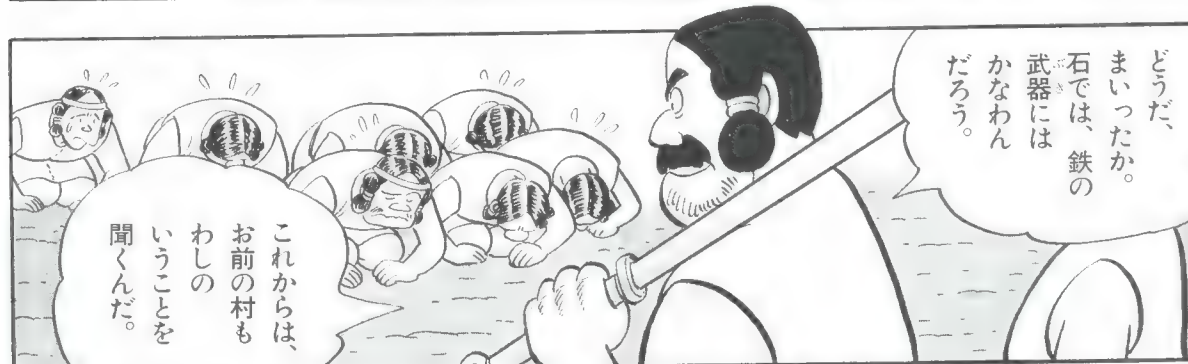
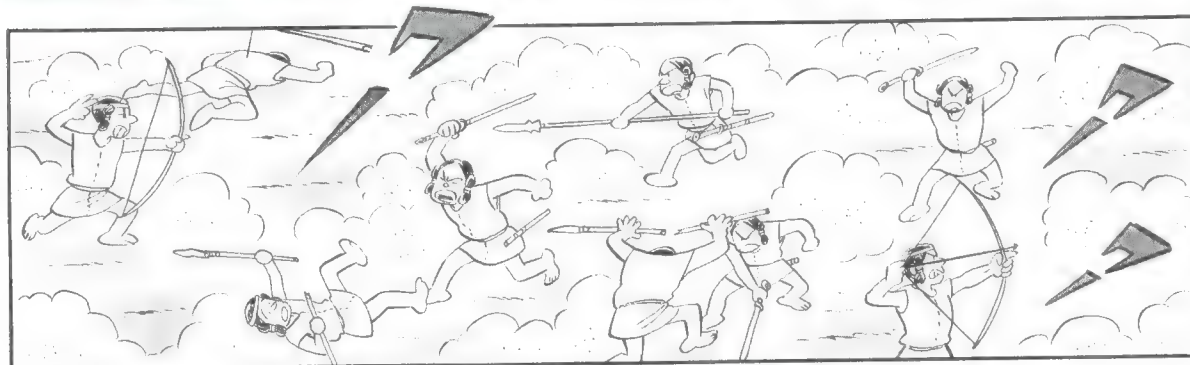
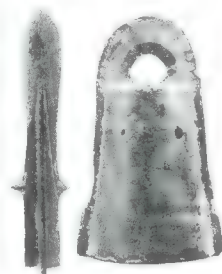
弥生時代

弥生土器が使われていた、紀元前三〇〇年から紀元三〇〇年ごろまでをいう。弥生土器は、縄文土器にくらべて、もようがかんたんで、うすくてかたい。この時代には、大陸から米づくりと金属器が伝わって、社会が大きく変化した。米づくりが始まると、人々は低地に定住するようになって「村」ができ、貧富と身分の差が生まれてきた。やがて、「村」がまとめられて、小さな「国」ができてきた。

おいおいそんなにかんたんにできるもんじゃないよ。
チッ
チッ
チッ

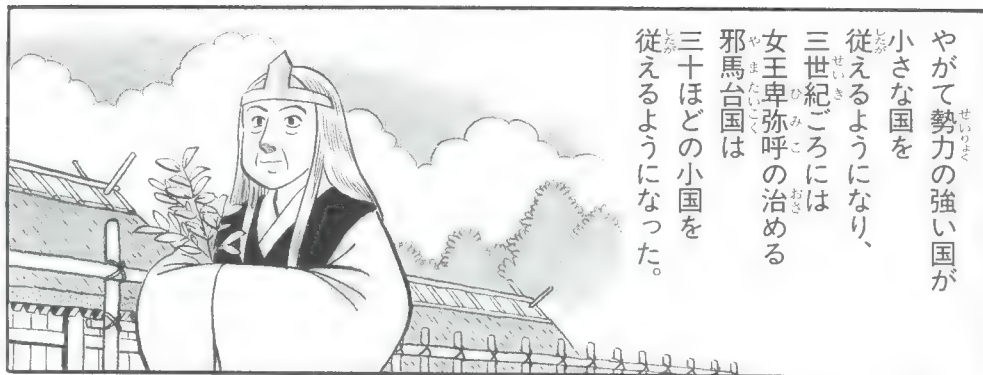
高床式倉庫

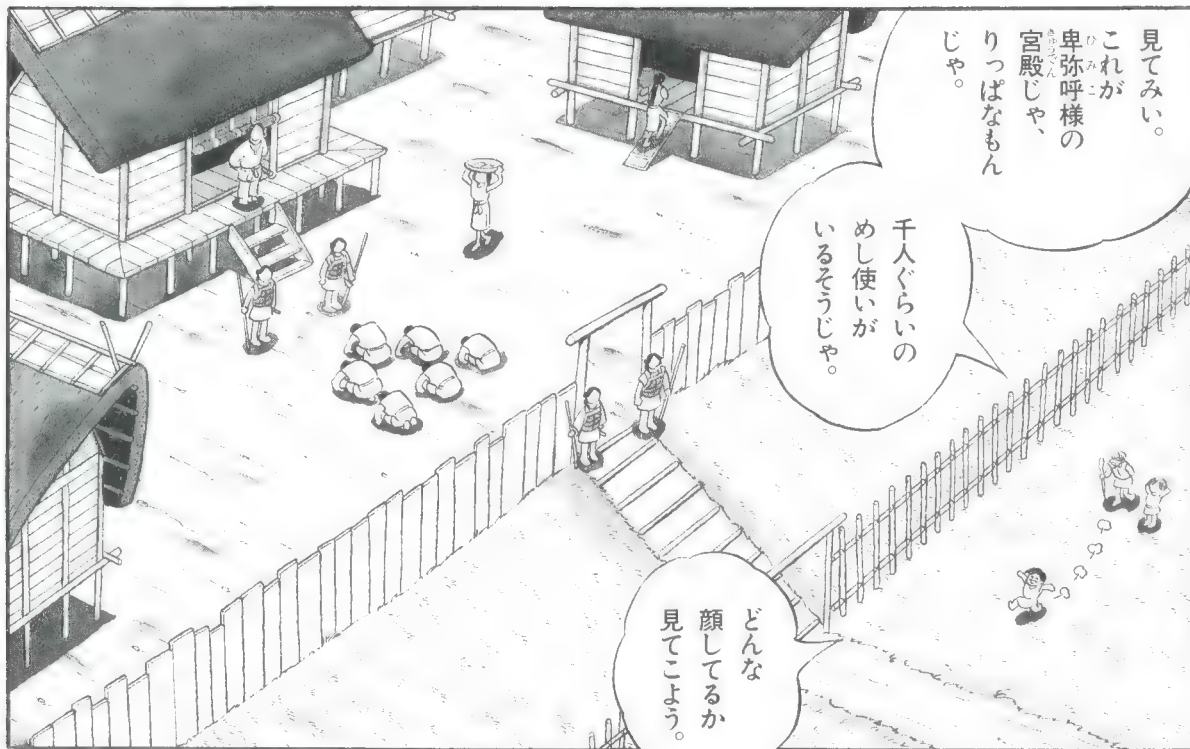
とれた米を保存するための倉庫で、湿気を防ぐために、床を高くしてある。また、ねずみが入らないように、「ねずみ返し」とよばれるしかけがつくられている。米づくりが進むと、生産力のちがいから、たくわえの多い者とそうでない者ができ、貧富の差が生まれた。また、共同作業を行い、争いなどのとき、「村」を指導する者が必要になり、「村」の長が生まれ、身分に差ができてきた。

金属器

(東京国立博物館)

紀元前三〇〇年ごろ、青銅器と鉄器が、ほぼ同時に大陸から伝わった。青銅器には、銅剣(写真左)・銅矛や銅鏡・銅鐸(写真右)などがあり、おもに宝物として祭りに使われた。鉄器は、農具や工具、武器など実用品として使われ、農業生産を高め、支配者の武力を強めた。しかし、弥生時代には、まだ多く生産することができなかったので、石器や木製の農具も使われていた。

邪馬台国の女王 卑弥呼

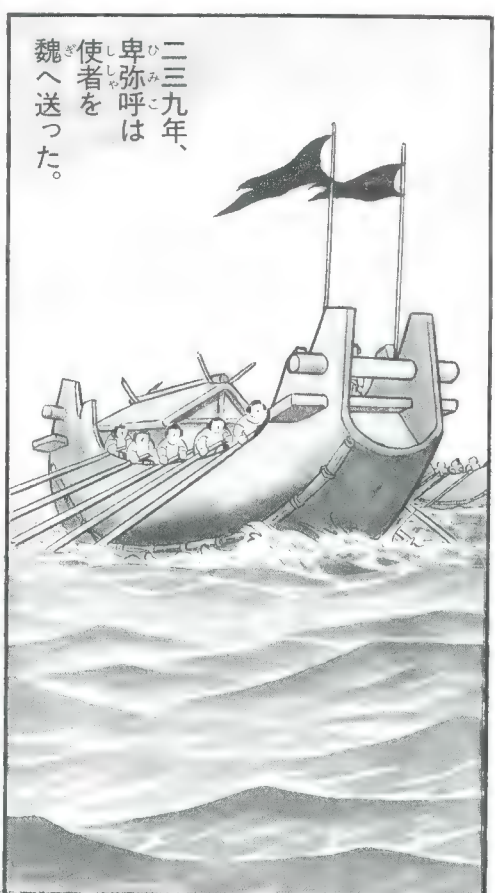
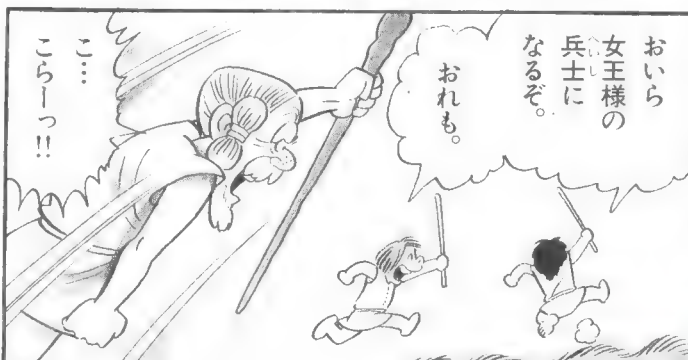
まて
!!

「村」から「国」へ

米づくりが進んで生産が高まり、人口がふえてくると、「村」はしだいに大きくなっていった。そして、土地や水をめぐって、「村」と「村」の間で争いがおこるようになった。有力な「村」は争いに勝って、弱い「村」を従えて勢力を広げ、やがて、いくつかの「村」をまとめて、小さな「国」がつくられた。そして「国」の支配者は、豪族に成長していった。

卑弥呼
(2～3世紀ごろ)

三世紀ごろ、日本にあったといわれる邪馬台国の女王。巫女のような性格をもち、うらないやまじないで国を治めていた。大きな宮殿に住み、千人ものめし使いを使っていたが、めったに人々の前に出ないで、弟が政治を助けていたという。また、中国の魏の国に使いを送り、魏の皇帝から金印や銅鏡をおくられた。卑弥呼が死ぬと、人々は直径百五十メートルもある大きな墓をつくってほうむったという。

ど…どこへ行くんだろう?
あれは卑弥呼様のご命令で、中国の魏へ行く使者のようだな。

邪馬台国

(陽明文庫)

三世紀中ごろ、日本にあったといわれる国。中国の『魏志倭人伝』(写真)という歴史書によると、三世紀の日本では、女王卑弥呼の治める邪馬台国が、三十余りの小国を従えて、勢いをふるっていた。そして、中国の魏と行き来していたという。しかし、邪馬台国の位置には、北九州説と大和(奈良県)説とがあり、どこにあったのか、まだはっきりわかっていない。

3世紀の東アジア

三世紀ごろ、中国は魏・呉・蜀の三つの国に分かれていた（三国時代）。魏は中国の北部を支配し、朝鮮北部に進出して、帯方郡を植民地とした。そして、魏と邪馬台国との交しょうは、帯方郡を通して行われた。

壱与（台与）

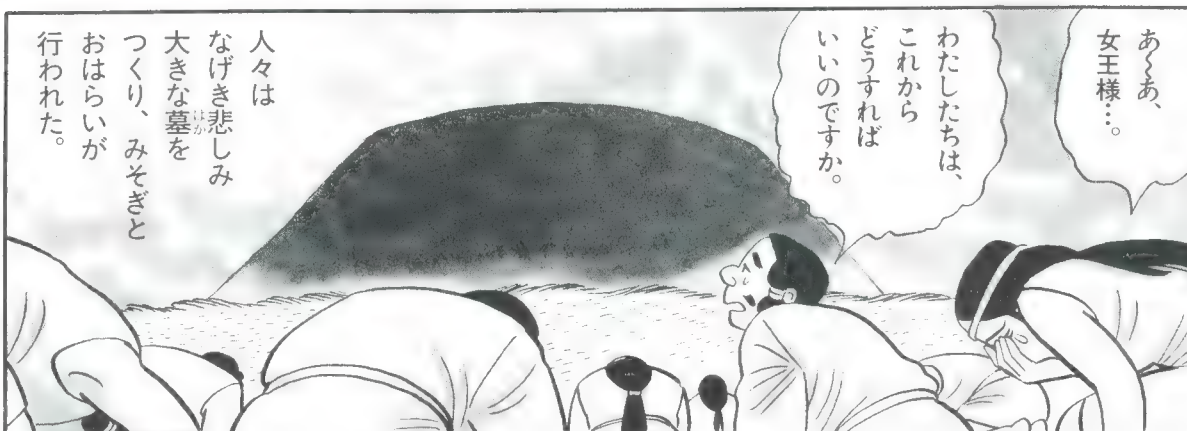
（3世紀ごろ）

卑弥呼のあとの邪馬台国の女王。卑弥呼の死んだあと、男の王が立ったが、内乱となった。そこで、十三歳の壱与が女王となり、国内を平定した。卑弥呼と同じように、うらないで政治を行ったと思われる。

2 大和の国々

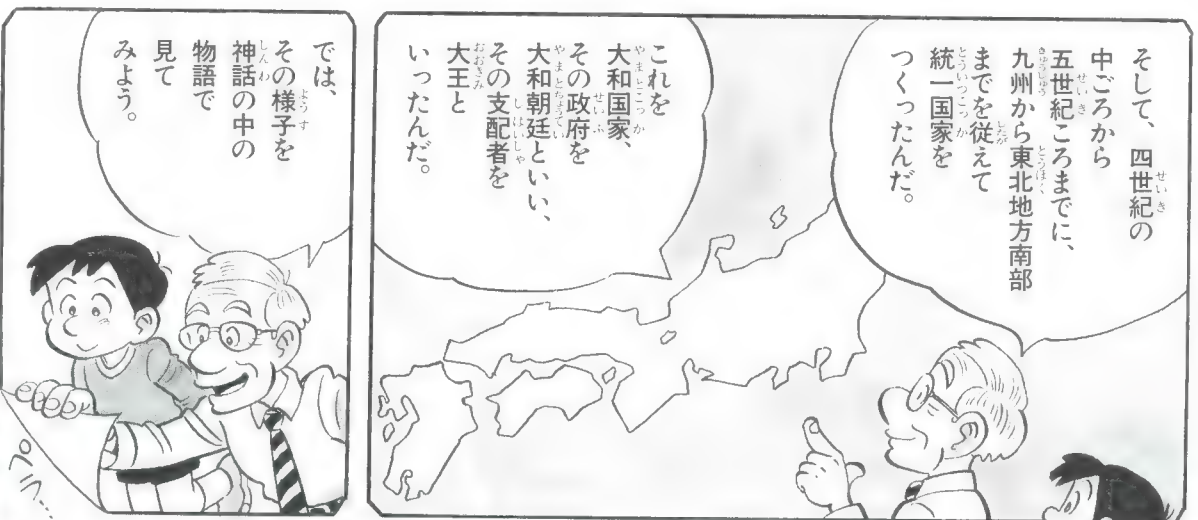
四世紀の中ごろから、大和地方を中心に、強大な統一国家がつくられた。

さあて、いよいよ大和朝廷の登場だよ。

四世紀ごろになると、大和（現在の奈良県）地方では豪族たちが勢力の強い豪族を中心として、一つにまとまるようになったんだ。

豪族

ある地方を支配し、大きな富や勢力をもつ一族。「国」の支配者が豪族に成長し、勢いをふるった。近畿地方には、皇室の祖先をはじめ、葛城氏、大伴氏、物部氏、蘇我氏などの大豪族がいた。

大王

大和国家の王で、のちの天皇の祖先。四世紀のはじめ、大和地方の有力な豪族たちの中心になった豪族で、四世紀の中ごろ、大和を中心に統一国家をつくり、大王とよばれた。七世紀ごろから天皇とよばれるようになった。

49ページからのカラー資料室も参照しよう。

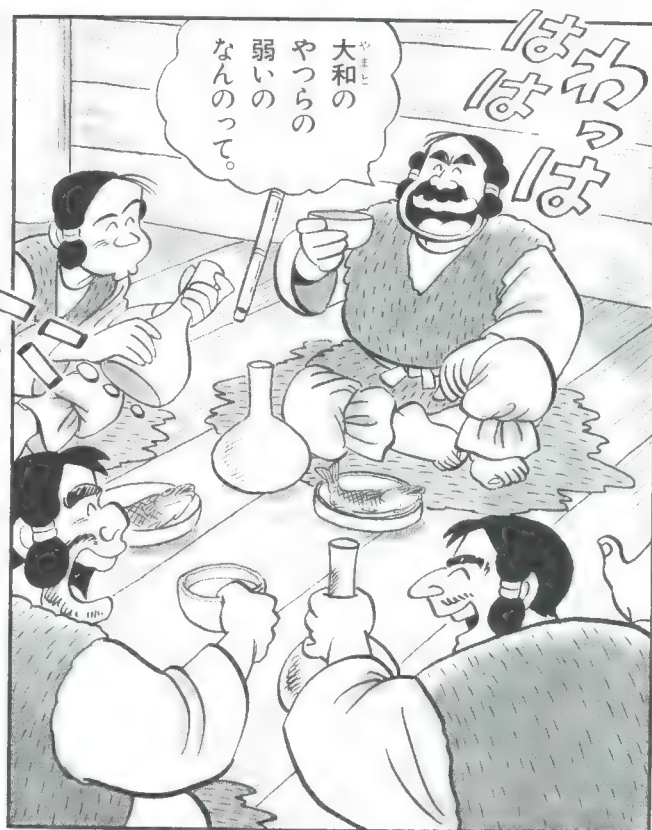
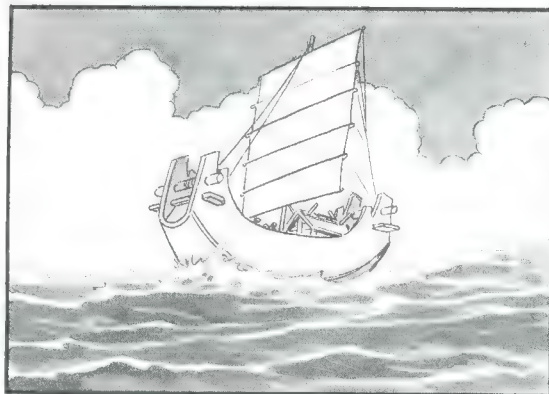
大和朝廷を中心に日本のもとが成立

ヤマトタケル

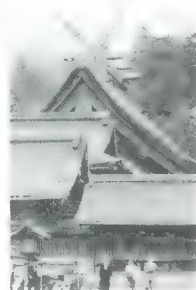
神話の中にでてくる英雄で、大和朝廷の国土統一のために活やくした。父の景行天皇の命令で、九州のクマソを討ち、さらに関東のエゾを平定したが、帰る途中で病死。オウスノミコト。

クマソ

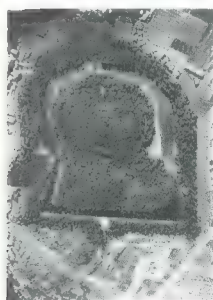
古代に、南九州にいた人々。大和朝廷に四世紀ごろ平定されたといわれている。熊本県に「球磨」、鹿児島県に「曽於」という地名があるので、クマ・ソの人という意味だと思われる。

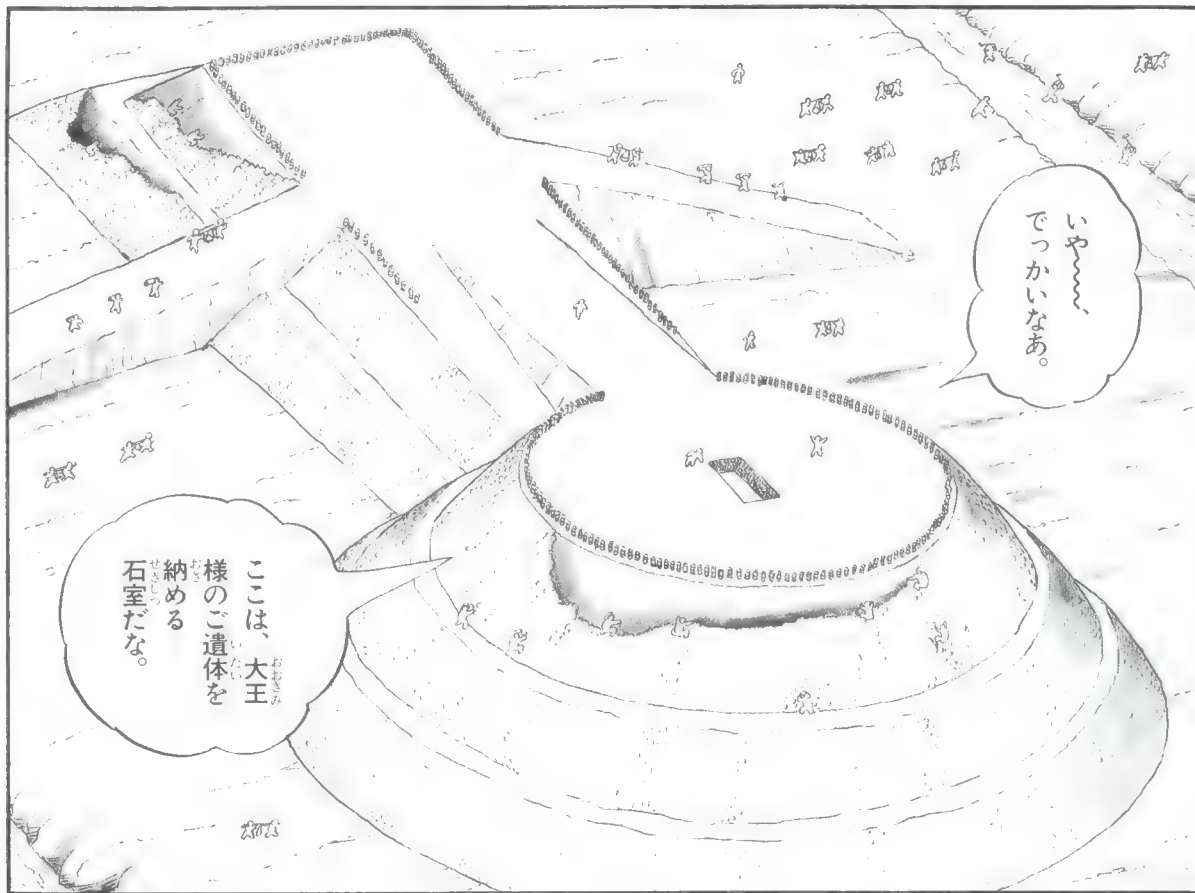
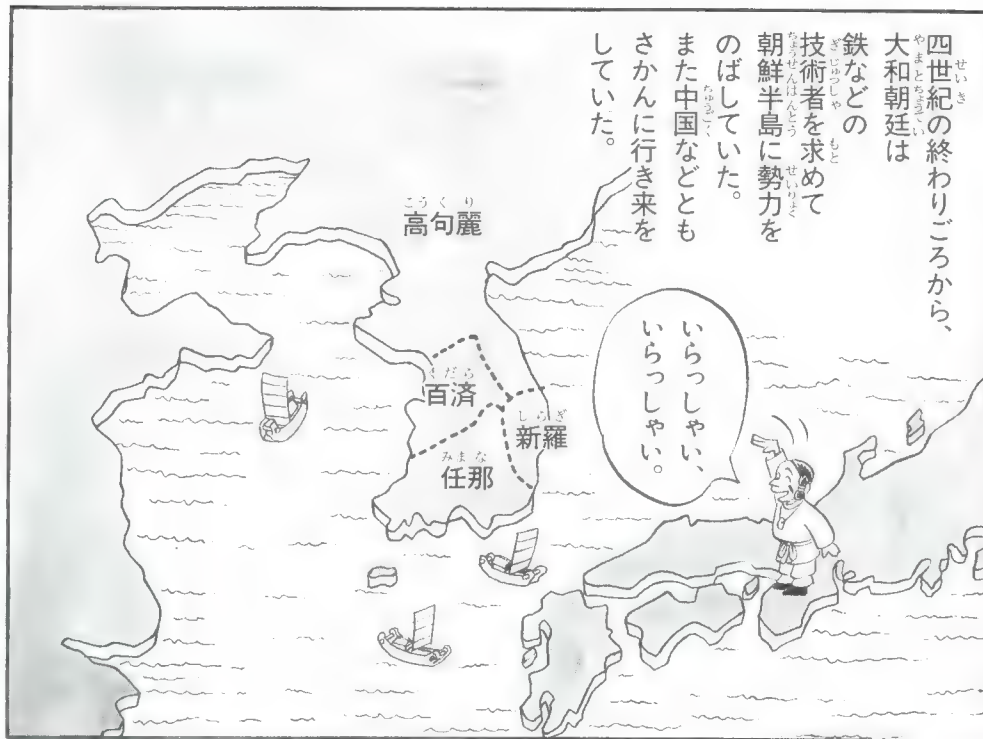
大和朝廷

大和地方の有力な豪族たちが、大王を中心としてつくった大和国家の政府。大王を中心とする豪族たちの連合政府で、四世紀中ごろから五世紀ごろまでに、九州から東北地方南部まで統一した。豪族の一族を氏といい、氏は大王から、朝廷での地位や仕事を表す姓をあたえられて政治を行った。このしくみを氏姓制度といい、蘇我氏や物部氏などの有力な氏は、大臣・大連の姓をあたえられて、中央の政治に参加した。

（写真は現在の奈良盆地。）

神話

原始・古代の神についての話で、日本の神話は、奈良時代に書かれた『古事記』や『日本書紀』などに残されている。この本は、天皇の権威を示すためにつくられたので、天皇の祖先で太陽神である天照大神が、地上を治めていた大国主命に国をゆずらせた話など、天皇の祖先とされる神々を中心に、物語がつくられている。現在、天照大神は伊勢神宮に、大国主命は出雲大社（写真）に祭られている。

大王、豪族の大きな墓づくり

古墳

四～七世紀ころにかけて多くつくられた大王や豪族の墓。円墳・方墳・上円下方墳や日本特有の前方後円墳などがあり、近畿地方を中心に、九州から東北地方中部まで分布している。五世紀ごろには、応神陵古墳（写真）や仁徳陵古墳（大山古墳）など、全長約四百メートルもある巨大な前方後円墳がつくられた。これらの古墳から、大王や豪族の権力の強さや、大陸文化を受け入れた、土木技術のすばらしさがわかる。

はにわ

古墳の上やまわりにならべた土製品で、古墳の土止めやかざりに使われた。土止め用には、直径四十センチメートル、高さ1メートル以上のつつ形のはにわが使われた。また、人間・動物・家などをかたどったはにわがあり、お葬式の列を表すためにならべたとか、死後の生活のために置いたなどの説がある。これらのはにわは、服装、かみ型、家など、当時の生活の様子を知る手がかりになる。

渡来人

四～七世紀ごろ、中国や朝鮮から日本に移住してきた人々をいう。五世紀に中国・朝鮮との交流がさかんになると、渡来人の移住がふえ、漢字・儒教や養蚕・機織りなど、大陸のすぐれた学問や技術を伝えた。大和朝廷は、かれらに近畿やその周辺に土地をあたえて住まわせ、朝廷の記録や財政の仕事にあたらせた。蘇我氏も、高い文化をもつ渡来人を保護し、その勢いを強めた。

漢字の伝来

隅田八幡神社

五世紀の初めごろ、朝鮮の百済から『千字文』と『論語』が朝廷におくられ、漢字と儒教が伝わった。『千字文』は漢字で書かれた習字用の教科書、『論語』は孔子の教えである儒教の本。このころ、日本で書かれた漢字としては、和歌山県の隅田八幡宮の銅鏡(写真)や、埼玉県の稲荷山古墳の鉄剣に書かれたものなどがある。

仏教の伝来

五三八年、百済の聖明王が、金銅釈迦像と経典を天皇におくり、公式に仏教を伝えた。このとき、神をまつる仕事をしていた中臣氏や物部氏は、仏教を受け入れることに反対し、受け入れようとする蘇我氏と対立した。しかし、それ以前に、渡来人の間では信仰されていた。仏教は、この後の日本の文化や生活に、大きなえいきょうをあたえた。なお、仏教の伝来を五五二年とする説もある。

③ 天皇中心の国づくり

聖徳太子
(574～622)

用明天皇の皇子で、厩戸皇子、豊聰耳皇子ともよばれる。おばの推古天皇の摂政となり、豪族の争いをおさえて、天皇中心の国家をつくるため、冠位十二階の制や十七条の憲法を定め、小野妹子を隋に送り、中国の進んだ制度や文化を取り入れた。また、仏教を深く信仰し、法隆寺や四天王寺を建てたので、仏教文化（飛鳥文化）が栄えた。

49ページからのカラー資料室も参照しよう。

天皇を中心とした聖徳太子の政治

わ…わかりました。

ライバルはいなくなったし、政治もわしの思いのままだ。
エヘン
オホン
物部氏をたおした蘇我氏は、さらに勢力をのばした。

蘇我氏と物部氏の争い

六世紀になると、大和朝廷では、有力な豪族が政治の実権をめぐって、はげしく争うようになった。さらに、仏教が伝わると、その受け入れをめぐって、蘇我氏と物部氏の争いが、いっそうはげしくなった。そして、五八七年、物部守屋が中臣氏と組んで兵をあげると、蘇我馬子は聖徳太子などの皇子や、紀氏・大伴氏などの豪族の協力を得て、守屋をせめほろぼし、強大な力をもつようになった。

推古天皇

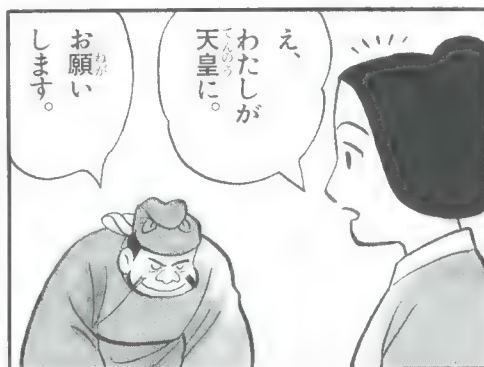
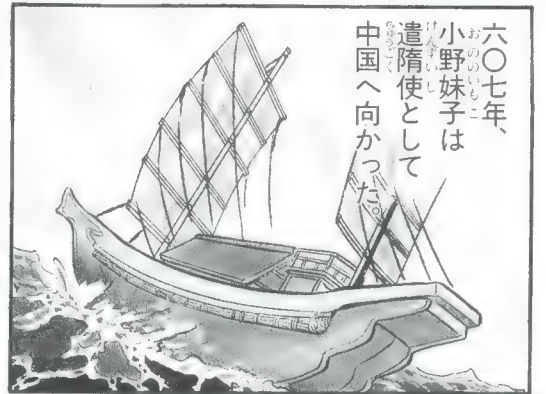
(554〜628)

日本では初めての女帝。欽明天皇の皇女で、炊屋姫とよばれ、敏達天皇の皇后になった。五九二年、蘇我馬子に応援されて天皇になり、おいの聖徳太子を摂政として政治をとらせた。

摂政

天皇にかわって政治を行う役職。五九三年に聖徳太子が推古天皇の摂政になったのが最初で、皇太子が摂政になることが多かった。平安時代になると、皇族以外の藤原氏が摂政になった。

第一条、平和を愛し争いをやめなさい。第二条、仏教を大切に。

ふむふむ。

冠位十二階の制

六〇三年に能力のある者を用いるために定めた制度。家がらによってきまっていた位や役職の制度をやめ、才能や功績のある者に位をあたえ、役職につけた。六つの位を大小に分けて十二階とし、色分けした冠を一代に限ってあたえた。

十七条の憲法

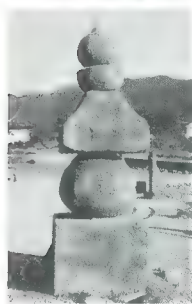
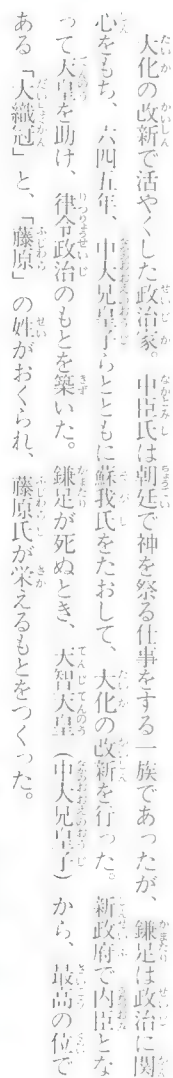
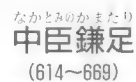
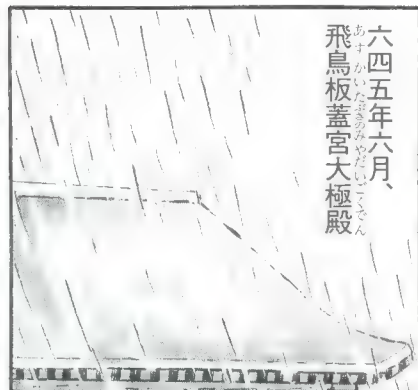
六〇四年、聖徳太子が定めた日本で最も古い法令。儒教や仏教の教えを取り入れて、役人の心がまえを示したもので、和をたっとび、仏教を信じ、天皇に従って、公正な政治を行うことを説いた。太子の作でなく、後につくられたという説もある。

小野妹子

（6世紀後半～7世紀初め）

聖徳太子に命じられ、隋（中国）にわたった遣隋使。近江（滋賀）の豪族で、太子に才能を見いだされ、六〇七年、遣隋使として隋にわたり、隋の煬帝に太子の国書をわたした。翌年、隋の使者をともなって帰国した。同年、使者が帰国するとき、再び遣隋使となり、留学生・留学僧をともなって、隋に渡った。隋との国交を開いた功績に対して、太子から最高位の冠位である大徳をあたえられた。

大化の改新

蘇我氏一族

大和朝廷の中で、最も有力な豪族。皇室と親せき関係を結び、大臣として朝廷の財政と外交を担当した。渡来人を保護し、仏教などの大陸文化を取り入れ、物部氏をたおして全盛期をむかえた。馬子・蝦夷・入鹿の三代にわたって権力をふるい、皇室をしのぐ勢いを持っていたが、六四五年、大化の改新で、中大兄皇子らにほろぼされた。そのとき殺された入鹿の首塚といわれる五輪塔（写真）が、今でも残っている。

中臣鎌足
（614～669）

大化の改新で活やくした政治家。中臣氏は朝廷で神を祭る仕事をする一族であったが、鎌足は政治に関心をもち、六四五年、中大兄皇子らとともに蘇我氏をたおして、大化の改新を行った。新政府で内臣となって天皇を助け、律令政治のもとを築いた。鎌足が死ぬとき、天智天皇（中大兄皇子）から、最高の位である「大織冠」と、「藤原」の姓がおくられ、藤原氏が栄えるもとをつくった。

●蘇我氏と皇室とのつながり

蘇我馬子
蘇我蝦夷
聖徳太子
皇極天皇
舒明天皇
中大兄皇子
大海人皇子
古人大兄皇子
蘇我入鹿
山背大兄王

父上…、それには聖徳太子の子山背大兄王がじゃまですね。

うむ…。

山背大兄王の一族を討つのだ――！

蘇我入鹿は山背大兄王の一族をほろぼしてしまいました。

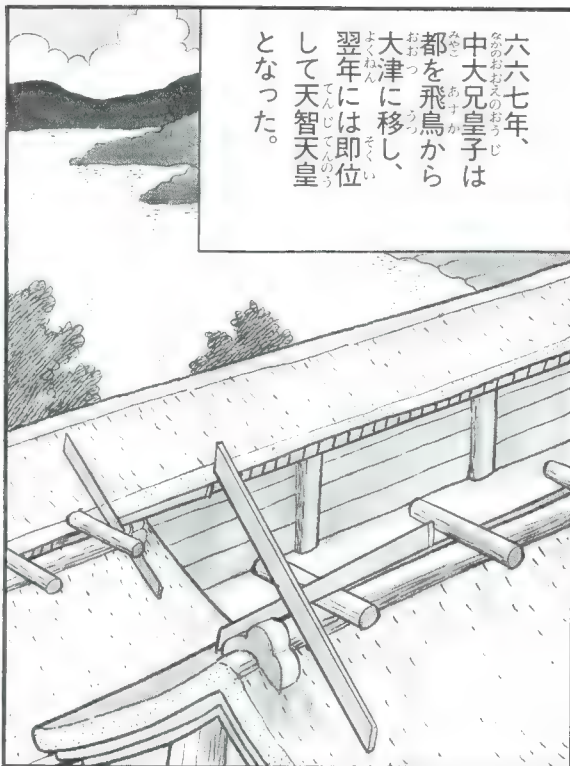
大化の改新

六四五年、中大兄皇子と中臣鎌足らが、朝廷の実権をにぎっていた蘇我氏一族をほろぼして、新しくはじめた政治の改革をいう。中大兄皇子が皇太子となり、初めて大化という年号を定め、都を難波に移して、朝廷の内容を改めた。翌年、改新の詔を出して、国郡制、公地公民、班田収授の法、租庸調などの新しい政治の方針を示した。そして、中国の律令制度を取り入れて、天皇を中心とする国づくりを進めた。

天智天皇
（中大兄皇子）
（626〜671）

舒明天皇の皇子で、母は皇極（のち斉明）天皇。六四五年、中臣鎌足らと蘇我氏をほろぼして、孝徳天皇、斉明天皇の皇太子となり、大化の改新を進めた。新しい政治を行うため六六七年、都を近江（滋賀県）の大津京に移し、翌年天皇の位についた。そして、日本最初のまとまった法令である近江令を定め、全国的に戸籍をつくり、天皇を中心とする律令国家のもとをつくった。

翌年
新しい政治のやり方を発表する。
まず、これまで豪族の持っていた土地と民はすべて天皇のものとする。
えーっ。では、われわれはどうなるんだ。

皇位をめぐっておきた壬申の乱

鎌足、全国にわたって戸籍をつくり、新しい法律（近江令）を整えるぞ。

はい。

大津京

六六七年、中大兄皇子が飛鳥（奈良県）から近江（滋賀県）の大津に移した都。六七二年、天武天皇が飛鳥浄御原に移すまでの五年間、都が置かれた。

庚午年籍

六七〇年、天智天皇のときにつくられた戸籍。わが国ではじめて全国的に整えられた戸籍で、のちの戸籍の手本となったが、現在は残っていない。

近江令

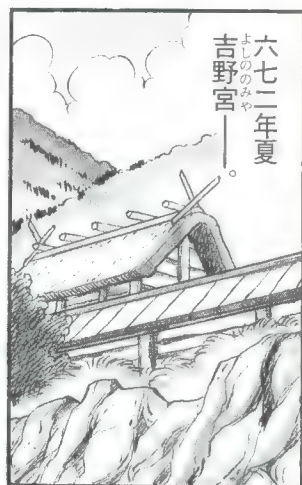
六六八年、天智天皇が定めた法令。中臣鎌足が中心になってつくり、のちの大宝律令のもとになったといわれるが、現在は残っていない。

天武天皇
（大海人皇子）
（?～686）

天智天皇の弟で、天皇を助けて、大化の改新の政治に参加した。天智天皇の死後、皇位をめぐっておいの大友皇子と対立し、壬申の乱で勝ったあと、天皇の位についた。天皇の力を強め、古代天皇制国家のもとをつくった。

大友皇子
（648～672）

天智天皇の皇子で、六七一年に太政大臣となる。天智天皇の死後、おじの大海人皇子と皇位をめぐって争い、壬申の乱で敗れて自殺した。明治になって弘文天皇という名がおくられた。

壬申の乱

六七二年、天智天皇の死後、大海人皇子と大友皇子が争った戦い。大友皇子を中心とする近江の朝廷が戦争の準備をしていることを知った大海人皇子は、もとの領地である美濃（岐阜県）で東国の兵を集め、不破から琵琶湖沿いに近江にせめ入った。戦いに敗れた大友皇子は自殺し、大海人皇子が天武天皇となった。天武天皇は、大友皇子についた大豪族を政治から遠ざけて、天皇の権力を強めた。

この戦いを壬申の乱といい、勝ったのは、大海人皇子の軍だった。

持統天皇

(645〜702)

天武天皇の皇后。壬申の乱では夫の天武天皇とともに戦い、天武天皇の死後、天皇の位につき、都を藤原京に移して、律令政治を進めた。歌人としても有名で、「万葉集」に「春すぎて夏きたるらし　白妙の　衣ほしたり天の香具山」の歌がある。

大宝律令

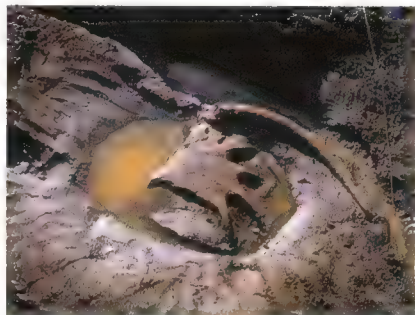
七〇一年に完成し、翌年から実施された律令政治の基本法。刑部親王や藤原不比等らが、唐の律令を参考にして、大化の改新の方針にもとづき、日本の実情に合うようにつくった。これによって、天皇を中心とする国家のしくみが整った。

第1部

カラー資料室

日本の国の成り立ち

大昔、日本列島に住んでいた人々は、いったいどのようなくらしをしていたのだろうか。

ナウマン象を狩る人々。数万年前、日本は大陸と陸続きで、ナウマン象やオオツノジカなどがすんでいた。長野県の野尻湖遺跡からは、ナウマン象の歯や骨の化石が発見されている。

打製石器でえものをとった

旧石器時代

今から数十万年前～約一万年前

今から数十万年前～約一万年ほど前の人々は、狩りや漁、木の実を取るなどの方法で食料を得ていた。土器はまだ使われておらず、狩りや漁には石を打ちかいてつくった打製石器が使われた。

骨でつくられた道具。

（野尻湖発掘調査団提供）

二～三万年前の石器。

（東北大学文学部考古学研究室）

ナウマン象のきばとオオツノジカの角。

（野尻湖発掘調査団提供）

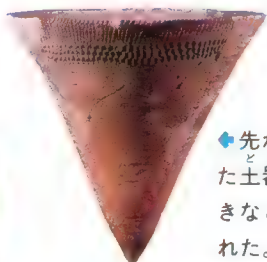
土器を使い、狩りや漁のくらし

縄文時代
今から一万年ほど前～二千三百年ほど前

一万年ほど前から、人々は土器を作るようになった。このころの土器には、縄目のもようがついているので、この土器が使われた時代を縄文時代という。
縄文時代の人々は、川や海、森や林など、えものをとりやすい場所に移りながら、地面をあさくほったたて穴住居に住むようになった。狩りや漁の道具も、弓矢やつり針などが使われるようになり、土器を使った料理法とともに、くらしを大きく進歩させた。この時代は数千年も続いた。

↑たて穴住居。長野県尖石遺跡・与助尾根の復元住居。山の幸に恵まれた八ヶ岳の山ろくにあり、100人ほどの人々がくらしていた。

縄文土器のいろいろ

底が丸い土器。けものの肉や魚などのにたきに使われた。（国学院大学考古学資料館）

先がとがった土器。にたきなどに使われた。（慶應義塾大学考古学研究室）

底が平らな土器。にたきに使われたらしい。（早稲田大学文学部考古学研究室）

炎のもようの深ばち。神にそなえる食べ物のにたきに使われたらしい。（津南町教育委員会）

たて穴住居の内部。地面をあさくほった床の中央に、炉がつくられている。屋根には、排気口もつけられていた。（埼玉県立博物館）

いろいろな石器と骨角器

石やりのほ先。（国学院大学考古学資料館）

石の矢じり。矢の先につけて使われた。（東京国立博物館）

けものの角で作られたつり針。（東北大学文学部考古学研究室）

角で作られたもり。（東北大学文学部考古学研究室）

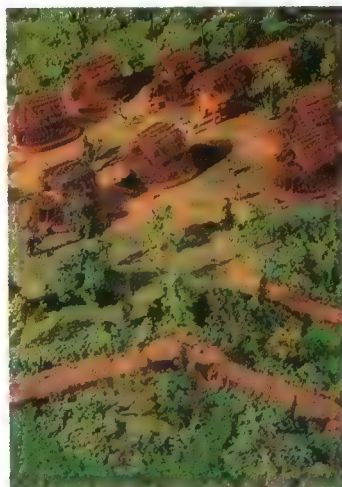
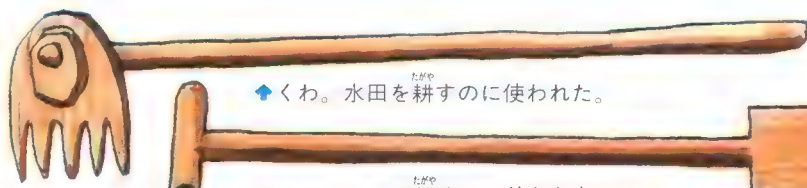
ぼうの先につけて使われた石おの。（大深山考古館）

縄文時代のくらし。狩りや漁でえものをとり、木の実をとっておいて、冬の食料とした。

米づくりが始まる

弥生時代
今から二千三百年ほど前〜千七百年ほど前

今から二千三百年ほど前、大陸から米づくりが伝わり、弥生時代に入って広く行われるようになった。人々は同じ場所に住んで村をつくり、共同で仕事をするようになった。弥生土器が作られ、鉄器や青銅器などの金属器も使われ始めた。

↑復元された高床式倉庫。ここにいねをたくわえた。（静岡市立登呂博物館）
↑ねずみ返し。ねずみよけの板が取りつけられていた。

↑1800年前の米づくりの村。静岡県の登呂遺跡の復元模型。
（静岡市立登呂博物館）

木製の農具と石ぼうちょう

↑くわ。水田を耕すのに使われた。
↑すき。水田を耕すのに使われた。
↓きね。うすに入れたもみをついた。
↑田げた。水田の作業ではいた。
↓田ぶね。いねなどを運んだ。
↑石ぼうちょう。（東京国立博物館）
あなにひもを通し、穂をかり取った。

弥生時代のくらし。春は共同で水田を耕し、たねもみを植える。秋はいねの穂をつみ取ったり、うすやきねでもみがらを取ったりと、村の人々はいそがしく働いたことだろう。

弥生土器

縄文土器にくらべて、うすくてかたく、形が整っている。

かめ。（静岡市立登呂博物館）

つぼ。（京都大学文学部博物館）

金属器（鉄器と青銅器）

鉄製の矢じり。武器として使われた。（東京国立博物館）

鉄製のかま。いねのかり取りに使われた。（九州歴史資料館）

銅矛。祭りの道具として使われた。

銅剣（右）と銅戈（左）。武器として使われた。（東京国立博物館）

銅鐸。祭りの道具として使われた。（東京国立博物館）

巨大な古墳がつくられるようになった

大和時代
三五〇年ごろ～七〇〇年ごろ

米づくりとともに生まれた村は、強い力を持つ豪族のもとにまとまり、強い村は弱い村をしたがえて、国に成長していった。豪族たちは、死後も力の強さをしめすため、古墳を築いた。

豪族の中で、もっとも強い力を持っていた大王（のちの天皇）は、四世紀ごろ、大和地方を一つの国にまとめ、大和朝廷のもとを築いた。

↑仁徳陵古墳（大山古墳）。大阪府堺市にある世界最大の大きさを持つ墓。全長486メートルもある前方後円墳で、土もりだけで1日当たり1000人が4年間かけたとされる。

いろいろなはにわ

古墳のまわりや頂上からは、さまざまなはにわが出土している。

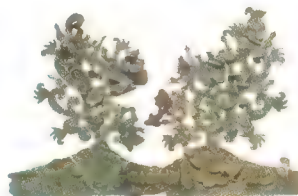
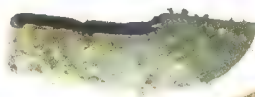
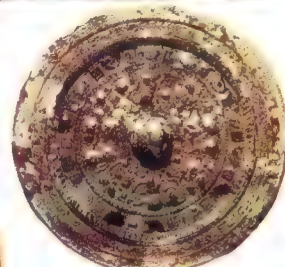
人や馬などをかたどったはにわ。豪族のかしらの葬列をかたどったもの。（芝山はにわ博物館）

円筒はにわ（復元）。古墳の周囲に一列にならべられ、神聖な場所を表している。

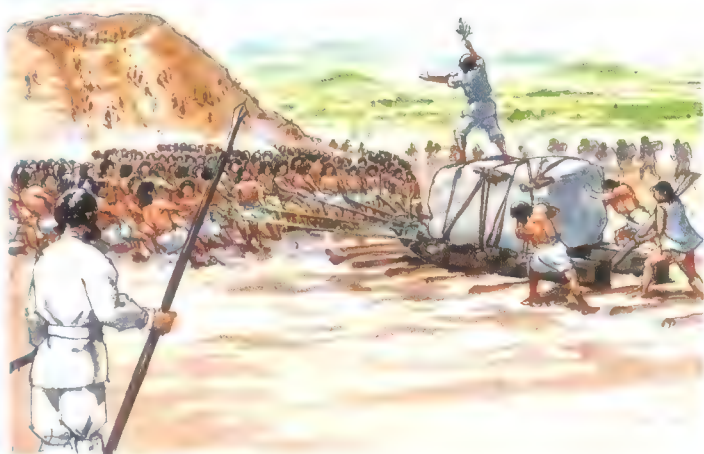
古墳の副葬品

副葬品は、当時の文化を知る上でたいへん貴重である。

鉄剣。埼玉県稲荷山古墳出土。長さ73.5センチ。（埼玉県立さきたま資料館）

奈良県の藤の木古墳から出土した金銅製のくつ。

金銅製の冠。高さ30センチで、頭にまきつけた。

金銅製馬具（くら）。きざまれた模様から朝鮮などとの交流がわかる。（奈良県橿原考古学研究所）

大阪府和泉市黄金塚古墳から出土した銅鏡。「景初三年」とあり、邪馬台国との関係が考えられている。（東京国立博物館）

前方後円墳の大きさ

古墳は三世紀ごろからつくられはじめ、全国に広がっていった。中でも、丸いもり土に四角いもり土をつなげた前方後円墳は、五世紀ごろにさかんにつくられるようになった。

	古墳名	全長
1	仁徳陵古墳（大山古墳）	486
2	応神陵古墳	430
3	履中陵古墳	360
4	造山古墳	350
5	高鷲大塚山古墳	330

花開く飛鳥文化

大和時代　三五〇年ごろ～七〇〇年ごろ

四世紀の末ごろ、ほぼ全国を統一した大和朝廷は天皇を中心として支配を固めていった。このころ、日本の政治と文化の中心地として栄えたのが飛鳥（奈良県明日香村一帯）である。

六世紀に朝鮮から仏教が伝わると、朝廷は仏教を保護し、これを広めた。そして、飛鳥を中心に、飛鳥寺をはじめ、法隆寺や橘寺など、たくさんの寺院が建てられ、仏教文化が花開いた。

中宮寺の半跏思惟像。（中宮寺）

法隆寺。世界最古の木造建築物で、飛鳥文化の宝庫といわれる。金堂、五重塔、中門、回廊などが見える。

聖徳太子像。中央の聖徳太子と二王子の像と伝えられる。（宮内庁）

法隆寺釈迦三尊像。中央の如来像は太子等身像といわれている。すわっている状態で、高さ86.4センチある。（法隆寺）

貴族の世の中

第2部では，奈良時代・平安時代を通して，貴族の世の中が栄え，移り変わる様子を見てみよう。

1 奈良の都と大仏 58　2 平安の都と藤原氏 68　3 武士のおこりと平氏の政治 78

(1万年前)　(2200年前) 紀元元年　500年　1000年　1500年　明治　昭和

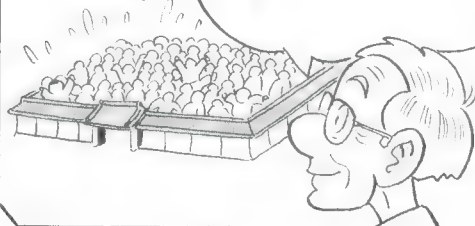
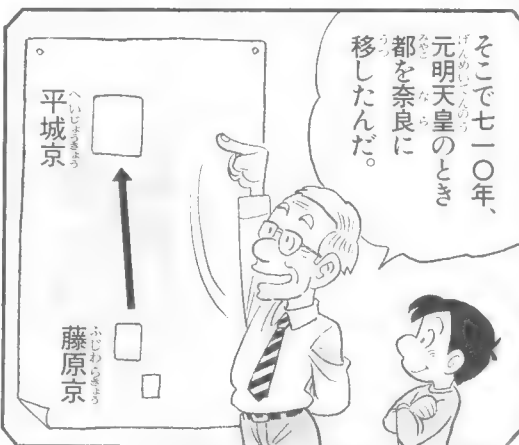
旧石器時代 | 縄文時代 | 弥生時代 | 大和時代 | 奈良時代 | 平安時代 | 鎌倉時代 | 室町時代 | 安土桃山時代 | 江戸時代 | 明治 | 大正 | 昭和 | 平成

1 奈良の都と大仏

元明天皇
（661〜721）

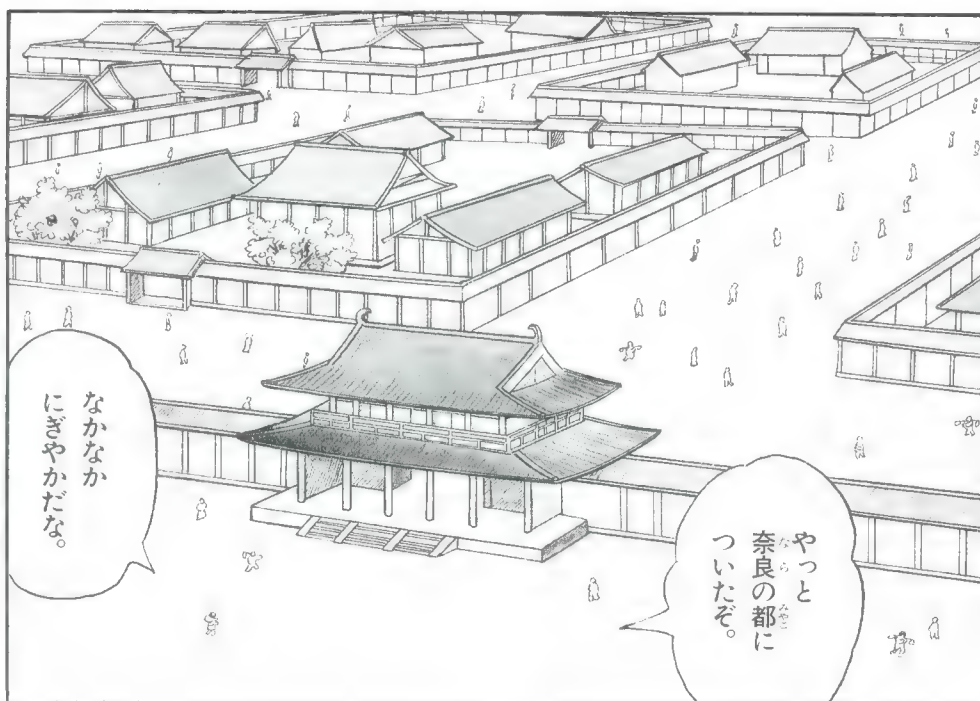
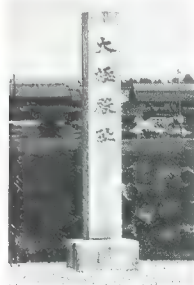
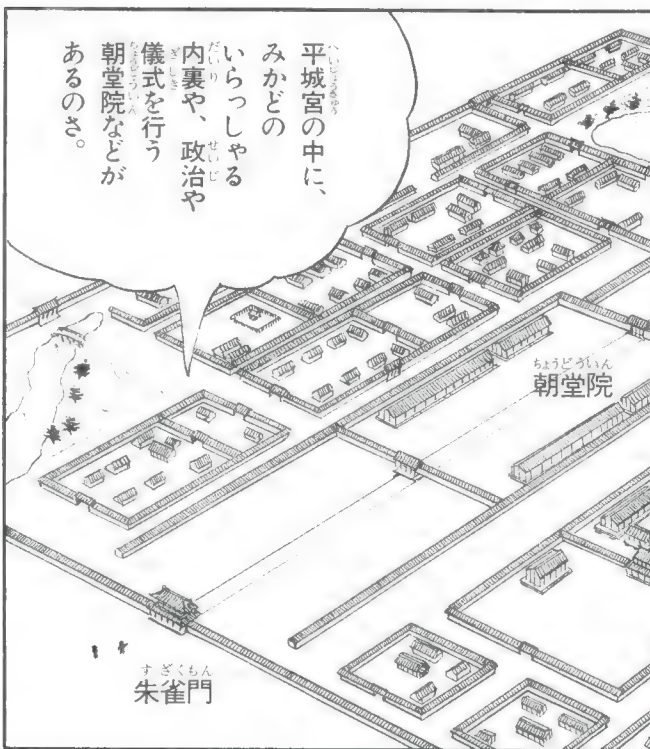
天智天皇の皇女で、文武・元正天皇の母。文武天皇が病死したあと天皇の位についた。七一〇年、奈良に平城京をつくって、都を移したほか、「古事記」や「風土記」の編さんなどを行った。

唐の長安

隋にかわって中国を統一した唐の都で、現在の西安。日本をはじめ、朝鮮・インド・ペルシア（イラン）などから商人や留学生が集まり、八世紀には人口が百万人をこえ、世界一の国際都市として栄えた。

89ページからのカラー資料室も参照しよう。

はなやかな奈良の都

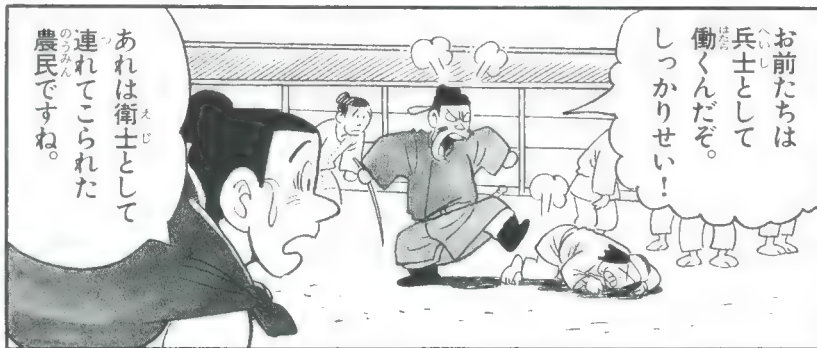
あのう、市はどこでしょう？

市は正午から開かれるんだよ。

平城京

七一〇年、元明天皇の命令で奈良につくった都。唐の都長安にならってつくられ、東西約四・三キロメートル、南北約四・七キロメートルの四角形で、道路でごばんの目のようにくぎられていた。都には、青いかわら屋根、白いかべ、朱色の柱の宮殿・寺院や貴族のやしきがならび、東西の市も設けられていたが、田畑やかやぶきの家もあった。人口は約二十万人で、そのうち約一万人が役人で、貴族は三百人ほどだった。

和同開珎

(奈良国立文化財研究所)

七〇八年、日本でつくられた最初の貨へい。唐の貨へいをモデルにしてつくられ、銀銭と銅銭があった。しかし、都とその周辺で使われる程度で、あまり普及しなかった。

平城宮

平城京の中の天皇が住む内裏（御所）と役所があるところで大内裏という。平城京の中央を通っている朱雀大路の北のはしにあり、現在、大極殿と朝堂院の土壇が、そのまま残っている。

衛士

奈良時代に、皇居や役所の警備にあたった兵士。全国の兵士から選ばれて上京し、一年間任務についた。このほか、三年間九州を守る防人という兵士があった。これらの兵役は、農民の重い負担となり逃亡する者も出たので、のちに廃止された。

労役

奈良時代の労役には、庸と雑徭があった。庸は、一年に十日間、都へ出て労働するか、そのかわりに布などを納めた。雑徭は、一年に六十日間、国司の命令で、道や用水路の修理など、地方での公用に使われた。これらの労役も、農民を苦しめた。

命がけの遣唐使

七世紀のはじめ、隋をほろぼして中国を統一した唐は、その後、世界最大の領土と高い文化をもつ帝国となった。

渤海

唐

新羅

唐のすぐれた政治や文化を取り入れるために、遣唐使を送ろう。

六三〇年、第一回の遣唐使として犬上御田鍬の一行が送られ、それ以後八九四年に遣唐使が廃止されるまで十数回も送られた。

もうだめだ〜。

オエー

弱音をはくな。なんとしても大陸（中国）へわたり、唐の制度や学問、仏教を学んで日本へ帰るのだ。

吉備真備

日本を出発して約一か月後——。

揚州が見えたぞ！

やったー！

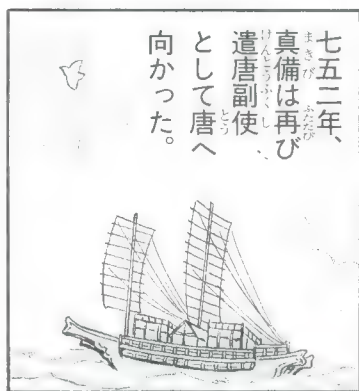
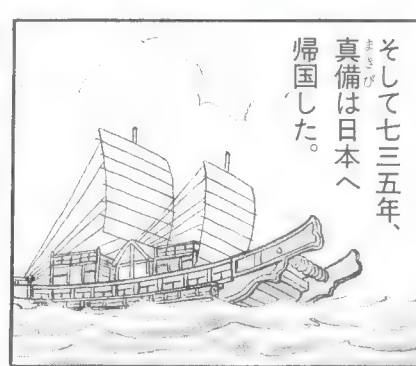
吉備真備
（693〜775）

阿倍仲麻呂とともに唐に留学し、帰国後、政治家として活やくした。政治・軍事に通じており、下級役人の家に生まれながら、右大臣にまで出世した。

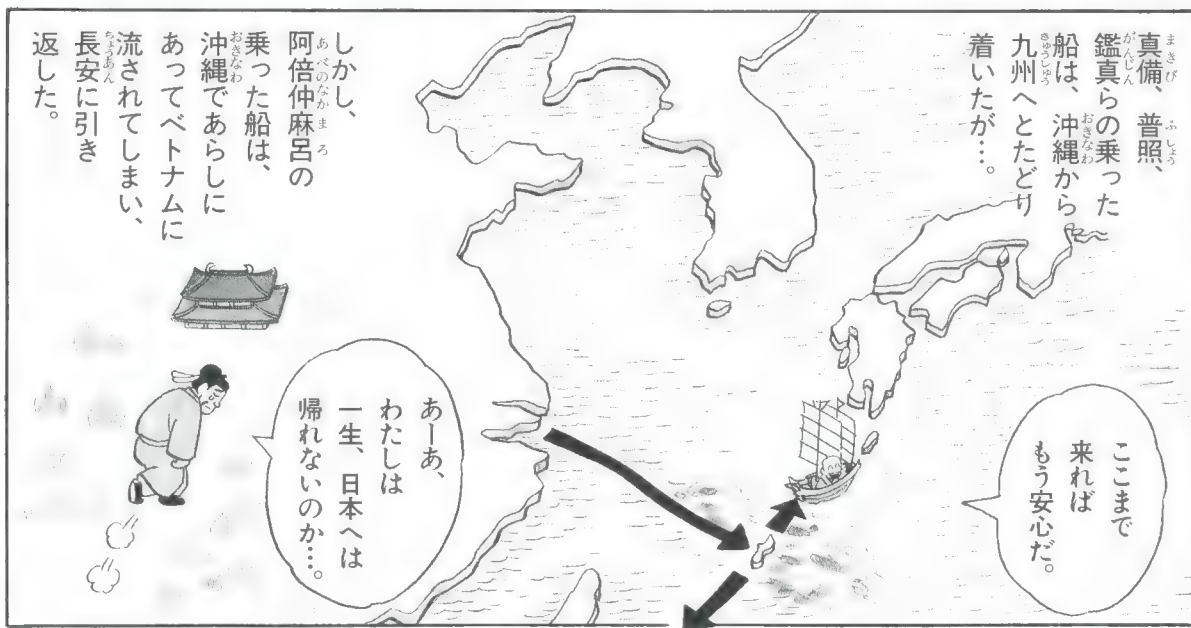
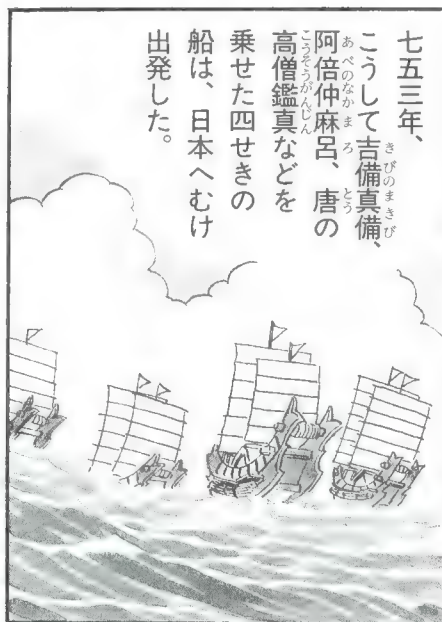
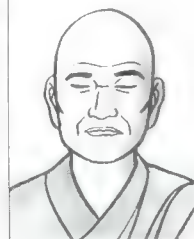
阿倍仲麻呂
（698〜770）

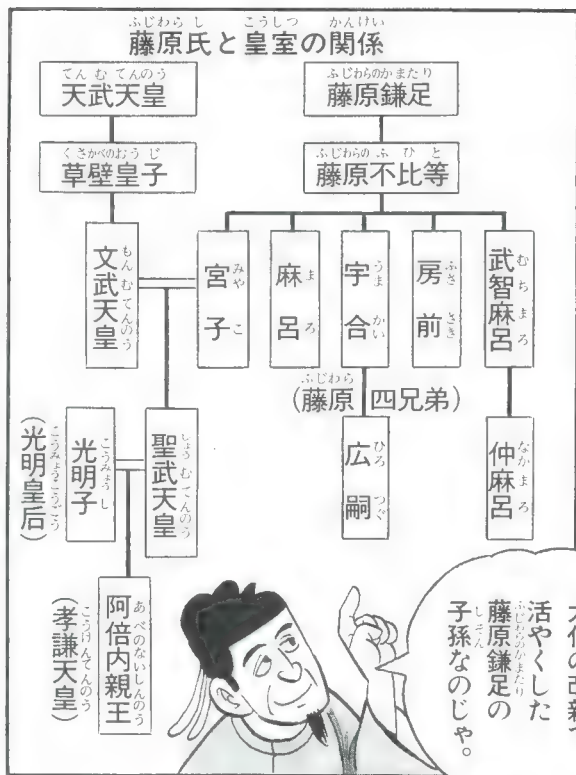
七一七年、唐に留学して、玄宗皇帝に仕え、重く用いられ、唐の詩人李白らと交わる。七五三年に帰国の途中、船が難破して帰れず、唐で一生を終えた。

遣唐使

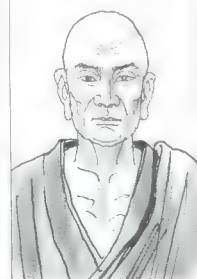
（高野山文化財保存会）

唐の進んだ制度や文化を取り入れるために派遣した使節。六三〇年に第一回遣唐使犬上御田鍬が派遣されてから八九四年に菅原道真の意見で廃止されるまで、十数回派遣された。百～六百人が二～四せきの船に分かれて乗ったが、使節、留学生や僧のほかは大半がこぎ手であった。造船や航海技術が未熟だったので、命がけの航海であったが、律令政治や天平文化などに大きなえいきょうをあたえた。

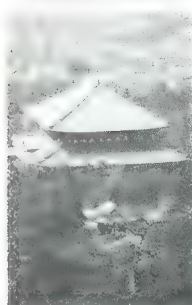
そして七三五年、
真備は日本へ
帰国した。

鑑　真
(688～763)

奈良時代に朝廷のまねきで来日した唐の高僧。日本の留学僧普照・栄叡の願いにこたえて、日本にわたることを決意した。しかし、あらしなどのために五度も失敗し、目も見えなくなったが、七五四年、六度目にようやく日本に来ることができた。仏教を深く信仰していた聖武上皇（当時）に尊敬され、東大寺に日本初の戒壇院をつくった。さらに奈良に唐招提寺を建てて、律宗の教えを広めた。

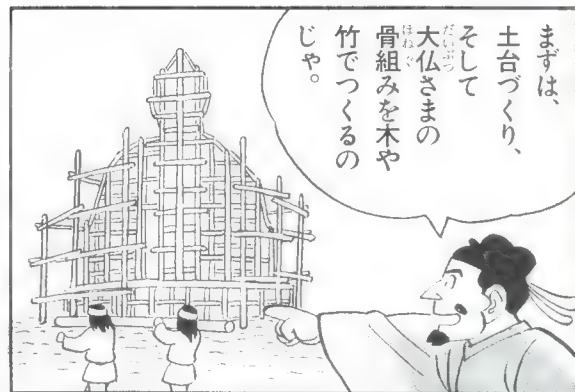
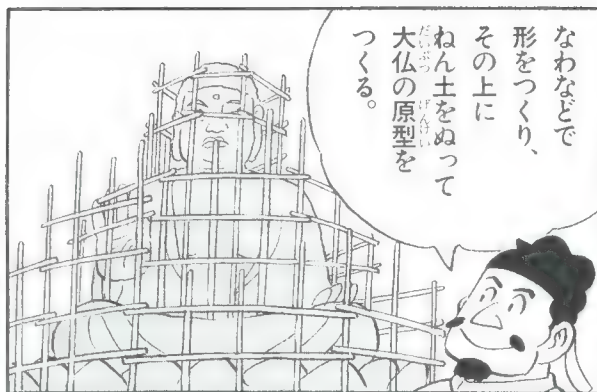
聖武天皇と大仏

聖武天皇
（701～756）

文武天皇の皇子、母は藤原不比等の娘。仏教をあつく信仰し、国家の平安を願って、国ごとに国分寺と国分尼寺、都に東大寺を建て、大仏をつくった。そして、仏教関係の美術、彫刻、建物が多くつくられたので、天平文化が花開いた。しかし、多くの費用が使われたために、財政が苦しくなり、七四三年に墾田永年私財法を出して、墾田の永久私有を認めたので、律令制度がくずれはじめた。

行基
(668〜749)

渡来人の子孫で、法興寺に入って僧となる。薬師寺などで修行したのち、旅に出て、全国各地で仏教を広めながら、道路や貯水池をつくるなどの社会事業を行った。人々から行基菩薩と敬われたが、行基の人気の高まるのをおそれた朝廷は、行基が仏教を広めるのを禁止した。しかし、聖武天皇は大仏を造るために、行基の力を借り、多くの弟子とともに協力した行基は、日本で最初の大僧正に任じられた。

東大寺

七四五年、聖武天皇の命令で、総国分寺として奈良に建てられた。七五一年に大仏殿が完成し、翌年、大仏開眼の供養がおこなわれた。平安時代には、広い領地を持って勢いをふるった。

国分寺・国分尼寺

七四一年、聖武天皇の命令で、国ごとに建てられた寺。仏教の力で国家の繁栄を願うため、国府（国司の役所がある場所）の近くに、僧寺として国分寺、尼寺として国分尼寺が建てられた。

2 平安の都と藤原氏

奈良時代の終わりごろになると、朝廷で貴族の争いがはげしくなってね。

桓武天皇
(737～806)

僧を政治からはなすため、都を平城京から長岡京へ、さらに七九四年、京都の平安京に移した。律令政治の再建をはかり、蝦夷の平定などを行った。

道鏡
(?～772)

孝謙上皇の病気をまじないで治してから信らいをえて、法王となり、政治の実権をにぎった。さらに天皇の位につこうとしたが、失敗して追放された。

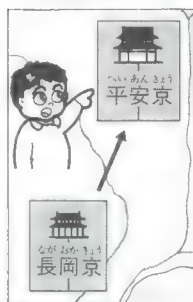
89ページからのカラー資料室も参照しよう。

平安京と政治の再建

都を長岡へ移そうと思う。そして新しい都へは、奈良の寺院の移転は認めないことにする。

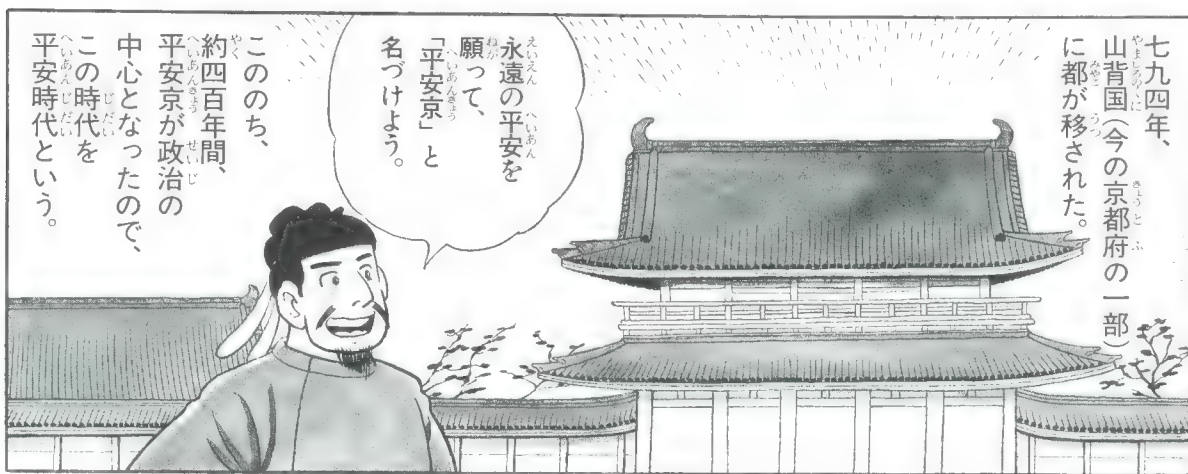
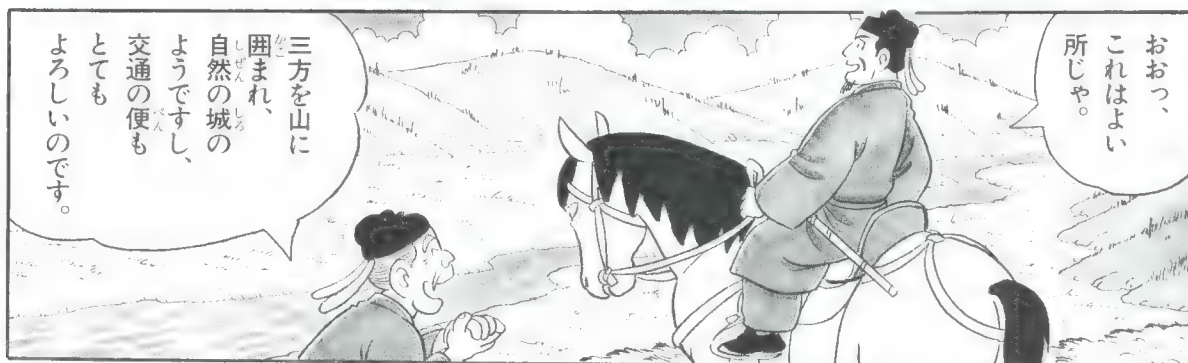
なるほど、うるさい僧らをおいてきぼりにするのですな。

長岡京

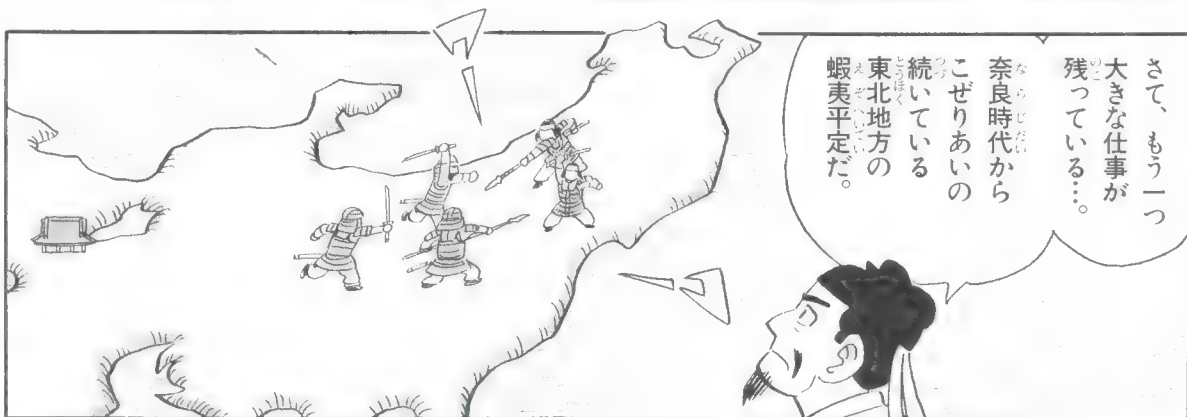
七八七年に平城京から移された都。造営事業がはかどらなかったうえ、造営長官の藤原種継が暗殺されたので、七九四年、平安京に移った。現在の京都府長岡京市・向日市。

平安京

七九四年、唐の長安にならってつくられ、東西約四・五キロ、南北約五・二キロで、平城京よりやや大きい。一八六九年に都が東京に移されるまで、約千百年続いた。現在の京都市。

坂上田村麻呂
(758～811)

武人の家に生まれ、八世紀末に東北地方で蝦夷の反乱がおこると、桓武天皇から征夷大将軍に任命され、胆沢城（岩手県）を築いて根きょ地とし、蝦夷を平定した。その後、貴族の争いもしずめて、大納言の位につき、死後も「武士の神様」としてあがめられた。征夷大将軍は、蝦夷征伐の将軍の職名であったが、一一九二年に源頼朝が任命されてから、幕府を開いた武士のかしらの職名となった。

おおっ、これはよい所じゃ。

三方を山に囲まれ、自然の城のようですし、交通の便もとてもよろしいのです。

さて、もう一つ大きな仕事が残っている…。奈良時代からこぜりあいの続いている東北地方の蝦夷平定だ。

そうだ、藤原仲麻呂の乱で手がらをたてた武将の子で、武勇のほまれたかい坂上田村麻呂をはけんしよう。

勘解由使

桓武天皇が、地方政治の乱れを防ぐためにおいた役職で、国司が交代するときに立ち合い、不正や争いがおこらないようにかんとくした。

班田収授の法の改正

土地の私有がすすんで、口分田が不足し、六年ごとにあたえることができなくなったので、十二年ごとにあたえるように改めた。

健児の制

農民の負担を軽くするため、防人や衛士を廃止してつくった新しい軍隊の制度で、郡司の子弟を兵士にして、強い軍隊をつくろうとした。

藤原氏の栄え

平安時代の初めは、天皇を中心に政治が行われていたが、九世紀になると——。

藤原良房

藤原鎌足の子孫のわしらが皇室と親せき関係を結び、勢力を強め、政治の実権をにぎるんだ。

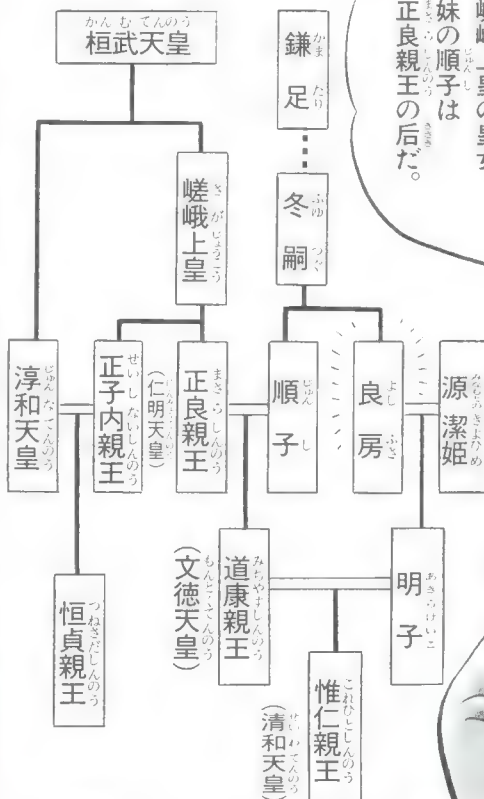
たとえば自分の娘を天皇の后として……。

生まれた皇子を天皇の位につけて。

藤原良房・基経

良房（八〇四～八七二）は娘を皇后とし、その皇子が清和天皇になると、八五八年、皇族以外で最初の摂政となった。良房の養子の基経（八三六～八九一）は、八八七年、宇多天皇の関白となり、摂関政治のさきがけとなった。

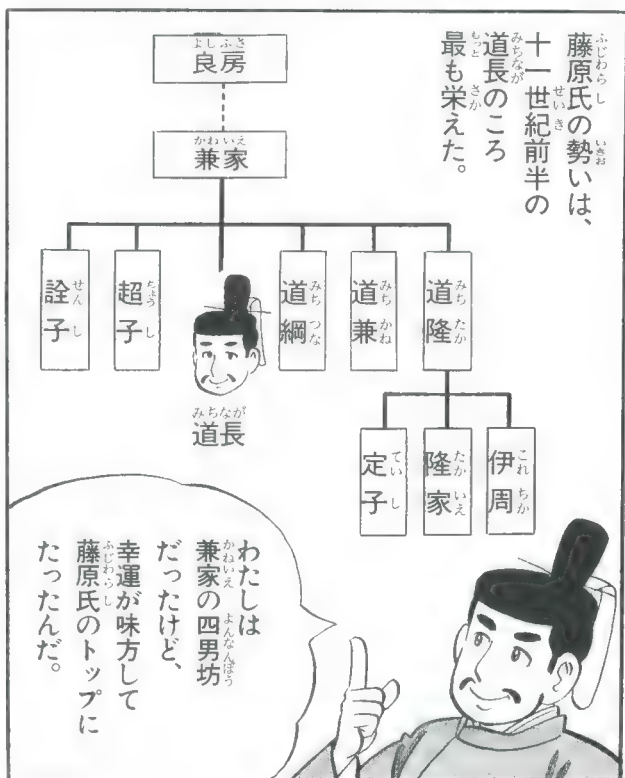
菅原道真
(845～903)

藤原氏をおさえるため、宇多・醍醐天皇に重く用いられ、遣唐使を廃止させ、右大臣にまでなった。しかし、藤原時平のたくらみで、大宰府の役人として九州に追いはらわれた。学問の神様としてまつられている。

八五八年、文徳天皇の死後自分の孫の惟仁親王（清和天皇）を即位させ、良房は皇族以外で初めて実質的な摂政となった。

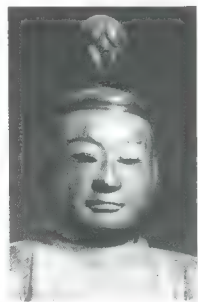
ハハハ！

応天門の変

伴大納言絵巻（より出光美術館）

八六六年、平安京の応天門が放火されると、藤原良房は、有力な貴族の伴氏と紀氏のしわざであるとして、両氏を都から追放した。この後、良房は正式に摂政となり、藤原氏の力を強めた。

摂政・関白

摂政は、天皇が幼少や病弱であったり、女帝の場合に、天皇に代わって政治を行う役職。関白は、天皇の成人後、天皇を助けて政治をとる役職で、藤原基経が最初の関白である。

藤原道長
（966〜1027）

一族の藤原伊周との勢力争いに勝って政権をにぎり、四人の娘を天皇にとつがせ、天皇と親せき関係を結んで権力を集め、摂政・太政大臣になった。その子頼通とともに、藤原氏の全盛時代をきずき、その満足感を「この世をば　わが世とぞ思う　もち月のかけたることも　なしと思えば」と歌った。年をとってから浄土教を信仰し、法成寺を建てて住んだ。関白にはならなかったが、「御堂関白」とよばれた。

荘園ってなんですか？
貴族のくせにそんなことも知らんのか、勉強不足だ！

不輸・不入の権

貴族や寺社など荘園領主が持っている特権。不輸の権は、国に税を納めなくてもよい権利。不入の権は、国司などの役人が荘園に入るのをこばむ権利で、この結果、有力な貴族や寺社の収入はふえたのに反し、朝廷の収入はへって、力が弱まった。

荘園の寄進

十世紀以後になると、地方豪族たちは、不輸・不入の権を持っている有力な貴族や寺社に土地を寄進して、名目上の荘園領主になってもらい、一定の年貢を納めるかわりに保護してもらった。特に藤原氏への寄進が多く、藤原氏の栄華をささえた。

紫式部

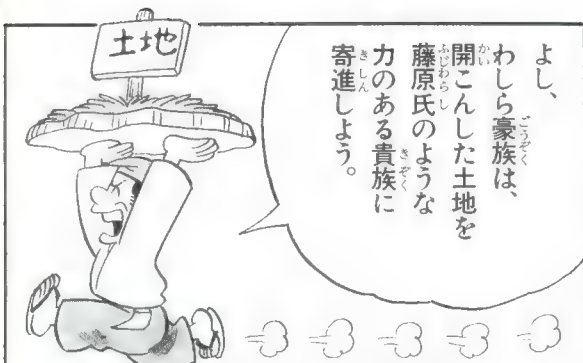
(978？～1016？)

藤原為時の娘で、一条天皇の中宮彰子に仕え、その経験から宮廷生活をえがいた「源氏物語」は世界的にも有名である。そのほか「紫式部日記」なども書いた。

清少納言

(10～11世紀初め)

(東京国立博物館)

清原元輔の娘で、一条天皇の中宮定子に仕え、その才能を重んじられた。紫式部とならぶ女流文学者で、宮廷生活を中心にかいた随筆「枕草子」は有名である。

九世紀の末に、菅原道真の意見で遣唐使が廃止されると、中国の影きょうがしだいにうすれ、

やがて日本人の生活にあった文化が生まれた。

男子の正装は衣冠束帯、

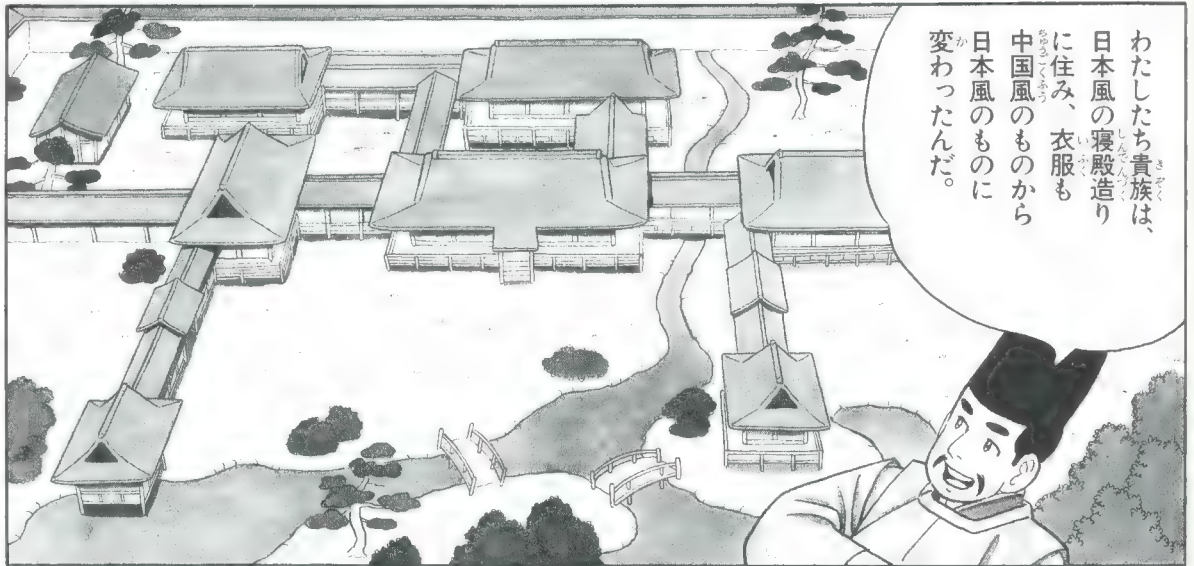
女子の正装は十二単です。

そして、音楽をかなで、詩や歌をつくって、ゆうがな生活をおくったのじゃ。

ほほう…、「枕草子」の清少納言といい、

かな文字が使われるようになって、女性の文学者が活やくするようになったのう。

荘園整理令

荘園が増加するのを防ぐため、朝廷が出した法令。九〇二年から何回にもわたって出されたが、あまり効果はなかった。一〇六九年、藤原氏と関係がうすい後三条天皇は、記録所において荘園の整理をきびしくおこない、効果をあげた。

寝殿造り

平安時代に発達した純日本風の貴族の住宅。主人の住む寝殿を中心に、おもな家屋が左右対称に建てられて回廊で結ばれ、室内は几帳やびょうぶで仕切った。広い庭には池や築山をつくり、自然の美しさをたくみに取り入れている。（九四ページ参照）

3 武士のおこりと平氏の政治

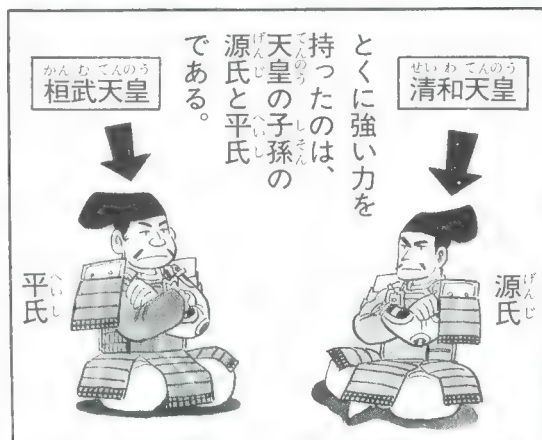
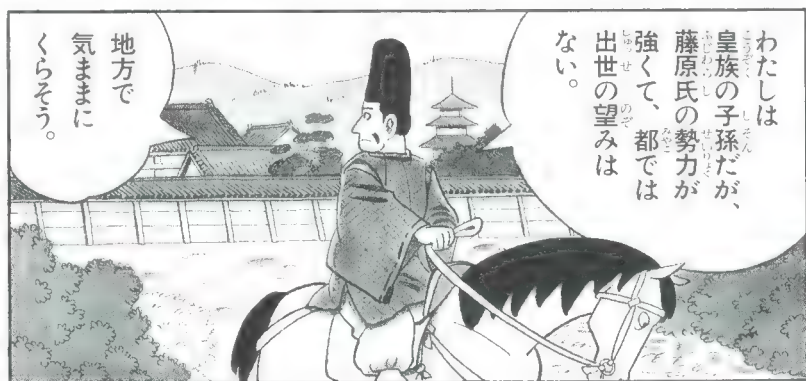
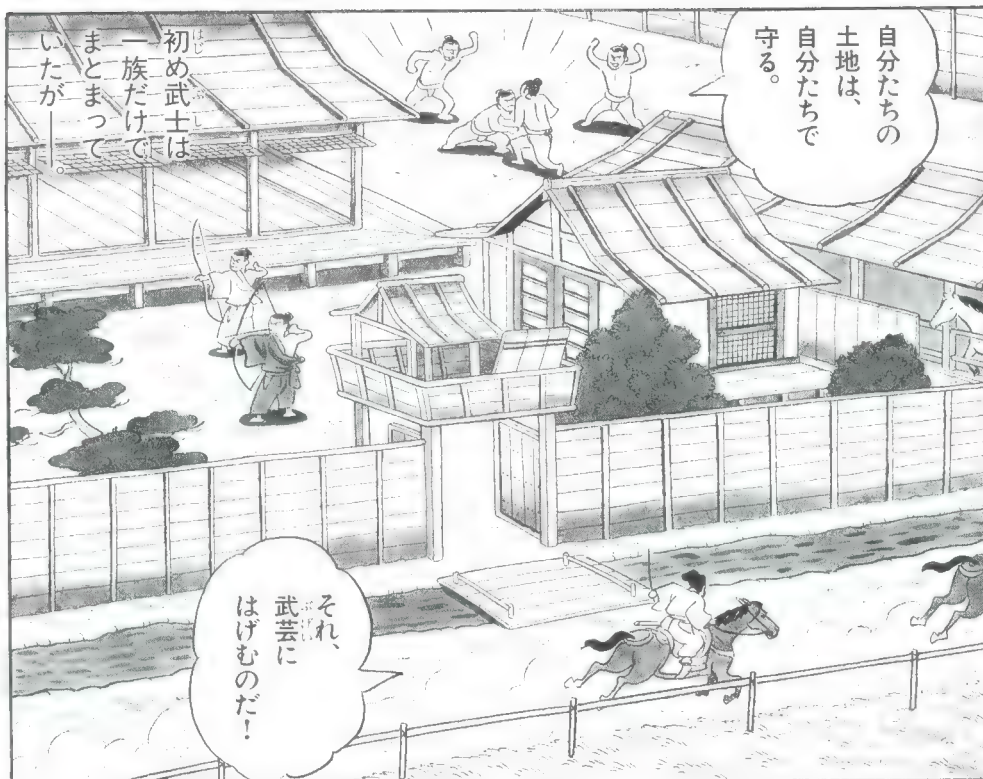
源氏

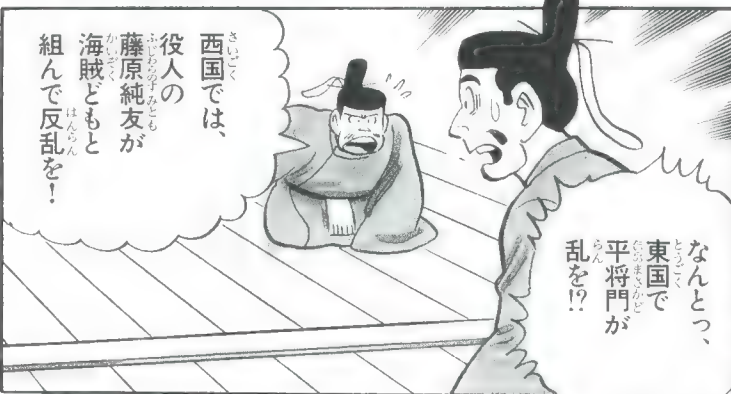
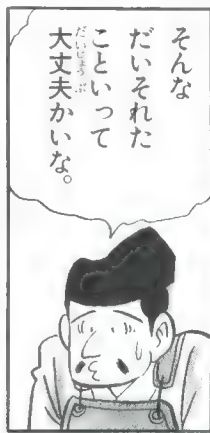
清和天皇の孫が、源の姓をあたえられて武士団のかしらになった(清和源氏)。源頼信が平忠常の乱をたいらげてから、関東を地盤として発展し、源頼朝が鎌倉に幕府を開いて、武家政治をはじめた。

平氏

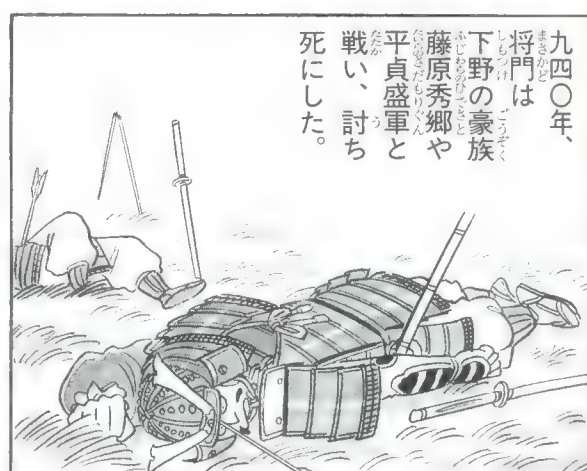
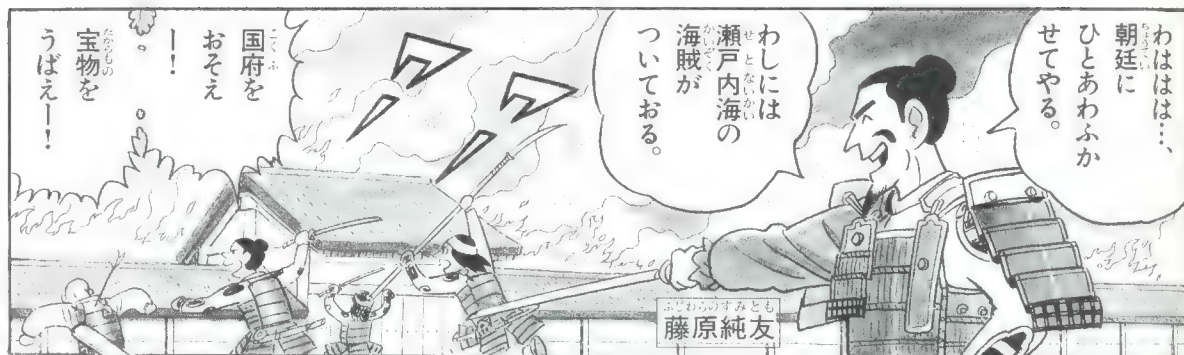
桓武天皇の子孫の高望王が、平の姓をあたえられて関東にくだり、その子孫が武士団のかしらになった(桓武平氏)。平正盛・忠盛が白河法皇に近づいて力をのばし、平清盛が政権をにぎって、全盛時代をきずいた。

地方の政治が乱れ、武士が登場

武士団

九～十世紀に地方政治が乱れると、豪族たちは、自分の土地を守るために、家の子（一族）や郎党（家来）に武芸をならわせた。これが武士のおこりで、朝廷の力がおよびにくい中部・関東地方などに多くみられた。やがて武士は、都からくだってきた皇族や貴族の子孫をかしらとして、大きな集団をつくった。これが武士団で、清和天皇の子孫の源氏と、桓武天皇の流れをくむ平氏が有名である。

平将門
（？～940）

桓武天皇の子孫で、下総（千葉県・茨城県の一部）の豪族平良将の子。京都にのぼって藤原忠平に仕えたが、出世の見こみがなかったので、下総に帰った。九三五年、一族と土地のことで争い、おじの平国香を殺してからは、まわりの豪族をつぎつぎにたおして、関東八か国を支配し、新皇と名乗った。しかし、いとこの平貞盛と藤原秀郷の軍勢にせめられて殺された。死後、神田明神（東京）などに祭られた。

将門追討に征東大将軍をさし向けろ!!

純友追討には小野好古らを行かせるのだー!!

藤原純友の乱

藤原純友（?〜九四一）は伊予（愛媛県）の役人だったが、任期が終わっても京都に帰らず、九三九年、瀬戸内海の海賊をひきいて西国をあらしまわった。しかし、九四一年、朝廷からつかわされた小野好古や源経基らに平定された。

国府

国司が政務をとった役所（国衙という）がおかれた場所。その国の交通の要地にあり、約十二ヘクタールのまちをつくって、まわりを土手でかこんだ。その近くに、国分寺・国分尼寺やその国の神社がおかれるのを原則とした。

力をのばした源氏と平氏

うむ、それから都によびよせて、朝廷や貴族の警備にあたらせよう。

こうして武士は、しだいに実力を高めていった。

一〇五一年、東北地方の安倍氏が国司にむかって乱をおこした。

頼義、安倍氏を討ってまいれ。

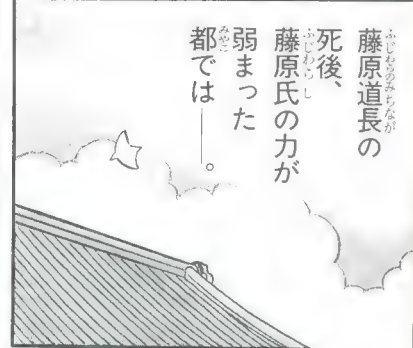
はっ

源 義家
(1039～1106)

源頼義の子で、八幡太郎ともいう。東北地方でおこった前九年の役と後三年の役で、東国の武士をひきいて活やくして武名をあげ、源氏が東国で勢力をのばすもとをつくった。

白河上皇
(1053～1129)

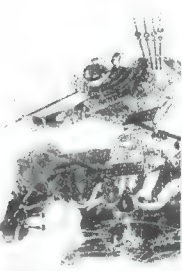
父の後三条天皇のあとをついで、藤原氏をおさえ、自ら政治を行った。堀河天皇に位をゆずったあとも、上皇として政治を行う院政を始めたので、摂関政治はおとろえていった。

頼義軍は関東武士をひきい、出羽の豪族清原氏の応援をえて、安倍氏をうちやぶった。（前九年の役）

前九年の役

(1051～1062)

一〇五一年、東北地方の豪族安倍氏が国司に対して反乱をおこした。朝廷の命令を受けた源頼義・義家父子は、豪族清原氏の助けを借りて、その反乱をしずめ、源氏の名を高めた。

後三年の役

(1083～1087)

前九年の役ののち、東北地方で力をのばした清原一族の間で争いがおこった。陸奥守であった源義家は、清原清衡を助けて、対立していた家衡を破り、東国での源氏の勢力をのばした。

院政

天皇が位を退き、上皇・法皇となって、その御所（院）で政治を行うこと。一〇八六年、白河上皇が藤原氏をおさえるために始め、上皇の命令は天皇の命令より重んじられた。

僧兵の強訴

僧兵は、寺や領地を守るために武装した下級の僧。延暦寺や興福寺の僧兵は、しばしば都におしかけて、武力で自分たちの要求を認めさせる強訴を行って、朝廷におそれられた。

平氏の政治

十二世紀中ごろ、白河法皇から三代あとの、崇徳上皇とその弟後白河天皇のときであった。

白河天皇
堀河天皇
鳥羽天皇
近衛天皇

崇徳上皇：院政を行っていた鳥羽法皇がなくなったんだ。兄のわしが政治をとる。

後白河天皇：いや天皇のわたしがやります。

後白河天皇
（1127～1192）

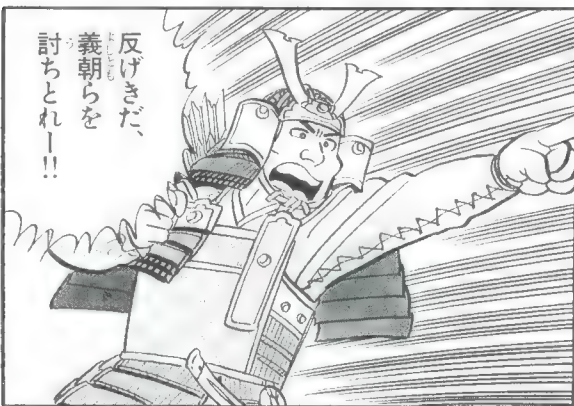
兄の崇徳上皇と対立して、保元の乱をおこして勝ち、上皇となる。その後、出家して法皇となって院政を行い、平氏と源氏をたくみにあやつって、朝廷の権力を保つことにつとめた。

上皇、天皇、そして勢力争いの藤原氏は、武士たちを味方にひきいれ、一一五六年、保元の乱をひきおこした。

崇徳上皇　弟←→兄　後白河天皇
藤原頼長　兄←→弟　藤原忠通
平忠正　おい←→おじ　平清盛
源為義・為朝　子←→親　兄←→弟　源義朝

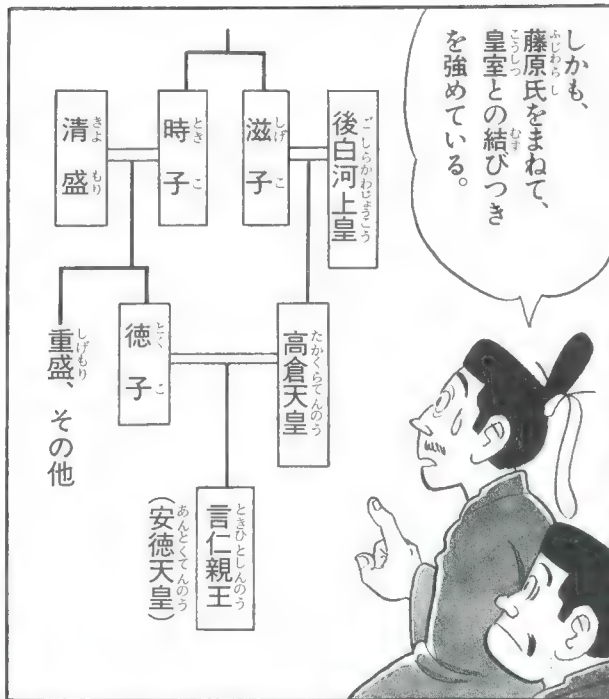
崇徳上皇
（1119～1164）

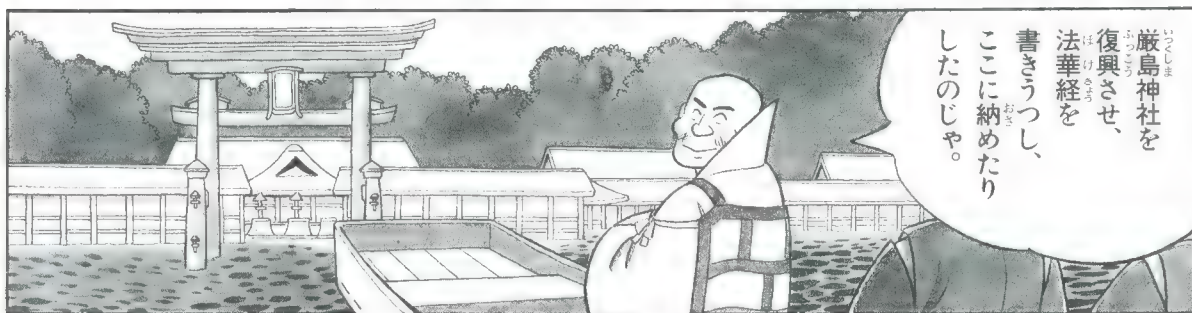
父の鳥羽法皇が、弟の後白河天皇を立てたのを不満に思い、父の死後、藤原頼長と結んで、保元の乱をおこした。しかし、天皇方に敗れて、讃岐（香川県）に流された。

平忠盛の子で、平氏一門のかしらとなり、保元、平治の乱に勝って源氏をおさえ、勢力を強めた。しだいに高い位につき、一一六七年に、武士として初めて、最高の官職である太政大臣になって政権をにぎり、平氏の全盛時代をきずいた。また、兵庫（神戸）港を改修して、中国の宋との貿易を行った。しかし、各地の武士の不満が高まり、一一八〇年に源氏が挙兵した翌年、源氏との戦いのなかで、病死した。

保元の乱

一一五六年、崇徳上皇と後白河天皇の対立に、藤原氏一族の争いがからみ、それに武士も加わって戦いが始まった。この戦乱は、平清盛、義朝らを味方にした天皇方が勝ち、清盛、義朝は中央の政治に参加するようになった。

平治の乱

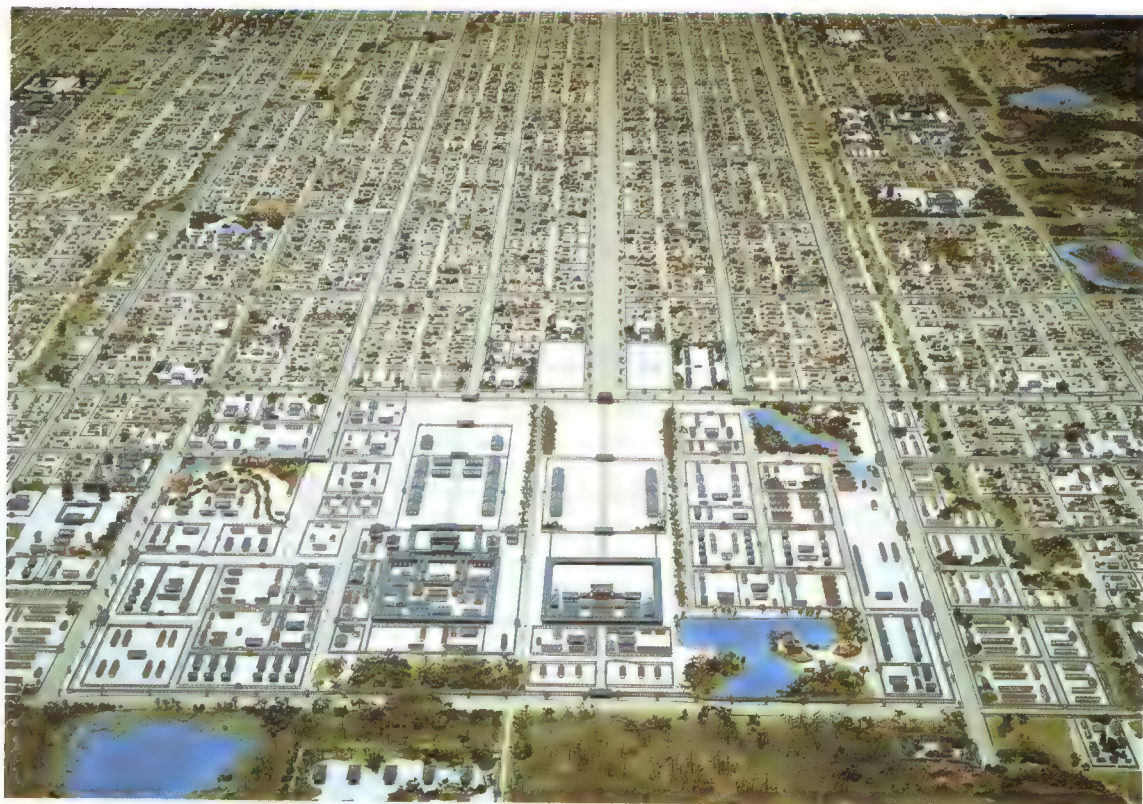
保元の乱のあと、平清盛は藤原通憲(信西)、源義朝は藤原信頼と結んで勢力を争った。一一五九年、清盛の熊野詣り中に義朝は京都で兵をあげたが、清盛の反げきにあって敗れた。以後、平氏は源氏をおさえて政権をにぎり、全盛時代をむかえた。

平家の武将

平清盛の長男重盛は保元・平治の乱で名をあげたが病死し、三男宗盛は清盛の死後、平氏一門をひきいて最後まで源氏と戦い、四男知盛は弟重衡とともに、一の谷・屋島の戦いで奮戦した。また重盛の子維盛は、富士川の戦いで源頼朝に敗れた。

日宋貿易

十世紀中ごろから、宋（中国）の商船が来航し、平氏は正盛・忠盛のとき宋との貿易で富をきずいた。清盛も、保元の乱ののち大宰府の役人になり、博多を貿易港として利益を得た。政権をとってからも、兵庫の港を改修して貿易をおしすすめた。

第2部 カラー資料室

貴族の世の中

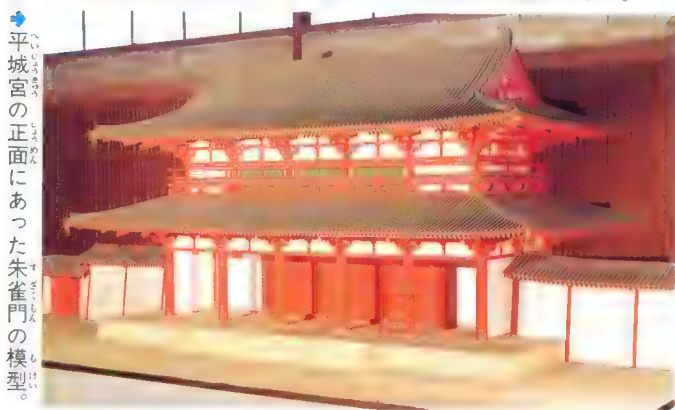
大化の改新後、奈良、そして京都に大きな都がつくられるようになり、貴族の時代となった。

平城京の復元模型。手前が皇居や官庁のある平城宮である。

(奈良市役所)

はなやかな都平城京

奈良時代 七一〇年～七九四年

政治の制度が整い、国力がましてくると、それにふさわしい大きな都が必要とされ、七一〇年、奈良に平城京がつくられた。

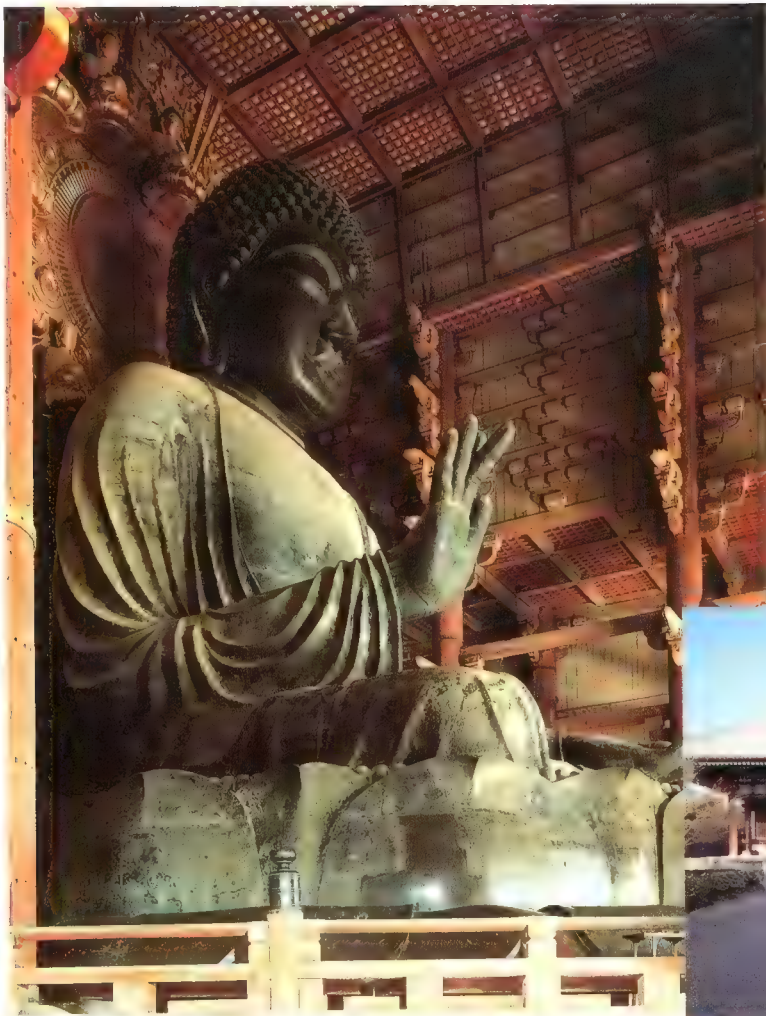
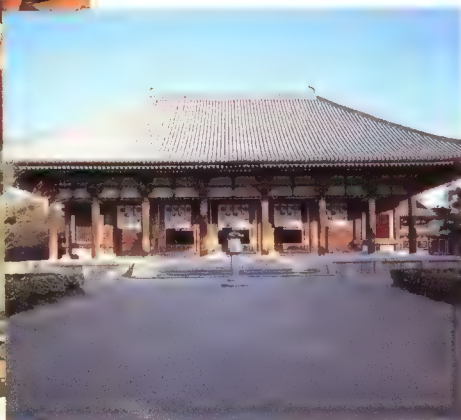
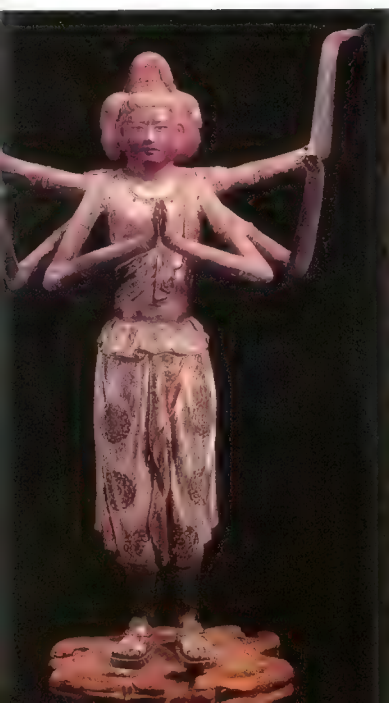
唐(中国)の都長安をモデルにしてつくられた平城京には、貴族をはじめ二十万人の人々が住み、市も開かれるなどして、約八十年の間、日本の都としておおいに栄えた。

平城宮の正面にあった朱雀門の模型。

(奈良国立文化財研究所許可済)

唐（中国）風の文化が栄えた

奈良時代　七一〇年～七九四年

奈良時代の中ごろになると、反乱や災害があいついでおこり、伝染病が流行するなど、不安な世の中になった。聖武天皇は、仏教の力で国の平和を守ろうと考え、国ごとに国分寺・国分尼寺を建て、奈良に東大寺を建てて大仏をつくらせた。

また、唐の文化を積極的に受け入れたので、国際色豊かな仏教文化が花開いた。

東大寺大仏（毘盧舎那仏）。高さ約16メートル、重さ25トンの世界最大の金銅仏。（東大寺）

唐招提寺金堂。唐の僧・鑑真が開いた寺。金堂は創建当時のもの。（唐招提寺）

興福寺の阿修羅像。麻布とうるしでつくられた乾漆像で、からだや着物がやわらかく表現されている。（興福寺）

薬師寺金堂の薬師三尊像。中央の薬師如来の台座には、大陸のえいきょうが見られる。（薬師寺）

正倉院の宝物

東大寺の正倉院には、聖武天皇が使った日用品や工芸品が数多くおさめられている。宝物の中には、唐(中国)や、ペルシア(イラン)、インドなどのえいきょうが見られるものも多い。

⬆聖武天皇の御物がおさめられている正倉院。
⬅正倉院のかべ。三角形の木を組み合わせてつくった校倉造りである。

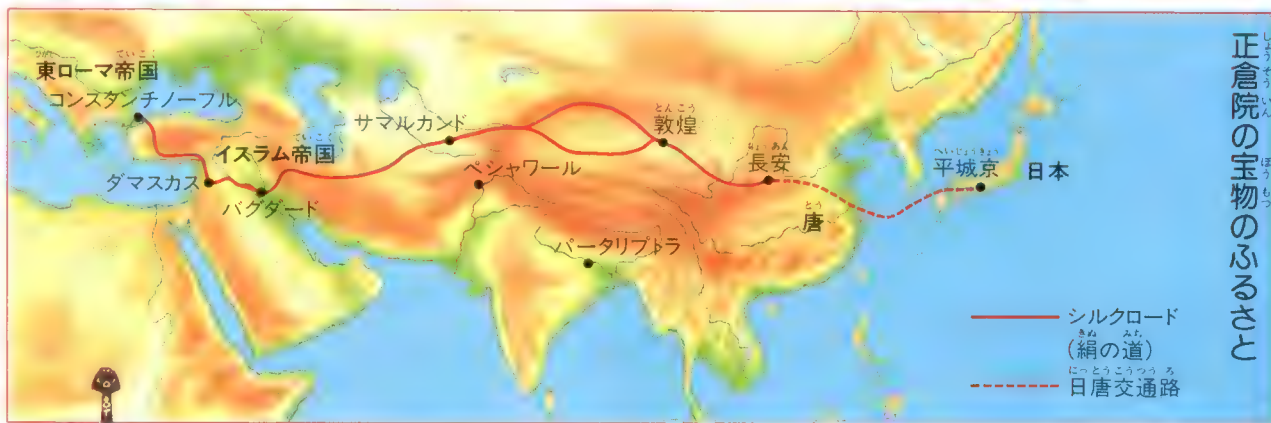
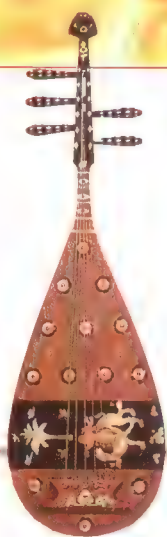
⬅伎楽面呉女。中国の西方に起源を持つ伎楽に使われる面。

⬅白瑠璃碗。西アジア産のカットグラスの碗。

⬅瑠璃杯。東ローマ帝国で流行したこん色のガラスのグラス。

正倉院の宝物のふるさと

⬅木画紫檀双六局。双六はインドから中国に伝わった遊び。

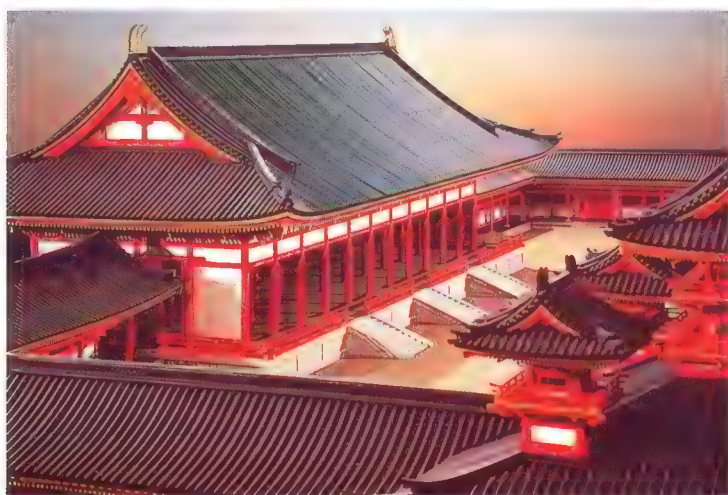
⬅鳥毛立女屏風。ふっくらとした唐風の美女。ヤマドリの羽毛がはられていた。

⬅五絃琵琶。五本の弦がある琵琶で、もとはインドで生まれたもの。

平安京と新しい仏教

平安時代
七九四年～一一九二年

奈良時代の末、僧が政治に口出しするなどして政治が乱れたため、七九四年、桓武天皇は京都の平安京に都をうつした。平安京は、一一九二年、鎌倉幕府が成立するまでの約四百年の間、政治の中心として栄えた。

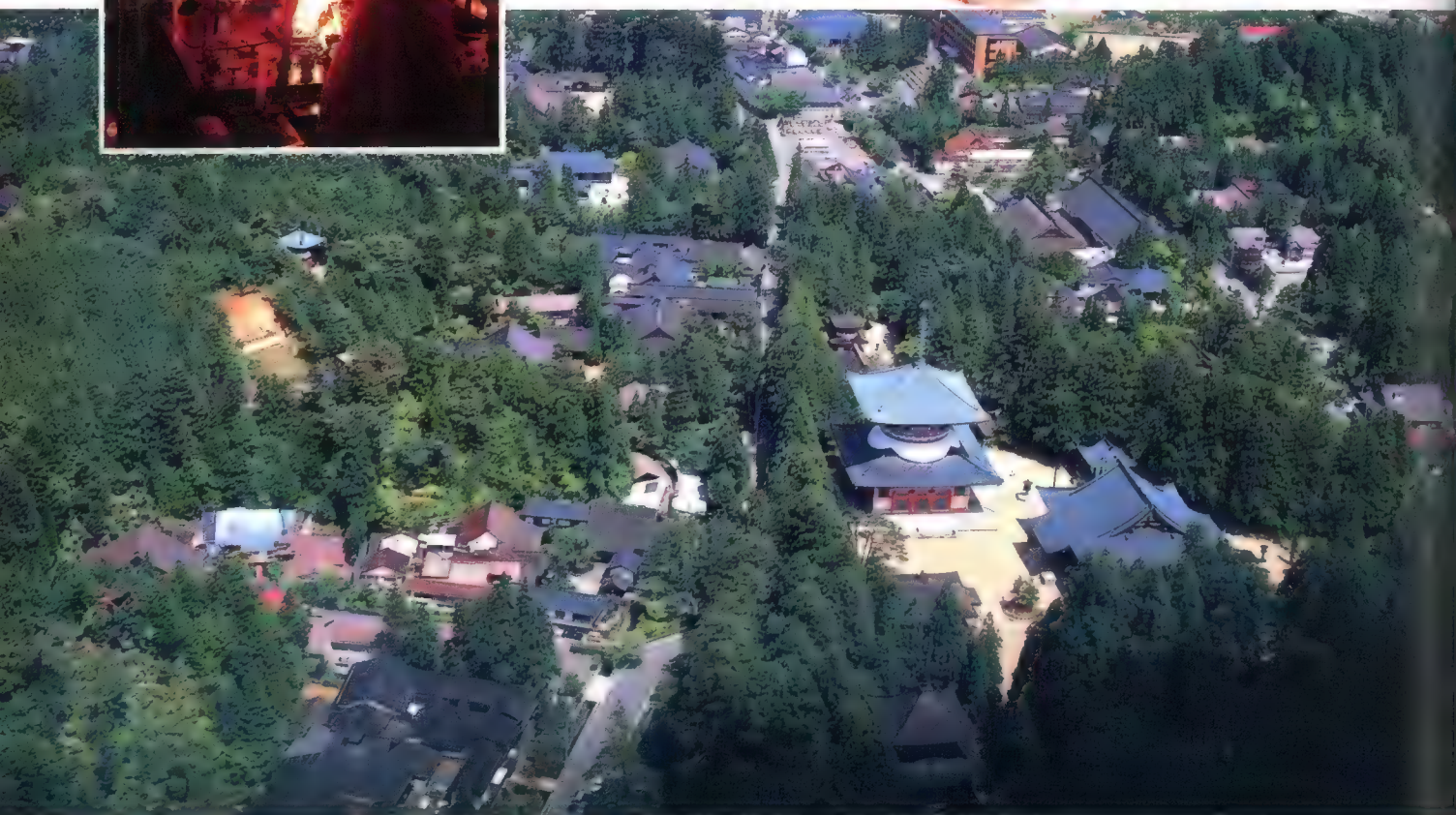
また、仏教では、空海が真言宗を、最澄が天台宗を開き、山の中での学問や修行を重んじた密教が、貴族をはじめとする人々の信仰を集めた。

京都御所。赤く囲んだところが御所で、かつて貴族の屋敷があったところは公園になっている。

平安宮大極殿の模型。天皇が政務を行い、重要な儀式が行われた。

（東京大学建築学科）

高野山の護摩祈禱。密教寺院では、本尊の前で火をたいて一心にいのる。（高野山文化財保存会）

高野山の金剛峰寺。816年、空海が開いた真言宗の総本山。

空海。唐（中国）で真言密教を学び、帰国して真言宗を開いた。

最澄。唐（中国）で新仏教を研究し、帰国後、天台宗を開いた。

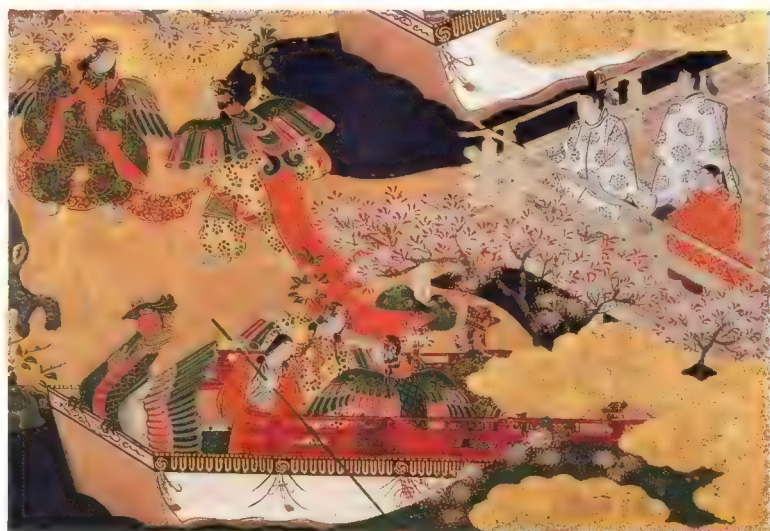
比叡山延暦寺の釈迦堂。最澄が開いた天台宗の総本山。

不動明王像。真言密教の中心の仏である大日如来が、悪魔をたおすために姿を変えたもの。（東寺）

はなやかな貴族の文化

平安時代
七九四年～一一九二年

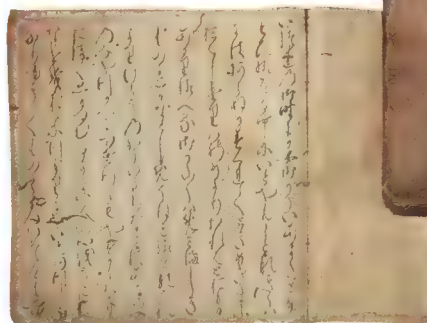
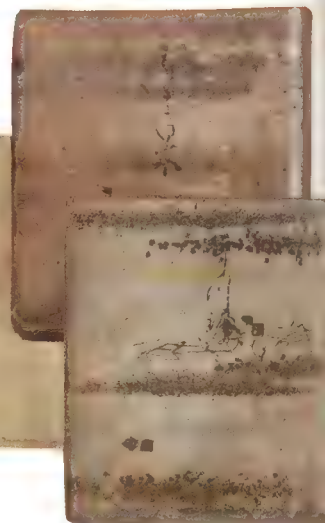
平安時代になると、藤原氏をはじめとする貴族たちが力を強め、広い敷地の寝殿造に住み、宴会をもよおすなど、優雅ではなやかなくらしを送っていた。

また、長く続いた遣唐使がはい止され、貴族に支えられた日本風の文化（国風文化）が栄えていった。

寝殿造。母屋（寝殿）を中心に東西に対屋がある。（神奈川県立博物館）

船遊びを楽しむ貴族。（京都国立博物館）

平等院鳳凰堂。藤原頼通の建てた阿弥陀堂で、京都府宇治市にある。

阿弥陀如来坐像。浄土教の本尊で、これを安置することが貴族の間で流行した。　（平等院）

闘鶏で遊ぶ貴族。貴族にとっては、遊びも教養の一つだった。

『源氏物語』。かな文字も使われるようになり、物語が多く書かれた。　（陽明文庫）

平氏が政治の実権をにぎる

平安時代
七九四年～一一九二年

十世紀になると、地方の豪族が土地を守るために武装するようになり、武士団が生まれた。中でも有力だったのが、源氏と平氏だった。朝廷では、藤原氏の力が弱まり、上皇が院政を始めたため、上皇と天皇は、武士の力を借りて争ったので、武士は中央に進出した。

そして、十二世紀中ごろには、源氏との争いに勝った平清盛が太政大臣となって政権をにぎり、藤原氏の政治にならった貴族的な政治を行うようになった。

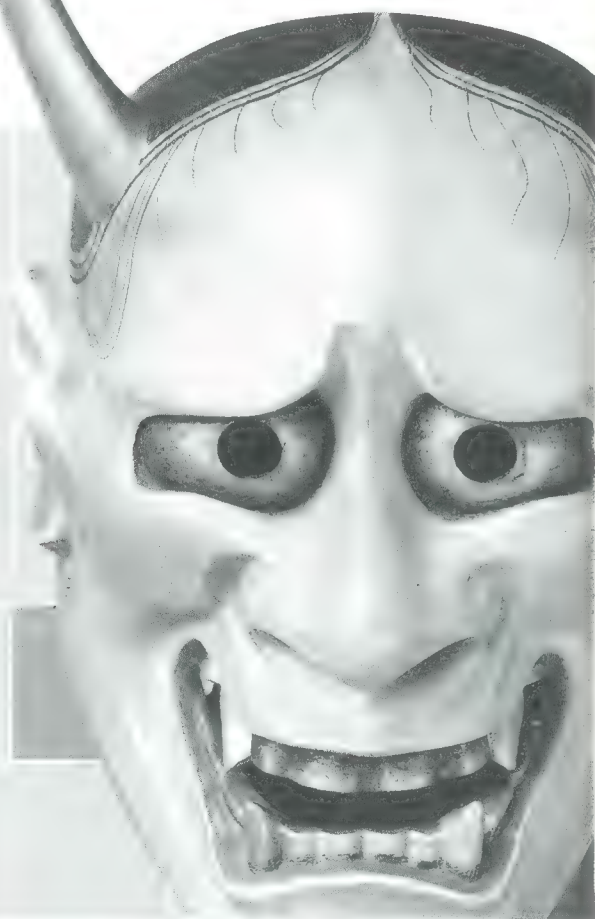
⬆平治の乱。源義朝が後白河上皇の御所三条殿をおそい、はげしくもえあがった。（東京国立博物館）

⬆保元の乱。源為朝は上皇方について、天皇方についた兄義朝と戦ったが、敗れた。（神泉苑）

⬆平家納経（模本）。平氏一門によって、厳島神社におさめられたもの。いろどりゆたかな絵がえがかれるなど、工芸品としても一級品である。（東京国立博物館）

⬇厳島神社。広島県の海にのぞむ平氏ゆかりの神社。清盛はじめ平氏一門が、しばしば参詣したという。

武士の世の中へ

第3部では，鎌倉時代・室町時代を通して，貴族に代わって武士が世の中を支配する様子を見てみよう。

1 源頼朝と鎌倉武士 98
2 室町幕府と民衆の動き 111
3 戦国の世と天下の統一 122

（1万年前）		（2200年前）紀元元年	500年		1000年				明治	昭和
旧石器時代	縄文時代	弥生時代	大和時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代	安土桃山時代	江戸時代	大正 平成

源頼朝
(1147〜1199)

神護寺

源義朝の子。平治の乱に敗れて伊豆（静岡県）に流されたが、一一八〇年、以仁王の命令を受けると、北条氏の援助を得て、平氏打倒の兵をあげた。鎌倉を根きょ地にして、東国の武士を味方につけて勢力を強め、弟の範頼・義経に命じて、一一八五年、平氏をほろぼさせた。一一九二年、征夷大将軍になり、鎌倉に幕府を開いて武家政治を始めた。

137ページからのカラー資料室も参照しよう。

源氏が兵をあげ、平氏が滅亡

清盛め、自分の孫（安徳天皇）を即位させおって、
以仁王
もう平氏のわがままにはがまんならん。父の後白河法皇に代わって、わたしがやっつけてやる。
この源頼政が力をお貸しします。

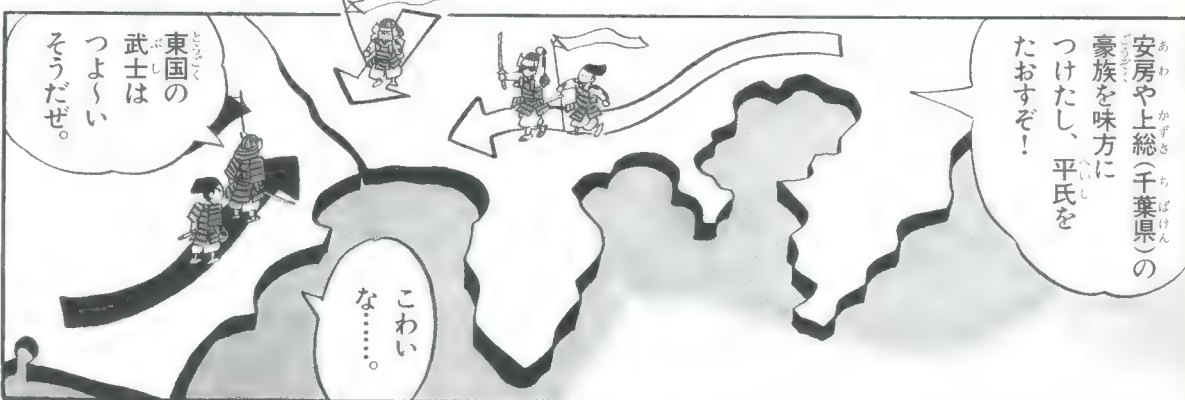
一一八〇年、以仁王は源頼政と手を結び兵をあげたが、宇治（京都）の戦いで平氏に敗れた。

しかし、そのころ以仁王の命令が各地に回っていた。

以仁王の令旨

令旨は、皇太子や皇后・親王などの命令を伝える文書。後白河法皇の皇子以仁王は、源頼政のすすめで、一一八〇年、諸国の源氏に平氏打倒の令旨を出した。以仁王と頼政は宇治で敗れたが、令旨を受けた諸国の源氏が、平氏打倒の兵をあげた。

石橋山の戦い

一一八〇年、伊豆（静岡県）で兵をあげた源頼朝は、石橋山（神奈川県）に進み、平氏方の大庭景親と戦って敗れた。安房（千葉県）へのがれた頼朝は源義家のころから源氏と関係の深かった東国武士を味方につけ約三万の大軍を率いて鎌倉に入った。

源義仲
(1154〜1184)

源頼朝のいとこで、木曽(長野県)にいたので木曽義仲ともいう。一一八三年、平氏を破って京都に入ったが、後白河法皇や頼朝にきらわれ、翌年、源義経らにせめられて戦死した。

安徳天皇
(1178〜1185)

高倉天皇の皇子で、母は平清盛の娘徳子(建礼門院)。一一八五年、壇ノ浦の戦いで平氏が敗れると、清盛の妻時子に抱かれて、平氏一門とともに海に身を投げ、わずか八歳でなくなった。

この海戦で敗れた平氏一門は、幼い安徳天皇をともなって海へ身を投げ、滅亡した。

富士川の戦い

一一八〇年、源頼朝軍と平維盛軍が、富士川(静岡県)をはさんで対戦した。しかし、寄せ集めの平氏軍は、水鳥の音を敵とまちがえ、都へにげ帰った。

一ノ谷の戦い

一一八四年、平氏は西国で勢いをもりかえし、京都をめざして一ノ谷(兵庫県)に陣をとったが、源範頼・義経の軍に敗れ、屋島(香川県)ににげた。

壇ノ浦の戦い

一一八五年、屋島の戦いで敗れた平氏は、平宗盛を総大将として、壇ノ浦(山口県)で源義経軍をむかえうったが敗れ、安徳天皇とともにほろんだ。

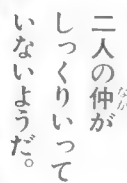
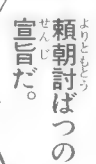
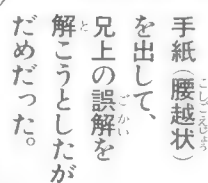
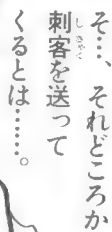
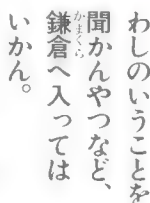
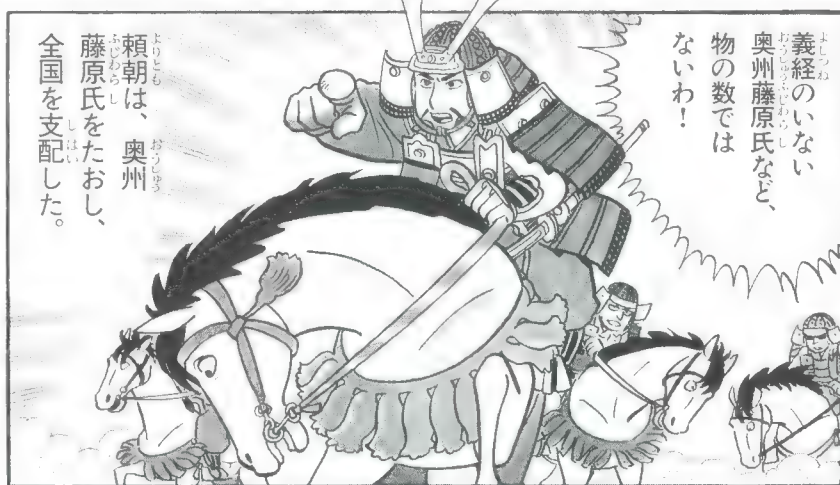
源頼朝と鎌倉幕府

源義経
(1159～1189)

中尊寺

源頼朝の弟。幼名を牛若といい、平治の乱後、京都の鞍馬寺にあずけられたが、後に平泉（岩手県）の藤原秀衡のもとで成長した。兄頼朝が平氏討ばつの兵をあげると、兄に協力して、一ノ谷・屋島の戦いに勝ち、壇ノ浦の戦いで平氏をほろぼした。しかし、頼朝の許可を得ないで後白河法皇に近づいたため、頼朝のいかりをかった。そこで藤原秀衡のもとにのがれたが、秀衡の死後、その子泰衡にせめられて自殺した。

わしのいうことを聞かんやつなど、鎌倉へ入ってはいかん。

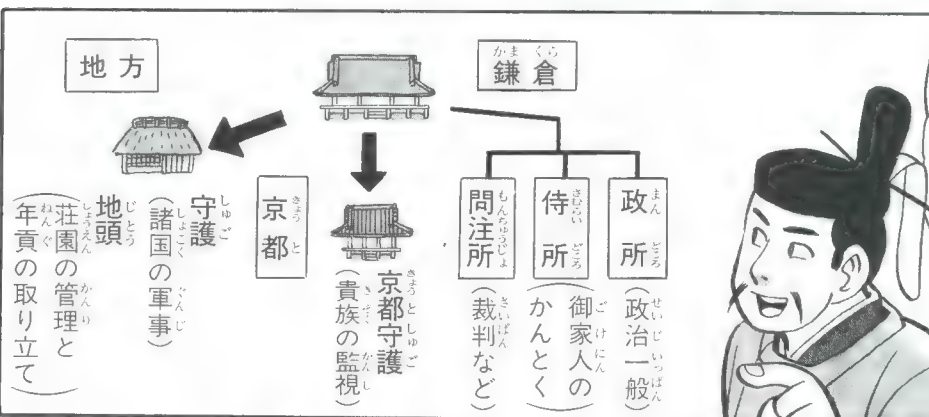
せ…、せっかくほりょを連れてきたのに。

奥州藤原氏

奥州藤原氏は、後三年の役のときに、清衡が源義家に味方したので、奥州（東北地方）を支配することを認められた。それ以後、清衡・基衡・秀衡の三代にわたって、平泉（岩手県）を中心に勢いをふるった。藤原氏は中央の文化を取り入れることにつとめ、清衡が建てた中尊寺は、藤原氏が栄えたことを示している。その後、秀衡は義経をかくまって頼朝に反こうしたが、その子泰衡は頼朝にせめられて四代でほろんだ。

幕府のしくみは、鎌倉に政所、侍所、問注所を置き、地方に守護、地頭を置く。

鎌倉
- 政所（政治一般）
- 侍所（御家人のかんとく）
- 問注所（裁判など）

京都
- 京都守護（貴族の監視）

地方
- 守護（諸国の軍事）
- 地頭（荘園の管理と年貢の取り立て）

ところでこのころの多くの武士は、農村に住み、ふだんはめし使いや農民を使って、農業をしていたんだ。

しかし京都には朝廷があり、貴族は地方にたくさんの荘園を持っていて、武士に対こうしようとしていたので、当時は朝廷と幕府という二つの政府が全国を支配しているような状態だった。

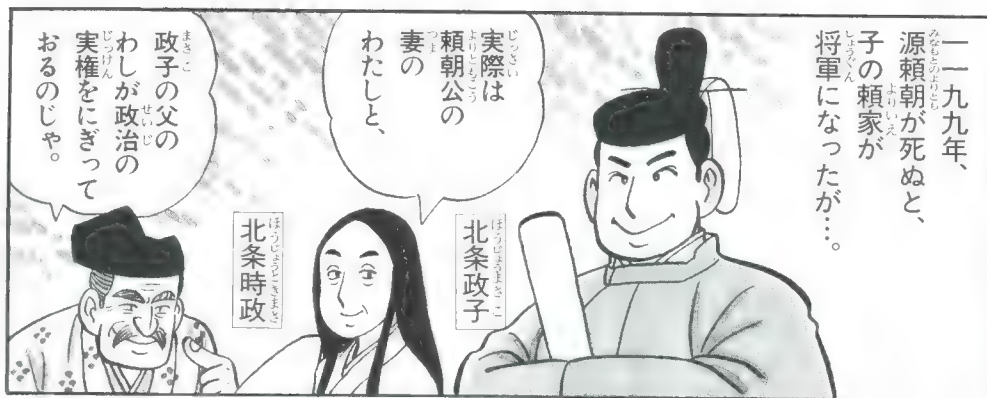
北条時政
（1138〜1215）

伊豆（静岡県）の豪族で、頼朝の妻政子の父。頼朝が鎌倉幕府を開くのを助け、初代執権となる。頼朝の死後、その子頼家を暗殺し、幕府の実権をにぎった。

源実朝
（1192〜1219）

源頼朝の次男。三代将軍になったが、実権を北条氏ににぎられ、兄頼家の子公暁に暗殺された。歌人としてもすぐれ、『金槐和歌集』がある。

源氏の将軍がほろび、北条氏が実権をにぎる

御恩と奉公

将軍が、家臣である御家人の領地を保証したり、てがらがあると新しい土地をあたえることを御恩といい、これに対し、御家人が主君である将軍に忠誠をちかって、鎌倉や京都を守ったり、戦いのときに出陣することを奉公という。

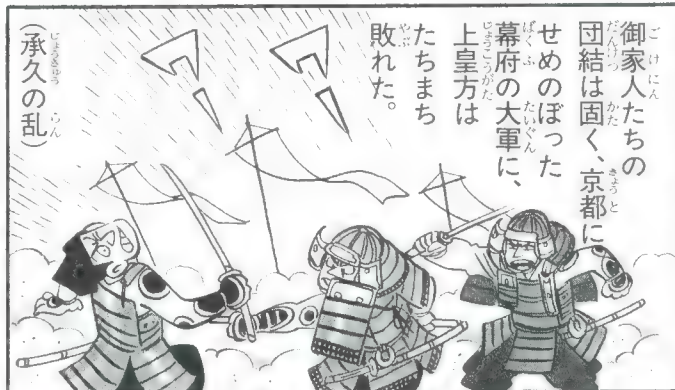
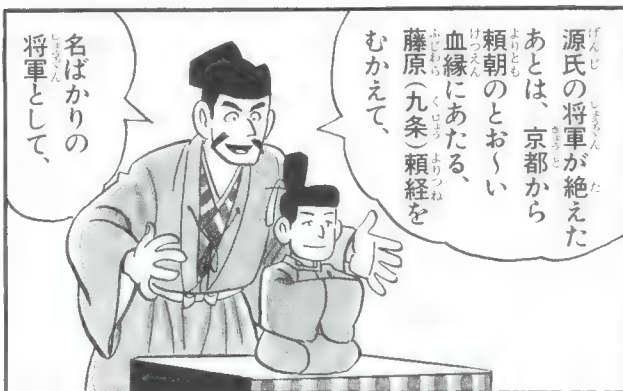
執権

将軍をたすけて、政治を行う役職。最初は政所の長官をいったが、のちに侍所の長官をかねるようになった。頼朝の死後、北条氏は代々執権となって、幕府の実権をにぎり、将軍に代わって政治を行うようになった。これを執権政治という。

北条義時
(1163～1224)

北条時政の子で、鎌倉幕府の二代執権。畠山氏や和田氏などの有力な御家人をほろぼし、三代将軍実朝を暗殺させて幕府の実権をにぎり、承久の乱で朝廷方を破って勢力を強めた。

後鳥羽上皇
(1180～1239)

源氏の将軍が三代でほろびると、政治の実権を幕府から朝廷にとりもどそうと考え、諸国の武士に呼びかけて承久の乱をおこした。しかし、幕府の大軍に敗れ、隠岐(島根県)に流された。

京に六波羅探題を置いて、朝廷と西国の武士を監視させよう。
あーあ、朝廷の力も地に落ちたな。
反対に、幕府の力は全国におよんだぞ。

六波羅探題

承久の乱のあと、鎌倉幕府が京都の六波羅に置いた役職。朝廷・貴族の監視や京都の警備と、尾張(愛知県)から西の地域の行政・裁判・軍事などを行った。執権のつぎに重要な役職で、北条氏の一族がこの職についた。

御成敗式目

一二三二年、北条泰時が制定した最初の武士の法律。五十一か条からなり、頼朝以来の例にもとづいて、御家人の権利や義務、領地の相続などを定めてある。貴族のつくった律令にくらべて、文章がやさしく実際的で、後の武家法の手本となった。

元の襲来でおとろえた鎌倉幕府

フビライ=ハン
(1215~1294)

モンゴル帝国をつくったチンギス=ハンの孫で、五代皇帝となる。一二七一年、国名を元とし、一二七九年に南宋をほろぼして、中国を統一した。高麗（朝鮮）を征服し、さらに日本征服をくわだて、二度にわたって北九州をおそったが失敗した。フビライのとき、ヨーロッパからアジアにまたがる大帝国になったため、東西の交流がさかんになり、マルコ=ポーロが元にきてフビライに仕えた。

鎌倉幕府が開かれたころ、アジア大陸ではチンギス=ハンが現れ、モンゴル帝国を建てた。

日本は黄金がうなっているという……。

フビライ=ハン（チンギス=ハンの孫）

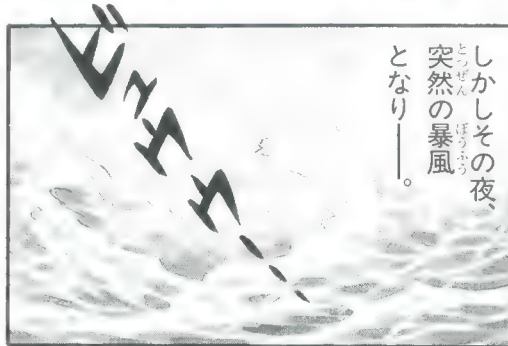
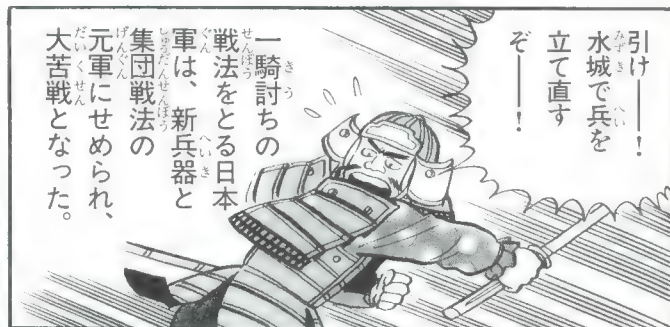
属国にしよう。

五代皇帝フビライのとき、モンゴル帝国はアジアとヨーロッパにまたがる大帝国となった。

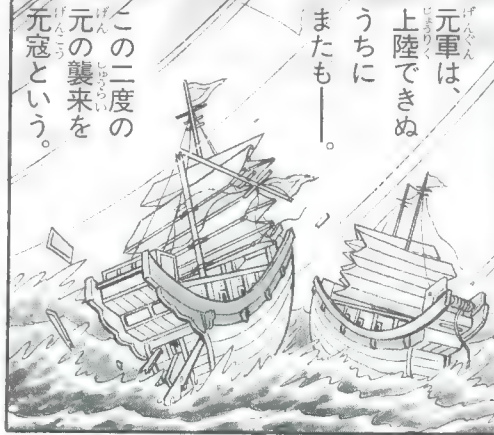
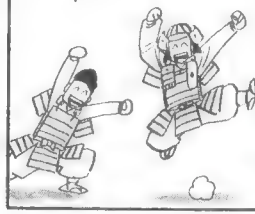
一二七一年、モンゴルは国名を元と改め、その後も何度か使者を送ってきた。

しつこいやつめ、何度来ても答えは同じだ。追い返せ！

しかしその夜、突然の暴風となり――。

元寇

服従することを断った日本を、元が二度にわたってせめた出来事。一二七四年、元の大軍が北九州をおそい、集団戦法や「てつはう」という火器を使って日本軍を苦しめたが、暴風にあって退いた(文永の役)。一二八一年、ふたたび元は北九州をおそったが、またも暴風が吹いて退いた(弘安の役)。この戦いで、多くの費用を使った幕府は財政が苦しくなり、しだいにおとろえていった。

北条時宗

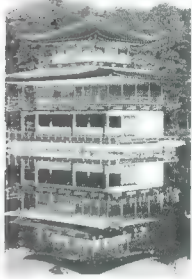
(1251～1284)

五代執権北条時頼の子で、はじめ相模太郎とよばれ、十八歳で八代執権となる。元のフビライが、服従を要求して送ってきた使者を追い返し、二度にわたる元の襲来を、御家人をさしずして退けた。時宗は少年のころから禅宗を深く信じ、鎌倉の建長寺の蘭渓道隆の教えを受けた。さらに、中国から無学祖元をまねいて、鎌倉に円覚寺を建てさせた。

2 室町幕府と民衆の動き

約六十年にわたる南北朝争乱の後、足利義満の室町幕府が栄えるようになった。

これは、足利三代将軍義満が住んでいた「花の御所」だよ。

足利……？将軍……っ。

金閣

一三九七年、足利義満が京都・北山の別荘につくった建物。三階建てで、一・二階は貴族住宅の寝殿造、三階は禅寺の唐様の様式を取り入れている。建物全体に金ぱくを張ってあり、当時の人々は「極楽浄土のようだ」といって「金閣」とよんだ。北山文化を代表する建築であったが、放火で焼失し、現在の金閣は一九五五年に再建されたもの。

鎌倉幕府は元の襲来のあと、恩賞が出せないなどで、御家人の信用がなくなったよね。

うん……。

137ページからのカラー資料室も参照しよう。

建武の新政の始まり

後醍醐天皇

（1288～1339）

政治を天皇の手にもどそうと考え、鎌倉幕府をたおそうとしたが失敗。その後、足利尊氏、新田義貞らの協力で幕府をたおし、建武の新政を始めたが、やがて尊氏に追われ吉野にのがれた。

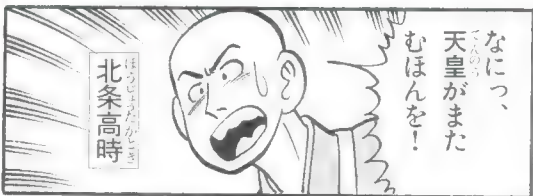
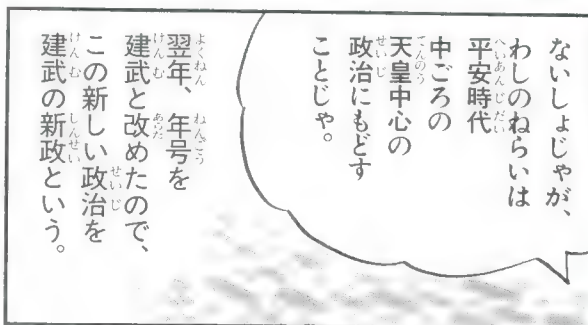
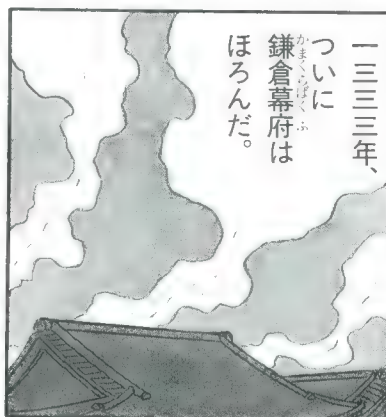
新田義貞

（1301～1338）

上野（群馬県）の豪族。鎌倉幕府の御家人として楠木正成と戦ったが、途中で幕府にそむき、鎌倉をせめて幕府をほろぼした。建武の新政に参加したが、その後、足利尊氏と戦って戦死した。

一三三三年、ついに鎌倉幕府はほろんだ。

やったー、京に帰れるぞー!!

翌年、年号を建武と改めたので、この新しい政治を建武の新政という。

鎌倉幕府の滅亡

後醍醐天皇が倒幕の兵をあげると、楠木正成など各地の武士が天皇に味方した。さらに有力な御家人である足利尊氏、新田義貞らが幕府にそむき、鎌倉をせめたので、北条高時は一族とともに自殺し、一三三三年、鎌倉幕府はほろんだ。

建武の新政

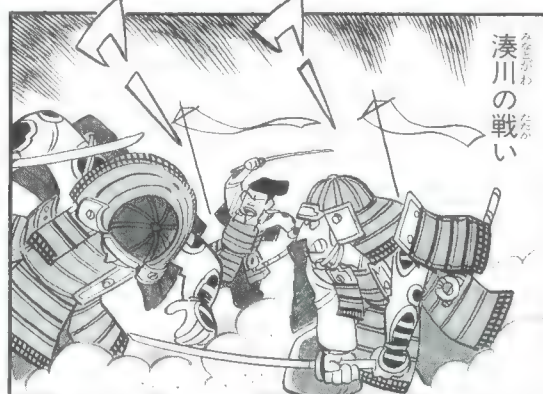
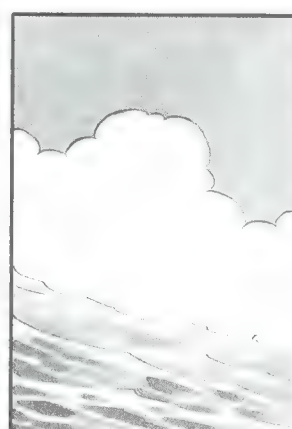
鎌倉幕府をほろぼして、一三三四年、年号を建武と改め、後醍醐天皇が自ら行った政治。公家を重く用いたので、武士の不満が高まり、足利尊氏が反乱をおこした。天皇は京都から吉野（奈良県）にのがれ、新政は二年あまりで失敗した。

足利尊氏と南北朝の争い

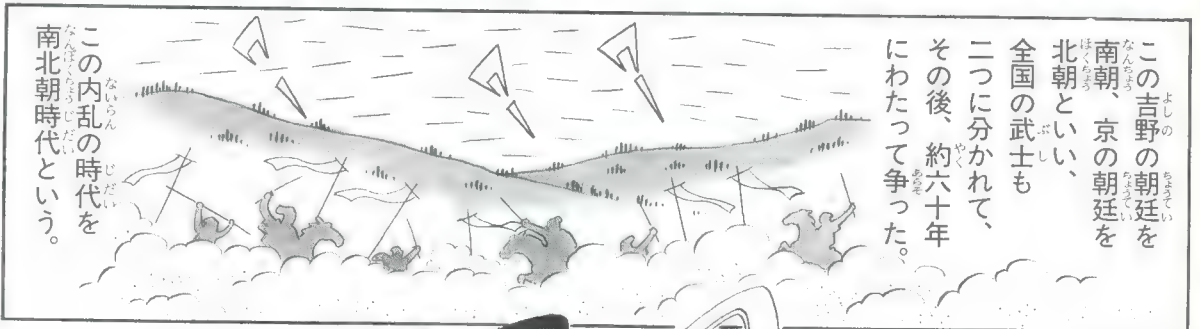
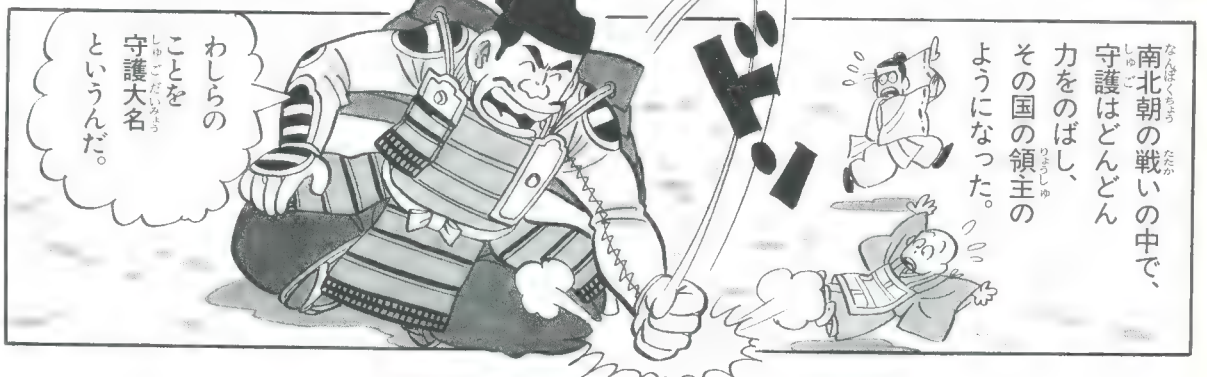
足利尊氏
（1305～1358）

源氏の子孫で、後醍醐天皇に味方して鎌倉幕府をたおすのにてがらをたてた。後に建武の新政に反対して天皇を吉野に追いはらい、京都に室町幕府を開いた。

楠木正成
（?～1336）

河内（大阪府）の豪族で、後醍醐天皇に味方して、赤坂城や千早城で幕府軍を苦しめた。建武の新政に参加したが、足利尊氏と戦い、湊川（神戸市）で戦死した。

一三三五年、尊氏は反朝廷の武士を集め、京へせめよせたが敗れて、九州にのがれた。

西国には味方がたくさんいます。兵をととのえていずれ京へせめのぼりましょう。

うむ……。

南北朝の争乱

一三三六年、後醍醐天皇が吉野（奈良県）に移した朝廷（南朝）と、足利尊氏が京都にたてた朝廷（北朝）が、およそ六十年にわたって争った。これを南北朝時代といい、全国の武士が、二つの朝廷のどちらかについて争った内乱の時代である。この間に、尊氏は京都に幕府を開き、地方では守護大名が力をのばし、朝廷の力はおとろえた。一三九二年、三代将軍足利義満のとき、南朝が北朝と講和し、南北朝が合一した。

足利義満と室町幕府の栄え

足利義満
(1358〜1408)

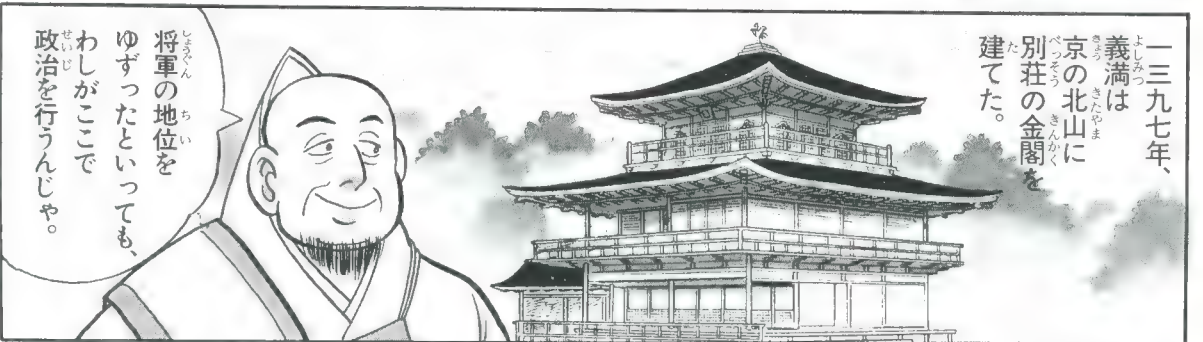
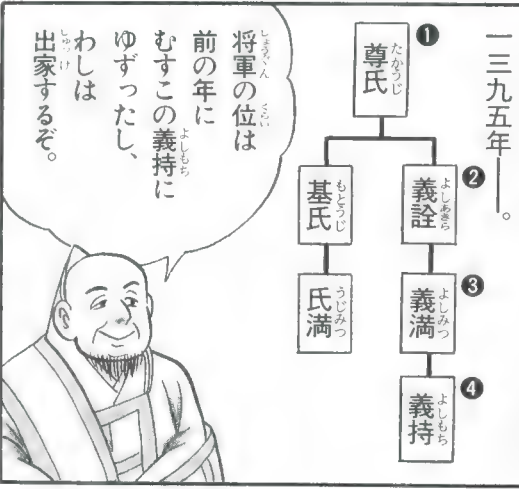
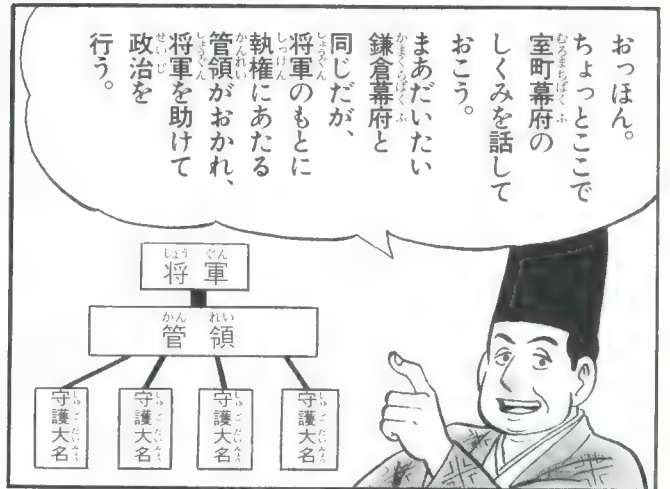
足利尊氏の孫で、室町幕府三代将軍。一三七八年、京都室町に「花の御所」をつくり、幕府を移したので、足利氏の幕府を室町幕府というようになった。土岐氏や山名氏などの有力守護大名をおさえて、将軍の力を強め、一三九二年に南北朝を合一して、室町幕府の全盛期を築いた。そして、中国の明と国交を開き、勘合貿易を始めて経済を発展させ、京都北山に金閣を建てて移り住み、文化を保護した。

よし、何とか南朝側をいいくるめて、講和してしまおう。

はっ。

一三九七年、義満は京の北山に別荘の金閣を建てた。

将軍の地位をゆずったといっても、わしがここで政治を行うんじゃ。

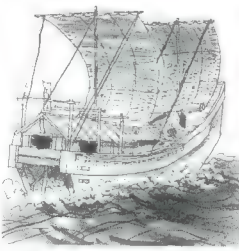
管領

室町幕府の最高の役職で、将軍を助けて政治全般をみる役。三代将軍足利義満を助けた細川頼之のころ、この役ができたらしい。足利氏の一族である細川・斯波・畠山の三氏が、代々交代でこの役についたので、三管領とよばれた。

守護大名

鎌倉時代の守護は、幕府に任命された地方の役人にすぎなかった。しかし南北朝の内乱が始まると、守護はその国の地頭や武士を従え、年貢をとる権利をもつようになり、その国を領地のように領主化した。このように領主化した守護を守護大名という。

倭寇

十三～十六世紀ごろ、北九州や瀬戸内の武士・漁民の中には、集団で朝鮮や中国にわたり、貿易を強要したり、物をうばったりする者もいた。これを、朝鮮や中国では倭寇と呼んだ。

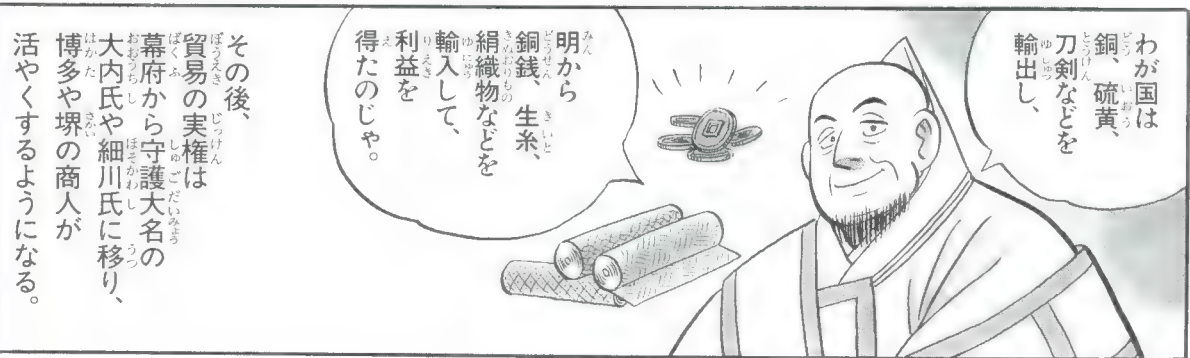
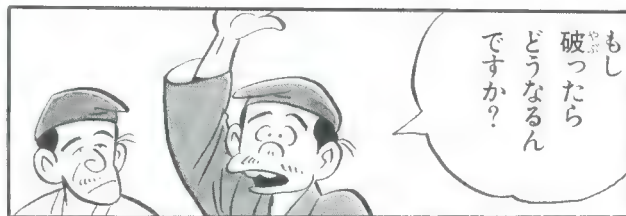
日明貿易

足利義満は貿易の利益に目をつけ、倭寇を禁止して明と国交を開き、貿易を始めた。正式の貿易船は、倭寇と区別するために勘合符という合い札を用いたので、勘合貿易ともいう。

わが国は
銅、硫黄、
刀剣などを
輸出し、

明から
銅銭、生糸、
絹織物などを
輸入して、
利益を
得たのじゃ。

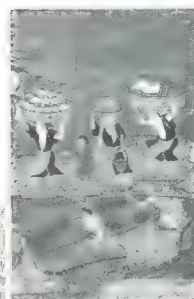
その後、
貿易の実権は
幕府から守護大名の
大内氏や細川氏に移り、
博多や堺の商人が
活やくするようになる。

新しい村と農民の団結

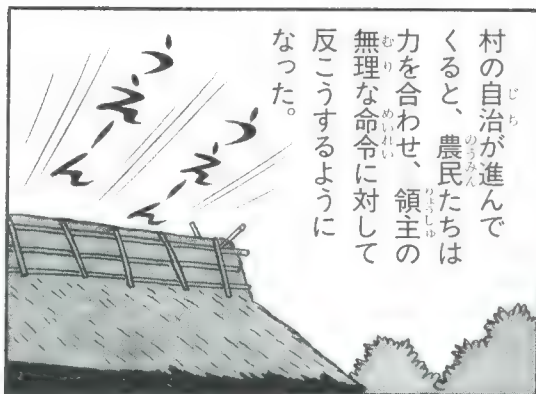
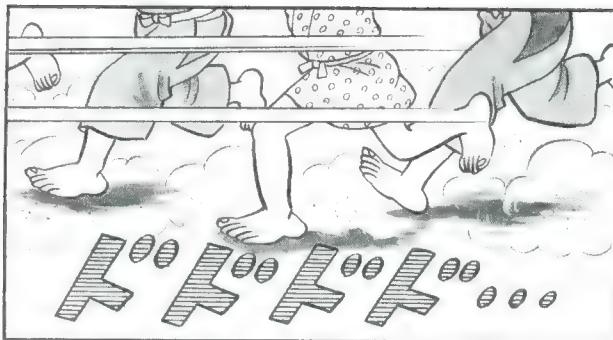
もし破ったらどうなるんですか？

農業の進歩

室町時代になると、二毛作が広がり、水車で田に水をひき、草木の灰を肥料にしたので収かくがふえた。また、宇治(京都府)の茶や美濃(岐阜県)の紙など、各地に特産物ができた。

惣村

東京国立博物館

室町時代の農民は、戦乱から村を守るために、自分たちで村を運営するようになった。このような自治的な村を惣村といい、寄合を開いて、村のおきてや行事などをきめた。

蓮 如
(1415〜1499)

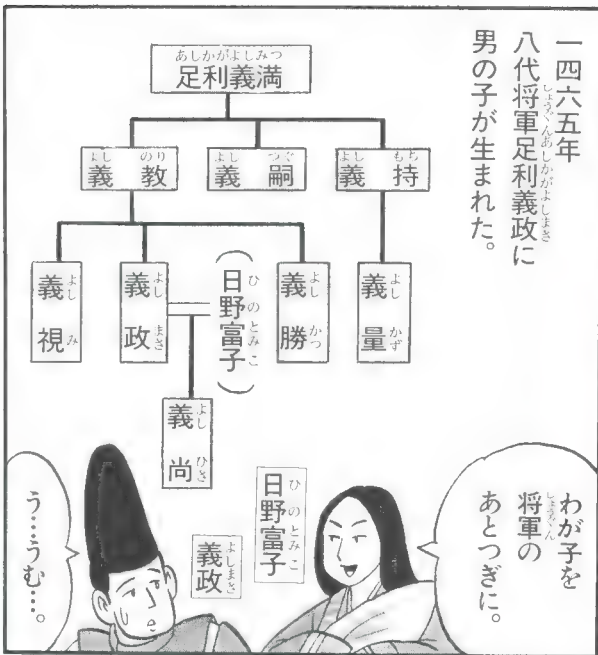
室町時代の一向宗（浄土真宗）の僧。本願寺で教えを広めたが、延暦寺の僧ににくまれて京都を去り、越前（福井県）吉崎に道場を開いて、北陸地方を中心に布教につとめた。のち京都に帰って本願寺を再興し、さらに大阪に石山本願寺を建てた。一向宗が広まるとともに、信者は領主に反こうして一向一揆を起こしたが、蓮如は教えを広めるためには領主の保護が必要であると考え、できるだけ一揆をおさえようとした。

土一揆

室町時代の土民(農民)が、領主に対して、年貢をへらすことや借金を帳消しにする徳政令を出すことなどを要求して起こした一揆。大規模なものは、一四二八年、近江(滋賀県)で起こった正長の土一揆が最初で、それ以後近畿地方を中心にさかんに起こった。一揆には、徳政令を要求した徳政一揆のほか、国人(土着の武士)を中心として領主の支配に反こうした国一揆、一向宗の信者が起こした一向一揆などがある。

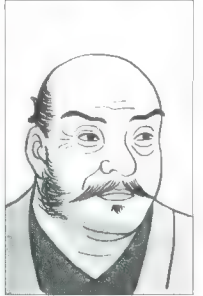
3 戦国の世と天下の統一

足利義満の孫で、室町幕府の八代将軍。はじめ政治にはげんだが、やがて妻の日野富子に実権をにぎられたため、政治が乱れた。そのため、守護大名が力をのばし、義政のあとつぎ争いをきっかけに、一四六七年、応仁の乱が起こった。義政は将軍職を子の義尚にゆずり、戦乱をよそに、京都東山に銀閣を建てて、茶の湯や能楽を楽しんだ。

137ページからのカラー資料室も参照しよう。

応仁の乱と戦国大名の登場

応仁の乱
(1467〜1477)

八代将軍足利義政のとき、守護大名の細川勝元と山名宗全が勢力を争って対立した。そして、将軍家のあとつぎ争いや、管領家の畠山氏・斯波氏の内部争いをきっかけにして、一四六七年、応仁の乱が始まった。全国の守護大名が細川方と山名方に分かれて、京都を中心に十一年間戦ったので、京都はあれはてて、将軍や貴族の権威はおとろえた。やがて戦乱は京都から地方に広がり、約百年間続く戦国の世となった。

武田信玄
(1521〜1573)

甲斐（山梨県）の守護武田信虎の子で、名は晴信、出家して信玄と名乗った。乱暴な父信虎を駿河（静岡県）に追放して武田氏をつぎ、強い家臣団を育てて、信濃（長野県）へ進出し、上杉謙信と川中島で五回戦ったが、勝敗はつかなかった。一五七二年、天下統一をめざして京都に向かい、三方ケ原の戦いで徳川家康に大勝したが、陣中で病死した。領国を治めるために定めた「甲州法度（信玄家法）」は有名である。

そりゃそうだ。

それより、もう戦いはあきたよ。

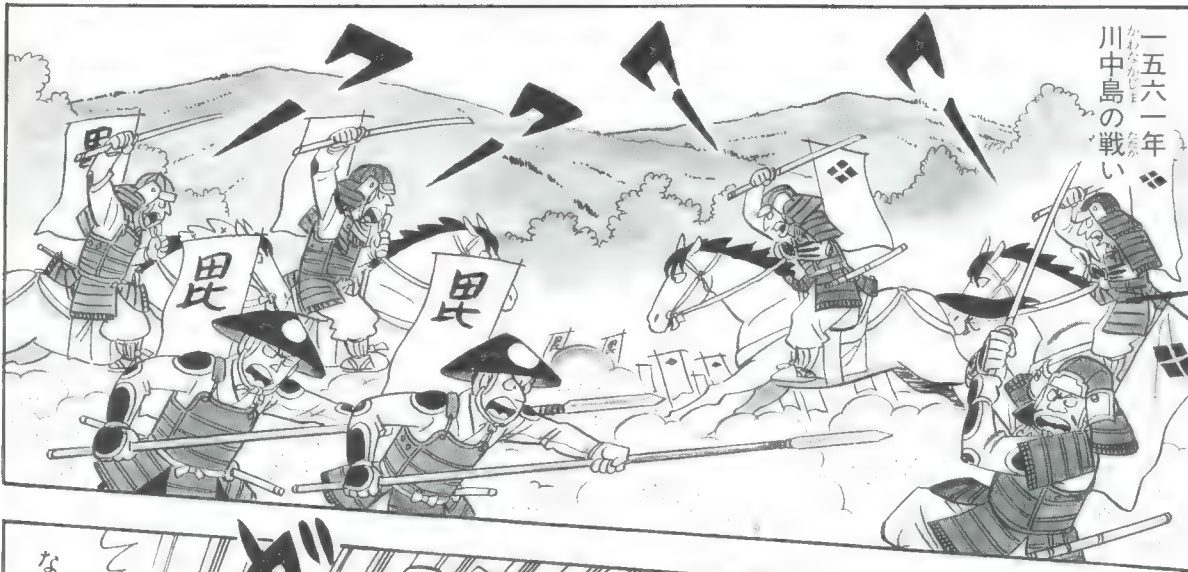
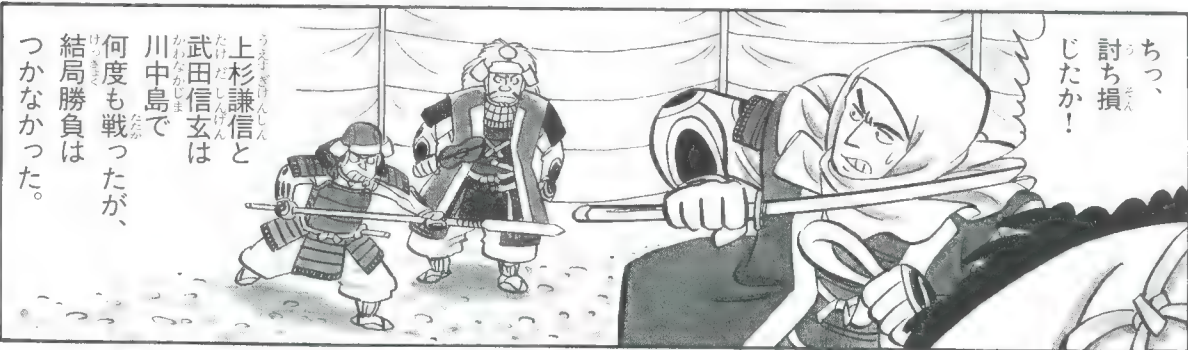
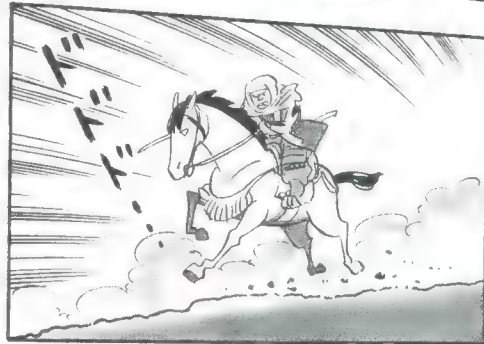
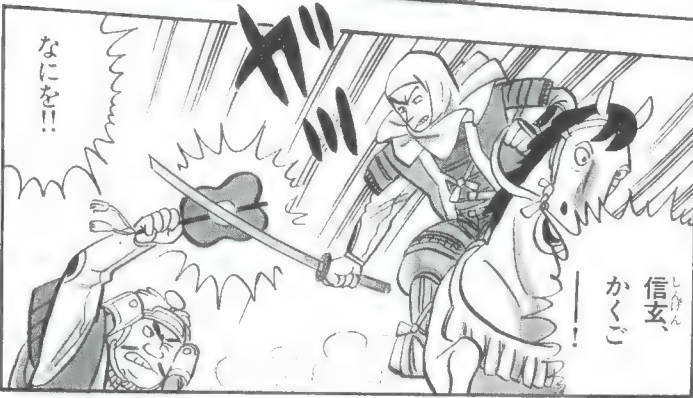
そうさな、もう十一年も戦っているもんなア…。

一四七七年に戦いは終わったが、京都の町は焼け野原となり、幕府は権威を失った。やがて戦火は、京都から地方へ広がり、約百年にわたる戦国の世となった。

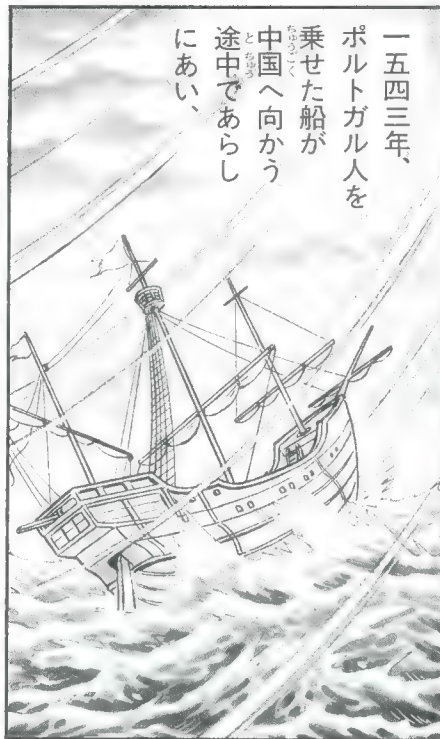
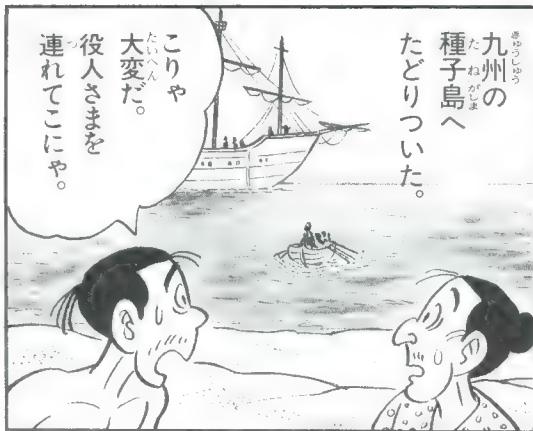
分国法

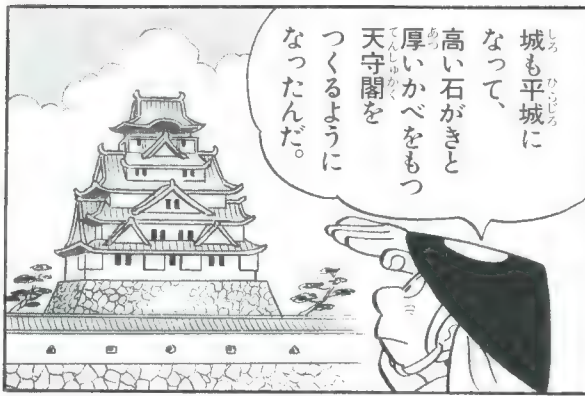
戦国大名が領国を治めるために定めた法律で、家法ともいう。家臣団の統制や農民の生活、裁判に関することなどが決められている。代表的なものに、伊達氏の「塵芥集」、武田氏の「甲州法度（信玄家法）」、今川氏の「今川仮名目録」などがある。

戦国大名

戦国時代に、守護大名に代わって、実力で領国を支配した武将。応仁の乱後の下剋上という実力主義の風潮に乗って、守護大名の家臣や土豪から主君をたおして大名になった者や、実力のある守護大名が、そのまま戦国大名になった者などがある。

上杉謙信
(1530～1578)

越後(新潟県)の守護代長尾為景の子で、名は景虎、政虎、輝虎と変わり、後に関東管領上杉憲政から上杉の姓をゆずられ、上杉謙信と名乗った。兄晴景のあとをついで春日山(新潟県上越市)城主となり、小田原の北条氏、甲斐(山梨県)の武田氏と争ったが、とくに川中島の戦いは有名である。越中(富山県)から加賀・能登(石川県)に進出して織田信長と対立し、一五七八年、京都へのぼろうとしたやさきに病死した。

鉄砲とキリスト教の伝来

鉄砲の伝来

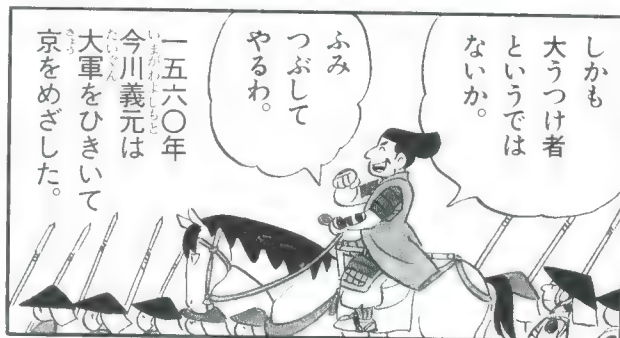
一五四三年、種子島(鹿児島県)に流れついたポルトガル人によって、鉄砲が伝えられた。そのころ日本は戦国時代だったので、大名たちに注目され、堺(大阪府)や国友(滋賀県)、根来(和歌山県)などでつくられて、各地に広まっていった。とくに、長篠の戦いで、織田信長が鉄砲隊を使って武田氏に大勝利をおさめてから、鉄砲隊を中心とする集団戦法に変わり、城のつくり方も鉄砲に備えるものになった。

フランシスコ=ザビエル
（1506～1552）

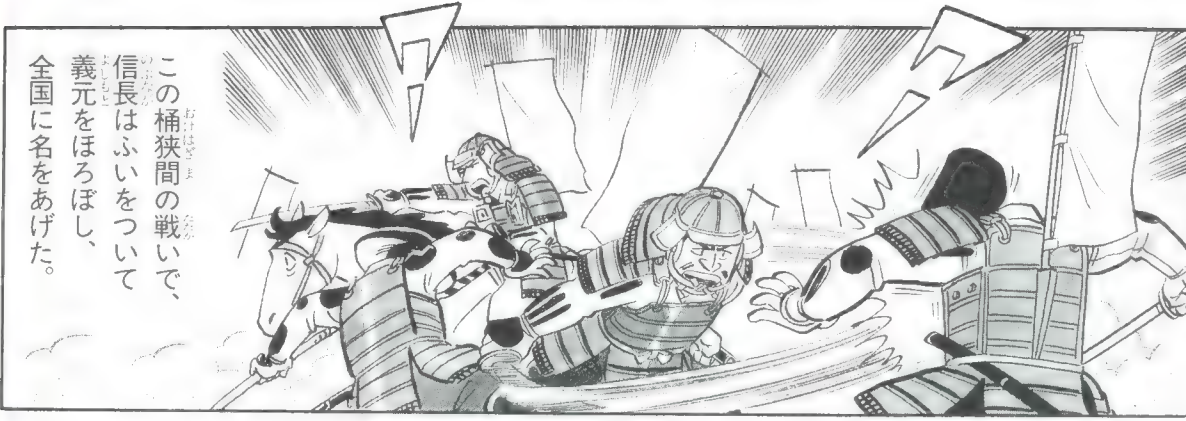
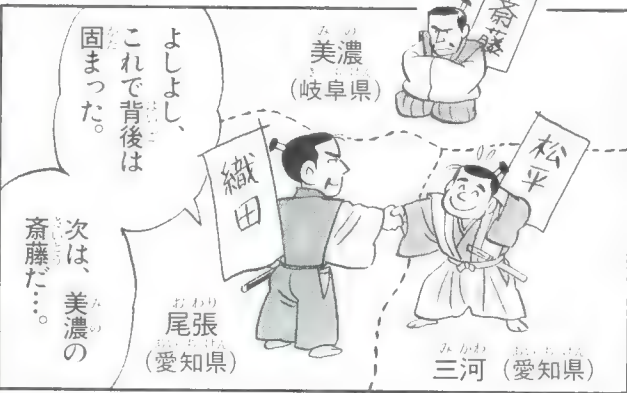
日本に初めてキリスト教を伝えた宣教師。スペインの貴族の子に生まれ、パリで神学を学んで宣教師になり、教えを広めるためにイエズス会をつくった。インドや東南アジアで布教しているときに会った日本人アンジローの案内で、一五四九年、鹿児島に来てキリスト教を伝えた。さらに平戸（長崎県）や山口、大分などの各地で布教したのち、一五五一年に日本を去り、翌年、中国で病死した。

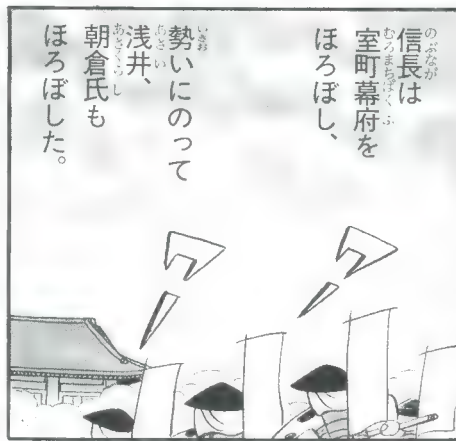
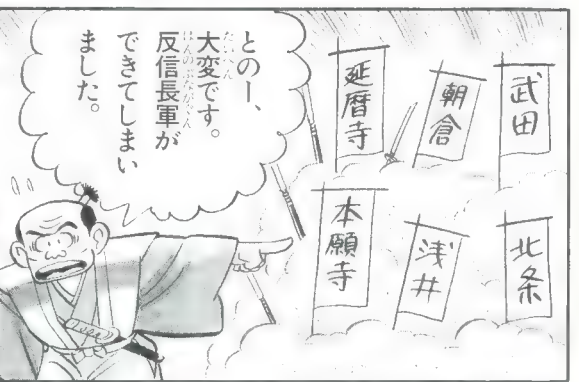
鉄砲が伝わってからまもない一五四九年、鹿児島。
わたしはスペインの宣教師、フランシスコ=ザビエルです。
日本にキリスト教を伝えにきました。
ザビエルは鹿児島、平戸、山口、京都などで布教し、まもなく日本を去った。

その後も宣教師がつぎつぎと渡来し、キリスト教を広めるために、布教を認めた大名だけと貿易を行った。この貿易を南蛮貿易という。
貿易でひともうけしたいから、わしも信者になろうっと。
こんなキリシタン大名がいたのかね。

織田信長の天下統一事業

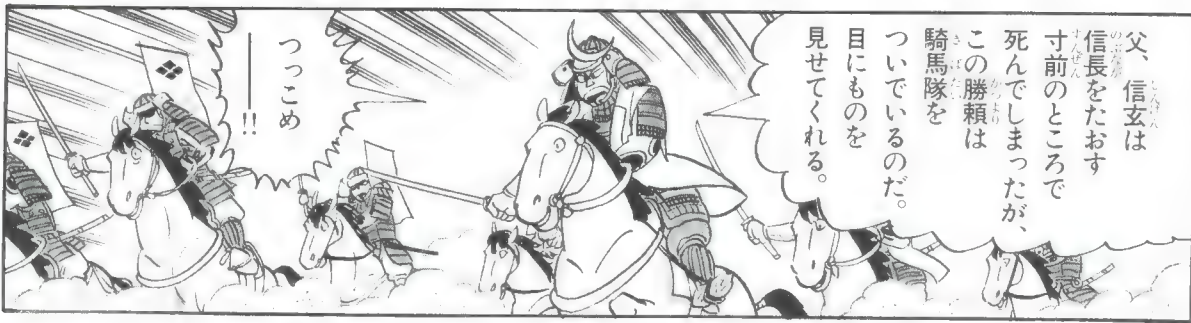
桶狭間の戦い

一五六〇年、京都に上ろうとした今川義元と織田信長の戦い。天下統一をめざした今川義元は、大軍をひきいて、織田氏の領内にせめこみ、とりでを次々と落として、京都に向かっていた。今川の大軍をむかえた信長は、あらしをついて、桶狭間（名古屋市付近）の近くに陣をとった義元の本陣に奇襲をかけ、義元をたおした。この戦いののち、信長は勢力をのばし、一五六八年に足利義昭を立てて、京都に上った。

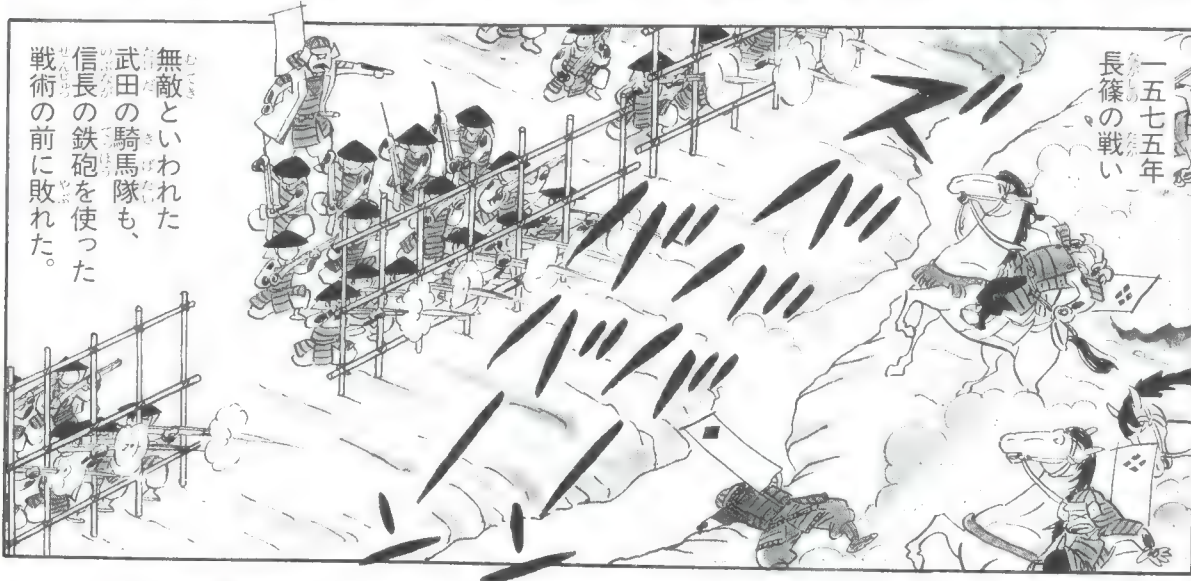
尾張(愛知県)の清州城主織田信秀の子で、十八歳で家をついだ。一五六〇年、桶狭間の戦いで今川義元を破って名をあげ、京都にのぼった。一五七三年、室町幕府をほろぼし、さらに長篠の戦いで鉄砲隊を使って、武田氏を破った。そして安土城(滋賀県)を築いて統一の根きょ地としたが、一五八二年、毛利征伐に行く途中、京都の本能寺で、部下の明智光秀におそわれて自殺した。

美濃
(岐阜県)
斎藤
よしよし、
これで背後は
固まった。
織田
松平
次は、美濃の
斎藤だ…。
尾張
(愛知県)
三河 (愛知県)

その年九月
信長は義昭を
連れて京都へ
入った。
義昭は
室町幕府の
十五代将軍となり、
信長はその
後見人となった。

室町幕府の滅亡

一五六八年、織田信長は京都にのぼり、足利義昭を十五代将軍にした。しかし、義昭は信長と対立するようになり、武田信玄などと結んで信長をたおそうとした。おこった信長は、一五七三年、義昭を京都から追放し、室町幕府をほろぼした。

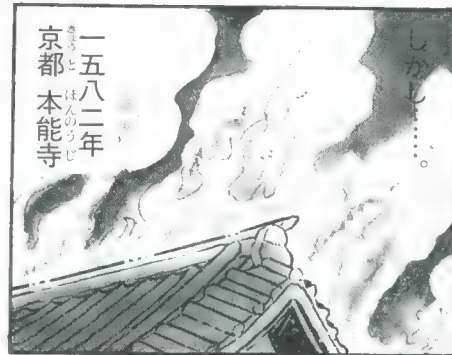
比叡山焼き打ち

延暦寺が信長の敵である浅井・朝倉氏に味方したのをおこった信長は、一五七一年、比叡山にせめこんで、すべての建物・仏像などを焼きはらった。そのうえ、僧侶だけでなく、「お助けください」というつみのない女・子供までみな殺しにした。

武田勝頼
(1546〜1582)

武田信玄の子。長篠の戦いで信長・家康の連合軍に敗れた。北条氏と結んで勢力の回復をはかったが、一五八二年、天目山の戦いで敗死し、武田氏はほろんだ。

一五七五年
長篠の戦い

無敵といわれた武田の騎馬隊も、信長の鉄砲を使った戦術の前に敗れた。

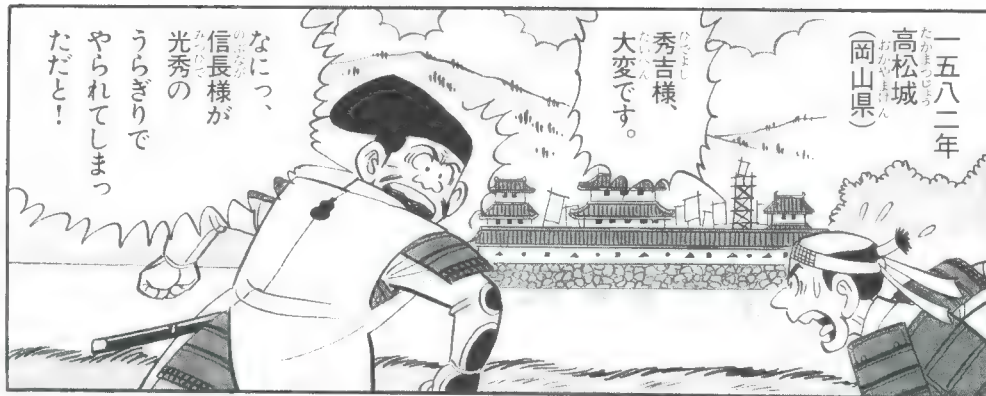
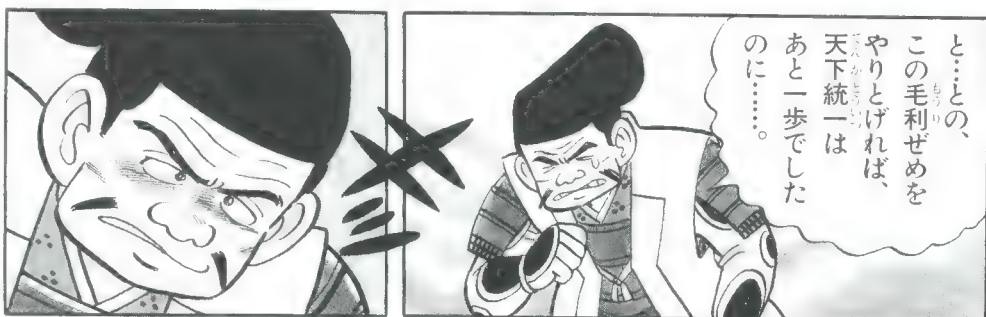
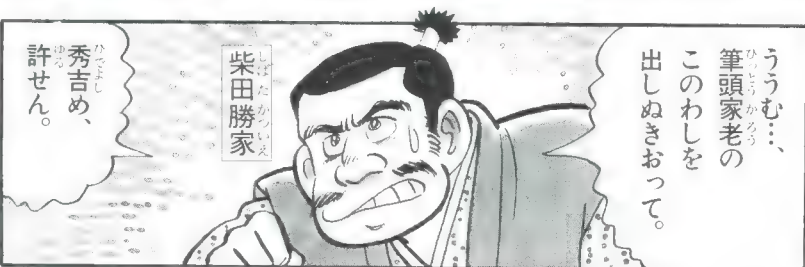
翌年――。

どうじゃ、日本最初の本格的な天守閣をもつ安土城じゃ。

それからわしは、各地で一揆をおこしていた一向宗の総本山石山本願寺をせめて降伏させ、

近畿地方をおさえて天下人とよばれたのじゃ。

明智光秀
(1528〜1582)

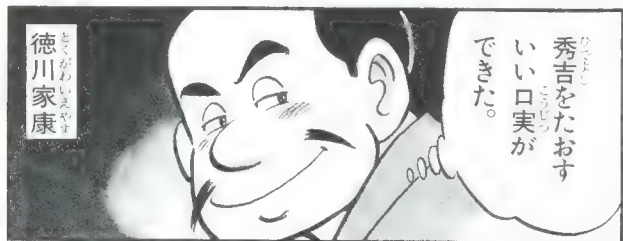
織田信長に仕えて、丹波（京都府・兵庫県）の領主となる。一五八二年、本能寺の変で信長をたおしたが、山崎の戦いで豊臣秀吉に敗れ、にげる途中で殺された。

豊臣秀吉の天下統一

毛利ぜめ

豊臣秀吉は、一五七七年から中国地方の毛利氏征伐にのりだし、三木城（兵庫県）、鳥取城をせめ落とし、一五八二年高松城（岡山県）を水ぜめにしていた。そのとき本能寺の変で信長が死んだので、秀吉は毛利氏と講和を結んで京都に引き返した。

山崎の戦い

一五八二年、毛利氏と戦っていた秀吉は、信長の死をきくと講和を結んで急いで引き返し、十三日に京都の山崎で明智光秀と戦った。四万の秀吉軍は、一万六千の光秀軍をさんざんに討ち破り、光秀はにげる途中で農民に殺された。

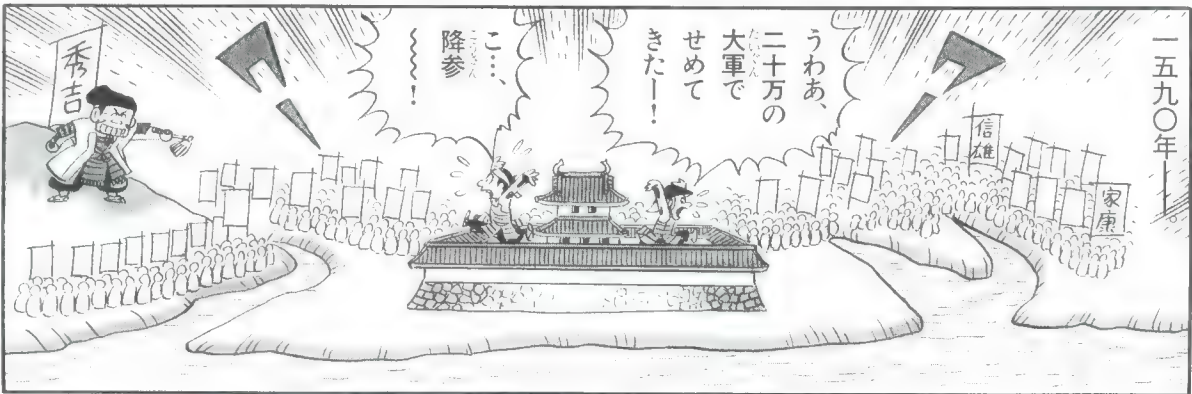
信雄様、あなたは信長公の子、大阪城にはあなたが住むべきです。

織田信雄

うむ、天下を取りもどすぞ。

豊臣秀吉

(1536～1598)

尾張（愛知県）の足軽の子で、はじめ木下藤吉郎といい、信長に重く用いられて長浜城主（滋賀県）となり、羽柴秀吉と改めた。本能寺の変の後、明智光秀を破り、さらに柴田勝家ら有力な部将をおさえて、信長のあとをついだ。大阪城を築いて本きょ地とし、一五九〇年、小田原の北条氏をたおして天下を統一した。この間に関白・太政大臣になり、朝廷から「豊臣」の姓をもらった。のちに朝鮮出兵中に病死した。

検地

年貢をとる基準にするために土地を調査すること。秀吉は全国的に土地の面積や作物のとれ高、耕作者を調べて検地帳に書き上げ、きびしく年貢をとりたてた。これを太閤検地という。

刀狩

一向一揆や土一揆に手を焼いた秀吉は、一五八八年、全国に命令を出して、寺や農民のもっている刀、やり、鉄砲などの武器をとりあげ、反こうできないようにした。これを刀狩という。

天下統一

信長のあとをついだ秀吉は、大阪城を本きょ地として、四国の長宗我部氏、九州の島津氏を従え、一五九〇年、小田原の北条氏をほろぼした。そして秀吉の味方をしなかった東北地方の大名の領地をとりあげ、天下統一をなしとげた。

朝鮮出兵

国内を統一した秀吉は、明(中国)の征服をくわだて、一五九二年と一五九七年に朝鮮半島へ大軍を送った。しかし朝鮮の民衆の抵こうにあって苦戦し、秀吉が病死したので兵を引きあげた。豊臣氏は多くの費用と兵を失い、おとろえた。

第3部

カラー資料室

武士の世の中へ

12世紀に入ると、政治のにない手は貴族から武士へと代わり、武士の気風をうつした文化がおこった。

鎌倉武士のくらし

鎌倉時代
一一九二年～一三三三年

鎌倉時代の武士は、農村に住み、農業経営をしていた。自分の領地が見わたせる高台に館を建て、まわりにはほりをめぐらし、見張り番を置くなどして敵に備えていた。

いつ合戦になってもすぐにかけつけることができるように、日ごろから武芸を積み重ね、準備もおこたらなかった。

（東京国立博物館）

➡笠がけ。笠を的にして、馬の上から矢をいる。鎌倉武士が好んだ武芸の一つ。

⬆武士の館。板べいで囲まれ、門のそばには見張り番がいる。

（歓喜光寺　清浄光寺）

力強い文化と新しい仏教

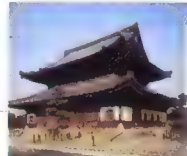
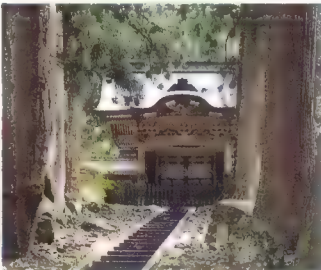
鎌倉時代　一一九二年～一三三三年

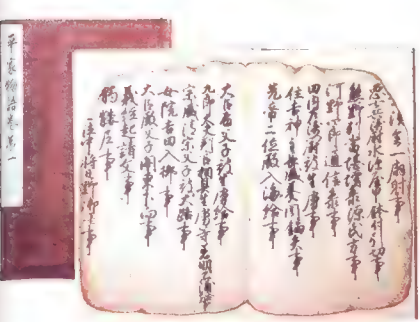
鎌倉時代には、貴族が好んだこまやかで優美な文化に代わり、武士たちの気風をうつした、素ぼくで力強い文化が栄えた。禅宗や、日蓮（法華）宗・念仏宗などの新しい仏教もさかんになり、戦乱をえがいた軍記物も流行した。

↑東大寺南大門。

←東大寺南大門金剛力士像。（東大寺）

↑円覚寺舎利殿。宋（中国）から伝えられた唐様の建築で、素ぼくな美しさがある。（円覚寺）

←平重盛像。『源頼朝像』とともに、写実的にえがかれた「似絵」のけっ作で藤原隆信の作といわれる。（神護寺）

→琵琶法師。『平家物語』を語り伝えた。（東京国立博物館）

←『平家物語』。武士の活やくに題材をとった軍記物のけっ作で琵琶法師によって広まっていった。（赤間神宮）

鎌倉時代の新しい仏教
宗派と特色
年代
念仏宗
日蓮(法華)宗
禅宗
「南無阿弥陀仏」と念仏を唱え、阿弥陀仏にすがれば極楽往生できると説いた。
「南無妙法蓮華経」と題目を唱えれば救われると説いた。
座禅を組み、心静かにして、自力でさとりを開くことを説いた。
1100年
1150年
1200年
1250年
1300年
1133 法然・浄土宗を開く 1212
1173 親鸞・浄土真宗を開く 1262
1239 一遍・時宗を開く 1289
1222 日蓮・日蓮宗を開く 1282
1141 栄西(よう)・臨済宗を開く 1215
1200 道元・曹洞宗を開く 1253
法然の弟子・源智によって開かれた知恩院（浄土宗）。
時宗は踊り念仏で広まった。
（東京国立博物館）
日蓮が開いた日蓮宗（法華宗）の総本山・身延山久遠寺三門。
栄西が開いた建仁寺（臨済宗）。
（建仁寺）
浄土真宗を開いた親鸞の墓・大谷本廟。
曹洞宗を開いた道元が建てた永平寺。

簡素で気品のある文化

室町時代
一三三八年～一五七三年

室町時代になると、武士の文化と貴族の文化がとけ合い、禅宗のえいきょうを受けた簡素で気品のある文化が栄えた。戦乱をさけて都をあとにした貴族や僧が、地方に文化を伝え、都市では、力を強めた町衆による庶民文化がおこった。

↑足利義満が建てた鹿苑寺金閣。（鹿苑寺）

←足利義政が建てた慈照寺銀閣。（慈照寺）

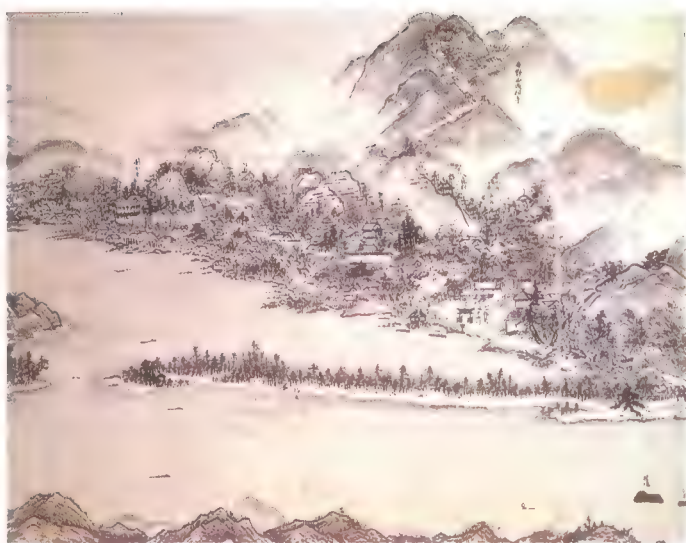
←慈照寺東求堂同仁斎。足利義政の阿弥陀堂の一室で、書院造の建築。（慈照寺）

→龍安寺石庭。禅宗のえいきょうを受けた、簡素で味わいの深い、枯山水の庭園。（龍安寺）

（藤田美術館）

雪舟
（1420～1506）

備中（岡山県）の生まれで、20歳ころ京都の相国寺に入り、禅僧の修行をした。相国寺には、如拙と周文というすぐれた画家がおり、この二人から絵も学んだ。1467年、明（中国）にわたって水墨画を学ぶとともに、禅僧の修行をし、すぐれた成績をあげた。帰国した雪舟は、日本の自然の美を求めて全国をまわり、独自の画法をみがき、日本風の水墨画を完成した。代表作としては、『山水長巻』『秋冬山水図』『天橋立図』などがある。

天橋立図。室町時代の水墨画のけっ作で、中国でわざをみがいた雪舟がえがいた。（京都国立博物館）

天に帰るかぐや姫。平安時代につくられた物語も、いろいろな形で伝えられてきた。（国立国会図書館）

足利学校（栃木県足利市）。上杉憲実が1439年に再興して以来、坂東（東国）の大学と呼ばれて栄えた。

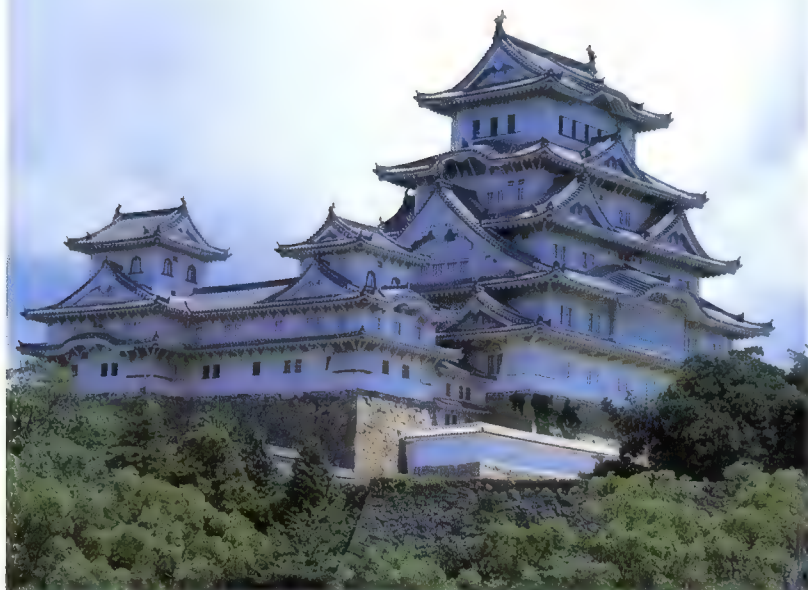
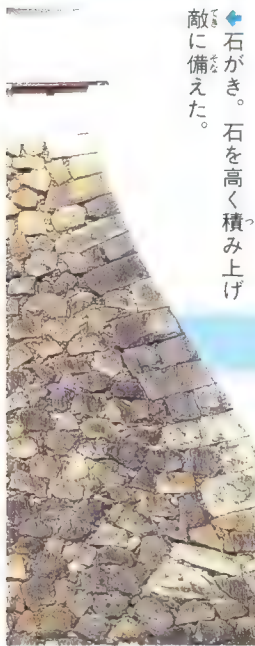
能を楽しむ人々と能面。庶民の芸能であった猿楽は、室町時代の前期、観阿弥・世阿弥によって大成され、芸術として高まっていった。

（国立歴史民俗博物館）

豪華で雄大な文化

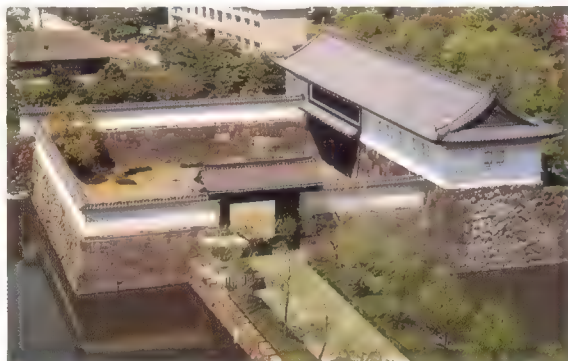
安土桃山時代
一五七三年～一六〇三年

室町時代のあと、一世紀近くも続いた戦国時代の間に、各地では新しい大名が生まれ、海外貿易に活やくする大商人も出てきた。こうした新しい文化のにない手によって、豪華で雄大な文化が栄えた。大名や大商人の間では、茶の湯が流行し、阿国歌舞伎や浄瑠璃が庶民の楽しみの一つとなった。

姫路城。天守閣を持つ雄大なつくりで、白鷺城とも呼ばれる。

石がき。石を高く積み上げ敵に備えた。

石落とし。石を落として敵の侵入を防いだ。

狭間。弓や鉄砲をうつための穴。

天守閣の内部。武器をかけるところがある。

忍び返し。忍者の侵入を防ぐためのもの。

ます形門。二重の門で、通路が直角になっている。城内に通じる重要な通路に設けられた、敵の侵入を防ぐための工夫の一つ。

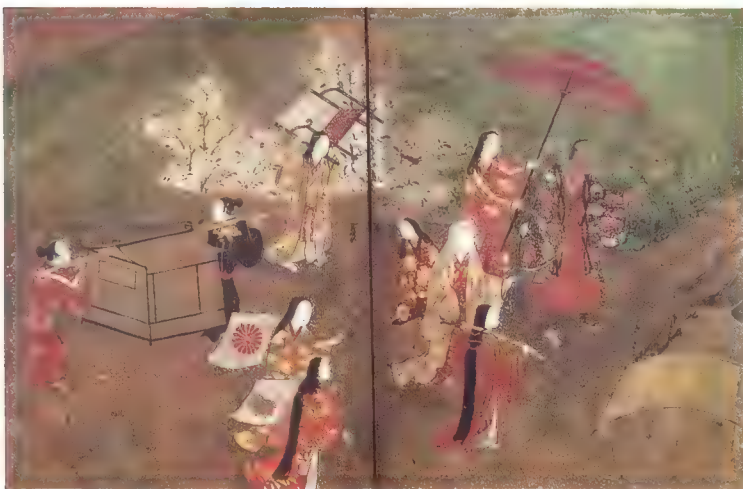
西本願寺書院。豊臣秀吉の建てた伏見城から移されたと伝えられる。豪華な室内装飾が特長。

唐獅子図屏風。狩野永徳がえがいたもの。（宮内庁）

阿国歌舞伎。出雲（島根県）の阿国が始めた歌舞伎は、庶民に親しまれた。

（京都大学付属図書館）

千利休。

妙喜庵待庵。利休の作と伝えられる二畳の茶室。（妙喜庵）

京都醍醐の花見。1598年３月、豊臣秀吉が開いた花見の宴。画面右に秀吉の姿が見える。

（国立歴史民俗博物館）

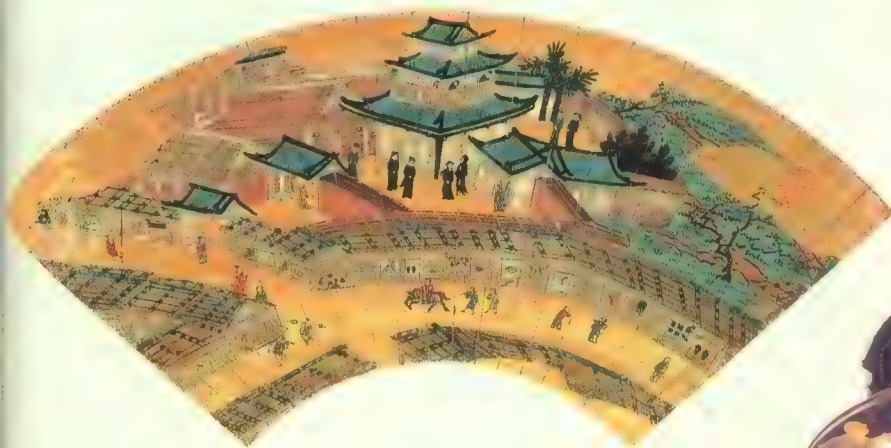
南蛮文化が伝わる

安土桃山時代
一五七三年～一六〇三年

一五四三年、ポルトガル人が日本に鉄砲を伝えて以来、キリスト教宣教師の来日や海外貿易がさかんになった。ヨーロッパからもたらされた文化は、この時代に大きなえいきょうをあたえた。

南蛮人の一行。南蛮船からおりた一行の中には、宣教師の姿も見える。　(神戸市立博物館)

京都の南蛮寺。織田信長は、貿易による利益に目をつけるとともに、寺院勢力をおさえるため、キリスト教を保護し、京都と安土に教会堂の建築を許した。　(神戸市立博物館)

うんすんカルタ。ヨーロッパから伝えられたトランプをもとにしてつくられたカルタ。　(神戸市立博物館)

南蛮人図金蒔絵鞍。南蛮風俗をあしらった工芸品も作られた。　(神戸市立博物館)

南蛮風のマント。ビロードの布地に、唐草模様をししゅうしたマント。越後(新潟県)の戦国大名・上杉謙信が着たものと伝えられる。　(上杉神社)

土農工商の世の中

第4部では，江戸時代を通して，武士が支配した士農工商の世の中が移り変わっていく様子を見てみよう。

1 徳川家康と江戸幕府 146　2 大阪・江戸の文化 158　3 武士の世のおとろえ 168

(1万年前)　(2200年前)紀元元年　500年　1000年　1500年

旧石器時代｜縄文時代｜弥生時代｜大和時代｜奈良時代｜平安時代｜鎌倉時代｜室町時代｜安土桃山時代｜江戸時代｜明治｜大正｜昭和｜平成

1 徳川家康と江戸幕府

三河（愛知県）の小大名の子として生まれた家康は、子どものころ人質として織田や今川にあずけられたりして育ったんだ。

織田

人質

今川

岡崎城

ふーん、苦労したんだね。

そう……、だからがまん強くなったのかもしれないね。

徳川家康
（1542〜1616）

江戸幕府の初代将軍。三河（愛知県）岡崎城主松平広忠の子で、今川氏の人質になるなどして育った。豊臣秀吉から関東の地をあたえられて江戸に移り、秀吉の死後、関ケ原の戦いに勝って天下の実権をにぎった。一六〇三年、征夷大将軍になって江戸幕府を開き、一六一五年、大阪夏の陣で豊臣氏をほろぼして幕府の基そを固め、翌年、病死した。

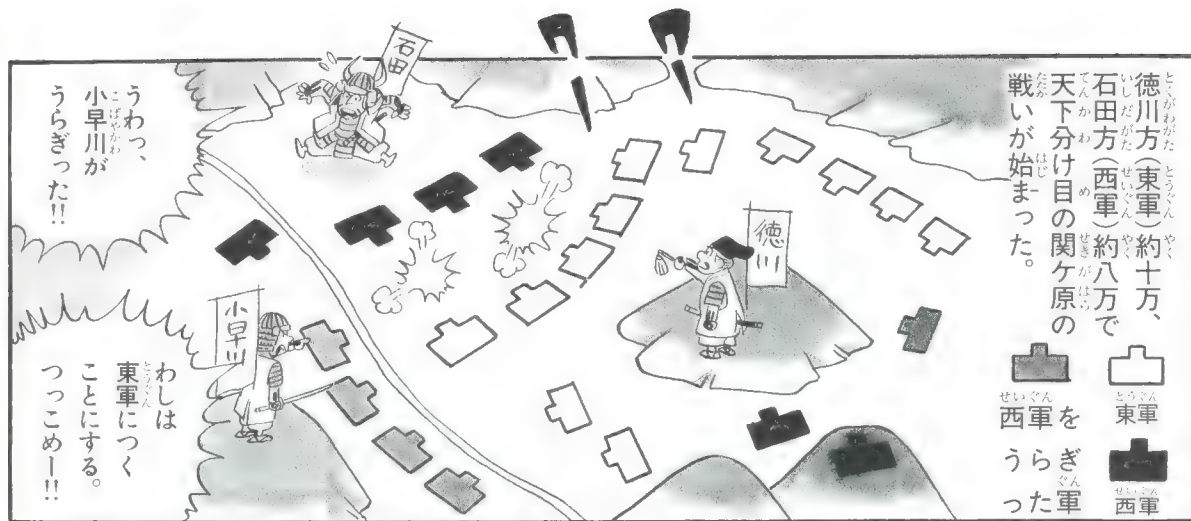
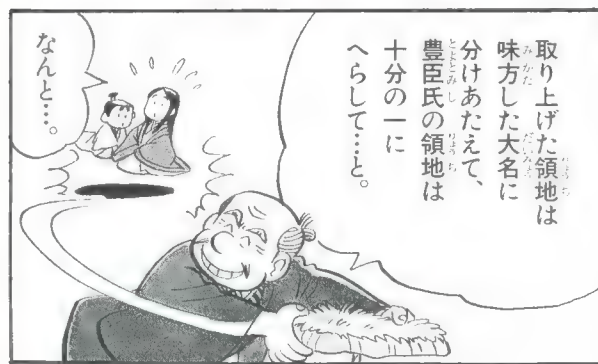
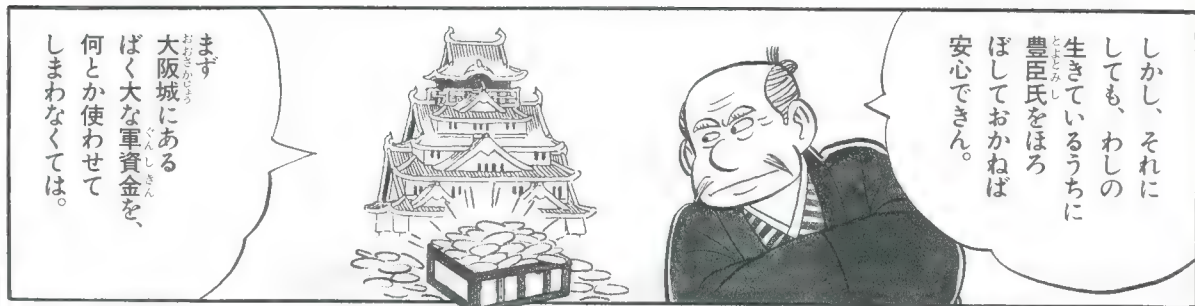
177ページからのカラー資料室も参照しよう。

徳川家康が開いた江戸幕府

関ケ原の戦い

豊臣秀吉の死後、勢力をのばした徳川家康は、豊臣氏の政権を守ろうとする石田三成と対立した。

一六〇〇年、三成は西国の大名を集めて兵をあげ、美濃(岐阜県)の関ケ原で家康の率いる東軍と戦った。しかし、三成の率いる西軍は、小早川秀秋らのねがえりによって敗れ、三成は殺された。そして、秀吉の子秀頼は摂津・河内・和泉(大阪府)六十五万石の一大名におとされ、天下の実権は徳川氏の手に移った。

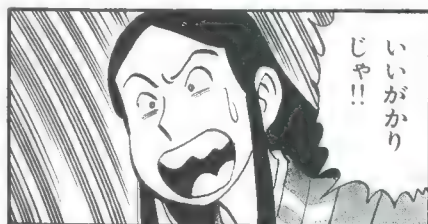
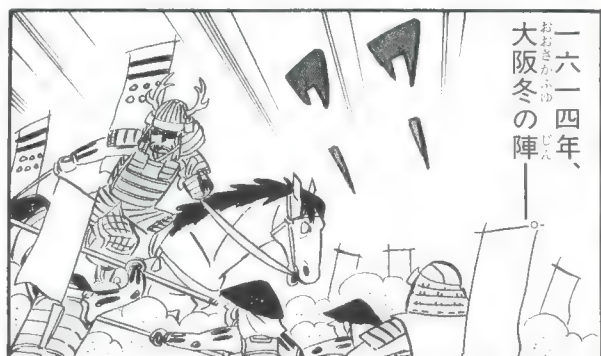
そこでこの戦いは「天下分け目の戦い」といわれる。

幼少から秀吉に仕えてみとめられ、佐和山城主(滋賀県)となった。五奉行の一人として、太閤検地で活やくしたが、のちに関ケ原の戦いに敗れて殺された。

家康の子で、二代将軍。政治の実権は家康がにぎっていたが、家康の命令で武家諸法度などを定め、幕府の基そ固めに果たした役割は大きい。

しかし、それにしても、わしの生きているうちに豊臣氏をほろぼしておかねば安心できん。

まず大阪城にあるばく大な軍資金を、何とか使わせてしまわなくては。

これでどんどん金が減るぞ。

あとは…。

方広寺

方広寺

京都市東山区にある天台宗の寺。一五八九年に豊臣秀吉が建てたが、地震でこわれた。家康のすすめで、一六一四年に秀頼が再建したが、鐘にきざまれた文字から、大阪の陣がおこった。

大阪冬の陣

(1614)

一六一四年、家康は方広寺の鐘の文字を口実に豊臣氏をせめた。しかし、淀君を中心とする豊臣方が大阪城にたてこもったため、家康軍はせめきれず、外ぼりをうめる条件で講和した。

ああ〜〜外ぼりといったくせに内ぼりまでうめている！

ゆ……ゆるせん、家康め〜。

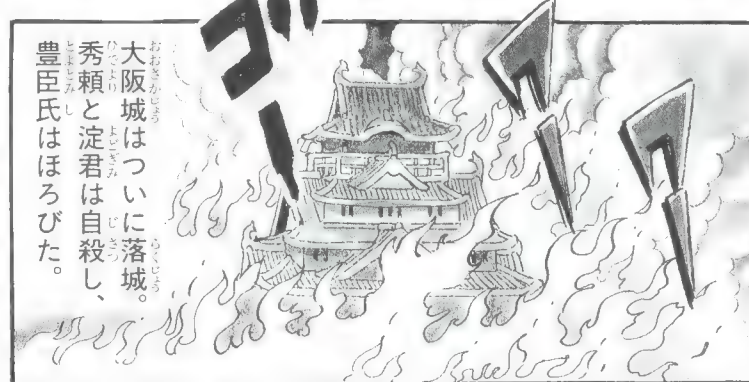
翌年——。

大阪城では戦いの準備をしているそうです。

わしの思うつぼじゃ。

淀君

(1567〜1615)

浅井長政の娘で、母は織田信長の妹のお市の方。豊臣秀吉の側室となり、秀頼を生んでから権力をふるったが、大阪夏の陣で徳川家康に敗れ、秀頼とともに自殺した。

大阪夏の陣

(1615)

冬の陣の後、家康は講和条件になかった内ぼりをうめ、秀頼が他の地に移ることを要求した。そこで、一六一五年、豊臣方はふたたび兵をあげたが、徳川軍に敗れてほろんだ。

大名の取りしまりと参勤交代

さて、江戸幕府のしくみをしっかりと固めねばならん…。

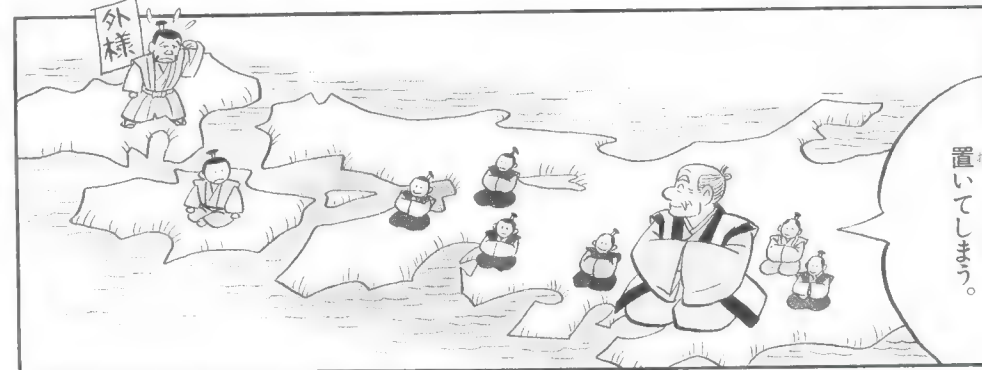
それには各地の大名をがっちりとおさえてしまわんとな。

まず大名を徳川一族の「親藩」、三河以来徳川の家来であった「譜代」、関ケ原の戦い以後徳川に従った「外様」の三つに分けて、

親藩

譜代

外様

外様

親藩と譜代を関東、近畿など重要な土地に置き、外様を東北、九州など遠い所に置いてしまう。

一六一五年――。

それから大名が守らなければいけないきまり、「武家諸法度」をつくったぞ。

大名どうしがかってに結婚してはいかん。

かってに城を築いたり、修理したりしてはいかん。

むほん人をかくまってはいかん。

となりの国におかしなことがあったら、必ず届ける。

……などなど十三か条だ。

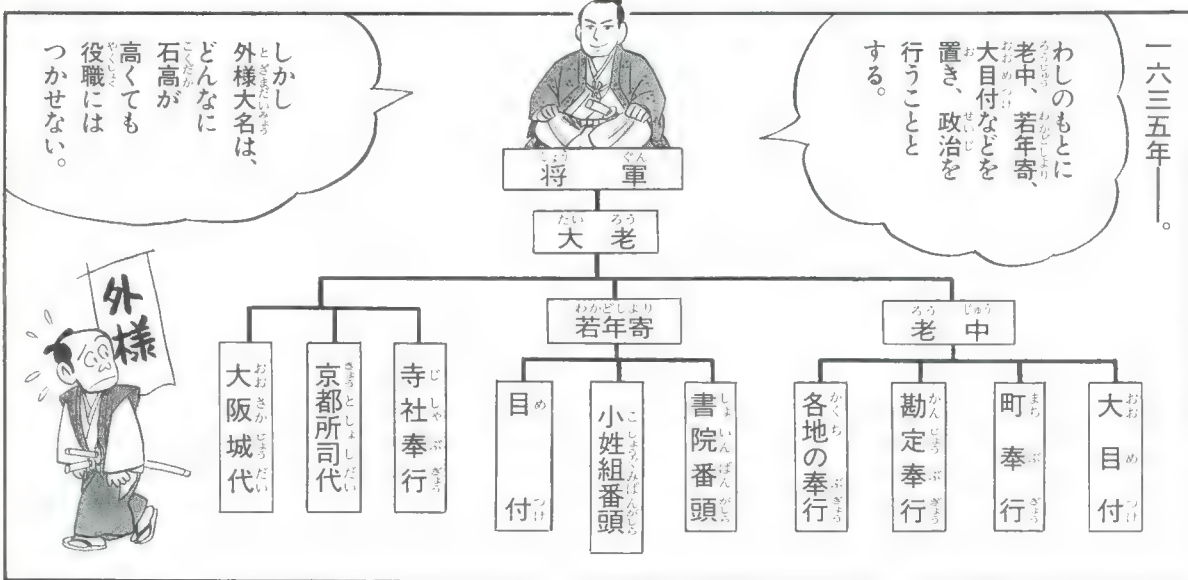
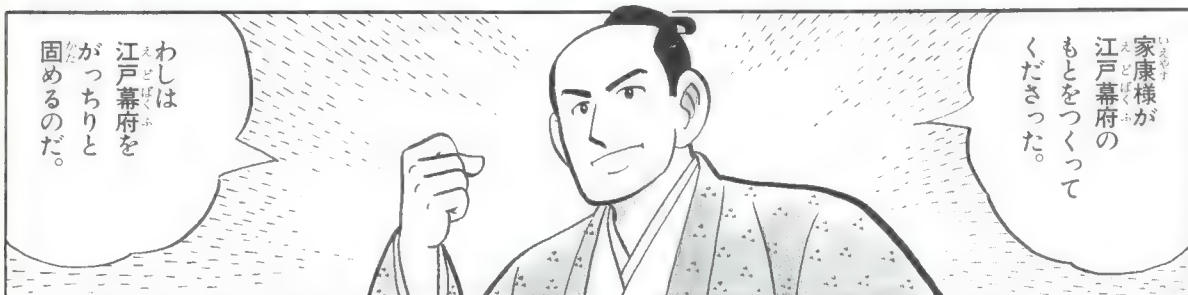
大名の種類

親藩は徳川氏の一族で、特に尾張・紀伊・水戸は御三家として重んじられた。譜代は関ケ原の戦いの前から徳川氏に従っていた大名で、幕府の要職についた。外様は関ケ原の戦いの後に徳川氏に従った大名で、石高は多いが要職にはつけなかった。

武家諸法度

江戸幕府が大名を取りしまるために定めた法律。一六一五年、家康が二代将軍秀忠の名で出したのが最初で、三代将軍家光のとき、ほぼ完成し、城の改築や結婚の許可制、参勤交代などを決め、違反した場合にはきびしくばっした。

徳川家光
(1604〜1651)

徳川家康の孫で、江戸幕府三代将軍。家康・秀忠のあとを受けて、武家諸法度をきびしくし、参勤交代の制度を整えて大名の取りしまりを強めた。また、五人組の制や慶安のお触書を出して、農民の生活を取りしまった。さらに島原の乱の後、キリスト教の取りしまりをきびしくし、一六三九年に鎖国令を出して、オランダと中国だけに長崎での貿易を許した。こうして、江戸幕府の基を固めを完成した。

江戸幕府

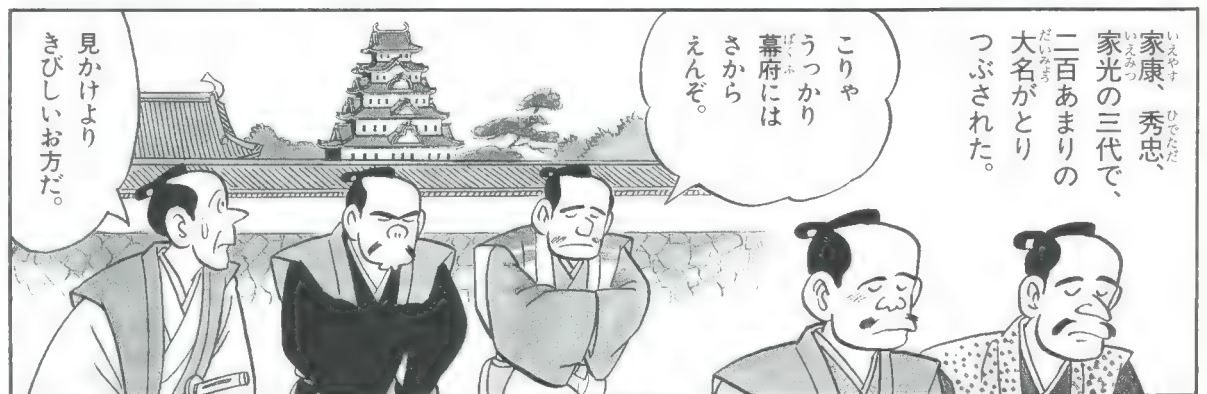
一六〇三年、徳川家康が開いた武家政権で、一八六七年、十五代将軍慶喜が大政奉還するまで約二百六十年間続いた。大名・農民をきびしく取りしまって政治を行ってきたが、商業が発達するにつれて行きづまり、開国とともに急速にくずれた。

参勤交代

江戸幕府は大名をおさえるために、大名を一年おきに江戸と領地に住まわせ、妻子を人質として江戸にとめておくことを定めた。三代将軍家光のときに正式に定め、このために大名の経済は苦しくなったが、交通が発達する原因の一つになった。

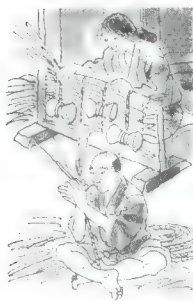
お坊さま、こりゃ何と書いてあるのかね。
ザワ
どれ……、なになに士農工商の身分制度……。
ザワ
しのう……死刑のことかいな。
あほっ！

士農工商の身分制度

士農工商

江戸幕府は、人々を武士、農民、町人（職人・商人）、さらに低い身分に分け、それぞれの身分にしばりつけて支配した。武士は支配者として、名字を名乗り、刀をさすなどの特権を認められていた。農民は年貢を納めて武士の生活を支えていたので、武士の次の身分とされたが、衣食住にわたってきびしく取りしまられた。町に住んでいた職人と商人は、農民とくらべるとわりあい自由だった。最も低い身分とされた人々は、他の身分との交際を禁じられたりして、さまざまな制限をされ、きびしい差別を受けていた。

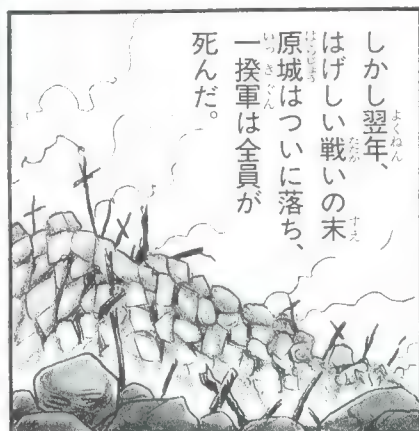
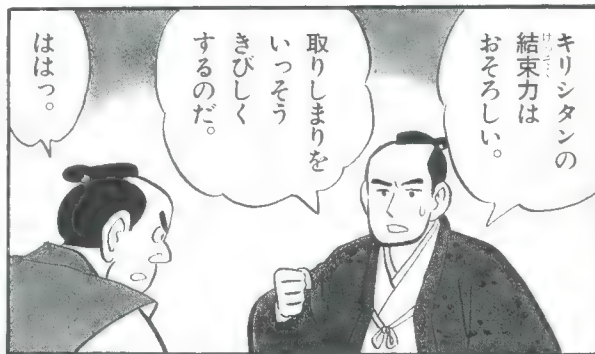
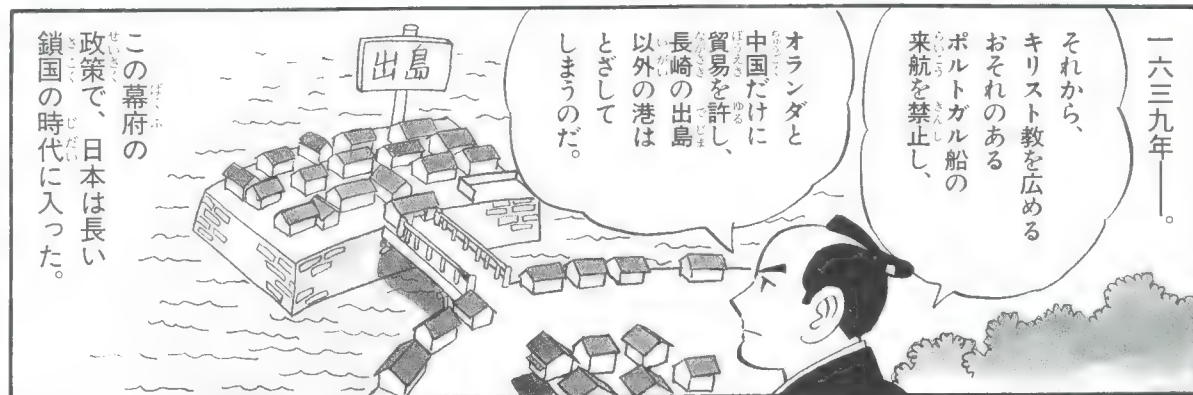
つまりこれは、太閤秀吉様の決めた身分のとりきめを、さらにきびしくしたわけじゃな。
へぇー。

農民のくらし

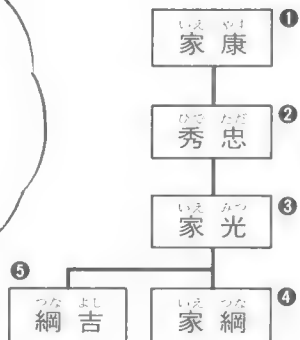
武士の生活は農民が納める年貢で支えられていたので、幕府は農民を「殺さないよう、生かさないよう」に取りしまって、年貢をできるだけ多く取るようにした。そのため、五人組の制をつくって、年貢を納めるのを共同の責任にしたり、慶安のお触書を出して、農民の食物や着るものまで制限したりした。また、農民は他の土地に移ったり、田畑を売ったりすることを禁止され、土地にしばりつけられた。

キリスト教禁止と鎖国

天草四郎時貞
（1621〜1638）

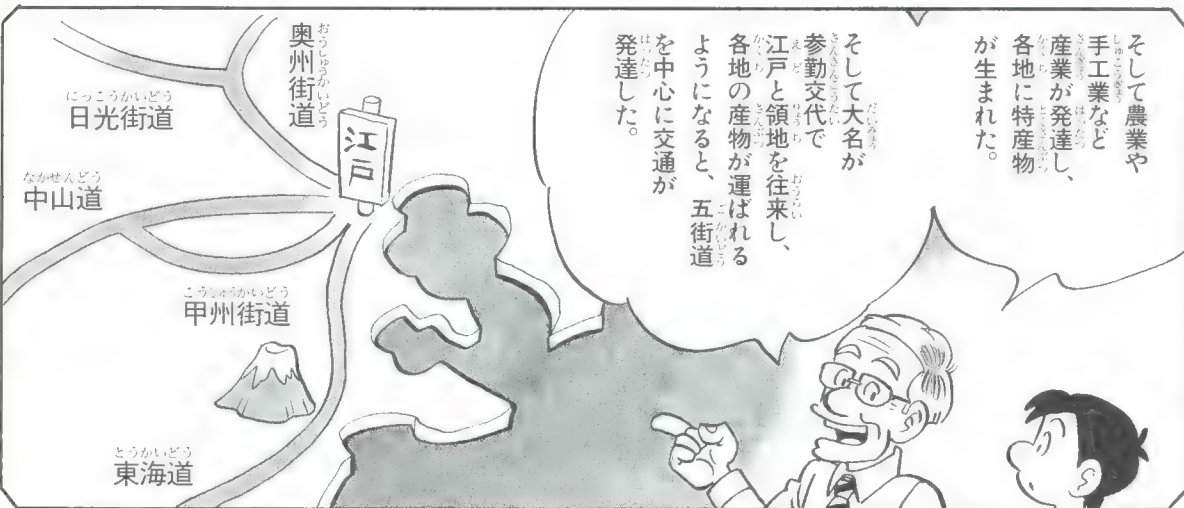
島原の乱の頭となったキリスト教の信者。本名を益田四郎時貞といい、父はキリシタン大名小西行長の家臣だったといわれる。小さいときから才知にすぐれ、しばしば奇跡を行ったので、信者に尊敬されていたという。一六三七年、島原の乱がおきると、信者におされて十七歳で頭となり、原城にたてこもって幕府の大軍と戦い、「神の子」とあがめられたが、翌年、戦死した。

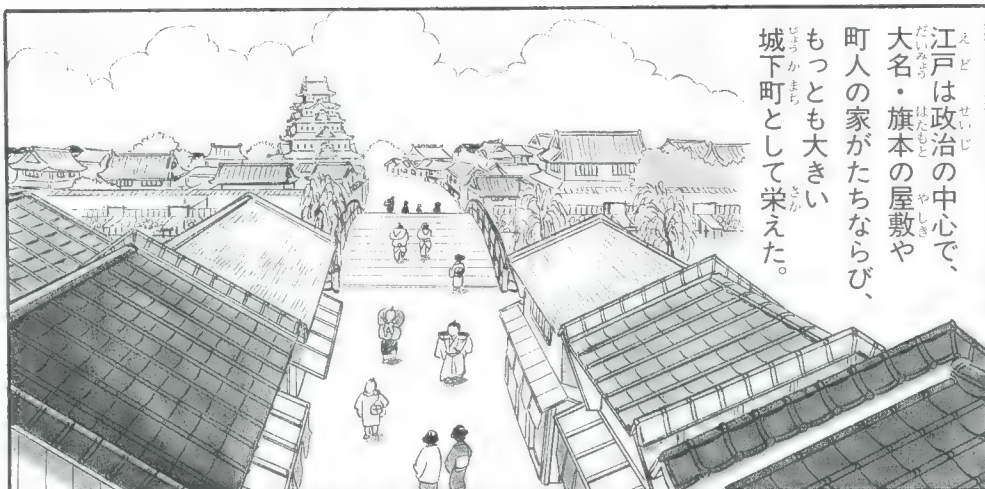
ふみ絵

キリスト教信者を見つける方法で、キリストやマリアの像をふませて、ふまなかったら信者とみなしてばっした。一六二〇年ころから始まり、一八五八年に通商条約を結ぶまで続いた。

鎖国

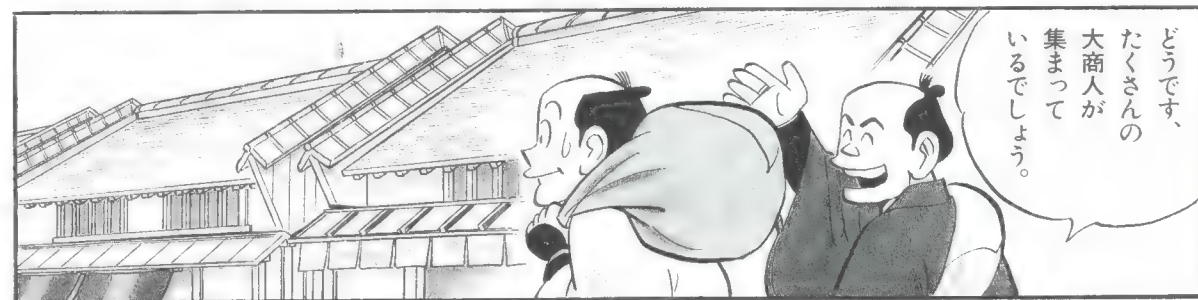
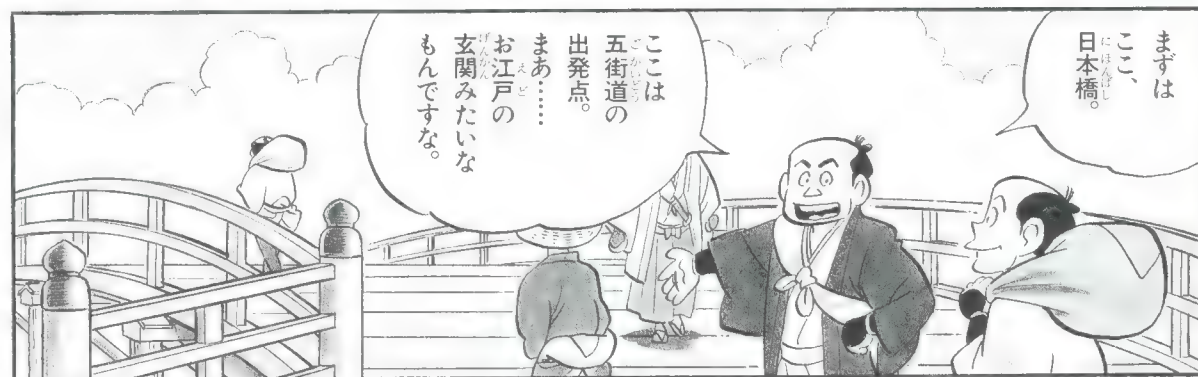
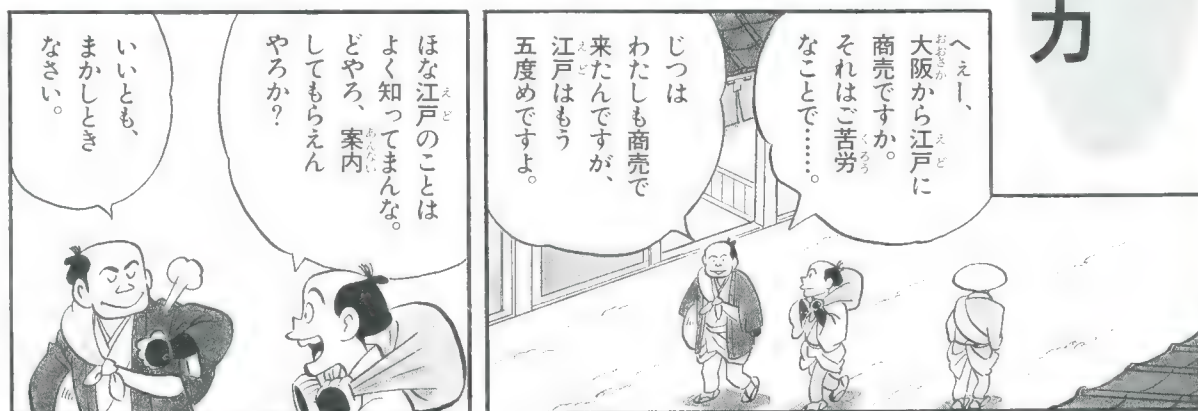
江戸幕府がキリスト教の禁止と貿易の統制のために、日本人の海外渡航を禁止し外国船の来航を制限したこと。一六三九年の鎖国令から一八五四年の開国まで、約二百十年間続いた。

大阪・江戸の文化

産業や交通が発達し、町人の文化が栄えた。

五街道と都市の発達

江戸幕府は参勤交代などの必要から、江戸を中心として東海道・中山道・甲州街道・日光街道・奥州街道の五街道を整え、一里（約四キロ）ごとに目印の塚を設け、約十キロごとに宿場を置いた。また、産業や交通の発達によって、各地に城下町・港町・宿場町などの都市が発達した。写真は、一里塚を示す石碑。

177ページからのカラー資料室も参照しよう。

商業が発達し、強まった町人の力

江戸の町

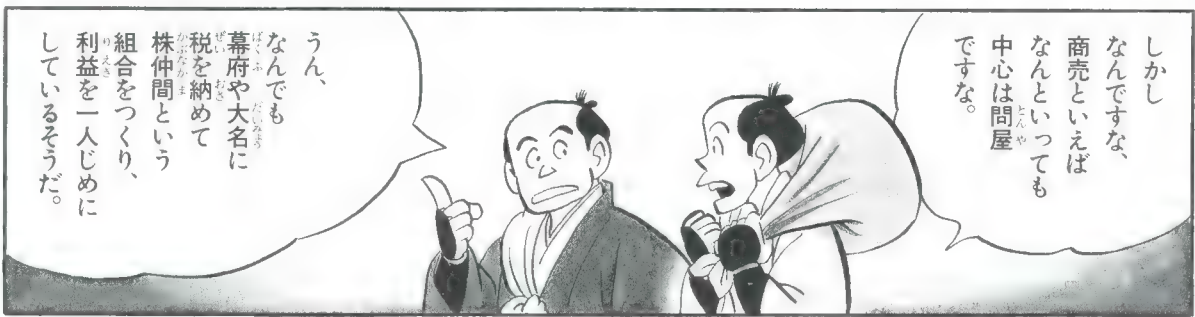
江戸は、室町時代に太田道灌が江戸城を築いてから城下町として発達し、一五九〇年に徳川家康が入城してから急速に大きくなった。一六〇三年、「将軍のおひざもと」として政治の中心になり、大名や旗本の屋敷や、町人の家がたちならび、もっとも大きい城下町として栄えた。一七〇〇年ごろには人口が百万をこえ、世界一の大都市となった。武士と町人の人口は、ほぼ半々で、日本橋には多くの大商人が集まり、川岸には問屋の倉庫がたちならび、各地から集まる品物の出し入れをしていた。

天下の台所大阪

大阪は商業の中心地で、多くの大名が蔵屋敷を置き、領内の年貢米や特産物を運び、それを大商人が売りさばいたので、「天下の台所」とよばれた。米市や青物市がにぎわい、全国から集まった品物は、問屋をへて江戸をはじめ各地に送られた。

古い文化の町京都

古くからの都である京都は、文化の中心であるとともに、諸国の寺社の総本山がある宗教の中心地でもあった。そのため、全国各地から多くの参拝者や見物人でにぎわった。また、西陣織などのすぐれた工芸品をつくった手工業都市でもあった。

京都は古くから文化の中心で、寺社も多く諸国からの参拝者でにぎわっておる。
また西陣織などのすぐれた工芸品もつくられておる。

しかしなんですな、商売といえばなんといっても中心は問屋ですな。
うん、なんでも幕府や大名に税を納めて株仲間という組合をつくり、利益を一人じめにしているそうだ。

商業の発達

江戸時代には都市や交通が発達し、商業がさかんになった。商業活動の中心となったのは問屋で、幕府や大名に税を納めて、株仲間という組合をつくり、利益をひとりじめにした。

両替商

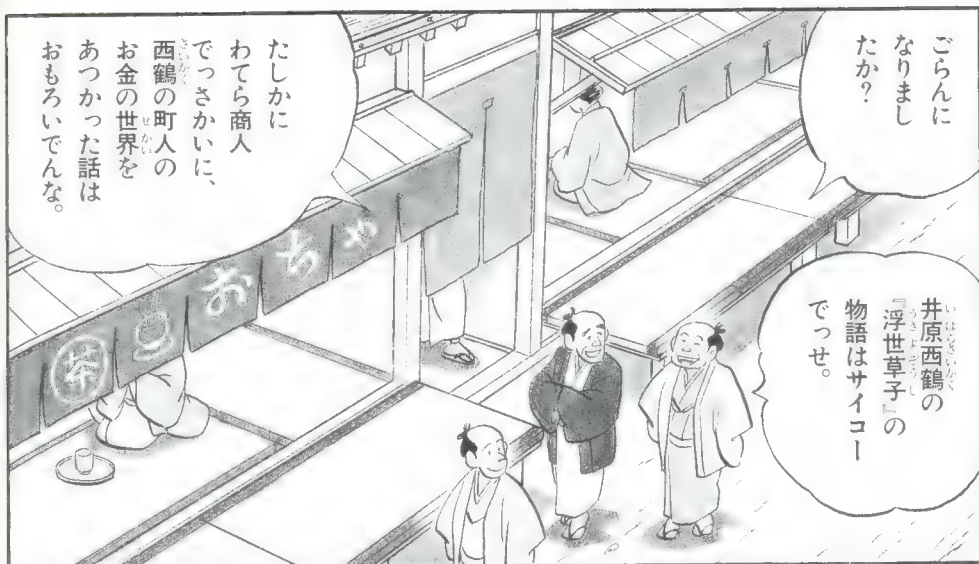
貨へいの利用が広まるにともなって、貨へいの交かんや預金・貸し付けなど、現在の銀行のような仕事を行う両替商がうまれた。大商人の中には、大名に金を貸しつける者もいた。

大阪の町人文化と江戸の町人文化

近松門左衛門
（1653～1724）

元禄期の浄瑠璃・歌舞伎の台本作者。きびしい身分制の中で人間らしく生きようとする人々をえがいた作品が多い。代表作は『曽根崎心中』『国性爺合戦』など。

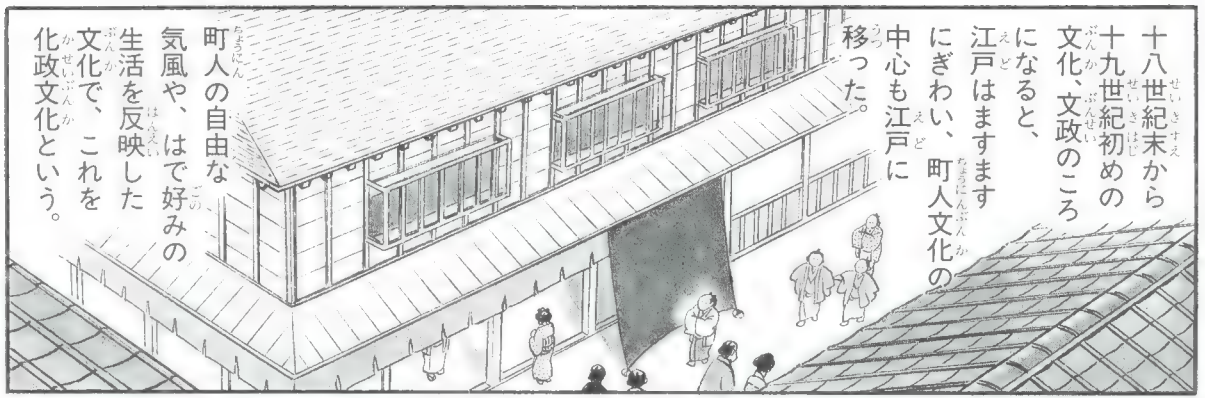
松尾芭蕉
（1644～1694）

元禄期の俳句作家で、『奥の細道』の作者。武士の身分を捨てて、本格的に俳句を学び、自然の美しさを求めて各地を旅し、俳句をりっぱな芸術に高めた。

ああ、人形芝居でっか……。
わたしは近松門左衛門が台本を書いた人形浄瑠璃が好きですな。

おや、あの人だかりはなんやろ？

歌舞伎の坂田藤十郎ですな。今たいへんな評判ですわ。
ええ、江戸の市川団十郎と人気をあらそっているとか……。

江戸といえば、松尾芭蕉という人がたくさん名句をつくって評判らしいですね。
ああ、俳句ですね。

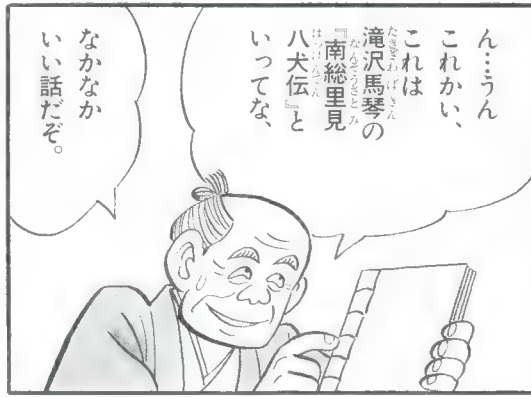
五代将軍綱吉のころ、大阪、京都の上方の都市を中心に、町人文化が生まれた。この文化を元禄文化という。

浮世草子

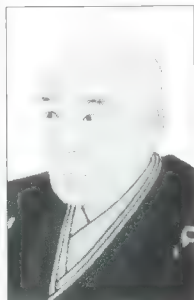
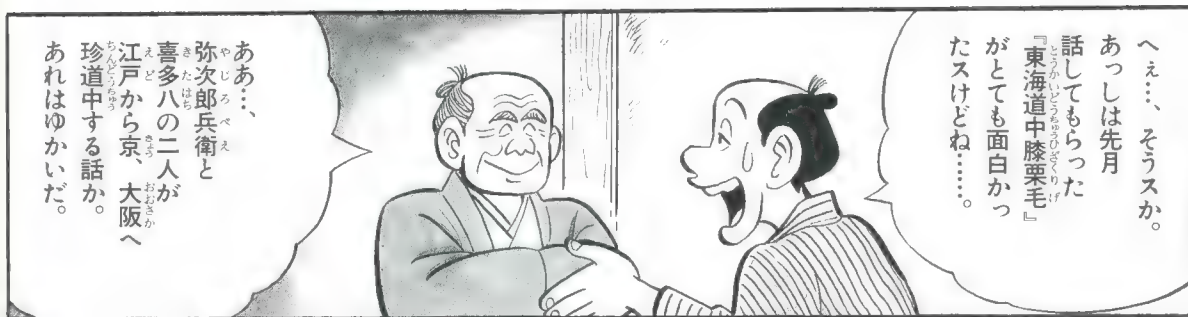
元禄期に大阪の井原西鶴が書き始めた小説。町人の生活や考え方をありのままに書いて人々に喜ばれた。『好色一代男』や『世間胸算用』などが有名。

歌舞伎

江戸時代初めに出雲の阿国が始めた「歌舞伎おどり」から始まった演劇で、元禄期に大阪の坂田藤十郎や江戸の市川団十郎らの名優が出て完成した。

狂歌・川柳

狂歌は和歌の形式、川柳は俳句の形式をかりた文芸で、こっけいや皮肉を特色とした。幕府の政治や社会を風刺したものも多く、人々に喜ばれた。

歌川(安藤)広重

(1797〜1858)

江戸時代後期の浮世絵画家。幕府の役人安藤源右衛門の子として生まれ、浮世絵師歌川豊広の弟子になる。美人画や役者絵をかいていたが、葛飾北斎の絵にしげきされて風景画をかくようになる。一八三三年、東海道を旅したときの印象を『東海道五十三次』として発表して、ばく発的な人気を得て、風景画家の第一人者となる。その絵は、ゴッホ、ドガなどのフランス印象派の画家にもえいきょうをあたえた。

国学、蘭学などの新しい学問

幕府は武士の学問として、中国から伝わった儒学を重んじた。

儒学は主人と家来、親と子の関係など、上下の順序を重んじ、忠義と孝行を説いておる。

身分制度の社会を固めるのに都合がよい。

五代将軍 綱吉

湯島（東京都文京区）に儒学を教える聖堂と学問所をつくるぞ。

わたしは中国の儒学をはなれ、わが国の古い書物を研究してみよう。

本居宣長

また学問に新しい研究も始まった。

湯島の聖堂

聖堂は孔子などを祭ったお堂で、はじめ上野忍ケ岡にあったが、五代将軍綱吉が湯島に移した。付属として幕府の学問所（のち昌平坂学問所）を建て、旗本の子弟に朱子学を教えた。

藩校と寺子屋

藩校は、各藩が藩士の子弟に学問や武芸を教えるためにつくった学校。寺子屋は、農民や町人の子弟が読み・書き・そろばんなどを学んだ塾。両方とも江戸後期になると急にふえた。

わたしは『古事記』を研究してみるつもりです。

それはたのもしい。

本居宣長は三十五年もかかって『古事記伝』を書き、儒学にとらわれない古い時代の日本人の考え方を学ぶことを説いて、国学をおし進めた。

また、八代将軍吉宗は、キリスト教に関係のないオランダの書物の輸入を許したので、オランダの書物を通して、ヨーロッパの学問を学ぼうとする人がしだいにふえてきた。

平賀源内

杉田玄白

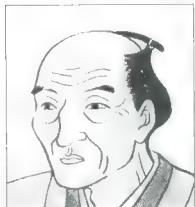
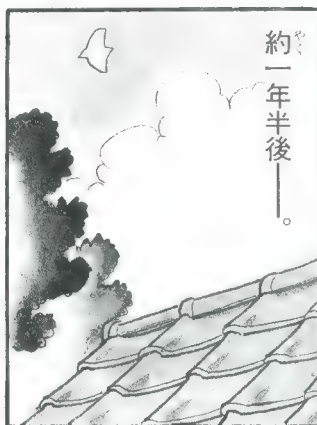
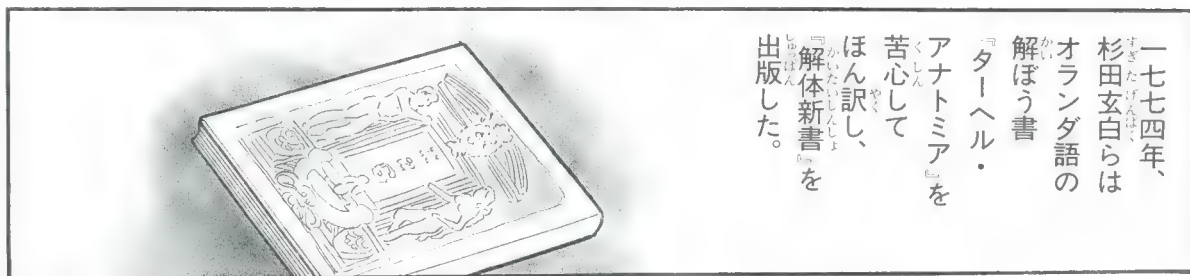
この学問を洋学（蘭学）という。

本居宣長
(1730〜1801)

江戸中期の国学者。松阪（三重県）で医者をしながら、賀茂真淵の門人となって国学を研究する。『古事記伝』を書いて国学を完成し、数多くの門人を育てた。

杉田玄白
(1733〜1817)

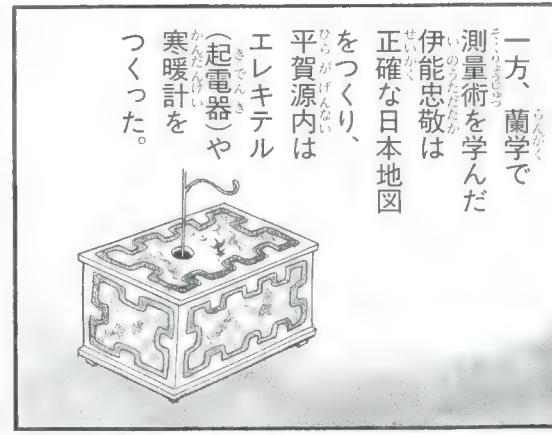
江戸中期の医者で蘭学者。前野良沢らとオランダ語の解ぼう書をほん訳して『解体新書』を著した。この苦心を『蘭学事始』に書き、蘭学の発達につくした。

伊能忠敬
(1745～1818)

江戸後期の地理学者。五十歳で測量術・天文学を学び、一八〇〇年、幕府の命で全国を測量して歩き、日本最初の実測地図「大日本沿海輿地全図」をつくった。

平賀源内
(1729～1779)

江戸中期の科学者。長崎で医学・物理学などを学び、江戸に出てエレキテル(起電器)や寒暖計などをつくった。文学の才能もあり、こっけい本などを書いた。

武士の世のおとろえ

話を十七世紀後半のころにもどして、幕府の政治を中心に見てみよう。
綱吉のころ、文化は栄えたが、幕府の財政は苦しくなった。

徳川綱吉
（1646〜1709）

徳川美術館

江戸幕府五代将軍。一六八〇年に将軍になった。学問による政治をすすめ、湯島の聖堂を建てて、綱吉自身も講義した。初めは政治も引きしまったが、後に柳沢吉保に政治を任せたため、しだいに乱れてきた。ことに「生類あわれみの令」を出して人々を苦しめたので「犬公方」とよばれて、反感をかった。

ところがそれがとんでもないことだった。
え？

177ページからのカラー資料室も参照しよう。

徳川吉宗と享保の改革

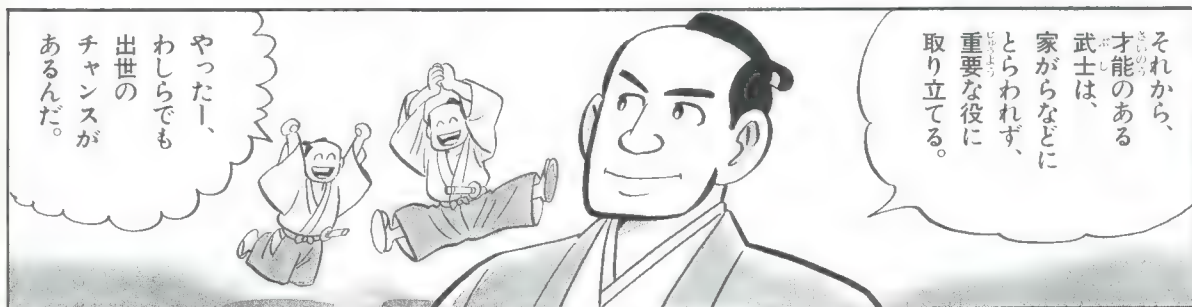
生類あわれみの令

五代将軍綱吉が、一六八七年に出した動物の殺生禁止令。綱吉は仏教を深く信仰していたので、動物愛護の心から出した命令だが、ゆきすぎたため人々を苦しめた。綱吉がいぬ年生まれだったため、特に犬を保護し、犬屋敷をつくって、農民よりりっぱな食物をあたえた。そして、犬を殺した者は死刑や島流しにされた。一七〇九年、綱吉が死に、家宣が将軍になると、すぐに廃止された。

徳川吉宗
(1684〜1751)

江戸幕府八代将軍。紀伊(和歌山県)藩主から将軍になり、家康の政治を理想として、享保の改革を行った。質素・倹約をすすめ、新田を開発するなどして、政治を立て直した。

公事方御定書と目安箱

徳川吉宗が定めた法律と制度。公事方御定書は公平な裁判を行うための法律。目安箱は人々の意見をきくための投書箱で、その意見で小石川養生所や町火消を設けた。

町火消の制度

八代将軍吉宗が、目安箱の投書によって設けた江戸の防火組織。「いろは四十八組」の消防組がつくられ、また防火のための火よけ地を設けた。

新田開発

江戸時代に開かれた新しい耕地。幕府や諸藩のすすめで用水路や河川が整備され、吉宗のころには、耕地面積が安土桃山時代の約二倍に増えた。

上米の制

八代将軍吉宗が幕府の財政を立て直すために定めた制度。大名に一定の米を納めさせ、そのかわりに参勤交代で江戸にいる期間を半年に短縮した。

松平定信と寛政の改革

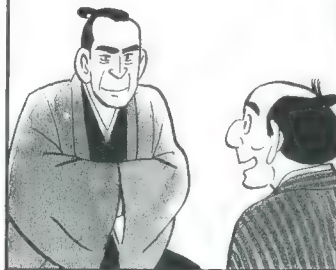
田沼意次
(1719〜1788)

九代将軍家重・十代将軍家治に仕え、側用人から老中になった。大商人と結んで財政の立て直しをはかったが、わいろで政治が乱れ、老中をやめさせられた。

松平定信
(1758〜1829)

八代将軍吉宗の孫で、白河（福島県）藩主。一七八七年に老中になり、寛政の改革を行ったが、きびしすぎて人々の反感をかい、六年で老中をやめた。

こんな重い年貢じゃ生きていけねぇ！

うえ死にするのを待っているのはごめんだ!!

はでな着物やかんざしなど、ぜいたくは禁止だって。

食い物もぜいたくはだめだってよ。

農村の立て直し

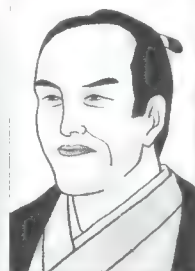
松平定信はききんであれた農村を立て直すために、都市に出かせぎに来ていた農民を村へ帰し、ききんに備えて、大名や農民に米をたくわえさせた。

学問の統制

松平定信は、身分の上下や忠孝を説く朱子学を重んじ、幕府の学問所では朱子学以外の学問を教えることを禁止した。これを寛政異学の禁という。

棄捐令

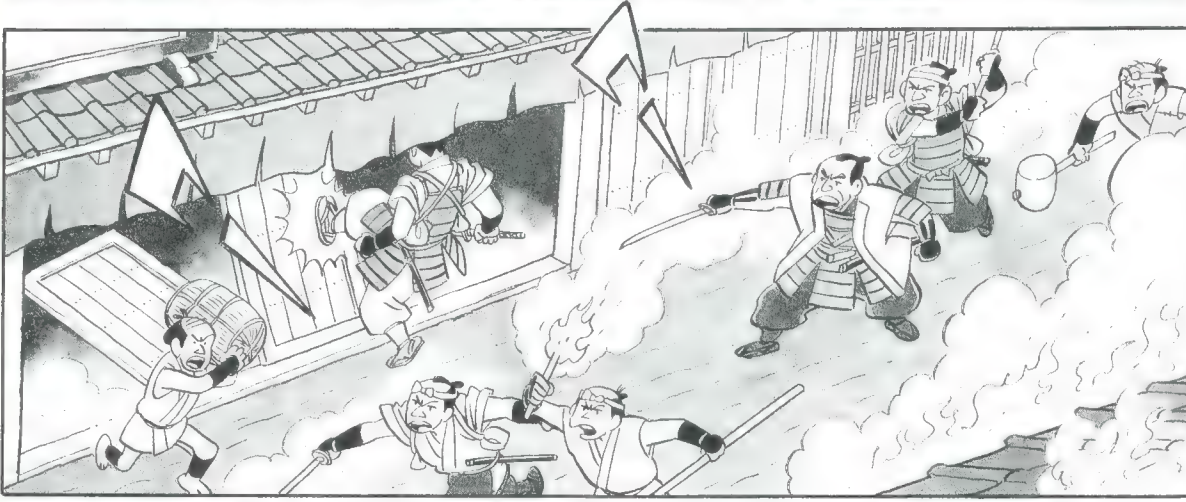
松平定信が商人に、旗本・御家人の借金を取り消させた法令。これ以後、商人は金を貸さなくなり、旗本・御家人の生活はかえって苦しくなった。

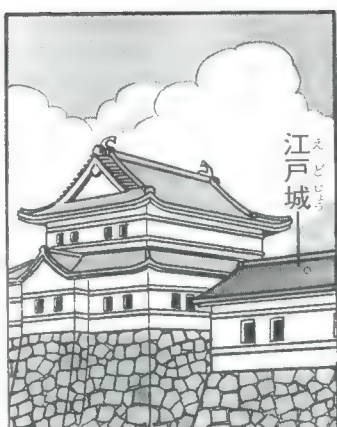
大塩平八郎の乱と天保の改革

大塩平八郎
(1793〜1837)

大阪町奉行所のもと役人で、陽明学者。役人をやめた後、塾を開いて門人を育てていた。ききんに苦しむ人々を救うことを奉行所に願いでたが聞き入れられず、乱をおこしたが、失敗した。

天保のききん

一八三三年ごろから数年にわたっておこった全国的なききん。こう水や冷害などのため作物のとれ高が平年の四割という不作で、特に東北地方のひ害が大きく、餓死する人も多かった。

江戸城

吉宗様、定信様にならい、
農民、町人に質素倹約を命じ、ぜいたくな衣食やごらくなど風俗をよりいっそうきびしく取りしまろうかと……。

倹約令

ぜいたくを禁止する命令。吉宗・定信も出したが、水野忠邦は衣食住のほか、ごらくまで取りしまったので、町は活気がなくなった。

株仲間の解散

水野忠邦は物価を下げるため、物を買いしめて値段をつり上げている株仲間を解散した。しかし株仲間からの税収入がなくなり、財政が苦しくなった。

上知(地)令

水野忠邦は、江戸と大阪周辺の土地を幕府領とし、その地の大名や旗本をほかに移して、幕府の力を強めようとしたが、反対されて中止した。

徳川家慶

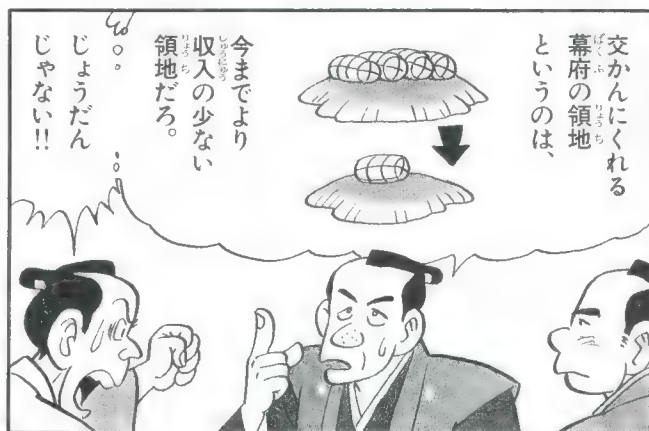
(1793〜1853)

江戸幕府十二代将軍。前将軍家斉のときのゆるんだ政治を引きしめるため、水野忠邦を老中にして天保の改革を行ったが失敗した。

水野忠邦

(1794〜1851)

浜松(静岡県)藩主で、大阪城代・京都所司代などをつとめ、一八三四年、老中になった。天保の改革を行ったが、きびしすぎたため反対者が多く失敗した。

第4部 カラー資料室

士農工商の世の中

1603年、江戸幕府を開いた徳川家康は、厳しい身分制度によって、260年におよぶ徳川の世を築いた。

↑幕府成立のころの江戸城。1657年に焼失した天守閣も見える。

将軍のおひざもと、江戸

江戸時代　一六〇三年～一八六七年

江戸城に将軍をいただき「将軍のおひざもと」と呼ばれた江戸は、政治の中心地として栄えた。十八世紀初めには、人口百万人をこえる大都市に成長した。

■江戸の城下の様子

武家地　町人地　●大名屋敷

五街道の整備

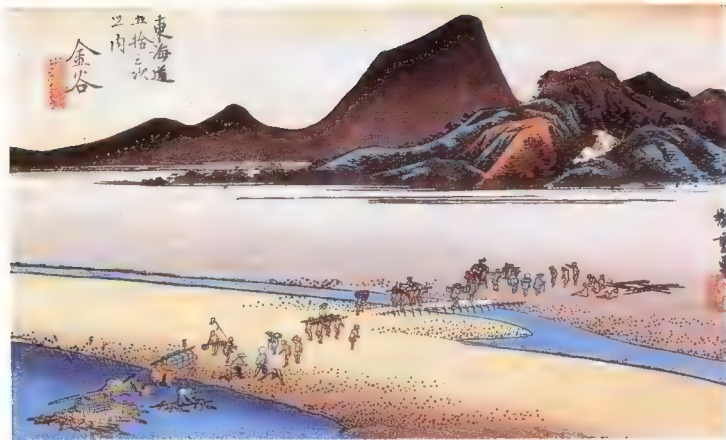
江戸時代
一六〇三年～一八六七年

幕府は、江戸を起点として、東海道・中山道・奥州街道・日光街道・甲州街道の五街道を整え、幕府の直轄とした。五街道に通じる脇街道や宿場も整備し、関所や渡しを置いて交通の取りしまりを行った。

五街道

①東海道	江戸日本橋～京都	（京都府）
②中山道	江戸日本橋～草津	（滋賀県）
③甲州街道	江戸日本橋～下諏訪	（長野県）
④日光街道	江戸日本橋～日光	（栃木県）
⑤奥州街道	江戸日本橋～白河	（福島県）

日本橋。五街道の起点としてにぎわった。

草津（滋賀県）の本陣。大名がとまる宿。

関所

幕府は、軍事上・政治上の必要から、交通の要所に関所を置いた。

大井川の渡し。軍事上の理由で橋をかけなかった。

通行手形。関所の通行に必要だった。

（新居関所史料館）

箱根の関所。大名の妻子が江戸から脱出すること（出女）と、江戸への武器の持ちこみ（入鉄砲）を厳しく取りしまった。

（東京大学史料編纂所）

大名行列

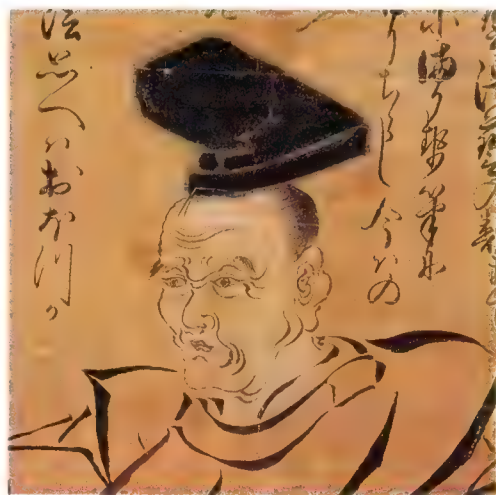
これは、尾張（愛知県）の徳川家の例。大名行列は、参勤交代のため、江戸と自国を往復した。ふつう、戦場に行くときのような大がかりな形式をとっていた。

上方に栄えた元禄文化

江戸時代
一六〇三年～一八六七年

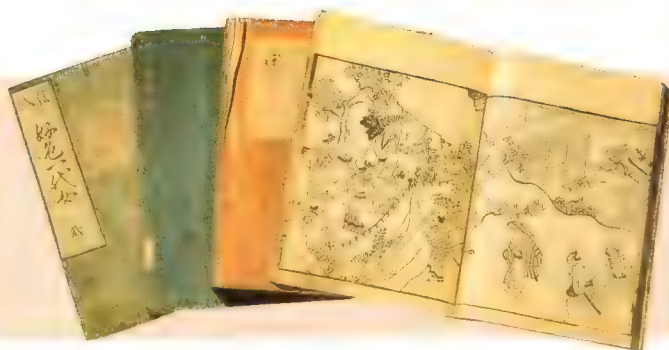
人形浄瑠璃。人形をあやつる浄瑠璃芝居は、竹本義太夫と近松門左衛門によって発達し、大きな流行を見せた。

十七世紀の末から十八世紀の初めにかけては、国内の政治も安定し、平和が続いていた。農業や商業が発達し、人々はぜいたくを好むようになっていった。

特に、「天下の台所」といわれた大阪や京都には、武士を圧倒する富をたくわえた大商人が多く、上方を中心に、明るい活気のある町人文化が栄えた。

近松門左衛門。『心中天網島』など、浄瑠璃の名作を残した。

元禄期の文化

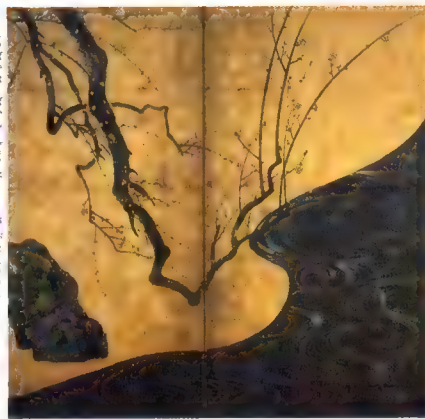
文学・演劇		
浮世草子	日本永代蔵・世間胸算用	（井原西鶴）
俳諧	奥の細道・笈の小文	（松尾芭蕉）
脚本	心中天網島・曽根崎心中	（近松門左衛門）
演劇	浄瑠璃	（竹本義太夫）
	歌舞伎	（初代市川団十郎・坂田藤十郎）
美術		
絵画	紅梅白梅図屏風	（尾形光琳）
	見返り美人図	（菱川師宣）
工芸	有田焼赤絵	（酒井田柿右衛門）
	色絵楽焼	（尾形乾山）
	友禅染	（宮崎友禅）

➡井原西鶴の浮世草子。西鶴は、小説の中で、町人の生活を生き生きとえがいた。

⬅奥の細道の旅をする松尾芭蕉。芭蕉は、自然と人間の交流を表現した、親しみやすい俳句をつくった。

⬇見返り美人図。浮世絵をうみだした菱川師宣の代表作。（東京国立博物館）

⬇色絵花鳥文深鉢。独特の色絵磁器（赤絵）をうみだした酒井田柿右衛門の作。（東京国立博物館）

⬆俵屋宗達がえがいた雷神。風神雷神図屏風の一部で、宗達の代表作。（建仁寺）

➡紅梅白梅図屏風。尾形光琳の代表作。（MOA美術館）

江戸に栄えた化政文化

江戸時代
一六〇三年～一八六七年

江戸が政治や経済の中心地として発展してくると、文化の中心地も江戸へ移るようになった。十八世紀から十九世紀はじめの文化・文政のころには、皮肉やこっけいを喜ぶ町人文化が栄えた。

人々はさし絵入りの小説を読み、歌舞伎見物を楽しんだ。また、落語や講談が行われる寄席に人気が集まり、かわら版も発行されるなどした。

⬇歌舞伎の劇場風景。（東京国立博物館）

⬅市川海老蔵の竹村定之進。東洲斎写楽が得意とした役者絵。

化政期の文化	
文学	
小説	東海道中膝栗毛（十返舎一九）
	浮世風呂・浮世床（式亭三馬）
	偐紫田舎源氏（柳亭種彦）
	春色梅児誉美（為永春水）
	雨月物語（上田秋成）
	南総里見八犬伝（滝沢馬琴）
俳諧	おらが春（小林一茶）
狂歌	万載狂歌集（大田南畝）
川柳	誹風柳多留（柄井川柳）
脚本	東海道四谷怪談（鶴屋南北）
	仮名手本忠臣蔵（竹田出雲）
絵画	
浮世絵	ビードロをふく女（喜多川歌麿）
	市川海老蔵の竹村定之進（東洲斎写楽）
	富嶽三十六景（葛飾北斎）
	東海道五十三次（歌川（安藤）広重）
写生画	雪松図屏風（円山応挙）
文人画	十便十宜図（池大雅・与謝蕪村）
西洋画	三囲の景（司馬江漢）

富嶽三十六景。『赤富士』。葛飾北斎の名を高めた代表作。

(天理大学附属天理図書館)

『南総里見八犬伝』。滝沢馬琴は、この作品に28年の歳月をかけた。

東海道五十三次の四日市の風景をえがいた歌川（安藤）広重の浮世絵。

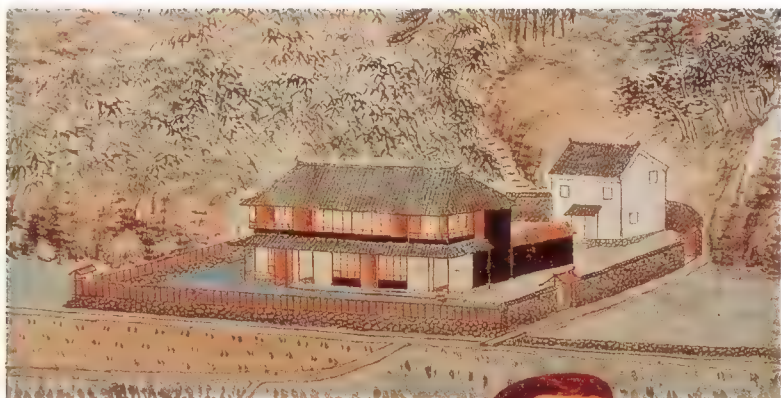
ビードロをふく女。美人画を得意とする喜多川歌麿の作。

(東京国立博物館)

新しい学問

江戸時代　一六〇三年～一八六七年

日本古来の精神をさぐる国学は、十八世紀に本居宣長が『古事記伝』をあらわしてから発展し、のちの尊王攘夷運動に大きなえいきょうをあたえた。

また、西欧の学問を取り入れた蘭学がおこり、前野良沢・杉田玄白らが『解体新書』をあらわすと、急速に発展した。

↑1823年に長崎のオランダ商館の医師として来日したシーボルトが開いた鳴滝塾。シーボルトはここで医学を教えた。
（長崎大学付属図書館経済学部分館）

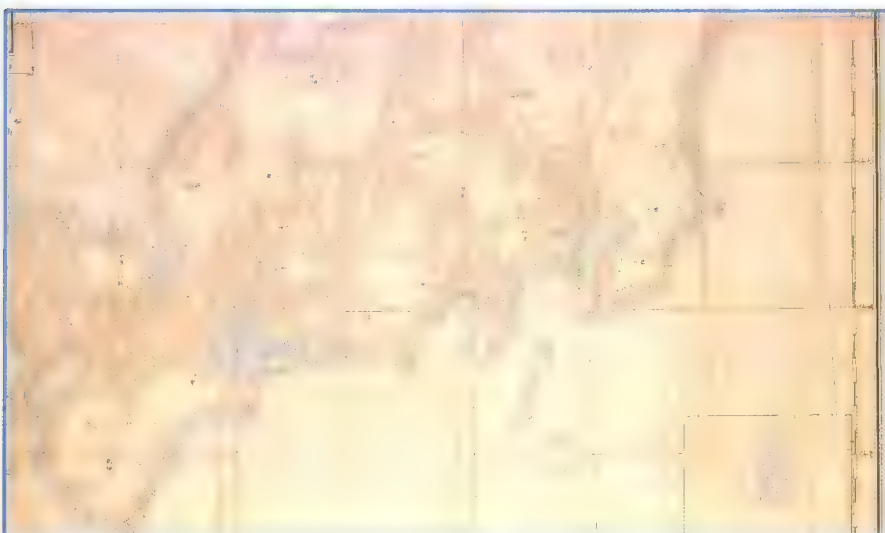
↑27歳ころのシーボルト。洋学の発展に大きな働きをした。
（長崎市立博物館）

→一七七四年、前野良沢・杉田玄白らが、オランダの解剖書を翻訳して出版した『解体新書』。
（神戸市立博物館）

↓『古事記伝』。本居宣長が書いた国学の研究書。
（本居宣長記念館）

←本居宣長。

↑伊能忠敬。

←伊能忠敬がつくった『大日本沿岸輿地全図』の一部。
（伊能忠敬記念館）

明治からの新しい世の中

第5部では，明治から大正の世の中を通して，近代の新しい世の中へと移り変わる様子を見てみよう。

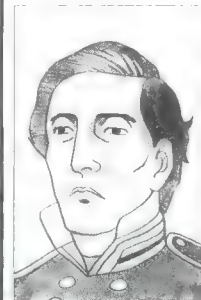
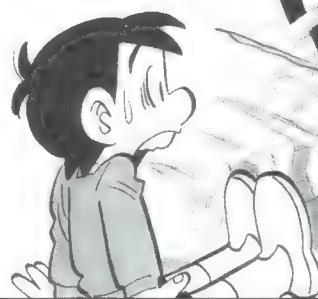
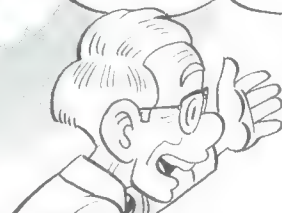
東京国立博物館

1 武家政治の終わり 186
2 新しい明治の政治 200
3 日清・日露の戦い 213
4 民主主義のめばえ 223

(1万年前)　(2200年前) 紀元元年　500年　1000年　1500年　明治　昭和

旧石器時代　縄文時代　弥生時代　大和時代　奈良時代　平安時代　鎌倉時代　室町時代　安土桃山時代　江戸時代　大正　平成

1 武家政治の終わり

ペリー
(1794〜1858)

アメリカの東インド艦隊司令長官。日本を開国させる交しょうを命じられ、一八五三年、四せきの軍艦を率いて浦賀(神奈川県)に来航し、江戸幕府に開国を要求する大統領の手紙をわたした。翌年、ふたたび七せきの軍艦を率いて来航し、神奈川(横浜)で日米和親条約を結ぶことに成功した。こうして、日本の開国のとびらが開かれた。

233ページからのカラー資料室も参照しよう。

ペリーの来航と日本の開国

一八五三年六月、アメリカのペリー提督の率いる軍艦四せきが浦賀（神奈川県）に来航した。

わたしたちはアメリカ大統領の国書を持ってきました。

鎖国をやめて開国しなさい。

うわぁ、黒船だ!!

でっでっかい!!

アヘン戦争

（1840〜1842）

清（中国）とイギリスとの戦い。イギリスは清へアヘン（麻薬）を密貿易して利益をあげていたが、清がアヘンの輸入を禁止したので、一八四〇年、清をせめた。この戦いに勝ったイギリスは、清に五港を開かせ、自由に貿易を行った。

日米和親条約

一八五四年、幕府とペリーとの間で結ばれた日米間の条約。神奈川条約ともいう。下田（静岡県）と函館（北海道）の二港を開くこと、アメリカ船に燃料・水・食料などを供給すること、日本にアメリカ領事を置くことなどが決められた。

阿部正弘
(1819〜1857)

福山(広島県)藩主で、水野忠邦に代わって老中になった。ペリーが来航して開国を要求すると、朝廷や諸大名の意見をまとめながら、世界の様子を考えて開国を決意し、一八五四年アメリカをはじめ、諸外国と和親条約を結んだ。

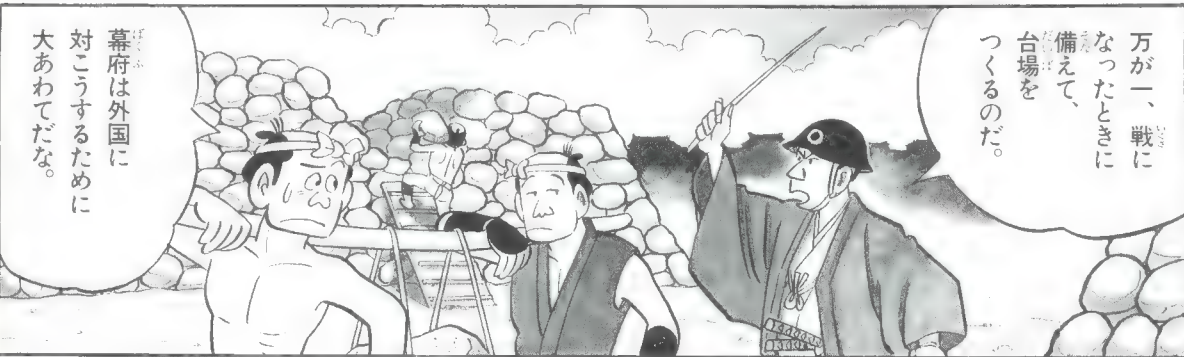
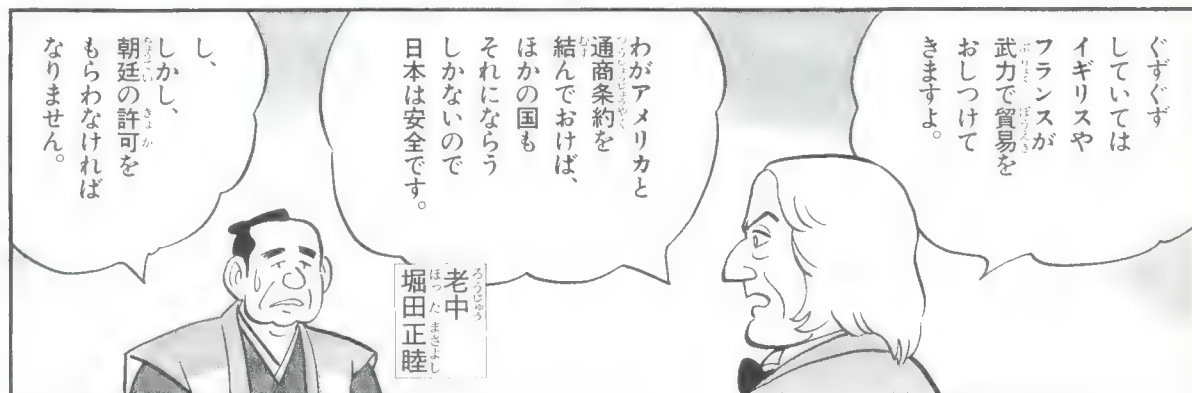
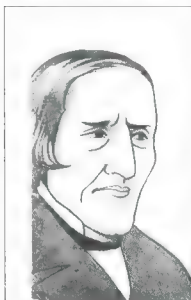
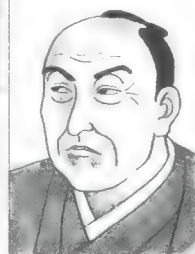
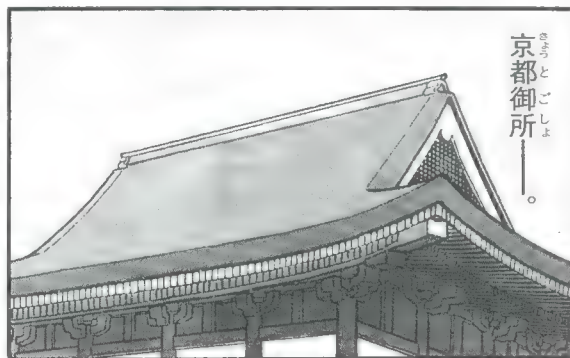
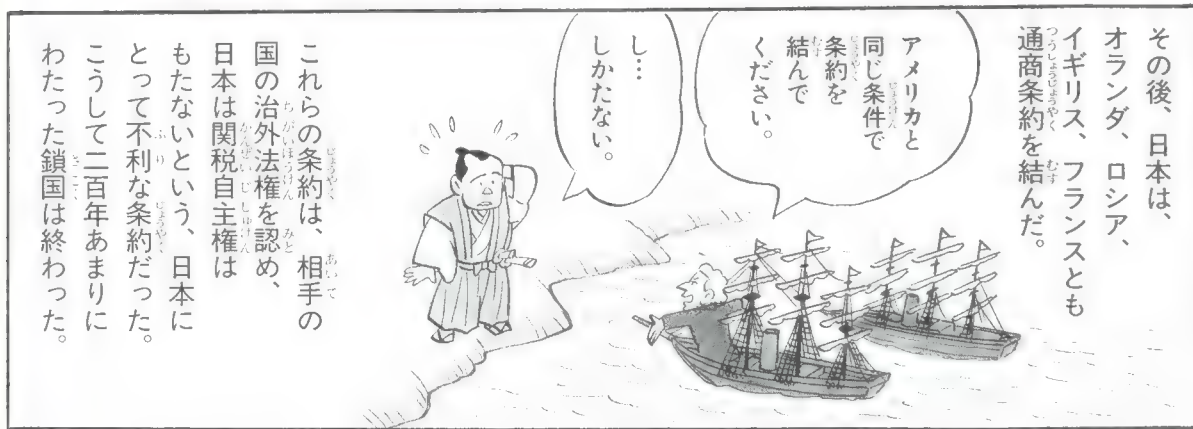
堀田正睦
(1810〜1864)

佐倉(千葉県)藩主で、蘭学や西洋の軍隊の研究を進めた。一八五五年、老中となり、ハリスと日米修好通商条約の交しょうをし、天皇に条約を結ぶ許しを求めたが失敗した。また、将軍のあとつぎ問題でも敗れて、老中をやめさせられた。

日米修好通商条約

一八五八年、幕府がアメリカと結んだ通商条約。アメリカ総領事ハリス(上の絵)の要求で、大老井伊直弼が天皇の許しを得ないで結んだ。函館・新潟・神奈川・兵庫・長崎の五港を開いて、貿易することが決まった。しかし、日本には輸入品に自由に税金をかける権利(関税自主権)がなく、外国人の犯罪者を日本の法律で裁判することもできない(治外法権)という、不平等な条約だった。

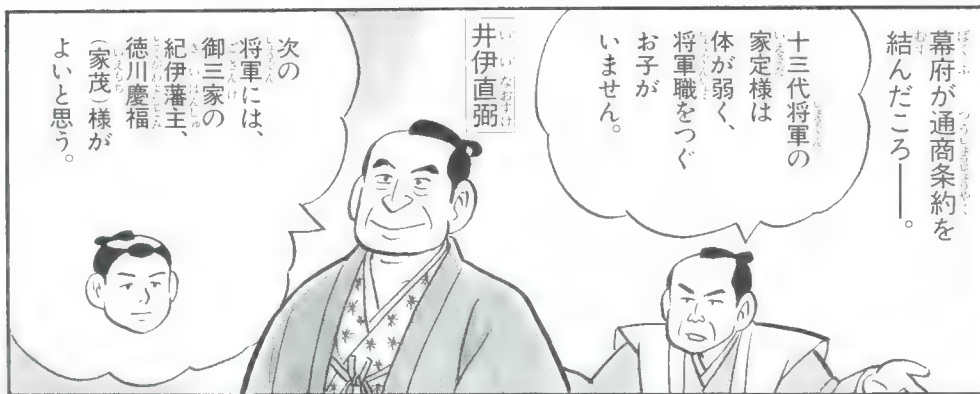
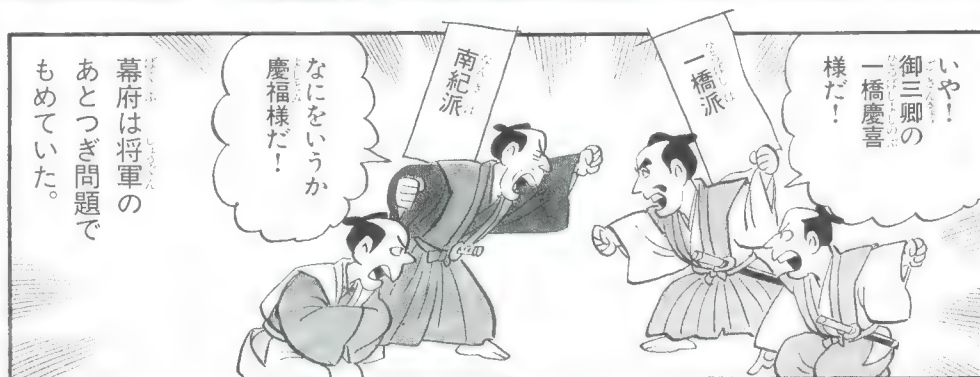
井伊のやつ、反対意見を無視して、しかも朝廷の許しも得ず条約を結ぶとは!!

函館、神奈川、長崎、新潟、兵庫（神戸）の五港を開いたそうだ。

井伊直弼
(1815〜1860)

彦根（滋賀県）藩主で、一八五八年、大老になり、独断で日米修好通商条約を結び、徳川家茂を十四代将軍にした。さらに反対派の大名や公家・武士をばっしたが、桜田門外で暗殺された。

孝明天皇
(1831〜1866)

明治天皇の父。開国反対論者で、通商条約に反対した。しかし討幕運動には反対で、妹の和宮を将軍家茂と結婚させるなど、朝廷と幕府が協力する公武合体に力をそそいだ。

安政の大獄と尊王攘夷運動

徳川御三家

徳川家康の子から出た大名で、尾張(愛知県)、紀伊(和歌山県)、水戸(茨城県)の三家をいう。将軍家を助け、大名の中で特に重んじられた。

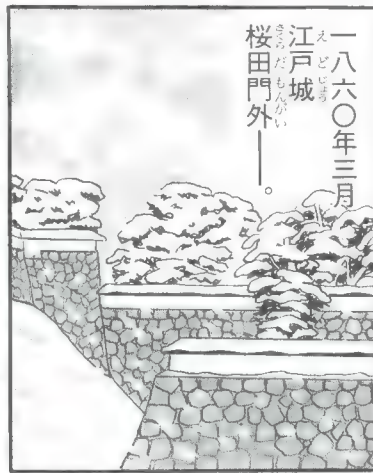
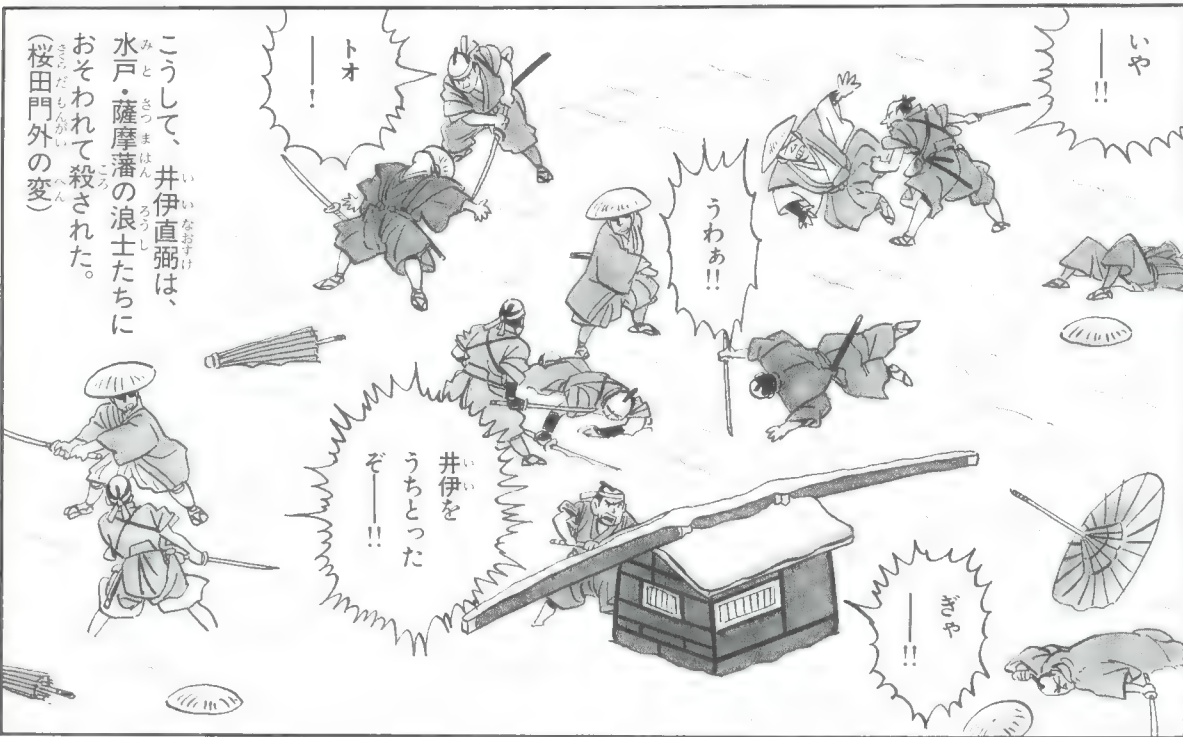
一橋派

十三代将軍家定のあとつぎに、水戸藩主徳川斉昭の子の一橋慶喜をおした人々。斉昭や薩摩藩主島津斉彬など幕政の改革をめざす大名が多かった。

南紀派

十三代将軍家定のあとつぎに、紀伊藩主徳川慶福(後の家茂)をおした人々。井伊直弼を中心とする譜代大名が多く、慶福を十四代将軍におした。

徳川斉昭
(1800〜1860)

水戸(茨城県)藩主で、十五代将軍慶喜の父。ペリーが来航したとき、幕府の政治に参加したが、通商条約と将軍のあとつぎ問題で井伊直弼と対立し、安政の大獄でいん居させられた。

吉田松陰
(1830〜1859)

長州(山口県)藩士。ペリー来航のとき、海外密航をくわだててとらえられた。後に萩(山口県)で松下村塾を開き、木戸孝允・高杉晋作・伊藤博文らを育てたが、安政の大獄で死刑にされた。

え?

外国との貿易が始まって、生糸、茶などたくさんの品物が輸出されただろ。だから国内では品不足になり、物価が上がったんだよ。

橋本左内
（1834〜1859）

福井藩（福井県）の医者で、蘭学を学び、開国を唱えた。将軍のあとつぎ問題で、一橋慶喜側について活やくしたが、安政の大獄で死刑になった。

桜田門外の変

安政の大獄で多くの志士をばっしたことに不満を持った水戸・薩摩藩の浪士が、一八六〇年、登城途中の井伊直弼を桜田門外でおそって殺した。

尊王攘夷運動

天皇を敬い、外国人を追いはらおうとする運動。幕府の開国政策に反対して、天皇を中心とする国をつくり、外国に対こうしようとした。

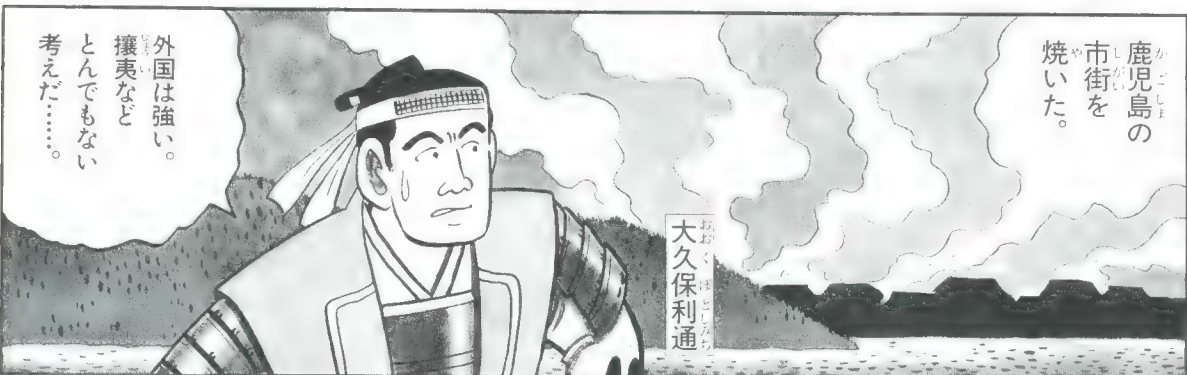
高杉晋作
(1839〜1867)

長州(山口県)藩士で、吉田松陰に学び、尊王攘夷運動で活やくした。農民や町人らによる奇兵隊をつくって、藩の軍備を強くし、討幕運動につくした。

下関砲撃

一八六三年、長州藩が外国船を砲撃したので、翌年、外国の連合艦隊が下関を砲撃し、砲台を占領した。これ以後、長州藩は開国政策に変わった。

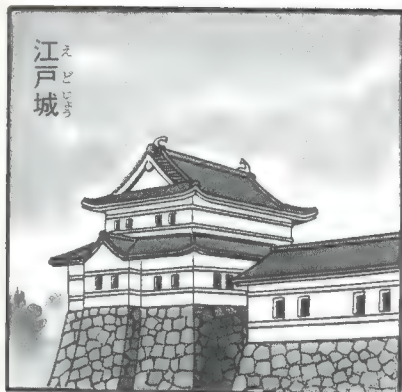
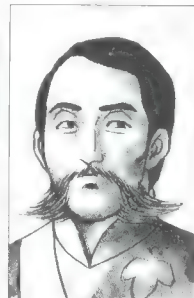
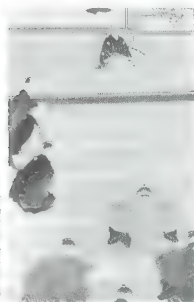
薩英戦争

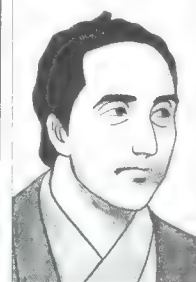
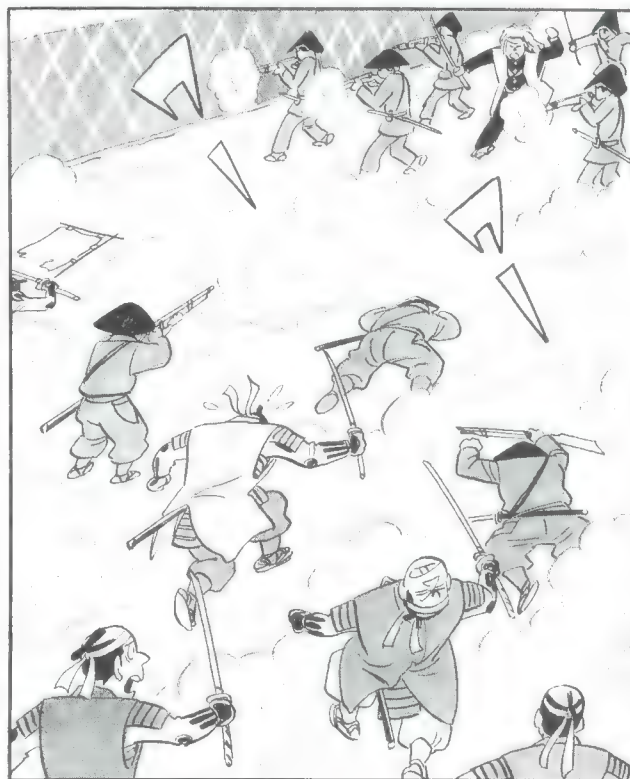
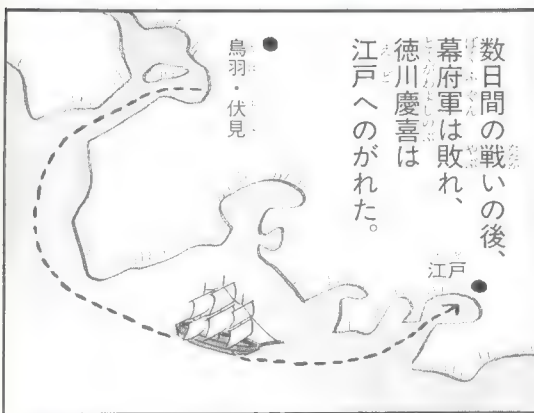
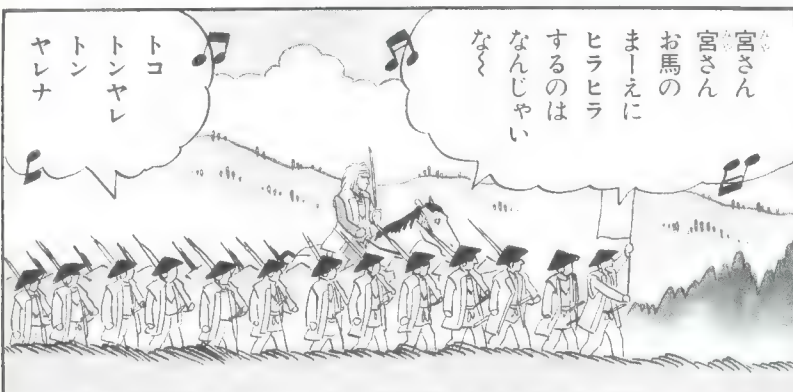
一八六三年、生麦事件のしかえしに、イギリスは鹿児島を砲撃し、市街の半分を焼いた。この戦争で外国の力を知った薩摩藩は、イギリスに接近した。

江戸幕府の滅亡

外国と戦ってその力を知った長州藩と薩摩藩は、攘夷の方針を変えてイギリスに近づき、幕府をたおし、天皇中心の国家をつくろうと考えるようになった。

やがて土佐藩士坂本龍馬らの仲だちで、長州、薩摩の両藩は、ひそかに同盟を結んだ。（薩長同盟）

木戸孝允
(1833～1877)

明治維新で活やくした政治家。長州藩士で、はじめ桂小五郎といい、吉田松陰に学んだ。一八六四年の第一次長州征伐の後、長州藩の指導者となり、一八六六年、土佐藩の坂本龍馬らの仲立ちで薩長同盟を結び、討幕勢力の中心になった。江戸幕府をたおした後、明治政府の中心となり、「五か条の御誓文」の草案をつくり、ついで版籍奉還、廃藩置県をなしとげた。西郷、大久保とともに、維新の三傑といわれる。

明治維新で活やくした政治家。薩摩藩の下級武士だったが、西郷隆盛とともに討幕運動をすすめ、長州藩（山口県）の木戸孝允らと薩長同盟を結んで、一八六七年、江戸幕府をたおした。木戸とともに明治政府の中心になり、版籍奉還、廃藩置県を行った。岩倉具視らと欧米を視察し、帰国後、征韓論を唱える西郷らを退けて、政府の実権をにぎった。しかし、一八七八年、新政府に不満を持った士族に暗殺された。

大政奉還

一八六七年、十五代将軍徳川慶喜が政権を朝廷に返したこと。薩長両藩が武力で幕府をたおそうとしているのを知った慶喜は、土佐(高知県)の前藩主山内豊信(容堂)のすすめで、薩長が兵を挙げる前に政権を朝廷に返して、幕府の力を残そうと考えた。しかし、大政奉還の後、朝廷は王政復古の大号令を出して、幕府の廃止を宣言したので、約二百六十年続いた江戸幕府はほろび、武家政治は終わった。

勝海舟
（1823〜1899）

江戸末期〜明治初期の政治家。江戸の御家人の家に生まれ、長崎の海軍伝習所で学んだ。一八六〇年、幕府の使節にしたがい、咸臨丸の艦長として太平洋を横断し、アメリカにわたった。帰国後、軍艦奉行になり、幕府海軍を育てることにつくした。一八六八年、戊辰戦争のとき、西郷隆盛と会見して江戸城をあけわたし、江戸を戦火から救った。後、明治政府に仕え、参議・海軍卿などをつとめた。

江戸——。

朝廷の軍がせめてくるそうだ!

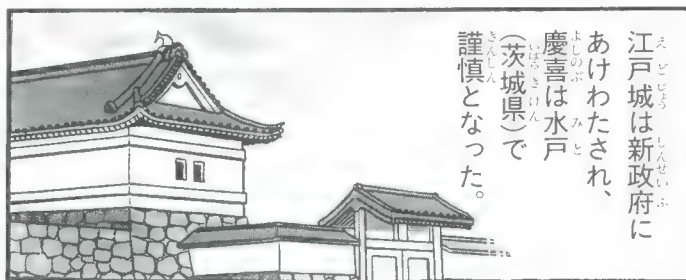
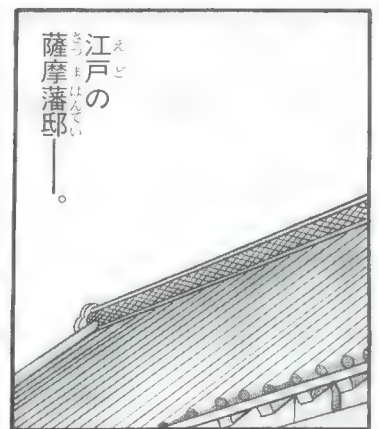
ゲゲー!お江戸が戦場になっちまうのか!?

……。

江戸を戦火から守るために降伏するほうがよいと思いますが。

うむ わかった…。

江戸城は新政府にあけわたされ、慶喜は水戸(茨城県)で謹慎となった。

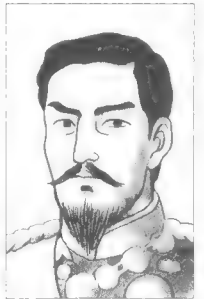
江戸城あけわたし

一八六八年、新政府軍が江戸にせまったとき、旧幕府の陸軍総裁勝海舟は西郷隆盛と会見し「これ以上国内で戦うことは、日本のためにならない」と説いて、江戸城の総攻撃を中止させ、江戸城をあけわたして、江戸を戦火から救った。

戊辰戦争

(1868〜1869)

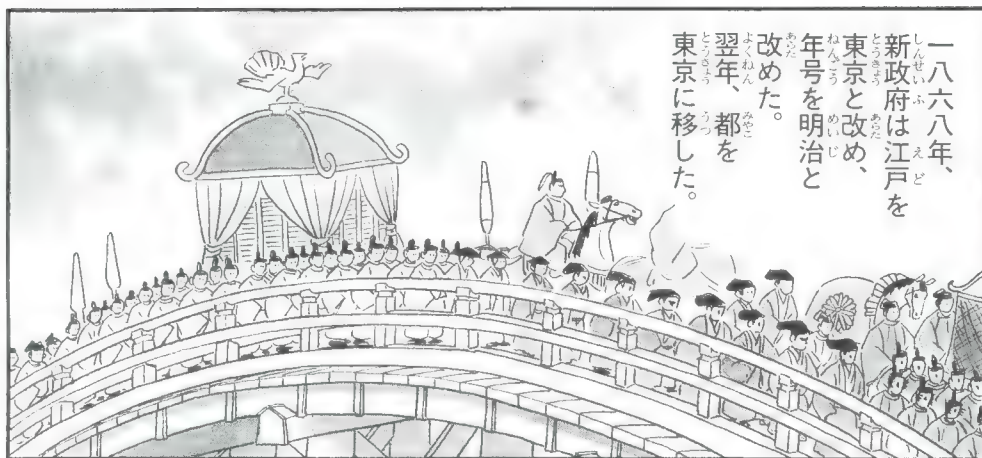
一八六八年(戊辰の年)に始まった新政府軍と旧幕府軍の戦い。新政府軍は鳥羽・伏見の戦いで旧幕府軍を破り、江戸にせまって江戸城をあけわたさせた。さらに東北諸藩を降伏させ、一八六九年、函館の五稜郭の戦いで旧幕府軍を降伏させた。

2 新しい明治の政治

明治天皇
(1852〜1912)

孝明天皇の皇子で、一八六七年に即位し、江戸幕府の大政奉還を受け入れて王政復古を宣言した。一八六八年、「五か条の御誓文」を発表して新政府の方針を示し、年号を明治と改め、翌年、都を東京に移した。一八八九年に「大日本帝国憲法」を発布して、近代国家の体制を整え、その後、日清・日露戦争に勝って日本の国際的な立場を高めた。

どういうこと?
つまり会議を開いて人々の考えを聞いて、政治を行うこと、

233ページからのカラー資料室も参照しよう。

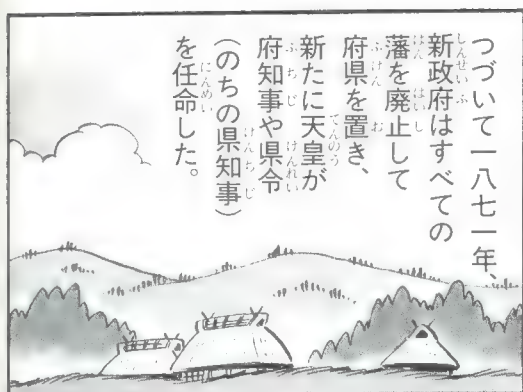
明治維新

五か条の御誓文

一八六八年、明治天皇が神に誓う形で発表した新政府の方針。みんなの意見で政治を行い、外国の文化を取り入れることなどが示された。

東京遷都

一八六八年、西の京都にたいして、江戸を東京と改め、翌年、明治天皇は東京城(江戸城)に入って皇居とし、東京を新しい首都とした。

版籍奉還

一八六九年、大名が版(土地)と籍(人民)を朝廷に返した改革。新政府が全国を直接治めるために行い、大名は知藩事という政府の役人になった。

これを廃藩置県という。

府県の数は最初三百あまりだったけど、三府七十二県に整理され、後に、一道三府四十三県になった。

この結果、中央新政府の命令が、全国にいきわたるようになった。

岩倉具視

（1825〜1883）

公家出身の政治家。大久保利通らとともに王政復古を実現し、明治政府の中心になった。一八七一年、大使として欧米を視察し、帰国後、天皇を中心とする国家の基そをつくった。

廃藩置県

一八七一年、政府は藩を廃止して、府・県を置き、政府が任命した府知事・県令（後に県知事）に治めさせた。これにより、政府の力が全国に行きわたるようになった。

四民平等

明治政府が行った、士農工商という封建的な身分制度の廃止。一八六九年、天皇の一族を皇族、公家と大名を華族、武士を士族、農工商を平民とし、翌年、平民にも名字を許し、職業や住所を選ぶことも自由にした。また、一八七一年にはいわゆる「身分解放令」を出し、農工商より低い身分とされていた人々も平民とされた。しかし、制度上は四民平等とされたが、実際には職業、居住、結婚などさまざまな面で差別はなくならず、大きな社会問題として今日なお国民的課題として残されている。

富国強兵の政策と文明開化

大村益次郎
(1824〜1869)

長州藩(山口県)出身の兵学者。明治政府の兵部大輔になり、近代的な軍隊をつくるため、フランスの陸軍制を取り入れ、徴兵制を説いたが、反対派に暗殺された。

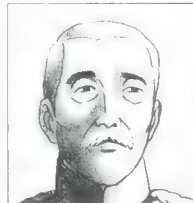
それには徴兵令を出して二十歳以上の男子には軍隊に入ることを義務づけ、国民皆兵により近代的な軍隊をつくることである。

大村益次郎

えー！徴兵令だって!?

働きざかりの男を兵隊にとられては、生活に困ってしまうじゃないか。

しかもだ、戸主の免除はいいとしても、二百七十円の金を納めた者は兵役を免除されるというんだ。

それじゃ金持ちは兵隊に行かなくてすむのか？

山県有朋
(1838〜1922)

長州藩出身の軍人・政治家。明治政府の陸軍の中心となり、徴兵制を実施し、近代的な軍隊をつくった。後、二度にわたって首相となり、大きな力をふるった。

富国強兵のために国の収入を安定させなければならない。
そのためには税のとり方の改正が必要だ。

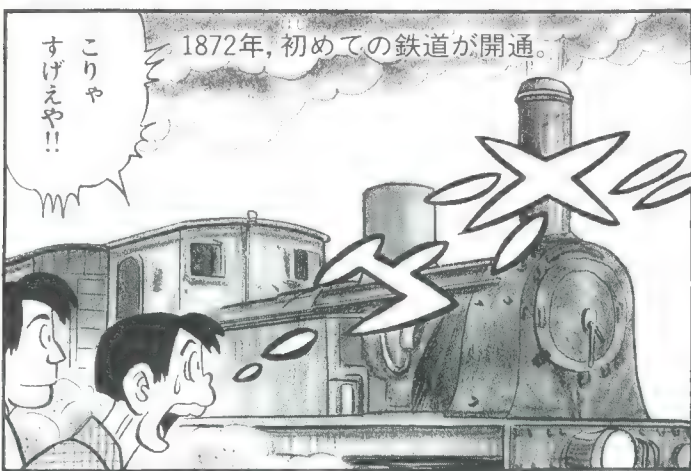
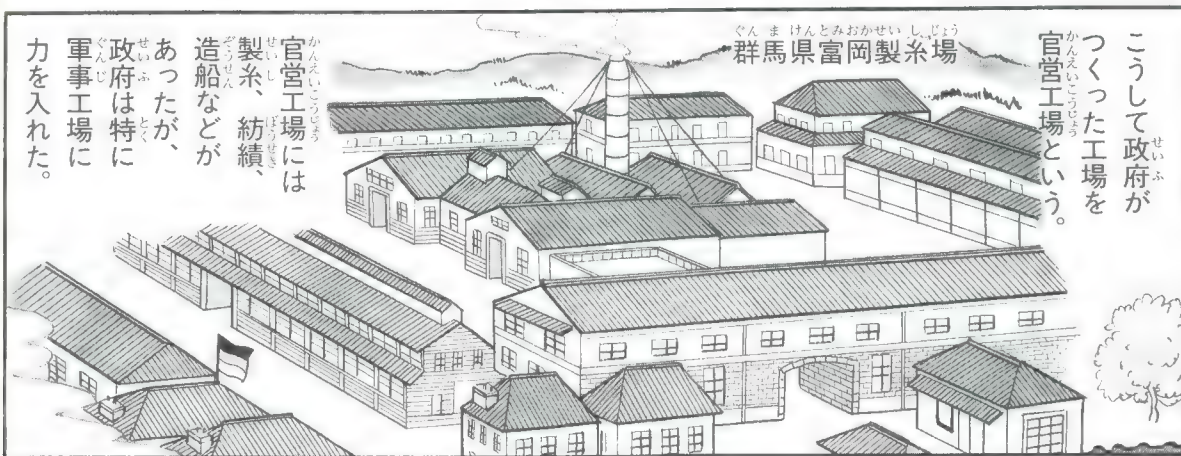
これまではとれ高に応じて米で納めさせていたが、地方によってその割合がまちまちであり、
年によってとれ高もちがうので、収入が不安定で計画的に政治を行えない。

徴兵令

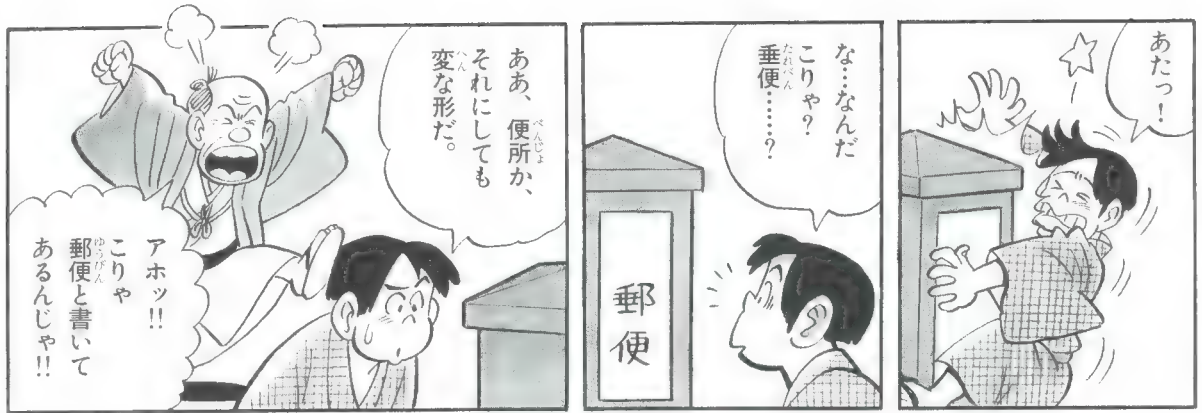
一八七三年、二十歳以上の男子に兵役の義務をおわせた法令。明治政府が近代的な軍隊をつくるため、国民皆兵をめざしてつくったが、初めは役人や戸主などは免除された。また、民衆は働き手をとられるため、徴兵反対の一揆をおこした。

地租改正

一八七三年、明治政府が財政を安定させるために行った税制の改革。土地の値段（地価）を決め、土地の持ち主に地価の三パーセントを、現金で納めさせた。しかし農民の負担は軽くならなかったので、各地で地租改正反対の一揆がおこった。

福沢諭吉
（1835〜1901）

明治の思想家、教育者。中津藩（大分県）の下級武士の子に生まれ、長崎や大阪で蘭学を学んだ後、江戸に出て英語を学んだ。一八六〇年から三度にわたり、幕府の使節の一員として欧米を視察し、『西洋事情』を書いて、西洋文明をしょうかいした。一八六八年、慶応義塾をつくって、多くの人を教育した。また、封建的な考え方を批判し、『学問ノスヽメ』などを書いて、自由・平等の考え方を広めた。

官営工場

近代産業を育てるため、政府が経営した工場。外国から機械を入れ、技術者を招いて兵器工場や製糸工場をつくり、労働者に新しい技術を学ばせた。

郵便制度

前島密がイギリスの郵便制度を研究し、一八七一年、飛脚にかわる近代的な郵便制度をつくった。「郵便」、「切手」という言葉は、前島密がつくったもの。

学校制度

一八七二年、明治政府は学制を発布して、近代的な学校制度を定めた。全国に大学、中学、小学校をつくる計画をたて、小学校を義務教育とした。

自由民権運動と国会開設

西郷隆盛
(1827〜1877)

複製・鹿児島市立美術館

明治維新で活やくした政治家。薩摩藩（鹿児島県）の下級武士の家に生まれ、藩主島津斉彬に認められて江戸に出る。一橋慶喜を将軍にするために活やくしたが、失敗して奄美大島に流された。後に許され、討幕運動の中心となって活やくした。戊辰戦争で勝ち、明治政府の参議となったが、征韓論を反対されて鹿児島に帰った。一八七七年、鹿児島の士族におされて西南戦争をおこしたが、敗れて自殺した。

ところが……。

四民平等や徴兵令で、わしらもと武士は特権や職をうばわれた。

くそっ、なにが新政府だ！

士族の不満がいっぱいだな…。

特に討幕の力になった西南諸藩の士族の不満が強いようです。

板垣退助

士族の不満をそらすために、西郷隆盛は征韓論を唱えた。

朝鮮は、新しい政府とはつきあわんといっている。断固せめるべし！

西郷隆盛

わたしは反対だ。それより西洋と仲よくすることが先だ。

岩倉具視

一八七七年には
鹿児島の士族が
西郷隆盛を
おしたてて
西南戦争を
おこしたが――、

これが口火となって、
議会政治を
実現させようとする
自由民権運動が
おこった。

この運動は、
初めは士族の
運動であったが、
西南戦争後は
一般の人々の
間にも広まった。

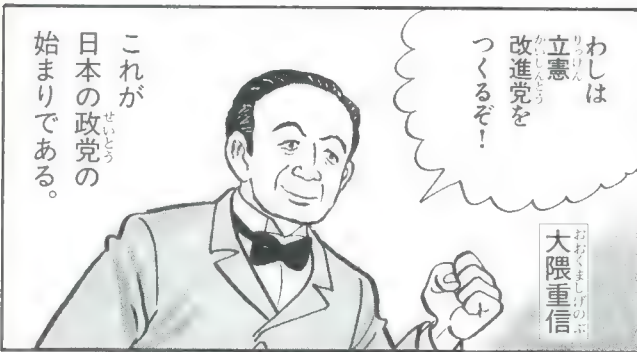
西南戦争

西郷隆盛は、新政府に不満をもつ士族の目を外へむけるため、朝鮮に開国をせまる征韓論を唱えたが、反対されて鹿児島に帰った。そして、一八七七年、鹿児島の不平士族におされて西南戦争をおこしたが、政府軍に敗れて、城山で自殺した。

自由民権運動

明治政府にたいして、国会を開いて国民を政治に参加させることを要求した運動。一八七四年、板垣退助らが「民撰議院（国会）設立の意見書」を提出して、運動の口火を切った。運動は全国各地に広まり、政府に国会を開くことを約束させた。

板垣退助
(1837～1919)

自由民権運動の指導者。土佐藩(高知県)の出身で、討幕運動に加わり、明治政府の参議になったが、征韓論を唱え、敗れて政府を去った。一八七四年、民撰議院の設立を求める意見書を出して、自由民権運動をおこし、土佐に立志社をつくって運動を進めた。一八八一年、政府が国会を開くことを約束したので、自由党をつくった。一八九八年には、大隈重信の進歩党と合同して、憲政党内閣をつくった。

一方、政府は、国会を開くことを約束すると、伊藤博文らをヨーロッパに送って各国の憲法を調べさせ、議会政治に備えた。

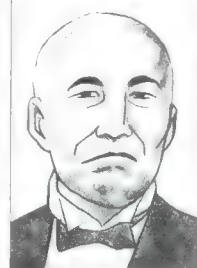
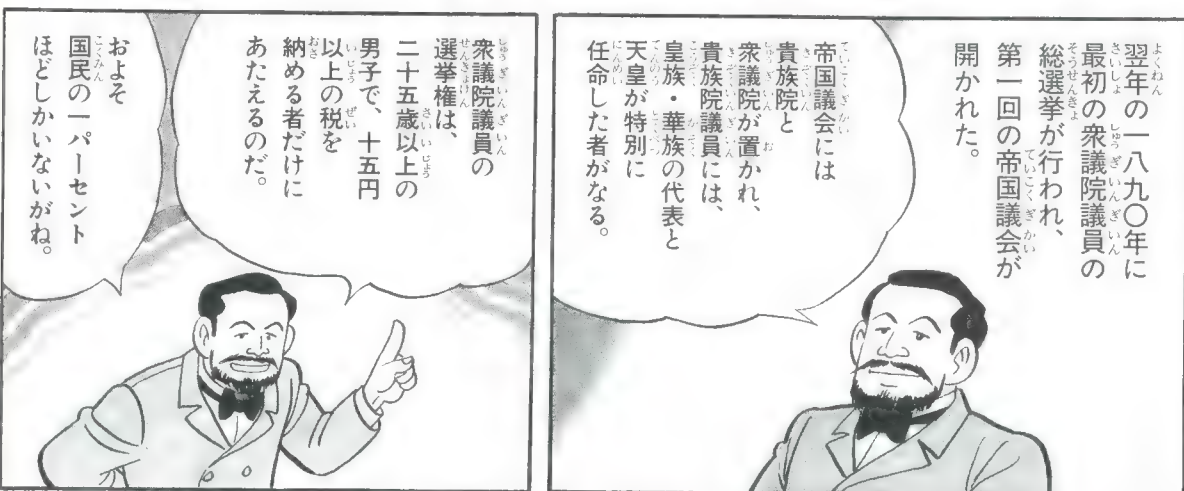
こうして一八八九年、明治天皇の名で大日本帝国憲法が発布され、日本はアジアで初の立憲政治の国となった。

しかしこの憲法では、天皇に主権があり、議会や国民の権利は制限されていた。

大日本帝国憲法

一八八九年に発布された憲法。明治憲法ともいう。プロシア（ドイツ）憲法を手本にして、伊藤博文らが草案をつくった。天皇は主権をはじめ多くの権限をもち、神のような存在とされた。一方、議会の力は弱く、国民の権利は制限された。

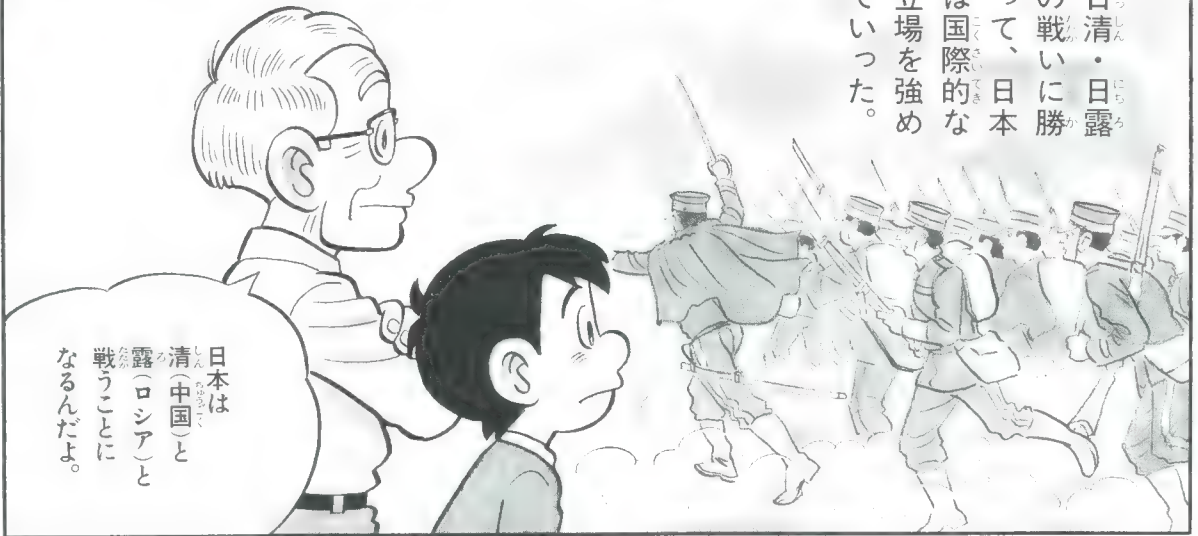
帝国議会の開設

帝国議会は貴族院と衆議院の二院制で、貴族院は皇族・華族の代表者や天皇が任命した議員など、衆議院は国民の選挙で選ばれた議員で構成された。一八九〇年に衆議院議員の総選挙が行われ、第一回帝国議会が開かれた。

日本最初の政党内閣をつくった政治家。佐賀藩の出身で、明治政府の大蔵卿となって財政を担当した。自由民権運動がおこると、政府内で国会開設を主張したので、政府から追放され、一八八一年、立憲改進党をつくった。後に外務大臣となって条約改正につとめ、一八九八年には、板垣退助と憲政党を結成し、首相となって最初の政党内閣をつくった。また、東京専門学校（後の早稲田大学）をつくった。

わしにもわからんが、とにかくめでたいんだ。

めでたい！めでたい！

ベルツ

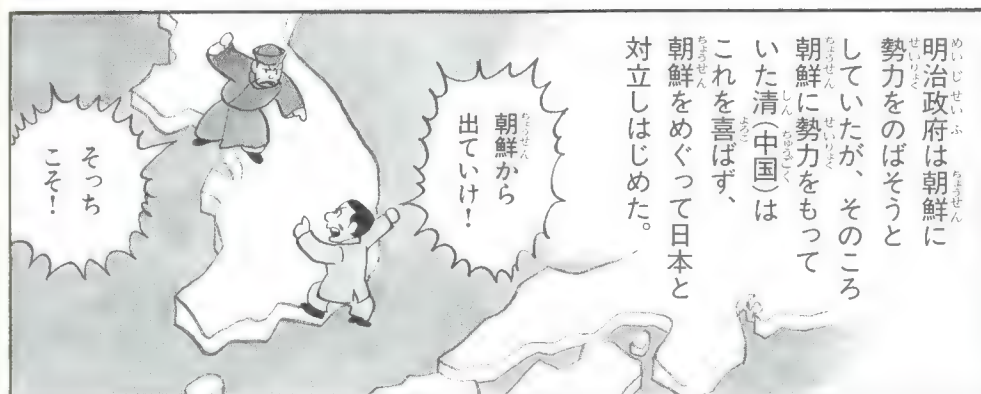
東京は憲法発布の祝いでにぎわっている。だが、おかしなことにだれも憲法の中身を知らん。

朝鮮の開国

明治政府は朝鮮に国交を求めたが、鎖国政策をとっていた朝鮮は断った。一八七五年、京城に近い江華島の沖で、朝鮮に断りなく演習や測量を行っていた日本の軍艦が、江華島の砲台から砲撃された。この事件をきっかけに、日本は朝鮮に開国を強くせまり、翌年、朝鮮に不利な日朝修好条規を結んで、朝鮮を開国させた。

3 日清・日露の戦い

233ページからのカラー資料室も参照しよう。

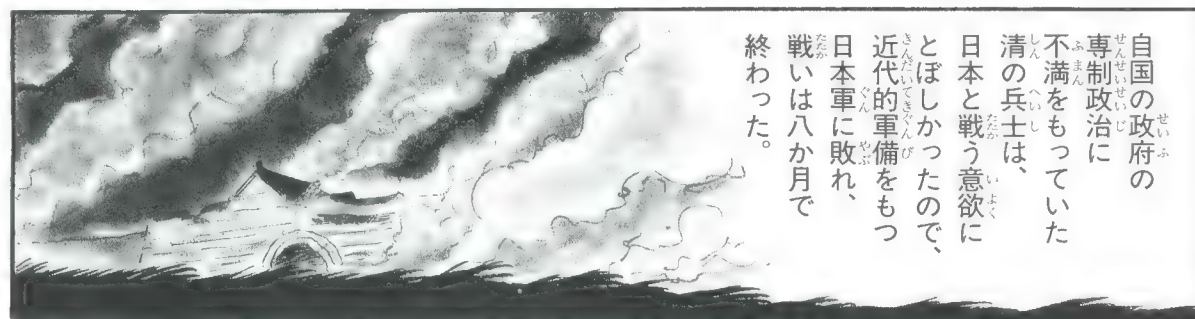
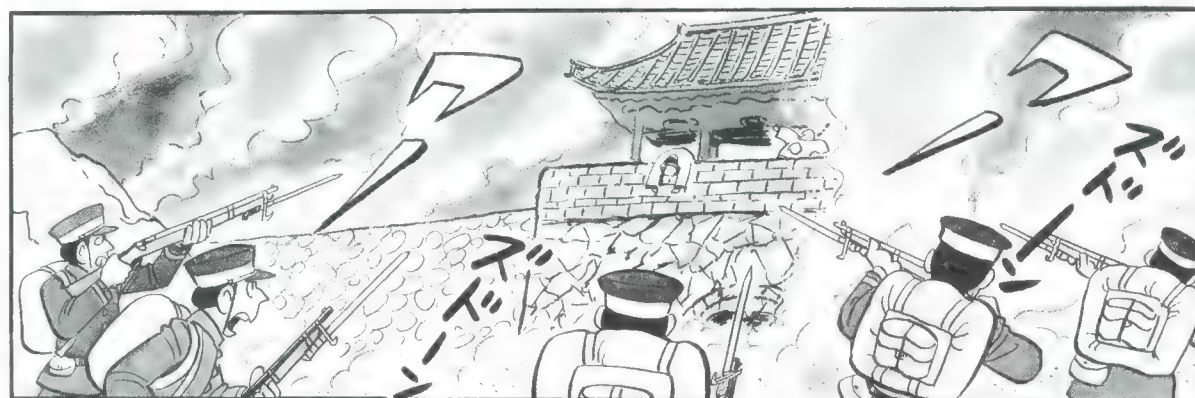
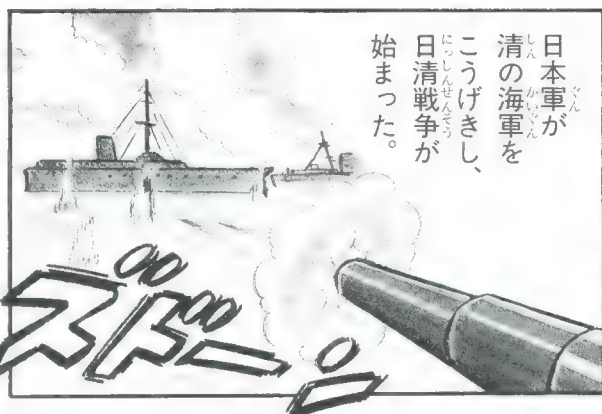
日清戦争と三国干渉

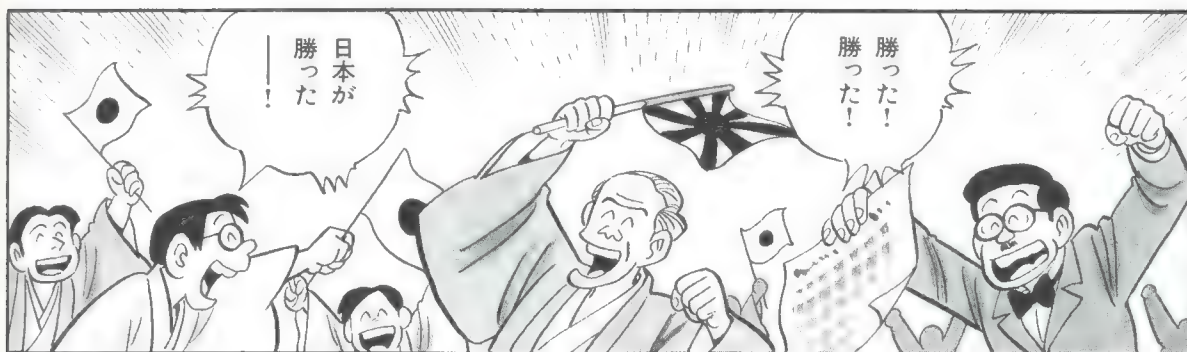
伊藤博文
(1841～1909)

明治政府の最高指導者。長州藩（山口県）の出身で、イギリスに留学し、帰国後、討幕運動に参加した。明治政府の要職につき、自由民権運動が高まって国会の開設が決まると、ヨーロッパにわたってドイツ憲法を研究し、帰国後、大日本帝国憲法の草案をつくった。また、内閣制度をつくって、最初の内閣総理大臣となり、さらに枢密院議長になった。後に韓国統監になったが、中国で韓国の青年に暗殺された。

日本軍が
清の海軍を
こうげきし、
日清戦争が
始まった。

ズドーン

東学党の乱

東学党とは、西学（キリスト教）にたいして名づけた、朝鮮の農民中心の宗教団体。一八九四年、東学党を中心に、朝鮮の農民が、政府の悪政と外国の侵略に反対しておこした反乱。朝鮮政府が清（中国）に援軍を求めたので、日本も出兵した。

日清戦争

一八九四年、東学党の乱をきっかけに、朝鮮に出兵した日本と清（中国）の両国軍が、朝鮮の支配をめぐって争った戦い。近代的な軍備をもつ日本が勝ち、翌年、下関条約を結んで、朝鮮での立場を強め、大陸進出の足場を築いた。

李鴻章
(1823〜1901)

清(中国)の政治家。一八九五年、下関(山口県)で行われた日清戦争の講和会議に、清の全権として出席し、日本の全権伊藤博文・陸奥宗光との間で、下関条約を結んだ。

三国干渉

一八九五年、ロシアがフランス・ドイツとともに、下関条約で日本が得たリャオトン(遼東)半島を、清(中国)に返すように要求してきたこと。日本は三国の軍事力におされて要求に応じた。

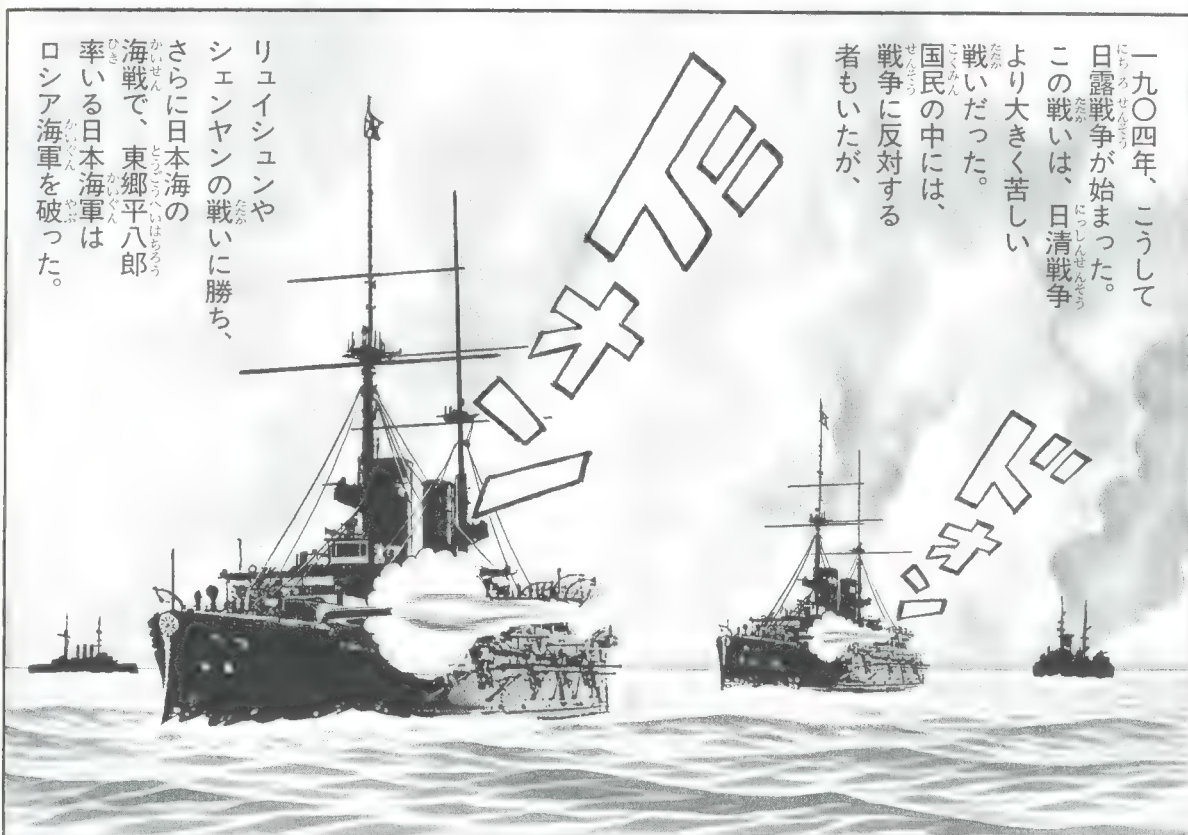
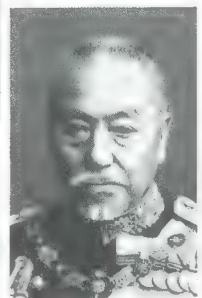
日露戦争と韓国併合

義和団の乱（北清事変）

一八九九年、義和団という中国の秘密団体が、「外国をたおして中国を救うこと」をさけんで、乱をおこし、翌年、北京の各国公使館をおそった。ロシア・イギリス・日本など八か国は、連合軍を送ってこの乱をしずめた。

日英同盟

一九〇二年、ロシアの南下政策に対こうするために、日本とイギリスが結んだ同盟。日本はロシアの朝鮮への進出を防ぐために、イギリスはロシアの中央アジア・インド・中国への進出を防ぐために、同盟を結んだ。

東郷平八郎
(1847〜1934)

薩摩藩出身の海軍軍人。薩英戦争に参加し、海軍に進む。日清戦争では艦長として活やくし、日露戦争では連合艦隊司令長官として、日本海海戦でロシアのバルチック艦隊を破った。

一九〇四年、こうして日露戦争が始まった。この戦いは、日清戦争より大きく苦しい戦いだった。国民の中には、戦争に反対する者もいたが、

リュイシュンやシェンヤンの戦いに勝ち、さらに日本海の海戦で、東郷平八郎率いる日本海軍はロシア海軍を破った。

日露戦争
(1904〜1905)

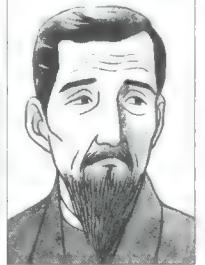
満州の支配をめぐる日本とロシアの戦争。日本は勝ち進んだが物資が足りなくなり、ロシアは国内で革命の動きがおこったので、アメリカ大統領の仲立ちで、講和条約を結んだ。

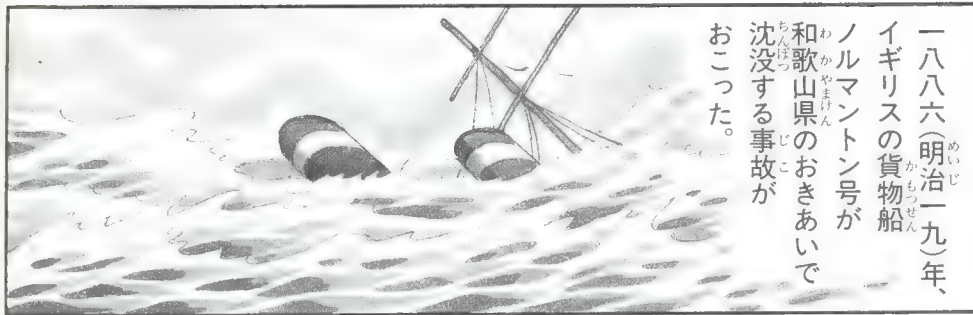
ポーツマス条約

日露戦争の講和条約。一九〇五年、アメリカのポーツマスで、小村寿太郎とロシアのウイッテが結んだ。ロシアは、日本の朝鮮に対する指導権を認め、リャオトン(遼東)半島南部と南満州鉄道の権利、サハリンの南半分を日本にゆずった。

韓国併合

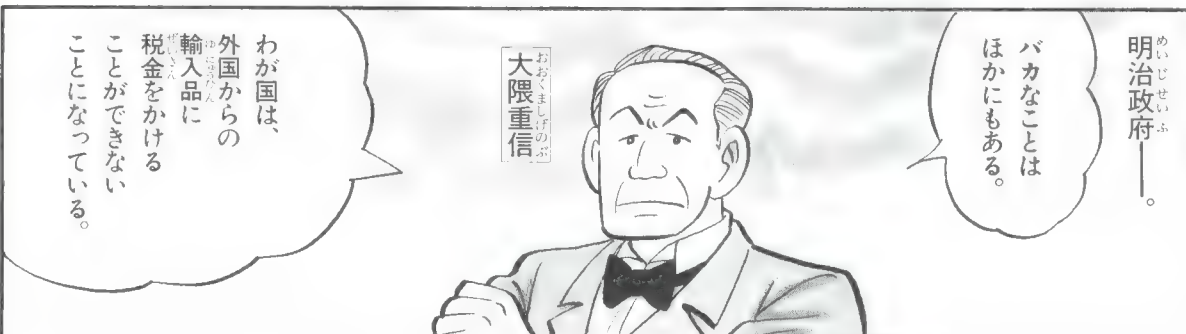
伊藤博文が中国のハルビンで韓国人に暗殺された事件をきっかけに、日本は韓国への支配を強め、一九一〇年、韓国を併合して、植民地にした。そして、韓国を朝鮮と改め、京城に朝鮮総督府をおいて、大陸進出の基地とした。

陸奥宗光
(1844〜1897)

条約改正につとめた外交官。紀伊藩（和歌山県）の出身で、坂本龍馬の海援隊に入り、尊王討幕運動に加わった。明治政府に入り、兵庫県・神奈川県知事などをつとめた後、一八九二年、伊藤内閣の外務大臣となり、条約改正に努力した。一八九四年、イギリスとの間で治外法権を廃止することに成功した。その翌年、日清戦争の講和会議で、伊藤首相とともに全権となり、日本に有利な下関条約を結んだ。

不平等条約の改正

おい、聞いたかい?

この間のノルマントン号の事故で、船長と二十五人のイギリス人水夫たちが助かったのに、

二十三人の日本人は全員海にしずんで死んじまったんだとサ。

えーっ、日本人だけ死んだのか!?

貿易がさかんになっても、わが国の政府に入るお金はたいしてない。

井上馨

それもこれも、江戸幕府が外国と結んだ、不平等な修好通商条約のせいだ。

明治政府は、不平等な条約を改めようと、一八七一年には岩倉具視や大久保利通らをヨーロッパやアメリカに送っていたが……。

日本は文明国とはいえない。

…といって改正に応じてくれなかった。

ノルマントン号事件

一八八六年、イギリス船ノルマントン号が沈没し、船長が日本人乗客を見殺しにした事件。イギリス領事は船長を無罪にした。

治外法権の廃止

一八九四年、外務大臣陸奥宗光が、イギリスとの間で、治外法権を廃止させることに成功し、外国人を日本の裁判所で裁判できるようになった。

関税自主権の回復

一九一一年、外務大臣小村寿太郎が、アメリカとの間で、関税を自由に決める権利をかく得し、他の国々も認めたので、条約改正を達成した。

やったぞ！イギリスとの間に治外法権をなくすことに成功したぞ!!

これで、日本で罪をおかした外国人は、日本の法律で裁けるぞ!!

この後、他の国も同じように改正した。

さらに、日清・日露の戦争で勝ち、欧米諸国にその力が認められるようになると──。

今度はわたしがアメリカと交しょうするぞ。

小村寿太郎

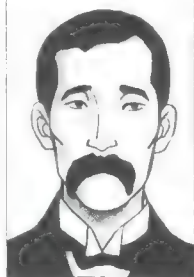
一九一一年──。

……。

イエース、オーケーネ。

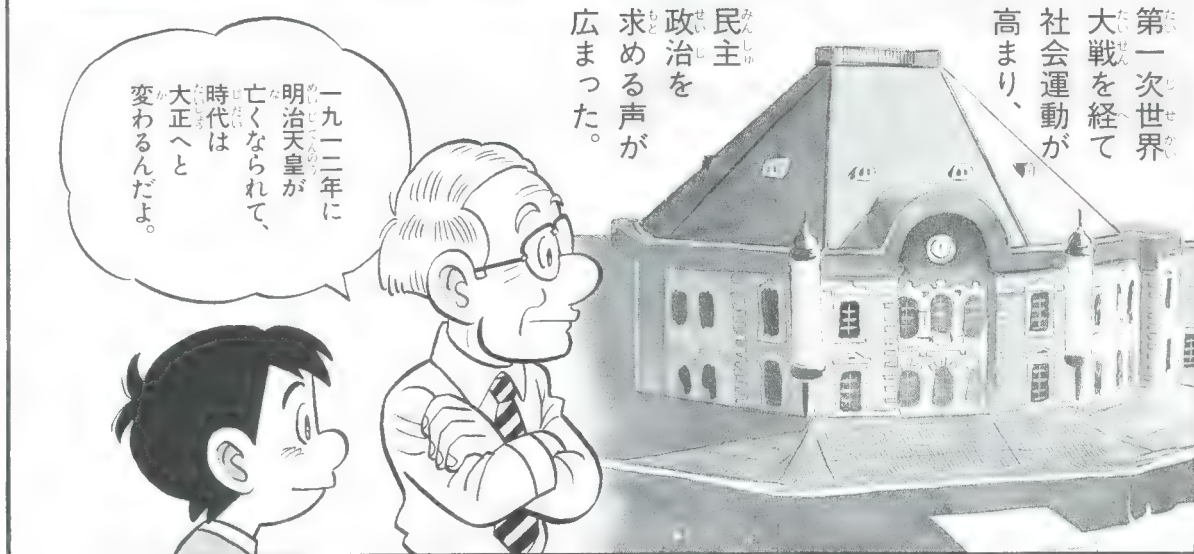
よし！関税自主権をとりもどしたぞ！これで輸入品に自由に税金をかけられるぞ!!

諸外国もこれにならい、条約改正を達成した。こうして日本は、欧米諸国と対等な地位に立ち、国際的な立場を強めることができた。

小村寿太郎
(1855～1911)

日露戦争前後に活やくした外交官。飫肥藩（宮崎県）出身で、アメリカに留学し、帰国後、各国の公使をつとめた。一九〇一年、外務大臣になり、翌年、日英同盟を結んでロシアの進出に備えた。一九〇五年、アメリカのポーツマスで行われた日露戦争の講和会議に全権として出席し、ポーツマス条約を結んだ。さらに、一九一一年、関税を自由に決める権利をかく得し、条約改正を達成した。

4 民主主義のめばえ

大正時代

大正時代に入ると、吉野作造が民主政治を説き、尾崎行雄や犬養毅らが普通選挙の実現をめざす運動をおこした。そのため、人々の間に、自由で民主的な考えが広まった。この動きを「大正デモクラシー」という。一方、第一次世界大戦後、世の中は不景気になり、そのうえ、関東大震災がおこり、生活が苦しくなった人々は、労働運動をおこした。このような政治・経済の動きの中で、政党内閣が生まれ、普通選挙が実現した。

233ページからのカラー資料室も参照しよう。

第一次世界大戦と好景気の世の中

第一次世界大戦

二十世紀になると、ヨーロッパ各国の間に対立が深まり、一九一四年、ドイツを中心とする同盟国とイギリスを中心とする連合国との間に、第一次世界大戦がおこった。日英同盟を結んでいた日本は連合国に加わって、中国や南太平洋にあったドイツ領を占領した。

一九一八年、ドイツが降伏して大戦は終わった。また、大戦中に、ロシア革命がおこって、ソビエト連邦が生まれ、日本では輸出がふえたため、工業が発達した。しかし、物価がはげしく上がって、人々の生活は苦しかった。

日本軍はただちに中国山東省のドイツの根きょ地とドイツ領の南洋諸島をこう撃、これを占領した。

ふふ……、大戦のおもな戦場はヨーロッパだ。わが国は直接戦いにまきこまれることはない。

おまけにヨーロッパの国々は、軍需品が不足して日本に注文してきています。

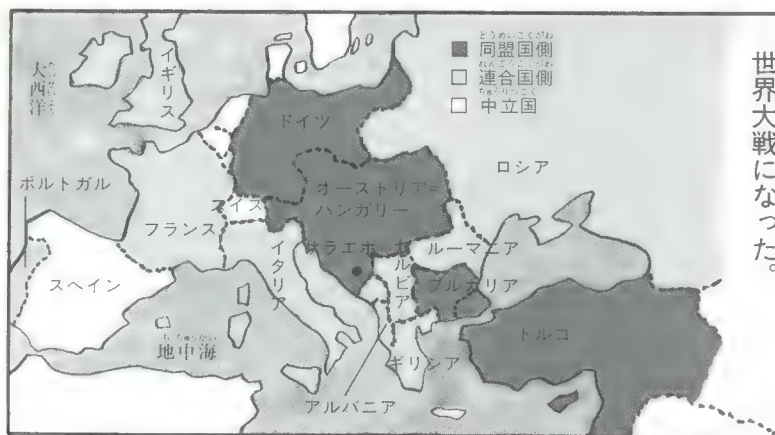
日本の輸出は急速にのびて経済は好景気。

ばんばんざいですな。

特に造船や化学工業などはめざましく発達し、戦争成金というにわか大金持ちになる人も現れた。

しかし物価がはげしく上がって、労働者や農民の生活は苦しくなった。

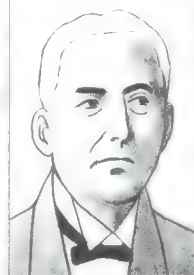
特に米の値段はひどい。

大商人などが買いしめるから、戦前の四倍にも上がってしまった。

戦争成金

第一次世界大戦中の好景気で、急に金持ちになった人のこと。海運業でもうけた「船成金」や、製鉄業の「鉄成金」が有名。上の風刺画は、足元が暗いといって百円札に火をつける成金。

米騒動

一九一八年、米の値段が上がって生活が苦しくなったので、富山県の主婦たちが米の安売りを求めて暴動をおこすと、全国各地にひろがった。政府は軍隊まで出して、これをしずめた。

原敬
(1856～1921)

一九一八年、立憲政友会総裁として、最初の本格的な政党内閣をつくり、「平民宰相」とよばれた。しかし、普通選挙法に反対するなど国民の期待を裏切り、反感から東京駅で暗殺された。

寺内内閣

長州藩出身の陸軍大将寺内正毅を首相とする内閣。軍備を強めるために増税などを行ったので、国民の不満が高まり、一九一八年、米騒動で世論の非難を受けて辞職した。

大戦後の不景気と社会運動の高まり

メーデー

労働者の団結を高めるために、毎年五月一日に行われる集会。一八八六年にアメリカで始まり、日本では、一九二〇年五月二日に、東京の上野公園で行われたのが最初である。

ストライキ

労働者が、自分たちの要求を認めさせるために行う行為で、労働組合員が一時的に職場をはなれ、仕事をしないこと。第二次世界大戦が終わる以前は、きびしく取りしまられた。

平塚雷鳥
(1886〜1971)

一九一一年、女性ばかりの「青鞜社」をつくって、雑誌『青鞜』を発刊した。さらに一九二〇年「新婦人協会」をつくり、女性の政治的自由を求め、婦人参政権運動をすすめた。

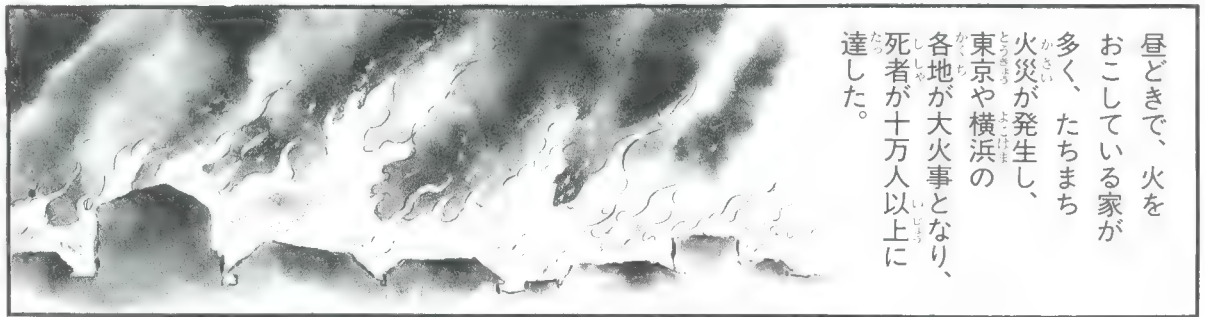
全国水平社

明治の身分解放令で、法律上は平等とされながら、社会的、経済的に差別されてきた人々が、一九二二年、自分たちの力で差別をなくし、自由を勝ちとるためにつくった組織。

ドドドド…

一九二三（大正十二）年、関東南部を中心に大地震がおそった。（関東大震災）

昼どきで、火をおこしている家が多く、たちまち火災が発生し、東京や横浜の各地が大火事となり、死者が十万人以上に達した。

こうしたデマのため、多くの朝鮮の人々が殺されたり、同じような理由で社会運動を進めていた人々が弾圧を受けた。

小作争議

小作料などをめぐって、小作人が団結して地主と争うこと。第一次世界大戦後に不景気になると、農民組合がつくられ、土地の取り上げや小作料の引き上げに反対して多くおこった。

関東大震災

一九二三年九月一日、関東地方をおそった大地震による災害。東京・横浜の各地で火災が発生して、約七十万戸が被害を受け、死者十万人以上という大災害となり、不景気がひどくなった。

普通選挙の実現

吉野作造
（1878～1933）

大正・昭和の政治学者。「政治は民衆の意見によって行うことが必要である」という民本主義を唱え、民主的な議会政治と、普通選挙制の実現をめざす運動を高めることにつくした。

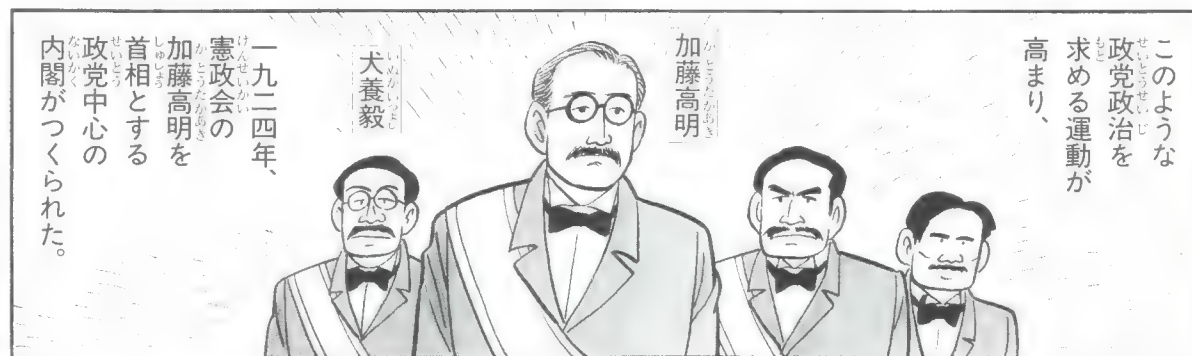
普通選挙運動

大正時代に尾崎行雄や犬養毅らが中心になって、一定の年齢以上の者はだれでも選挙権がもてるという、普通選挙制の実現をめざす運動をおこすと、全国に広がっていった。

このような政党政治を求める運動が高まり、

加藤高明

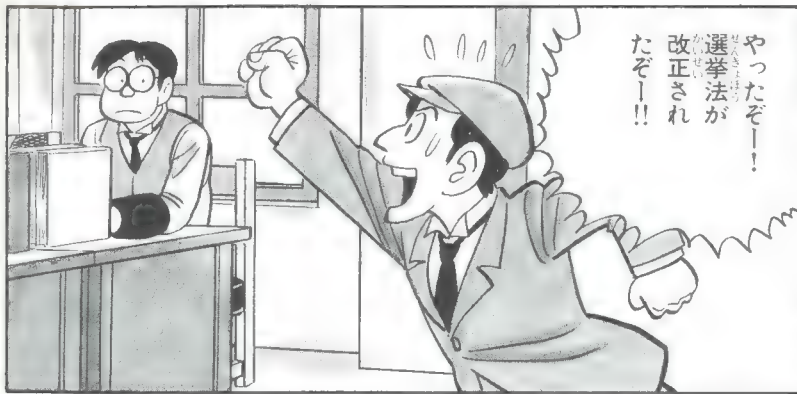
犬養毅

一九二四年、憲政会の加藤高明を首相とする政党中心の内閣がつくられた。

護憲三派

一九二四年、貴族院議員を中心とする清浦内閣がつくられると、これに反対して、憲政会、政友会、革新俱楽部が、政党内閣をつくるために護憲運動をおこした。この三政党を護憲三派という。政府はこの三派をおさえようとして、衆議院を解散した。しかし、選挙の結果、三派が大勝し、憲政会総裁加藤高明を首相に、政友会の高橋是清、革新俱楽部の犬養毅(上の絵)が加わって、護憲三派の政党内閣をつくった。

うむ…、政治と社会のしくみを変えようとする人を、きびしく取りしまるという法だな。

この法はちょっと問題がありそうだな……。

この法律は後に、自由主義者や平和主義者も取りしまるようになり、民主主義をおさえるために使われるようになった。

選挙法改正

一九二五年、加藤高明内閣は衆議院議員選挙法を改正して、納税額に関係なく、二十五歳以上の男子に選挙権を、三十歳以上の男子に立候補する権利をあたえ、普通選挙制を成立させた。しかし、女子には選挙権がなかった。

治安維持法

社会運動をとりしまる法律。一九二五年、普通選挙制が成立したときの国会で、枢密院や貴族院の要求でつくられた。この法律によって、多くの社会主義者や労働組合の活動家が処ばつされ、「世界の悪法」といわれた。一九四五年に廃止された。

第5部
カラー資料室

明治からの新しい世の中

武家政治がたおれ、外国の進んだ文明にふれていくうちに、議会政治への要求が高まっていった。

黒船の来航

江戸時代
一六〇三年～一八六七年

↑黒船来航。黒船におどろいた幕府は、沿岸の警備を固めた。

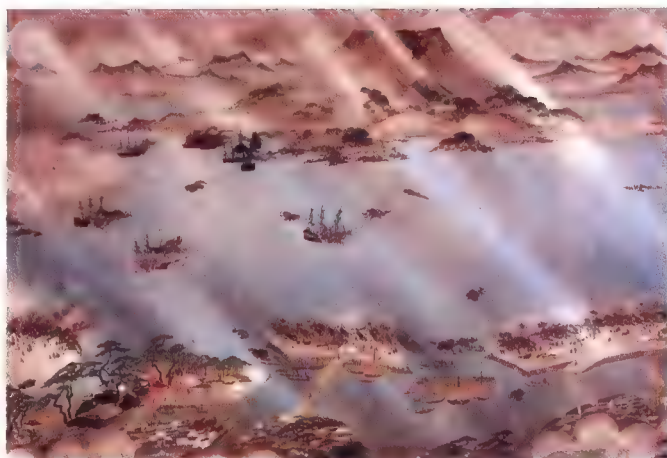
↓ハリス登城の図。1856年、アメリカの初代駐日総領事として下田に来たハリス（中央の人）は、その後、日米修好通商条約を結んだ。（東京大学史料編纂所）

一八五三年、アメリカのペリーが軍艦を率いて浦賀（神奈川県）に来航し、開国を強く要求した。幕府は、翌年の返事を約束したものの、態度を決められないままに年をこしてしまい、ペリーにおしきられた形で日米和親条約を結んで、開国した。

江戸から明治へ

明治
一八六八年～一九一二年

開国後の動乱の中で、尊王攘夷や討幕の動きが生まれ、高まりを見せた。
こうした動きに、幕府は、大政奉還を行って政権を朝廷に返し、長かった武家政治は終わりをつげた。

外国との戦い

➡薩英戦争。一八六三年、イギリス艦隊は生麦事件の報復として鹿児島を砲撃し、大きな損害をあたえた。これ以後、薩摩藩は開国へと方針を変えていった。
（尚古集成館）

➡四か国連合艦隊に砲台を占領された長州藩。攘夷が不可能であると知った長州藩も、開国へと方針を変えた。

政権の動き

⬇大政奉還。15代将軍徳川慶喜は、二条城で大政奉還の決意を諸大名に告げた。一段高いところでこちらを向いているのが慶喜。
（明治神宮聖徳絵画館）

一廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
一上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
一官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦マサラシメン事ヲ要ス
一舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
一智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
我國未曾有ノ變革ヲ爲ントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンシ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

◆五か条の御誓文。（宮内庁）

◆五か条の御誓文を発表する明治天皇。（明治神宮聖徳絵画館）

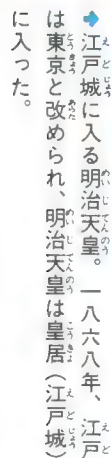
◆小御所会議。この会議で、徳川慶喜は官位を取り上げられた。（明治神宮聖徳絵画館）

旧幕府側の反抗

◆鳥羽・伏見の戦い。小御所会議の決定に不満を持つ徳川慶喜は、一万五千の兵を率いて挙兵したが、新政府軍に敗れた。

（明治神宮聖徳絵画館）

新しい都・東京

◆江戸城に入る明治天皇。一八六八年、江戸は東京と改められ、明治天皇は皇居（江戸城）に入った。

文明開化の世の中

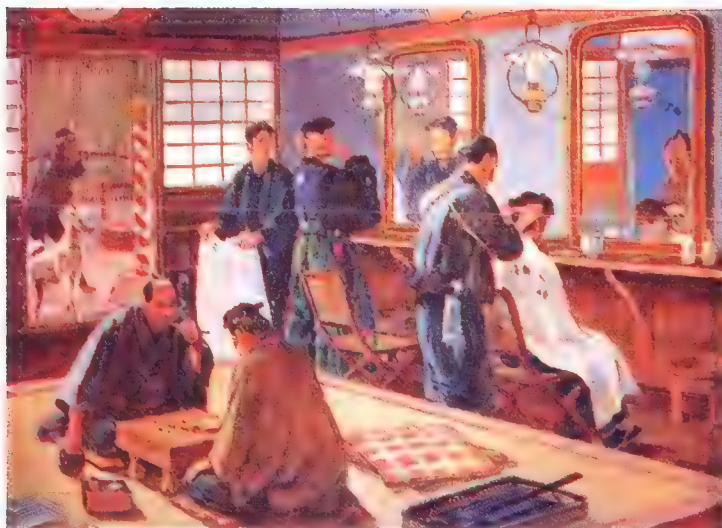
明治
一八六八年～一九一二年

明治維新後の十数年間は、文明開化の時代といわれている。急激に日本に入ってきた西洋の進んだ文明は、日本の制度や思想、生活に大きな変化をもたらした。

交通

陸蒸気。一八七二（明治五）年、東京の新橋～横浜間に鉄道が開通した。写真は、品川駅に下りの蒸気機関車が入ってきたところ。

文明開化の銀座。鉄道馬車や人力車が走り、れんがづくりの建物がたちならんでいる。ガス灯や洋服を着た人々も見える。 （味燈書屋）

くらし

明治の初めごろの床屋。1871年、政府が国民にまげを切ってもよいという散髪脱刀令を出すと、人々はきそってざんぎり頭にした。

牛なべ。肉食も広まり、牛なべ(すき焼き)を食べることが流行した。

教育

旧開智学校。1876年に完成した洋風建築の小学校(松本市)。近代的な学校制度も整ってきた。

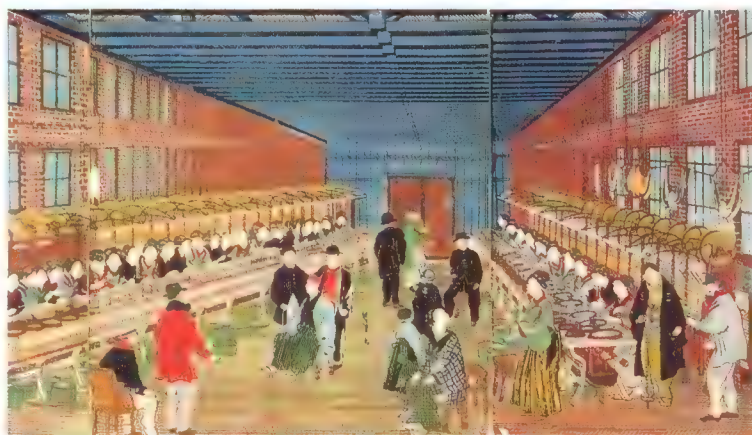
(旧開智学校管理事務所)

小学校の授業風景。最初は江戸時代の寺子屋ていどのものが多く、多くの学校では、先生1人に生徒が30～60人くらいだった。

(味燈書屋)

産業

第一国立銀行。一八七三年に開業した、わが国初の銀行。

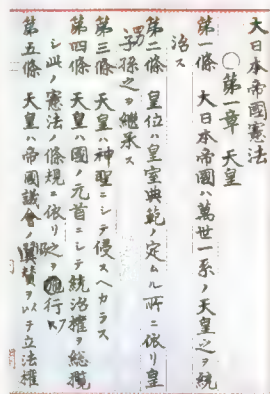
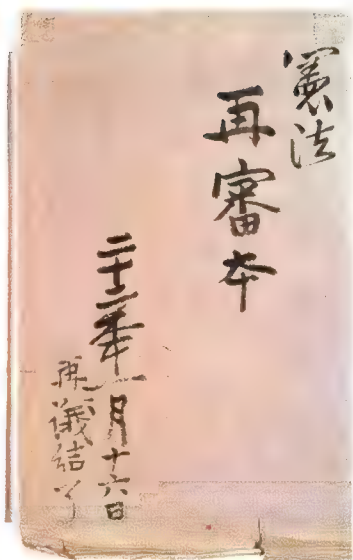
(黒船館)

富岡製糸場。1872年に操業を開始した群馬県の官営工場。

憲法発布と議会開設

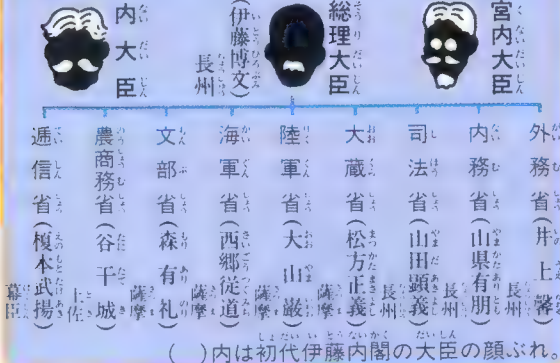
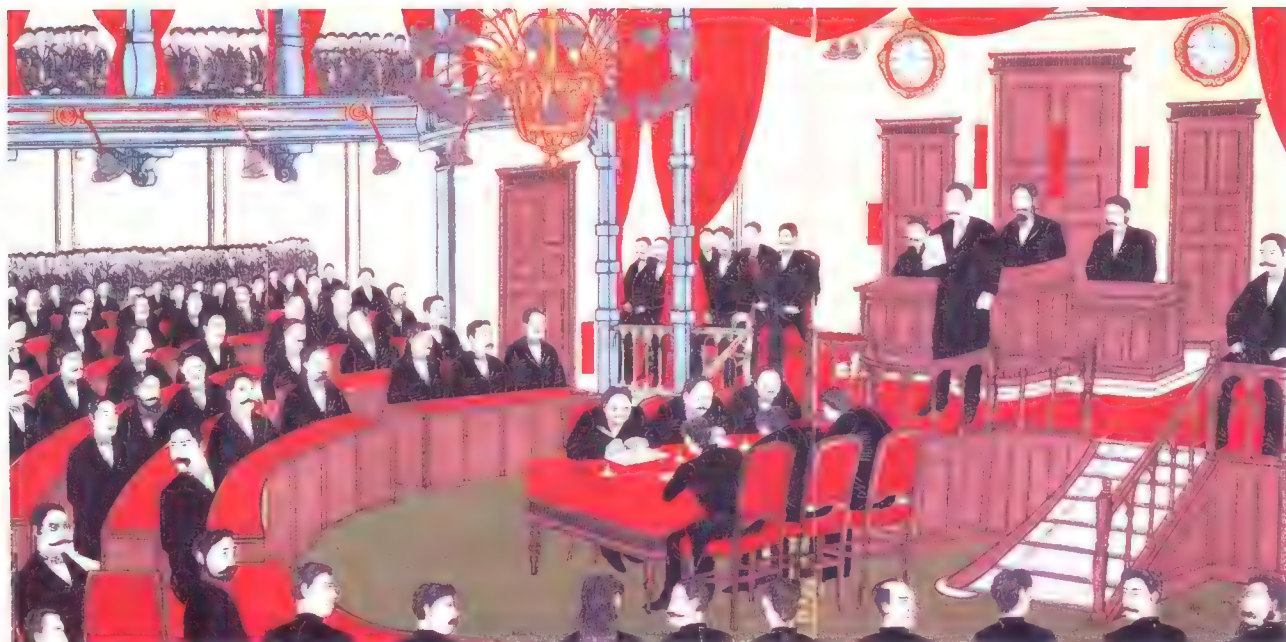
明治
一八六八年～一九一二年

維新に大きな働きをした藩の出身者たちは、政府の要職を独占し、藩閥政治を行っていた。そのため、憲法を定めて国会を開き、国民を政治に参加させようとする動きが生まれた。

これに対して、政府は国会の開設を約束し、伊藤博文らが中心となって憲法の作成を始めた。そして、一八八九（明治二十二）年、主権が天皇にあること、二院制の帝国議会を開くことなどを決めた大日本帝国憲法を発布し、翌年、第一回帝国議会が開かれた。

大日本帝国憲法
第一章 天皇
第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス
第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス
第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス
第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ
第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權

大日本帝国憲法の草案。ドイツの憲法を参考にしたもので、天皇は絶対的な権威を持っていた。（国学院大学梧陰文庫）

大日本帝国憲法の発布式。1889（明治22）年２月11日、宮中において、明治天皇から総理大臣に憲法が授けられた。（明治神宮聖徳絵画館）

➡帝国議会議事堂。右側が貴族院、左側が衆議院。貴族院は皇族や華族、天皇の任命した者からなっていた。(味噌書屋)

帝国議会は、貴族院と衆議院の二院からなり、衆議院は一部の国民の選挙で選ばれた。十一月の議会開設に向けて行われた第一回総選挙では、反政府の民党が過半数をしめた。

➡帝国議会では、衆議院の多数をしめた民党が言論で藩閥政治に立ち向かった。(山口県立山口博物館)

明治・大正の文化

明治・大正
一八六八年～一九二六年

明治の中ごろから大正にかけて、義務教育が広まり、私立学校が開かれるなど、高等教育機関も整備されてきた。また、ヨーロッパのえいきょうを受けた文学や美術が発展し、医学や化学・物理学などの自然科学も大きな発達を見せた。

科学

↑長岡半太郎
原子模型の研究につくした。

↑志賀潔
赤痢菌の一種を発見した。

↑北里柴三郎
破傷風の血清療法を発見した。

野口英世
(1876～1928)

福島県猪苗代湖のほとりの貧しい農家に生まれ、苦学して医師の試験に合格し、北里柴三郎の伝染病研究所に入る。その後、アメリカへわたってロックフェラー医学研究所員になり、梅毒の細菌の研究で世界的に有名になった。さらに黄熱病の研究に取り組み、アフリカに行って研究中に、自分も黄熱病にかかって死んだ。

文学

↑夏目漱石
『坊っちゃん』『こころ』などを発表した。

↑森鷗外
『舞姫』『高瀬舟』などを発表した。

↑樋口一葉
『にごりえ』『たけくらべ』などを書いた。

↑正岡子規
写実主義の俳句を発表した。

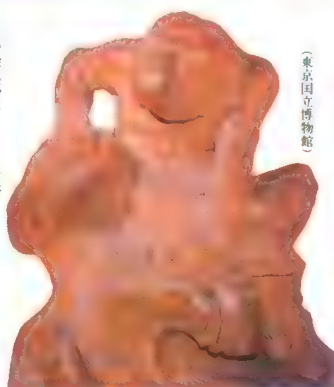
美術

(東京国立文化財研究所許可済)

←黒田清輝の『湖畔』。フランスから印象派の画風を伝えた。

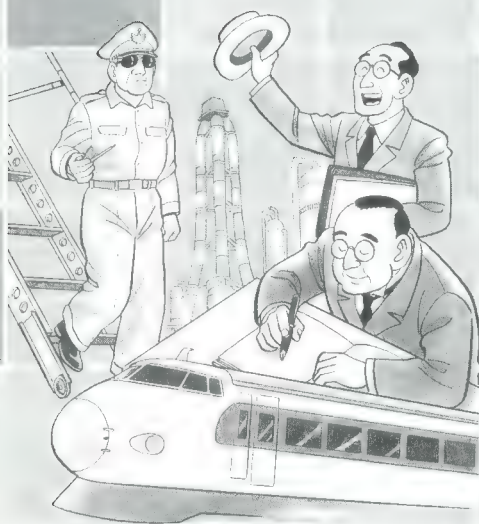
(東京国立博物館)

↑高村光雲の『老猿』。老いたさるを写実的に表現した彫刻。

第6部 戦争から平和な世の中へ

第６部では，戦争が続いた昭和の初めから，第二次世界大戦とその後の平和への歩みを見てみよう。

1 15年にわたる戦争 242　2 新しい日本の出発 251

（１万年前）　(2200年前) 紀元元年　500年　1000年　1500年　明治　昭和

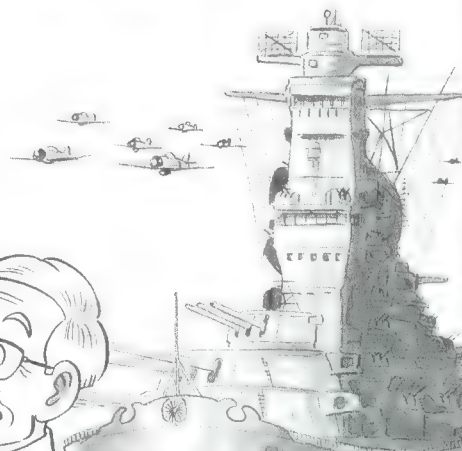
旧石器時代　縄文時代　弥生時代　大和時代　奈良時代　平安時代　鎌倉時代　室町時代　安土桃山時代　江戸時代　大正　平成

1 15年にわたる戦争

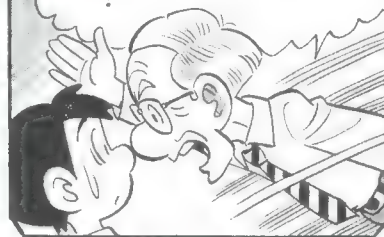
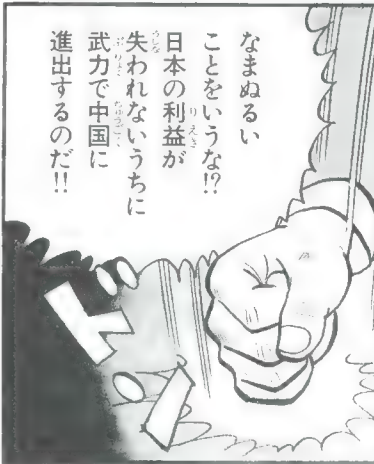
F・ルーズベルト
(1882〜1945)

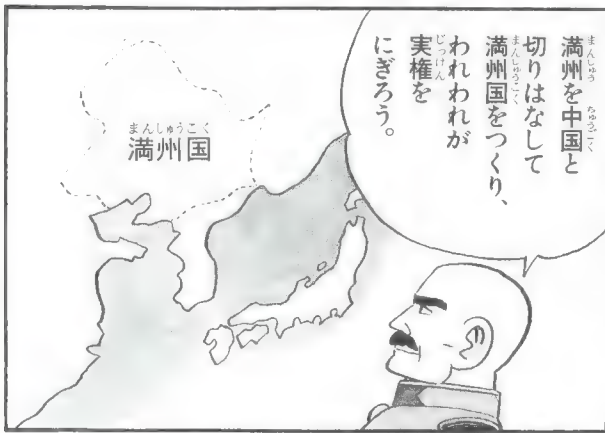
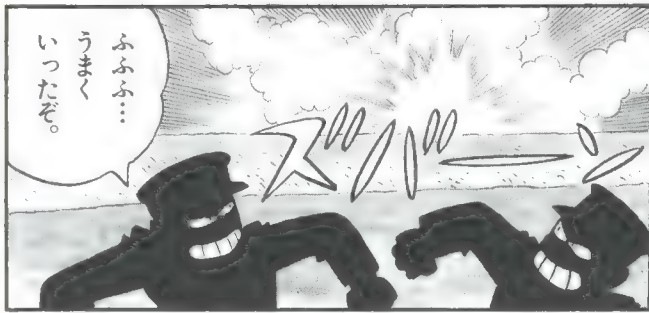
アメリカの第三十二代大統領。一九二九年から始まった経済の混乱を立て直すため、ニューディール政策(産業復興計画)を行い、景気を回復させた。

世界恐慌

恐慌とは急激に不景気になることで、一九二九年、アメリカで始まった恐慌は、世界各国に広まり、会社が倒産して失業者がふえ、経済が混乱した。

261ページからのカラー資料室も参照しよう。

中国大陸への侵略

金はないし仕事もないし、どうやって生活すればいいんだ。
せめて預金でもあればな…。
それはどうかな。あれを見ろよ。

経済の混乱

日本では、大正から昭和になると、不景気がますますひどくなり、人々が銀行におしかけて預金を引き出そうとしたので、銀行がつぎつぎに倒産した。そこへ世界恐慌の波がおそってきたので、都市では会社がつぶれ、失業者があふれた。農村では農作物の値段が下がったうえ、冷害におそわれ、生活に苦しんだ。そのため、労働争議や小作争議がしきりにおこり、暗い世の中になっていった。

松岡洋右
(1880～1946)

一九三三年、満州国をめぐる問題から、日本が国際連盟を脱退したときの日本代表。のち外務大臣になり、日独伊三国同盟や日ソ中立条約を結んだ。

満州事変

一九三一年、南満州鉄道の爆破事件をきっかけに、関東軍（満州においた日本軍）が戦いをおこして、満州を占領し、翌年、満州国を成立させた。

国際連盟

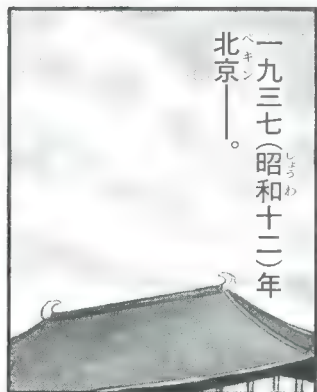
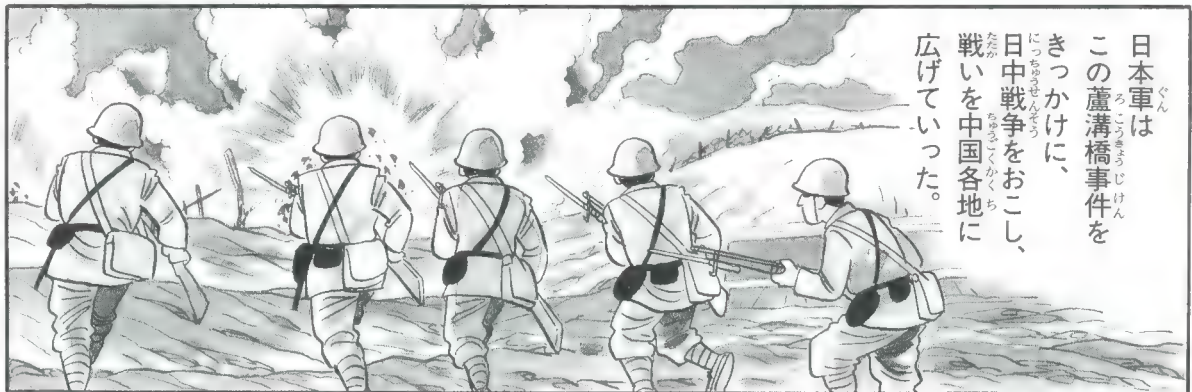
一九二〇年、世界平和を守るためにつくられた組織。アメリカは加わらず、イギリス・フランス・日本が中心になったが、後に日本は脱退した。

一九三六(昭和十一)年
二月二十六日には
陸軍の若い将校
たちが兵を
率いて反乱を
おこした。

2.26事件

くさりきった
政治家や
軍人をたおして
世の中を正すのだ!!

この反乱で
有力な政治家が
暗殺された。

すぐに
こっちも
攻撃しろ!!

5・15事件

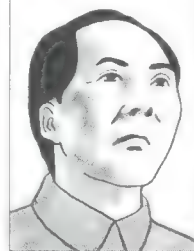
一九三二年五月十五日、海軍の青年将校らが犬養毅首相を暗殺した事件。これによって政党政治が終わり、軍部の政治への発言が強まった。

2・26事件

一九三六年二月二十六日、陸軍の青年将校たちが反乱をおこし、有力な政治家を暗殺した。これ以後、軍部が政治を支配するようになった。

蘆溝橋事件

一九三七年七月、北京郊外の蘆溝橋で演習をしていた日本軍が、中国軍から発砲を受けたとして、中国軍を攻撃した事件で、後、日中戦争へ発展した。

毛沢東
(1893〜1976)

一九二一年、中国共産党を結成し、日中戦争中は抗日統一戦線をつくって日本軍と戦った。第二次世界大戦後、国民政府軍をしりぞけて、一九四九年、中華人民共和国をたてた。

蔣介石
(1887〜1975)

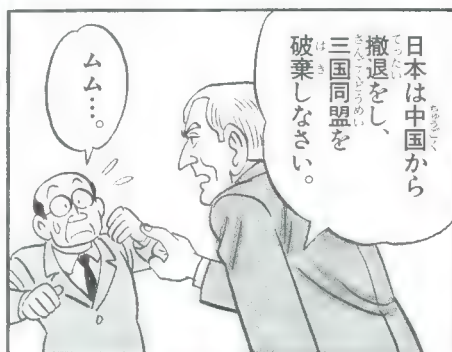
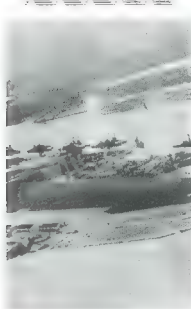
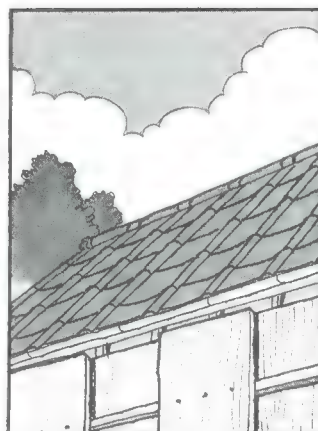
中国の政治家。一九二八年、国民政府主席となる。日中戦争では、毛沢東が指導する中国共産党と戦ったが、戦後、共産党との内戦に敗れ、一九四九年、台湾にのがれた。

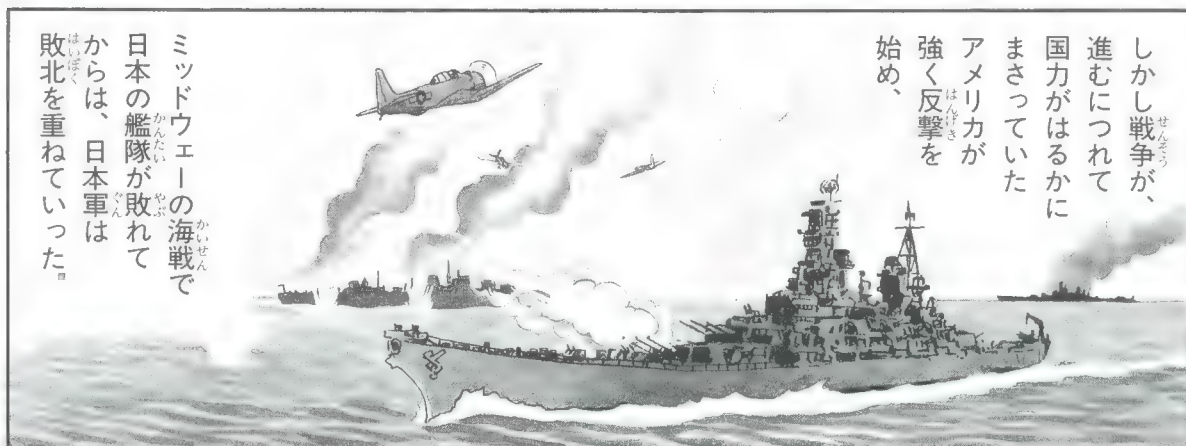
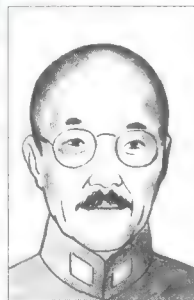
太平洋戦争と日本の敗戦

第二次世界大戦

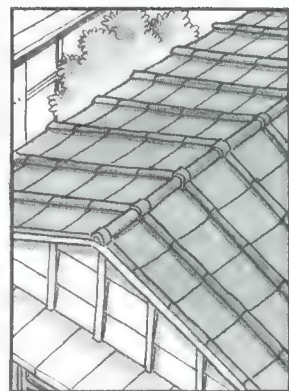
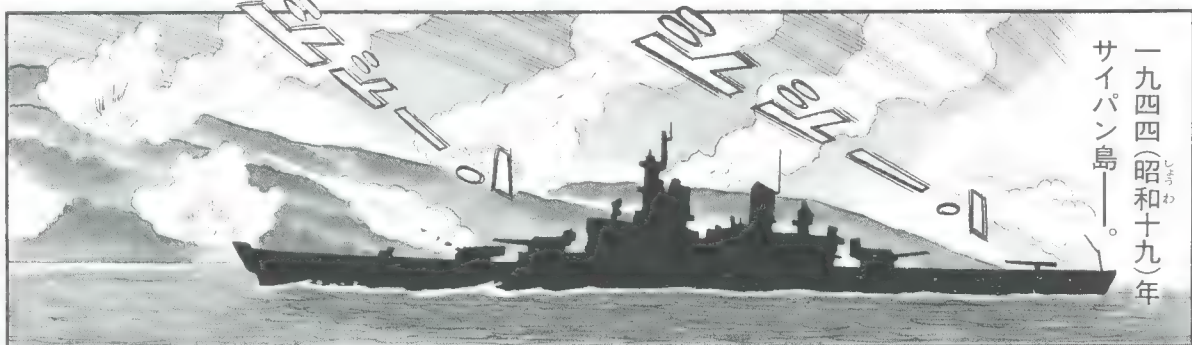
一九三九年、ドイツとイギリス・フランスとの間に、大戦が始まった。日本はドイツ・イタリアと三国同盟を結んだため、アメリカ・イギリスと対立し、一九四一年、ハワイの真珠湾を攻撃し太平洋戦争を始めた。日本軍ははじめ有利であったが、しだいにおされはじめた。やがて、イタリア・ドイツが降伏し、一九四五年、広島・長崎に原子爆弾が落とされ、ソ連も対日参戦し、ついに日本は降伏した。

（写真は、日本軍の真珠湾攻撃。）

しかし戦争が、進むにつれて国力がはるかにまさっていたアメリカが強く反撃を始め、ミッドウェーの海戦で日本の艦隊が敗れてからは、日本軍は敗北を重ねていった。

東条英機

(1884〜1948)

一九四一年、陸軍大臣として日米開戦を主張し、ついで総理大臣となり、太平洋戦争を開始した。独裁的な政治を行ったが、戦争が不利になって辞職した。戦後、軍事裁判で処刑された。

ミッドウェー海戦

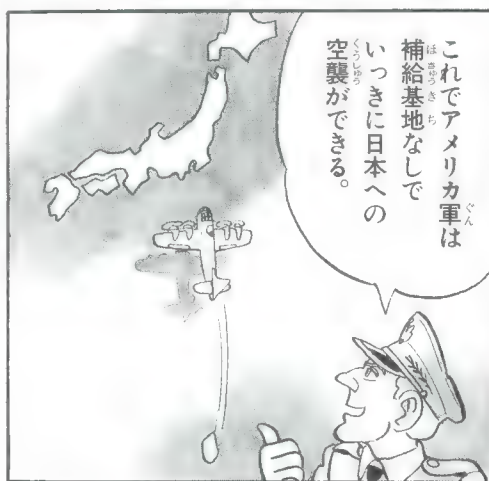
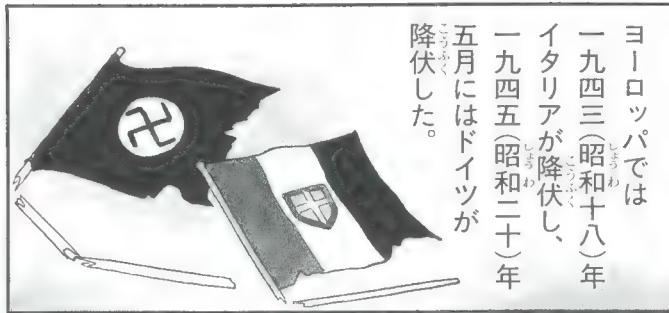
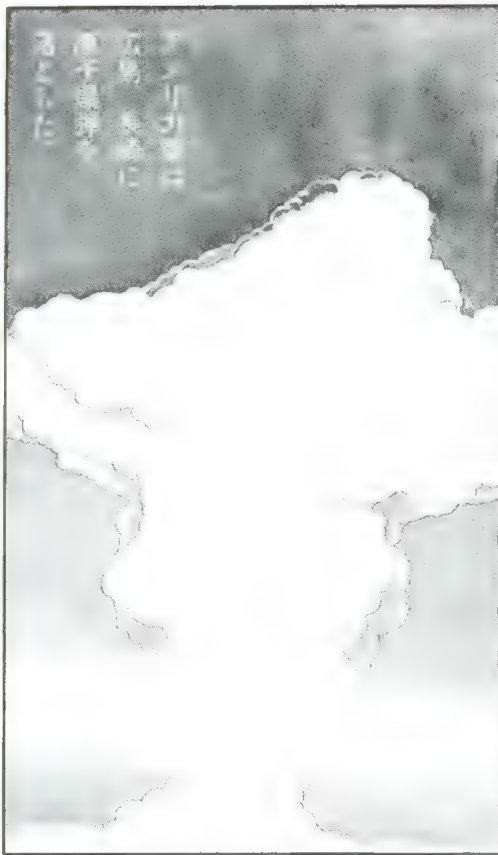
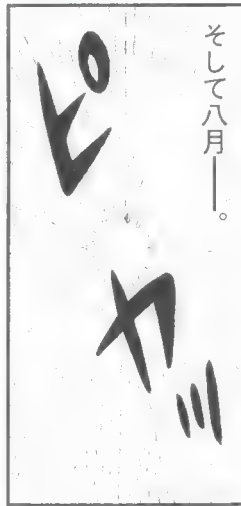
一九四二年、太平洋のミッドウェー島付近で、日本海軍がアメリカ軍と戦って敗れた。日本軍は多くの飛行機と人を失い、この戦い以後、敗退を続けるようになった。

赤紙

日本の軍隊が、徴兵検査に合格した国民に対して、軍隊へ入ることを命じた通知。赤い紙を利用したので、この召集令状を赤紙といった。

本土空襲

太平洋戦争中、アメリカ空軍による日本本土の爆撃。一九四四年～一九四五年に約百の都市が空襲を受け、四大工業地域はほとんど焼かれた。

集団そかい

アメリカ軍の空襲に備えて、一九四四年から、大都市の小学生たちは親もとをはなれ、空襲の少ない地方へ、学校単位で集団でひなんした。

ヒトラー

(1889～1945)

一九三三年、ドイツのナチス党首になり、つづいて首相、総統となって独裁政治を行う。イタリアのムッソリーニと結んで対外侵略を進め、一九三九年、第二次世界大戦をおこした。

ポツダム宣言

一九四五年七月、ドイツのポツダムで会議したアメリカ・イギリス・中国（のちにソ連も加わる）が、日本に降伏をすすめた宣言。日本の降伏条件と戦後の日本占領の方針が示された。

2 新しい日本の出発

戦争に敗れた日本は、GHQの指示により、政治や社会の改革を行い、民主的な国家へと生まれ変わっていった。

日中戦争や太平洋戦争で死んだ日本人の数は、約三百三十万人といわれているんだ。

＊GHQは、連合国軍総司令部のこと。

軍隊の解散

連合国軍総司令部は、日本がふたたび戦争をしないように軍隊をなくし、戦争を指導した者を処罰したり、公職から追放したりした。

新選挙法

一九四五年に選挙法が改正され、いままで二十五歳以上の男子だけだったのが、二十歳以上の男女が選挙権をもつように変わった。

財閥解体

一九四五年、連合国軍総司令部は経済の民主化を進めるため、日本の産業を支配してきた三井・三菱などの財閥を解散させた。

261ページからのカラー資料室も参照しよう。

日本国憲法の制定

一九四五年八月
戦争が終わり、
連合国軍
最高司令官
マッカーサーが
やってきて、
東京にGHQを置き、
占領政策を
始めた。

マッカーサー
(1880〜1964)

アメリカの軍人。連合国軍西南太平洋方面総司令官として、対日作戦を指導した。日本の降伏後は、連合国軍最高司令官として日本の占領政策を実施し、日本の民主化を進めた。

農地改革

農村の民主化をはかるため、一九四五年から行われた農地制度の改革。封建的な地主制度をなくすため、地主の土地所有を制限し、土地を小作人に安く分けて、自作農を育てた。

地主から国が安く買いあげて、わしら小作人にただみたいな値段で売ってくれたぞ――!!

やったぁ、これで自分の土地だ――!

戦争に負けたときはどうなるかと思ったが、

米軍は、わしらにとってありがたい改革をしてくれている。

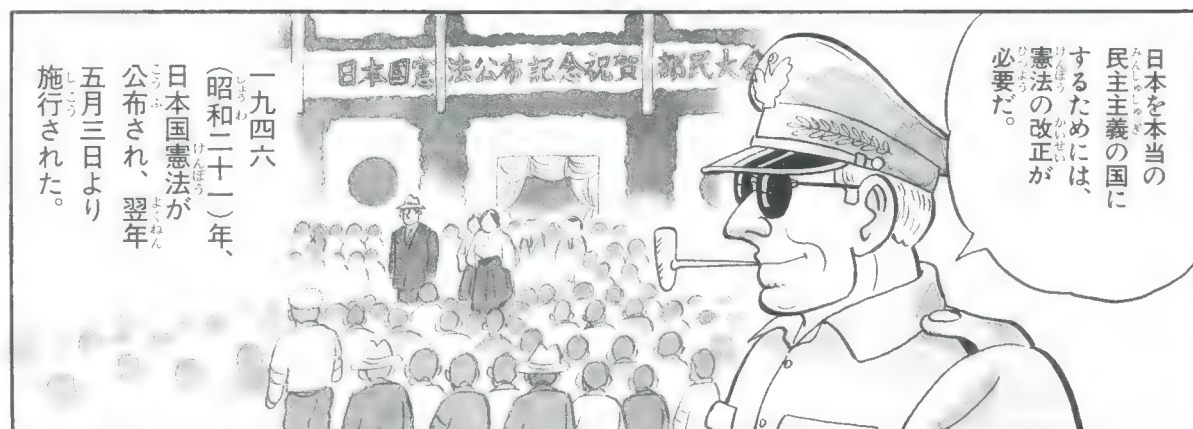
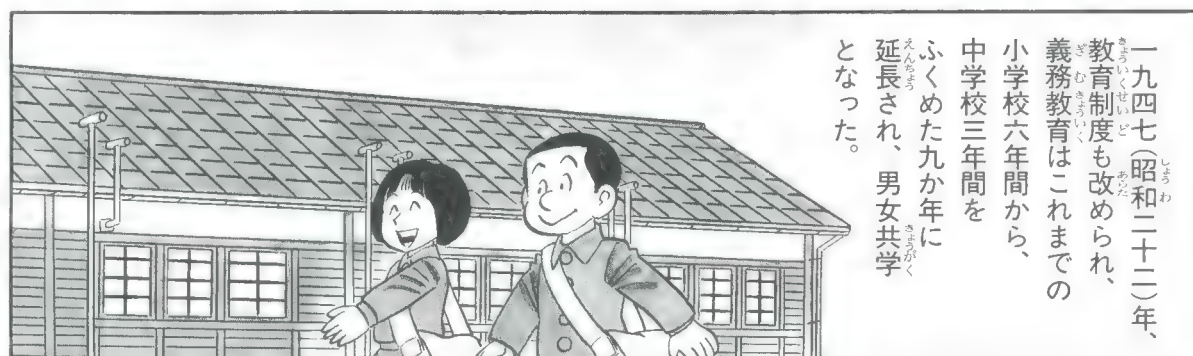
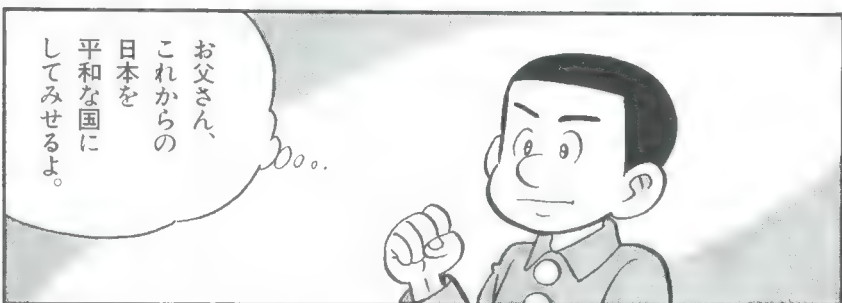
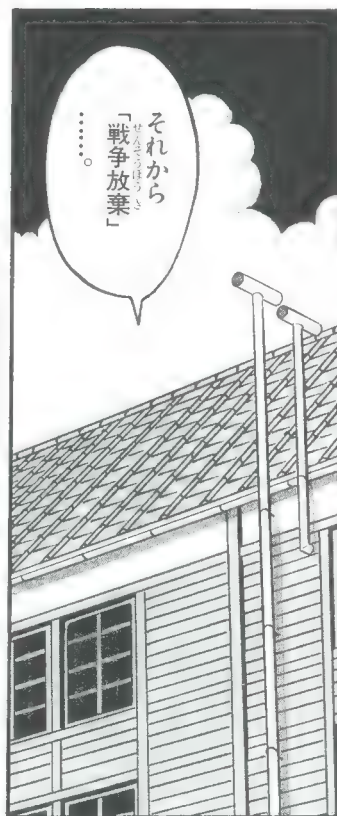
そういえば、労働者の権利も認められたらしいね。

うん…、労働組合もつくられているし、治安維持法もなくなった。

労働組合法

一九四五年、連合国軍総司令部の指令で、労働者の地位と生活を向上させるために制定した法律。この法律で、労働者が団結する権利、使用者と団体交渉する権利、要求を通すためにストライキなどを行う争議権が認められた。

教育制度の改革

一九四七年、教育基本法が定められて、男女共学などの民主的な教育方針が示された。そして学校教育法で、小学校六年、中学校三年、高等学校三年、大学四年とされ、義務教育もそれまでの小学校六年から、小・中学校九年間に延長された。

日本国憲法

大日本帝国憲法にかわって、一九四六年十一月三日に公布され、一九四七年五月三日から施行された新しい憲法。この憲法は、政治を動かす主権を国民がもち、人間が生まれながらにもっている基本的な人権を尊重し、軍隊などの戦力をもたず永久に戦争を放棄することの三つを原則とする民主的な平和憲法である。また、天皇は国家の象徴とされ、国民の代表者による国会が、国権の最高機関と定められた。

独立の回復と国連加盟

第二次大戦後、アメリカとソ連は対立するようになった。

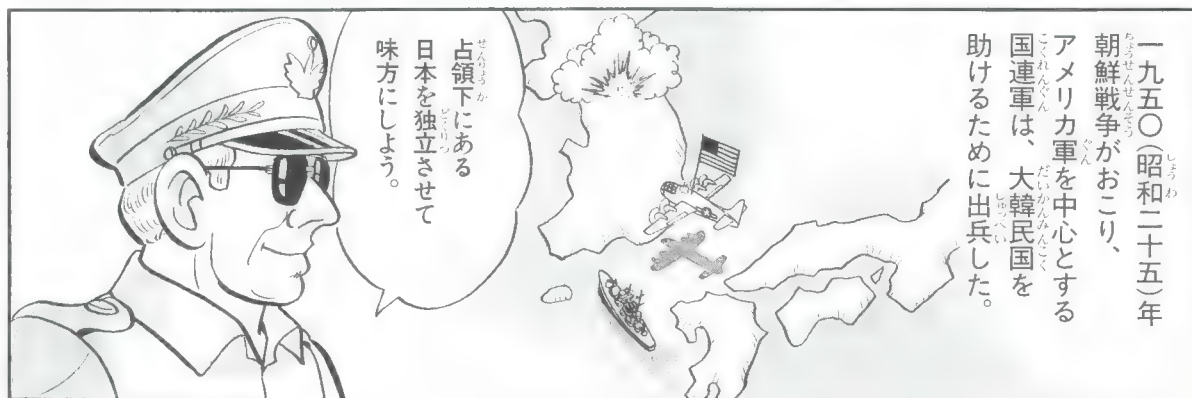
冷たい戦争というんだ。

直接戦争にはならない対立だ。

冷たい戦争

第二次世界大戦後、アメリカを中心とする西側と、ソ連を中心とする東側の対立のこと。戦火は交えなかったが、きびしく対立したので、こうよんだ。

朝鮮戦争

一九五〇年に始まった朝鮮民主主義人民共和国と大韓民国との戦争。一九五三年、北緯三十八度線を境界とする休戦協定が結ばれたが、対立は続いた。

サンフランシスコ平和条約

一九五一年、サンフランシスコで、連合国四十八か国と日本との間で結ばれた講和条約。翌年、効力を発し、日本は独立を回復した。

それはつまり、アメリカ軍は日本の各地の軍事基地にとどまり、極東の安全のためには、米軍が出動することも認められている。

国際連合への加盟も認められたし、ようやく世界の国々の仲間入りをすることができた。

一九七二（昭和四十七）年には、アメリカが治めていた沖縄も返還されたし…、

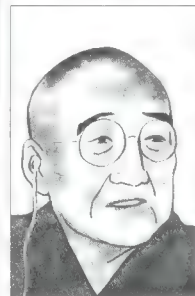
となりの中華人民共和国との国交も開かれ、

日本

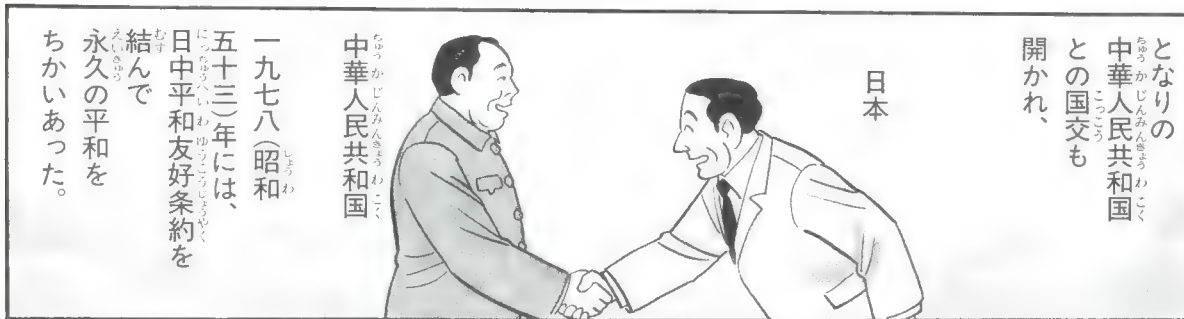
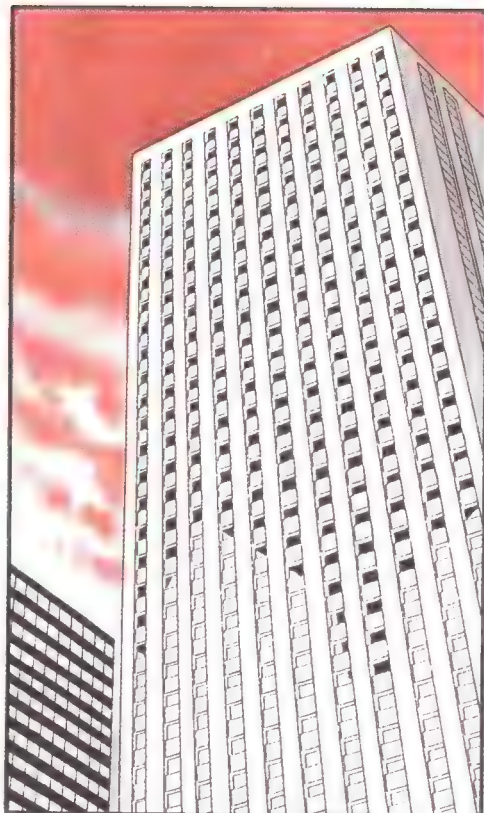
中華人民共和国

一九七八（昭和五十三）年には、日中平和友好条約を結んで永久の平和をちかいあった。

吉田茂

(1878〜1967)

一九四六年、日本自由党総裁になって内閣を組織し、一九五四年まで八年間首相をつとめた。その間、日本国憲法を制定し、サンフランシスコ平和条約と日米安全保障条約を結んだ。

日米安全保障条約

一九五一年に結ばれた条約で、日本にアメリカ軍の基地を置き、アメリカ軍が駐留することを認めた。一九六〇年、条約の改定が行われたとき、激しい反対運動が展開された。

産業がめざましく発展した

国連加盟

一九五六年、日ソ共同宣言が発表されて、日ソ間の戦争状態が終わり、国交が開かれた。これによって、いままで反対していたソ連が、日本の国際連合加盟を支持したので、日本は八十番めの加盟国となって、国際社会に復帰した。

経済の復興

一九五〇年、朝鮮戦争がおこると、アメリカ軍が大量の物資を日本に注文したので、日本は好景気になり、経済が復興した。さらに一九六〇年代になると、池田内閣の所得倍増計画で経済はいちじるしく成長し、国民総生産が世界第二位になった。

その後も重化学工業を中心に、新しい技術や設備を取り入れ、自動化が進むなど、世界でも有数の工業国になったんだ。

湯川秀樹
(1907～1981)

一九四九年、日本人として初めてノーベル賞を受けた物理学者。一九三四年に中間子理論を発表し、それが認められてノーベル物理学賞を受けた。

朝永振一郎
(1906～1979)

物理学者で、理化学研究所に入り、仁科芳雄のもとで量子力学を研究し、一九六五年、湯川秀樹についでノーベル物理学賞を受けた。

川端康成
(1899～1972)

一九六八年、日本で初めてノーベル文学賞を受けた小説家。『伊豆の踊子』『雪国』『山の音』など、美しさを追求した作品を書いた。

東京オリンピックや
大阪の万国博覧会
なども開かれ、
国際親善を深め、
世界での立場を
強めていったんだ。

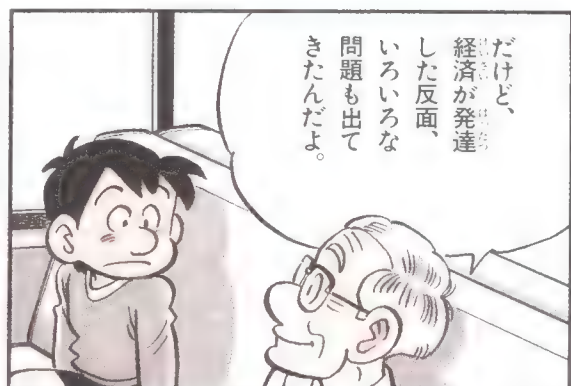
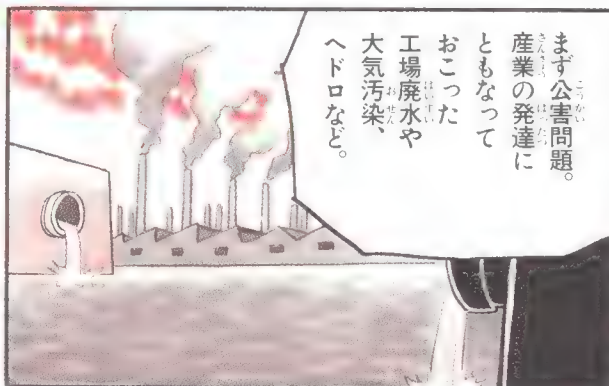
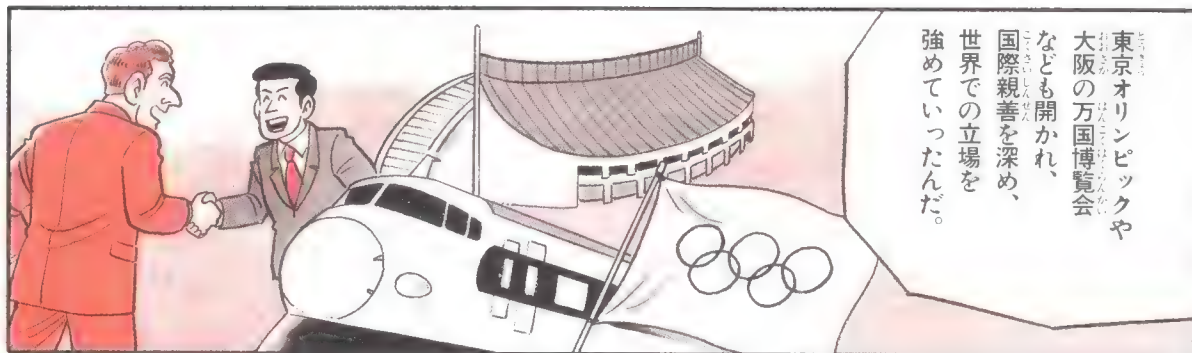
まず公害問題。
産業の発達に
ともなって
おこった
工場廃水や
大気汚染、
ヘドロなど。

社会問題の発生

経済の急激な発展によって、大都市への人口集中が進み、都市の過密と農山漁村の過疎の問題が生まれた。また、大気汚染、水質汚濁、騒音などの公害が大きな社会問題となってきた。

（ヘドロでよごれた静岡県田子ノ浦港 一九七一年。）

貿易まさつ

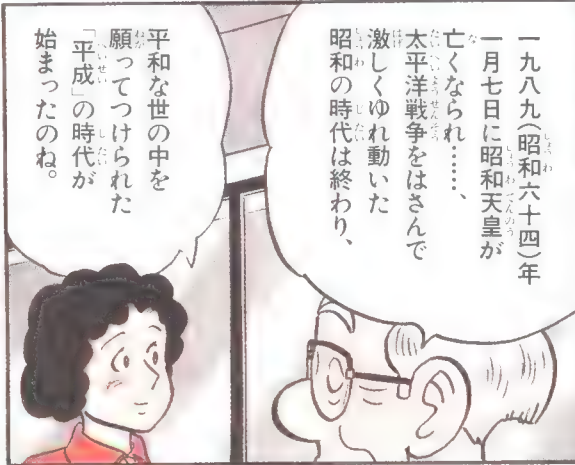
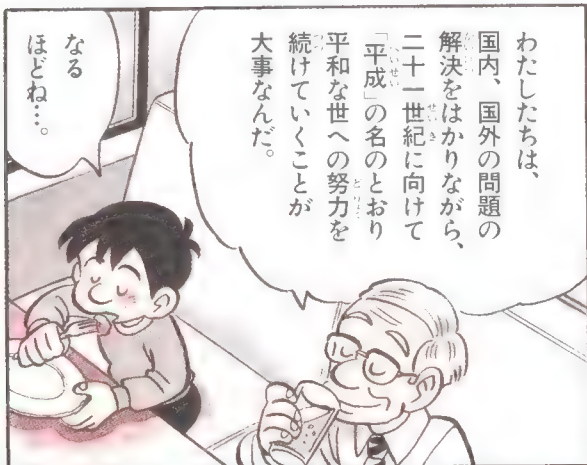
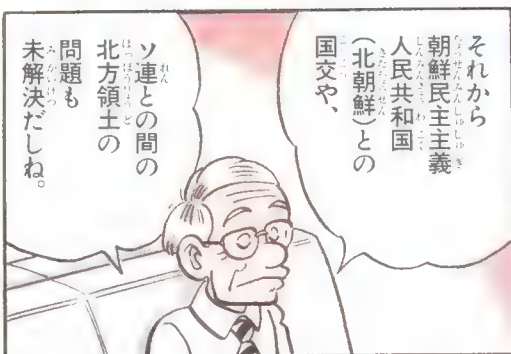
日本製品の輸出が増大したため、貿易のバランスがくずれるとして、アメリカやヨーロッパ諸国が、日本の貿易に対し、輸出の制限や輸入の増加など、いろいろな要求をしてきた。

昭和天皇

(1901～1989)

第百二十四代の天皇。一九二六年に即位し、最長期間の天皇となった。第二次世界大戦後、人間天皇の宣言をし、さらに日本国憲法により、日本の国と国民統合の象徴になった。

平成時代

一九八九(昭和六十四)年一月七日、昭和天皇が亡くなり、激動の昭和時代は終わった。皇太子が新天皇に即位し、世界平和への願いをこめて年号を「平成」と決め、新しい時代が始まった。

第6部 カラー資料室

戦争から平和な世の中へ

二度の世界大戦を経て、日本は軍国主義から民主主義へと変わり、平和な世の中となった。

職を求める小学校卒業生。多くの中小企業が倒産し、大企業も労働者の整理を行ったので、失業者がふえた。写真は、職業紹介所をたずねる小学校卒業生。（共同通信社）

銀行の取りつけさわぎ。1927（昭和2）年、不景気に不安を感じた人々は、争って銀行預金を引き出そうとした。休業する銀行が続出し、銀行や企業の倒産が続いた。（YNC）

不況の時代

昭和 一九二六年～一九八九年

第一次世界大戦中、交戦国への輸出で日本の経済や産業は大きく発展した。しかし、大戦後は、輸出や国内の需要がへり、一九二九年におこった世界恐慌のあおりを受けて、経済は混乱し、企業の倒産や失業者がふえるなど、不況の時代をむかえた。

農村の不況。一九三一（昭和六）年、北海道・東北をおそった冷害は、不況に追いうちをかけ、農民の生活を直撃した。写真は、小学校でたき出しを受ける子供たち。（朝日新聞社）

うち続く戦争

昭和　一九二六年～一九八九年

満州事変

中国軍を攻撃する日本軍。1931（昭和6）年、軍部は奉天（今の瀋陽）郊外の柳条湖（溝）で南満州鉄道を爆破し、これを中国のしわざとして、満州事変をおこした。（朝日新聞社）

不況の中で、三井・三菱・住友などの財閥は、倒産寸前の企業を合併して力をのばした。財閥と組んで、その利益を優先する政党政治に不満を持った軍部は、不景気をうちくだくために、中国への侵略を主張するようになった。

満州事変を調べるリットン調査団。国際連盟はリットン調査団を派遣し、日本の軍事行動は不当であり、満州から引き上げるように勧告した。

国際連盟総会から退出する松岡洋右全権大使（矢印）。国際連盟の勧告を不満とする日本は、1933年、国際連盟を脱退し、国際的に孤立した。（朝日新聞社）

満州国皇帝即位式。1932（昭和7）年、日本は満州国を建てて、清朝最後の廃帝溥儀（前列左より3人目）を皇帝とした。（YNC）

二・二六事件

二・二六事件の反乱軍。一九三六(昭和十一)年二月二十六日、国家の改造を唱える陸軍の青年将校らは、有力な政治家を殺傷して反乱をおこした。反乱は数日で平定されたが、これ以後、軍部の独裁が進んだ。(朝日新聞社)

日中戦争

北京郊外の蘆溝橋。満州国からさらに南下しようとする日本軍は、1937(昭和12)年、蘆溝橋で中国軍としょうとつし、日中戦争が始まった。(YNC)

中国の山岳地帯を進む日本軍。日中戦争が始まると、イギリス・アメリカ・フランス・ソ連が中国を助けたため、日本は苦戦し、戦争は長期化していった。(YNC)

中国の都市を占領する日本軍。内閣は、初め戦争の広がりをおさえようとしたが、軍部はこれを無視して戦争を進めていった。(YNC)

第二次世界大戦

昭和
一九二六年～一九八九年

戦争ぼっ発

長期化した日中戦争を打開し、資源を得るため、日本は大東亜共栄圏の建設を唱えて、東南アジアへの進出をはかった。一方ヨーロッパでは、ファシズム国家のドイツとイタリアが台頭し、領土を広げようとして、第二次世界大戦をおこした。

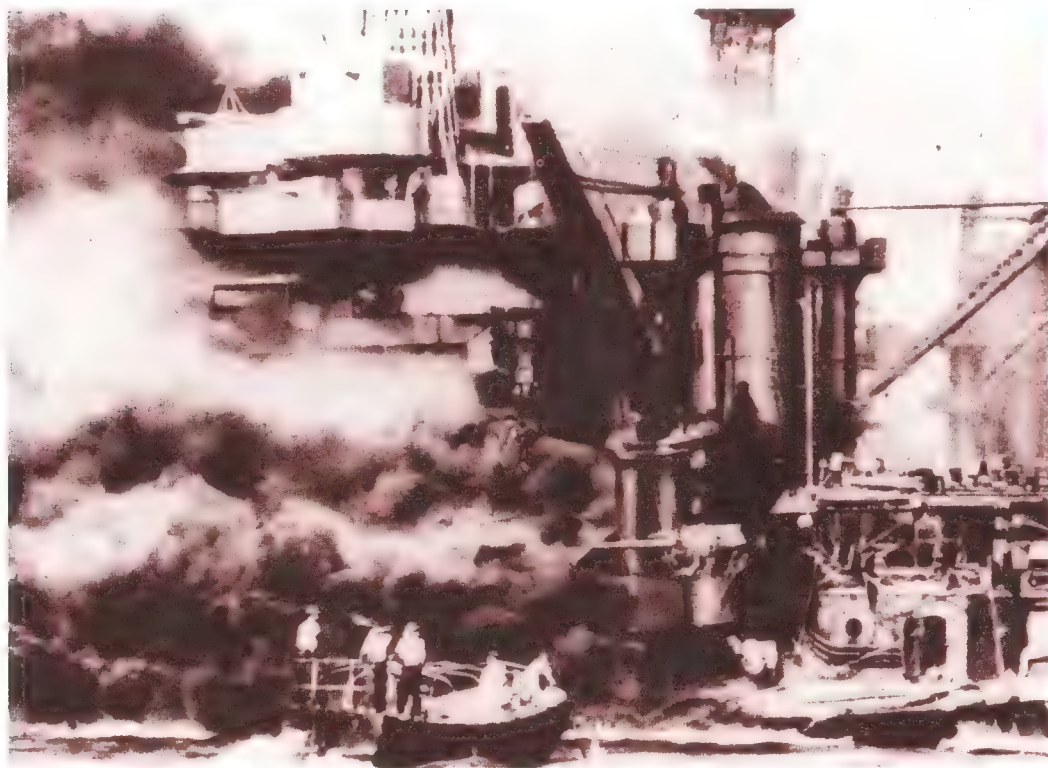
日本はドイツ・イタリアと三国同盟を結んでアメリカ・イギリスなどと対立するようになり、ついに一九四一(昭和十六)年、太平洋戦争が始まった。

開戦への動き

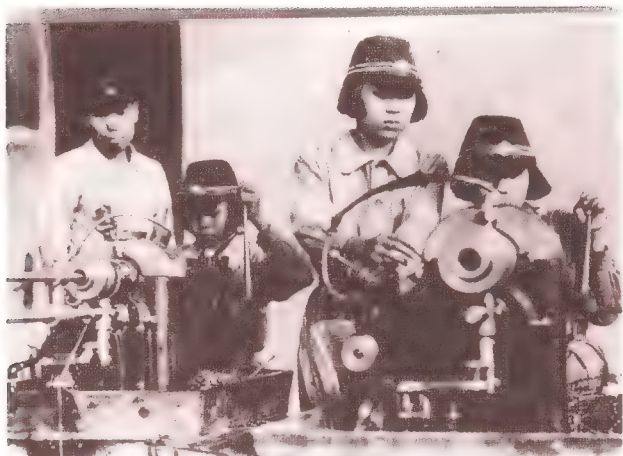
(朝日新聞社)

(YNC)

↑一九四〇(昭和十五)年に行われた三国同盟の調印。右はしが、日本の来栖大使。

↑東条内閣の成立。一九四一(昭和十六)年、首相となった陸軍大将東条英機(前列中央)。太平洋戦争を引きおこした。

↑真珠湾攻撃。1941(昭和16)年12月8日、日本軍はハワイの真珠湾を奇襲してアメリカ・イギリスに宣戦し、太平洋戦争が始まった。

(朝日新聞社)

戦争中のくらし

軍需工場で働く女子生徒。食料品や日用品は配給制となり、物資は不足し、中学生も兵器づくりにかり出された。

学童疎開。空襲をさけるため、都会の小学生たちは地方へと疎開した。

終戦

終戦直後の東京。1945(昭和20)年8月15日、戦争は終わったが、はげしい空襲で東京は焼け野原となった。

原爆投下

広島に落とされた原爆。一九四五（昭和二十）年八月六日に広島、九日に長崎に原爆が落とされ、四十万人以上の人々が亡くなったと推定される。

（朝日新聞社）

原爆で破壊された広島。

日本が負けたことを知って、くずれ伏す人々。長い長い戦争が終わった。

新しい日本の出発

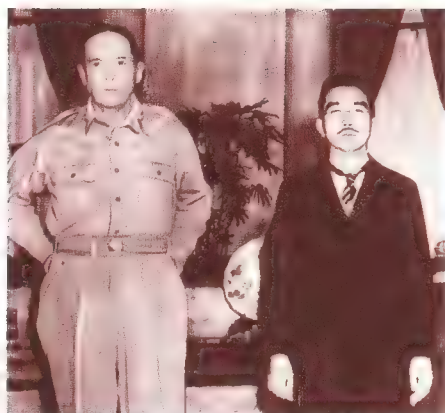
昭和〜平成
一九二六年〜一九九一年

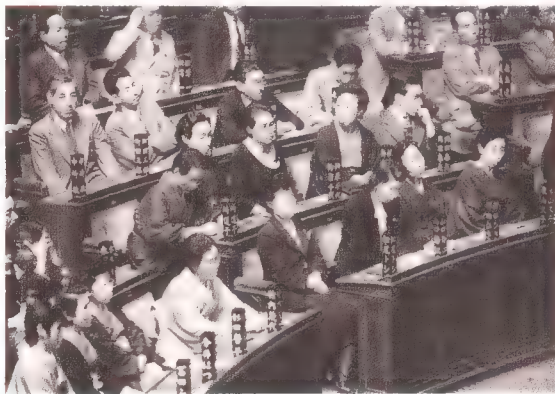
占領と新しい社会

戦後の日本は、軍国主義から民主主義国家へと大きく変わった。一九四六（昭和二十一）年には、日本国憲法が公布され、主権は国民にあること、基本的人権を保障すること、戦争を放棄すること、天皇は国民の象徴であることなどが定められた。

政治や経済の民主化も進み、一九五一（昭和二十六）年には、サンフランシスコで対日平和条約が結ばれ、日本は独立を回復した。

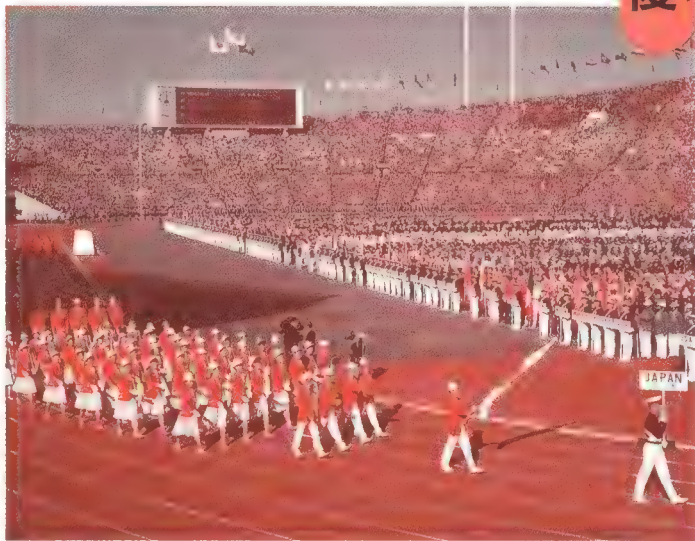
その後、日本は産業も大きく発展し、世界有数の経済大国となったが、貿易まさつや公害問題、国際社会への平和的な参加方法など、今後の課題が残されている。

（朝日新聞社）

↑昭和天皇とマッカーサー。連合国軍最高司令官マッカーサーは、戦後の日本を民主主義国家へと導いた。

↑復活したメーデー。言論・集会・出版の自由が回復し、とだえていたメーデーも復活した。　(YNC)

↑婦人代議士の誕生。1946（昭和21）年、戦後初の総選挙では、39名の婦人代議士が生まれた。

↑日本国憲法の公布を祝う人々。一九四六（昭和二十一）年十一月三日、日本国憲法が公布され、皇居前広場で祝賀会が開かれた。

独立の回復

対日平和(サンフランシスコ平和)条約に署名する吉田茂首相。この条約により、日本は独立を回復した。

東京オリンピック開会式。1964(昭和39)年に開かれ、94か国が参加した。日本の国力の発展を示した祭典でもあった。

豊かになった日本

京葉臨海工業地帯。戦後、日本の産業はめざましい発展をとげ、各地に大規模な工業地帯ができた。

立ちならぶ高層ビル。東京の新宿など、大都市には高層ビルがつくられ、高速道路も整備された。

公害の発生。産業は発展したが、有害物質をふくむけむりや水などが公害をひきおこし、大きな社会問題となった。

平成へ

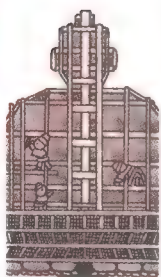
昭和天皇の大喪の礼。1989(平成元)年2月24日、昭和天皇の大喪の礼がしめやかに行われ、昭和にかわって平成の世の中となった。 (YNC)

巻末資料 歴史早わかりコーナー

資料1 奈良の大仏は、このようにして作られた

奈良市東大寺にある大仏は今から千二百年以上も前に、そのころの最高の技術を用いて作られたものです。

1 木で骨組みを作り、竹やなわで形を作る。

2 その上にねん土をぬって、大仏の原型を作った。

3 原型の上にねん土の外型を作り、それをはがした。

4 原型の表面をけずり、外型との間にすき間を作った。

5 このすき間に銅を流しこんだ。三年かかった。

6 土におおわれた大仏をほり出しながら、修正を加えていった。

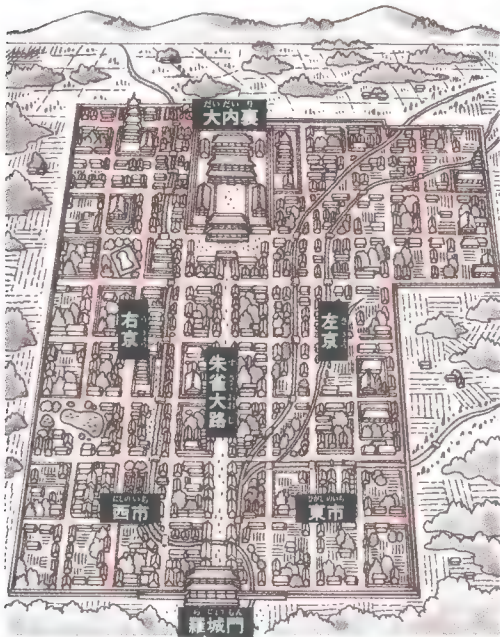
7 こうして完成。なお、大仏はその後焼け、現在のものは江戸時代に作られたもの。

（東大寺）

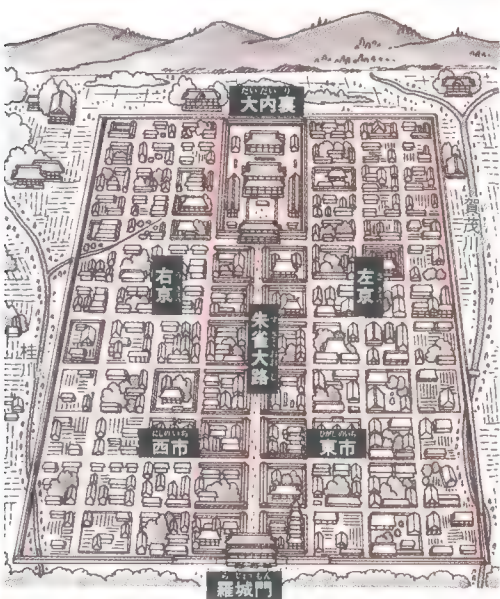
資料2 平城京・平安京のしくみ

唐（中国）の都、長安を手本にしてつくられた平城京は、東西約4.2km、南北約4.7kmだった。また、平安京は平城京より大きく、東西約4.5km、南北約5.3kmだった。

平城京（710年～794年）

（今の奈良県奈良市です）

平安京（794年～1869年）

（今の京都府京都市です。）

遣唐使船のしくみ

遣唐使船は、全長二十数メートル、はば約八メートル、総重量約三百トン。定員百～百六十人くらいの木造船と推定されている。

ふつう日本を出て、一か月くらいの航海だった。

遣唐使船に乗った人々

●使節の人々

＊大使（１人）　副使（２人）　判官（４人）　録事（４人）　史生（書記）など　従者たち

＊大使、副使、判官、録事は、役人としての地位のちがい

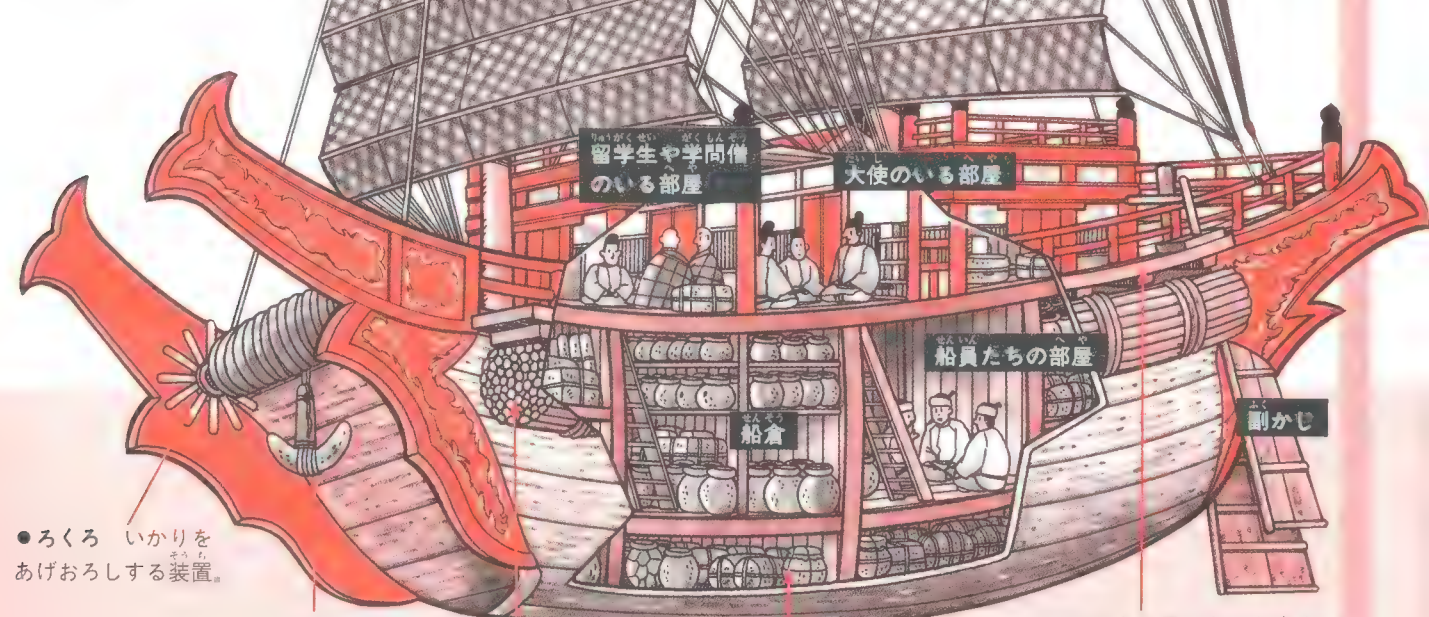
●留学生・留学僧など

留学生　留学僧　帰国者　従者たち

●船員たち

船長　航海長　かじ取り
水夫長　医者　神主　水夫

●網代帆　竹の皮であみ、間にささの葉をはさんだ。折りたたみができた。

＊この船は、風のあるときは帆で走り、風のないときはろをこいで進んだ。

●ろくろ　いかりをあげおろしする装置。

●いかり　木でできていて、おもり用の石がついていた。

●竹のたば　船がかたむいたときのうきになった。

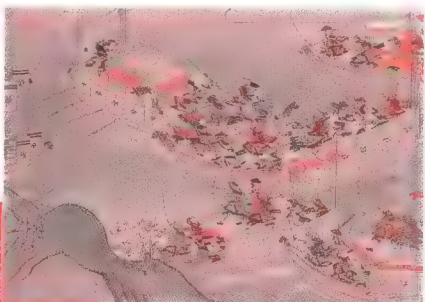
●船倉　食料品、みつぎ物、武器などを置く部屋があった。

●ろだな　風のないときや出入港のときに、ここで水夫がろをこいだ。

資料4 源平の合戦の移り変わり

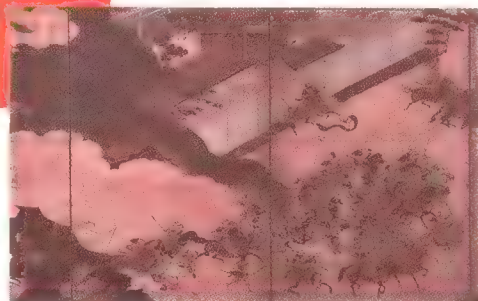
一一八〇年、源頼朝は平氏を討つために挙兵した。これに応じて、源義仲が大軍を率いて京都に入り、平氏を西国に追いやった。

一一八四年、平氏は京都をうかがい、引き返してきたが、頼朝の弟、義経や範頼の軍に敗れ、ついに一一八五年、ほろんでしまった。

一の谷の戦い。1184年2月、源義経は一の谷(兵庫県)の平氏をおそい、これを破った。　(赤間神宮)

壇ノ浦の戦い。1185年3月、源平両軍は壇ノ浦(山口県)で最後の戦いをしたが、源氏が勝った。

(林原美術館)

奥州藤原氏　平泉　倶利加羅峠　横田河原　木曽　鎌倉　墨俣川　石橋山　蛭ケ小島　富士川　京都　粟津　一ノ谷　宇治川　福原　水島　屋島　壇ノ浦

源 頼朝の進路
源 義経の進路
源 義仲の進路
源 範頼の進路

屋島の戦い。1185年2月、屋島(香川県)に陣どった平氏を源義経たちがおそい、これを破った。　(大倉寺)

元との二回の戦い

十三世紀に中国を支配した元は、一二七四年と一二八一年の二回にわたって、日本をおそった。それぞれを、文永の役、弘安の役とよぶ。

元
黄海
東シナ海
済州島
高麗
五島
合浦
小茂田
国府(厳原)
対馬
平戸
勝本
壱岐
玄界灘
鷹島
志賀島
宗像神社
能古島
博多湾
筥崎宮
大宰府

文永の役
弘安の役東路軍
弘安の役江南軍

⬆文永の役のときは、900せきの軍船と２万6000人の兵で、元は日本をおそった。また、弘安の役のときは、4000せき以上の軍船と14万人もの兵で日本をおそったが、いずれも暴風などにあって、失敗した。

➡元船をおそう武士たち。元軍との戦いに日本の武士たちは苦しんだが、なかには小舟で元船に乗りこみ、敵兵を組みふせた者もいた。元軍も、日本の武士の力には手をやいたといわれる。（菊池神社）

資料6

有力戦国大名とおもな戦い

応仁の乱のあとで、世の中は戦乱の時代をむかえ、全国各地で、たえず戦いがくり返された。

戦国大名たちは、天下の統一を目指して、たがいにはげしく戦った。

上杉謙信（1530～1578）
浅井長政（1545～1573）
朝倉義景（1533～1573）
尼子晴久（1514～1560）
毛利元就（1497～1571）
龍造寺隆信（1529～1584）
北条氏康（1515～1571）
今川義元（1519～1560）
斎藤道三（一四九五～一五五六）
武田信玄（1521～1573）
織田信長（1534～1582）
豊臣秀吉（1536～1598）
長宗我部元親（1538～1599）
島津貴久（1514～1571）

川中島の戦い
姉川の戦い（1570年）
長篠の戦い（1575年）
厳島の戦い（1555年）
桶狭間の戦い（1560年）

資料7

火縄銃のしくみ

一五四三年にポルトガル人が伝えた火縄銃は、日本式に作りかえられ、戦国時代に、新しい兵器として威力を発揮した。

●銃身　細長い鉄板を丸めて作った。この中を弾丸が通りぬけていく。長さはいろいろだが、ほぼ70cmくらいだ。

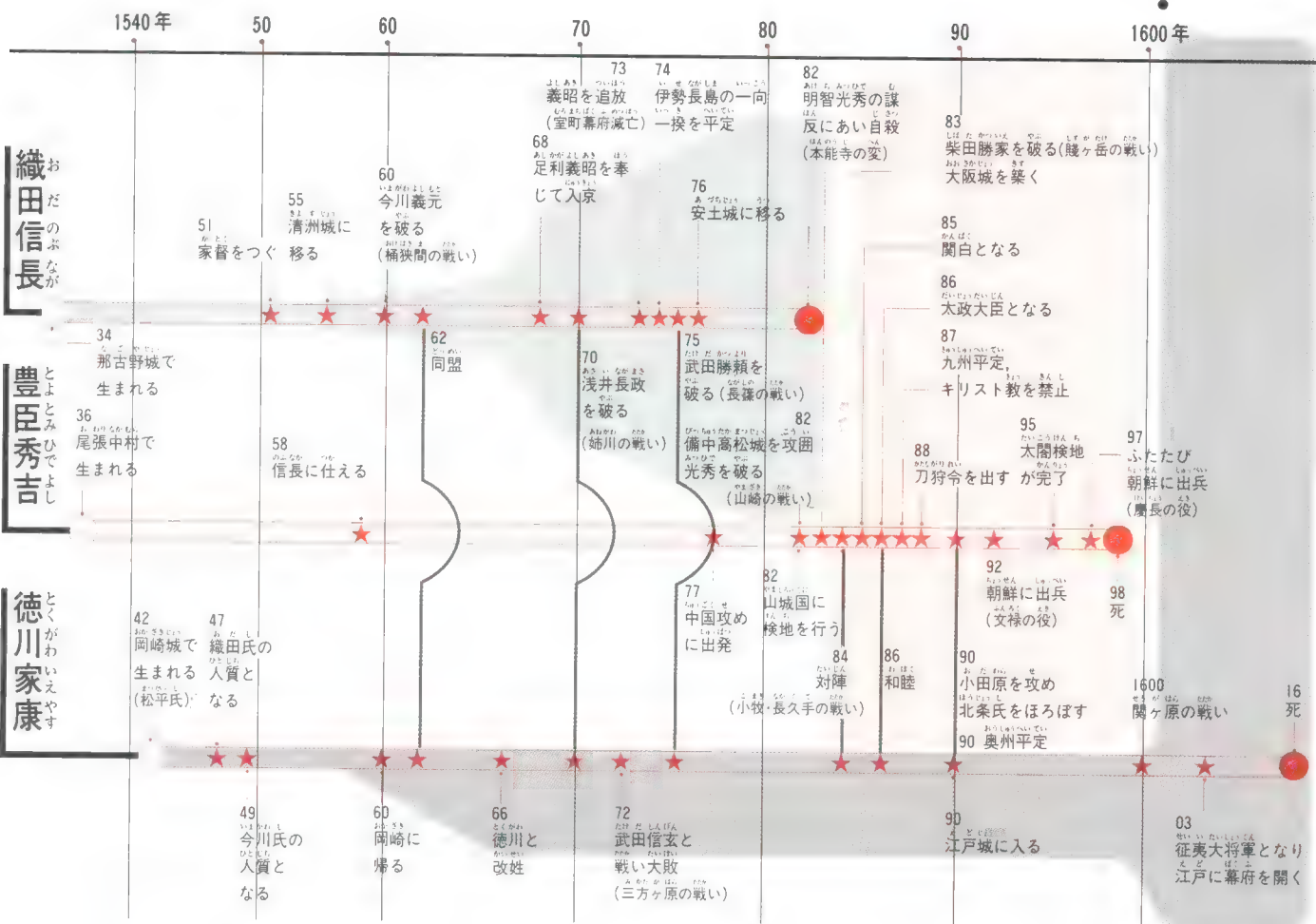
●先の目当　ここと、元の目当とを重ねて、ねらいを定める。

●銃床(台木)　銃身をつつみこむ台木。かし、くるみなどのかたい木が材料。

●目釘　銃身を銃床に固定させるための釘。

●かるか(さく杖)　銃口から入れた黒色火薬と弾丸を、この棒でつきかため、弾丸のとび出す力を強める。(かるかは、ここからぬき出して使います。)

信長・秀吉・家康の勢力拡大の様子

天下の統一は、桶狭間の奇襲や鉄砲隊などで大名たちを次々とたおした織田信長と、そのあとをついだ豊臣秀吉によって、進められた。そして、関ヶ原で豊臣氏と天下をかけた戦いに勝った徳川家康が江戸幕府を開き、100年あまり続いた戦乱の世も、ようやく終わりをつげた。

1540年　50　60　70　80　90　1600年

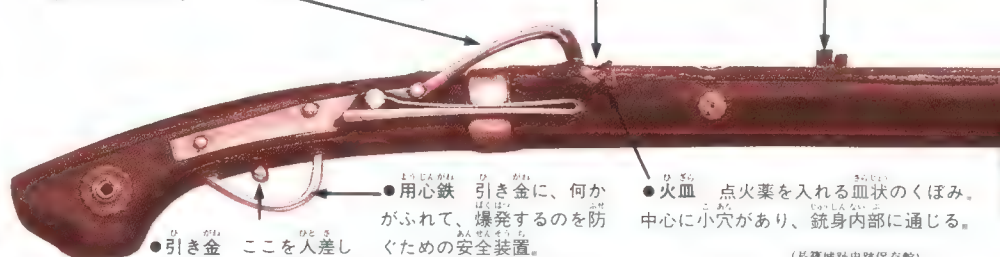
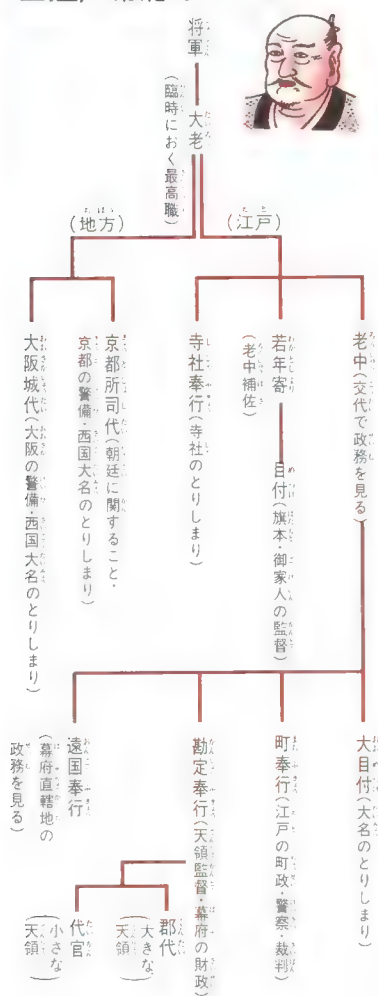
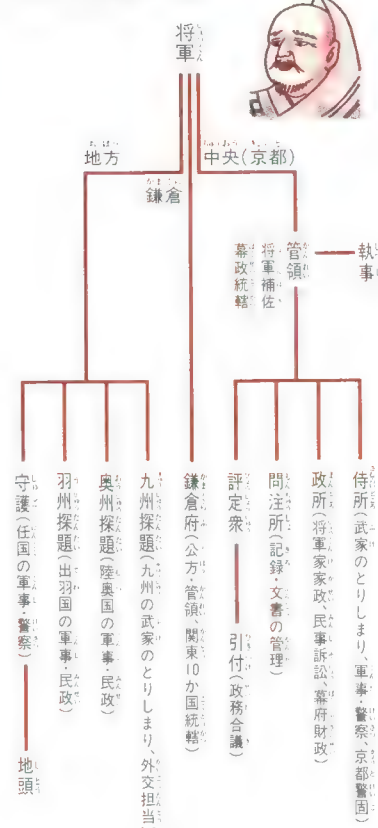
織田信長

- 34　那古野城で生まれる
- 51　家督をつぐ
- 55　清洲城に移る
- 60　今川義元を破る（桶狭間の戦い）
- 68　足利義昭を奉じて入京
- 73　義昭を追放（室町幕府滅亡）
- 74　伊勢長島の一向一揆を平定
- 76　安土城に移る
- 82　明智光秀の謀反にあい自殺（本能寺の変）

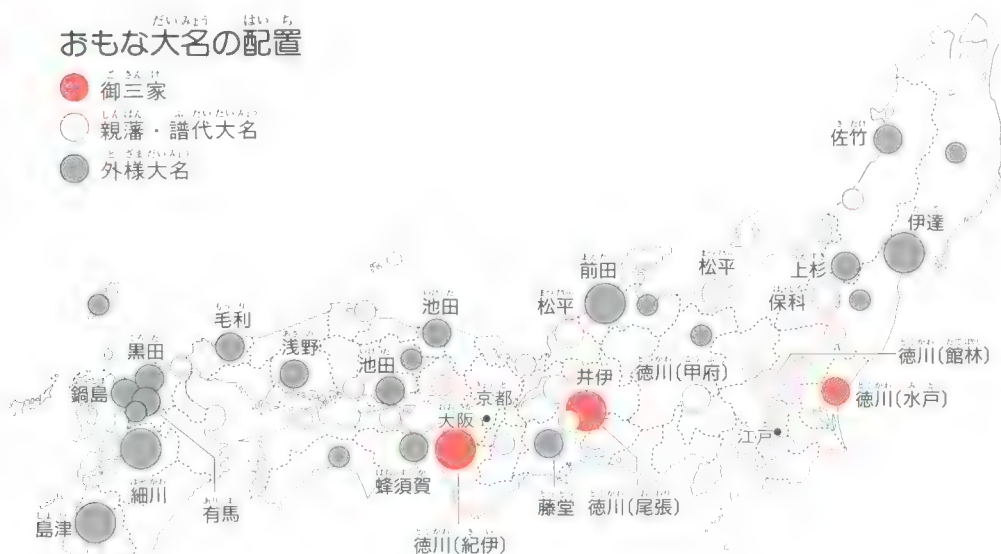
豊臣秀吉

- 36　尾張中村で生まれる
- 58　信長に仕える
- 62　同盟
- 70　浅井長政を破る（姉川の戦い）
- 75　武田勝頼を破る（長篠の戦い）
- 77　中国攻めに出発
- 82　備中高松城を攻囲　光秀を破る（山崎の戦い）
- 82　山城国に検地を行う
- 83　柴田勝家を破る（賤ヶ岳の戦い）　大阪城を築く
- 84　対陣（小牧・長久手の戦い）
- 85　関白となる
- 86　太政大臣となる
- 86　和睦
- 87　九州平定、キリスト教を禁止
- 88　刀狩令を出す
- 90　小田原を攻め北条氏をほろぼす
- 90　奥州平定
- 92　朝鮮に出兵（文禄の役）
- 95　太閤検地が完了
- 97　ふたたび朝鮮に出兵（慶長の役）
- 98　死

徳川家康

- 42　岡崎城で生まれる（松平氏）
- 47　織田氏の人質となる
- 49　今川氏の人質となる
- 60　岡崎に帰る
- 66　徳川と改姓
- 72　武田信玄と戦い大敗（三方ヶ原の戦い）
- 90　江戸城に入る
- 1600　関ヶ原の戦い
- 03　征夷大将軍となり江戸に幕府を開く
- 16　死

資料9 鎌倉・室町・江戸幕府のしくみ

室町幕府も江戸幕府も、初めて武家政権として組織された鎌倉幕府のしくみを、基本的には継承した。それぞれのしくみを見くらべてみよう。

資料10 江戸時代の大名配置

左の図は一六六四年の大名の配置。全国支配をかためると、江戸幕府は、関東・東海・近畿など、重要な地方においては親藩や譜代大名を配置し、外様大名は遠方に置いて、たがいに監視させるようにした。

資料⑪ 幕末に活やくした人々

江戸幕府を残すか、それとも新しい政治体制にするかで、はげしくゆれ動いた幕末（江戸時代末期）。この激動の時代に、全国各地からさまざまな考えをもった人々が、歴史の舞台に登場してきた。

彦根藩（滋賀県）

井伊直弼（1815～1860）
日米修好通商条約を結び、安政の大獄を行ったため、暗殺された。

京都（京都府）

三条実美（1837～1891）
公家。王政復古に活やくし、維新後は、太政大臣となった。

岩倉具視（1825～1883）
公家。大久保利通らと討幕運動につくし、王政復古の大号令を出させた。

長州藩（山口県）

吉田松陰（1830～1859）
松下村塾を開き、多くの志士を育てたが、安政の大獄で死刑となった。

木戸孝允（1833～1877）
西郷らと薩長同盟を結び、倒幕運動の中心として活やくした。

高杉晋作（1839～1867）
松下村塾出身の尊王攘夷運動の指導者。奇兵隊を組織して活やくした。

伊藤博文（一八四一～一九〇九）
イギリス留学後、討幕をとなえた。明治政府の初代総理大臣となり、憲法作成にも努力した。

井上馨（一八三五～一九一五）
イギリス留学後、討幕をとなえた。維新後は新政府に加わり、外務大臣として条約改正に努力。

山県有朋（一八三八～一九二二）
奇兵隊の隊長として討幕に参加。維新後、徴兵制や軍隊制度の確立に努め、総理大臣にもなった。

会津藩（福島県）

松平容保（1835～1893）
会津藩主、京都守護職。公武合体につくしたが、新政府軍と戦って敗れる。

水戸藩（茨城県）

徳川斉昭（1800～1860）
水戸藩主。尊王攘夷論者で、兵制改革などの藩政改革を行った。

江戸（東京都）

徳川慶喜（1837～1913）
江戸幕府最後の十五代将軍。徳川斉昭の子。大政奉還を行った。

勝海舟（1823～1899）
咸臨丸艦長として渡米後、海軍奉行となる。江戸無血開城に力をつくす。

榎本武揚（1836～1908）
オランダで航海術を学び、幕府海軍奉行となる。五稜郭で政府軍に敗れた。

近藤勇（1834～1868）
新撰組局長として、討幕派を弾圧。戊辰戦争でとらえられて処刑された。

土佐藩（高知県）

坂本龍馬（1835～1867）
薩長同盟を実現させる。議会や憲法作成を考え、大政奉還をすすめた。

山内豊信（1827～1872）
土佐藩主。幕府の政治に加わり、徳川慶喜に大政奉還をすすめた。

中岡慎太郎（一八三八～一八六七）
土佐勤王党に加わり、陸援隊を組織して討幕につくしたが、京都で坂本龍馬とともに暗殺された。

板垣退助（一八三七～一九一九）
討幕運動に活やくし、維新後は自由党を組織して自由民権運動を指導し、国会開設を実現させた。

薩摩藩（鹿児島県）

西郷隆盛（1827～1877）
薩長同盟を結んで幕府をたおし、明治政府の中心となった。

大久保利通（1830～1878）
尊王攘夷運動に参加。討幕後、新政府の実権をにぎり、新政策を行った。

黒田清隆（一八四〇～一九〇〇）
討幕運動に活やくし、明治政府の北海道開拓使長官となる。憲法制定のときの内閣総理大臣。

資料12 近代工業の発展

明治維新以後、政府は官営工場を造り、鉱山を開いて、新しい産業をおこすことに努めた。また、全国に鉄道がひかれた。

↑群馬県に建設された富岡製糸場。

蒸氣車出發時刻賃金附

↑1872年、新橋—横浜間に初めて鉄道が開通した。(神奈川県立博物館)

おもな官営事業
- 炭坑
- 金属鉱山
- 繊維工業
- 化学工業
- 農政関係
- 造船

——— 1907(明治40)年までに開通した鉄道

新潟　秋田　盛岡　仙台　富山　長野　高崎　水戸　金沢　東京　千葉　名古屋　静岡　京都　大阪

1. 幌内炭坑
2. 釜石鉄山
3. 小坂鉱山
4. 大葛鉱山
5. 阿仁鉱山
6. 院内鉱山
7. 油戸鉱山
8. 佐渡金山

9. 千住製絨所
10. 内藤新宿試験所
11. 深川セメント製造所
12. 石川島造船所
13. 品川硝子製造所
14. 三田育種所
15. 横須賀造船所
16. 新町屑糸紡績所

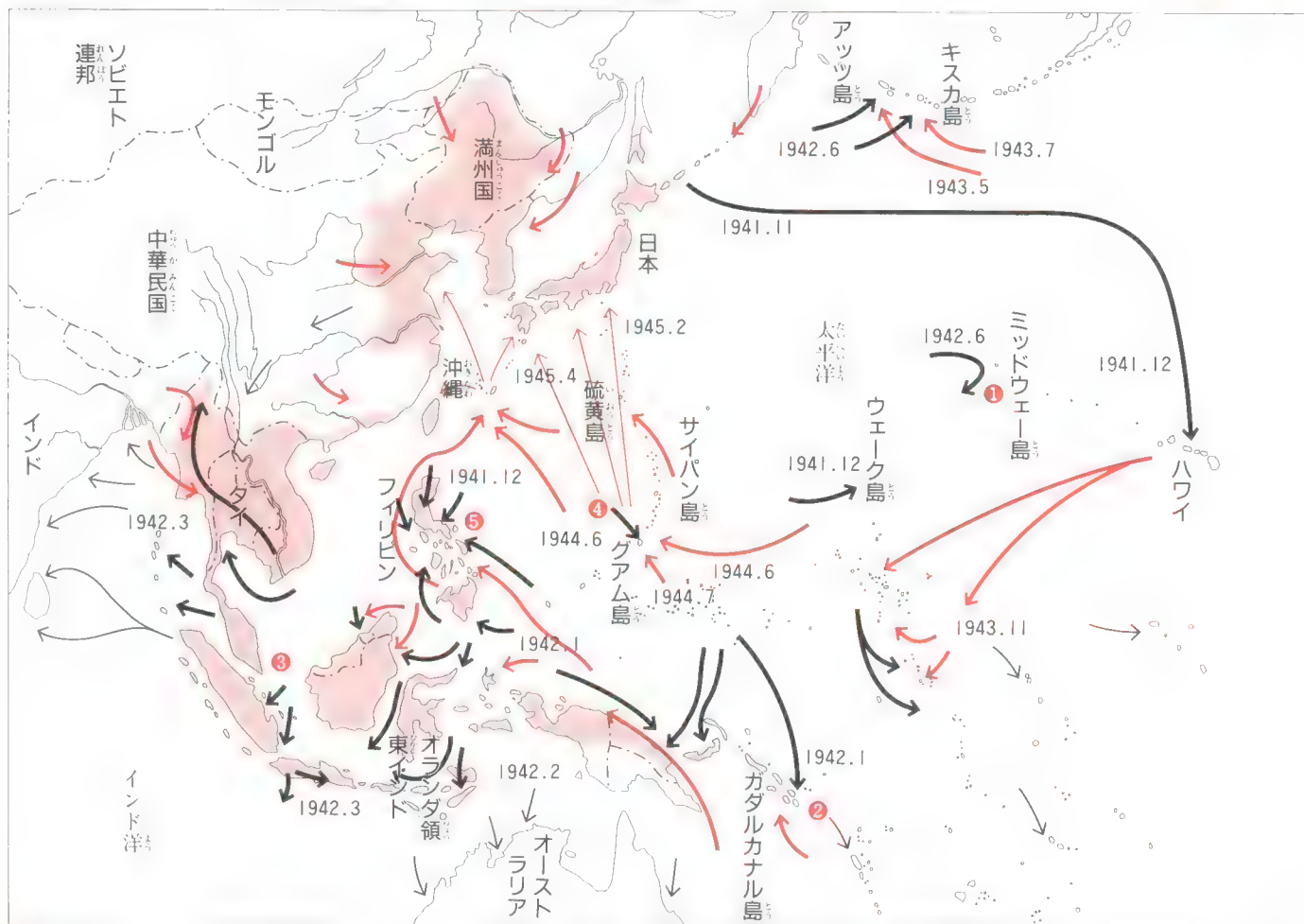
17. 富岡製糸場
18. 愛知紡績所
19. 堺紡績所
20. 生野銀山
21. 播磨ぶどう園
22. 兵庫造船所
23. 広島紡績所
24. 三池炭坑
25. 鹿児島紡績所
26. 長崎造船所
27. 高島炭坑

↑品川に造られたガラス工場の一部。(博物館明治村)

資料13

太平洋戦争の戦場

一九四一年十二月八日、日本の真珠湾攻撃に始まった太平洋戦争は、初めの一年は日本軍が優勢だったが、連合軍の反撃が始まると、日本には不利な展開となった。また、日本本土でも連合軍の激しい空襲をうけ、終戦までの約三年八か月の間に、国内の各地が焼け野原となった。

太平洋戦争　← 日本軍の進撃路　← 日本軍の空襲　← 連合国軍の反撃路　← 連合国軍の空襲　1943年初めまでの日本の勢力地

ソビエト連邦　モンゴル　満州国　中華民国　日本　インド　タイ　フィリピン　沖縄　硫黄島　サイパン島　グアム島　アッツ島　キスカ島　ミッドウェー島　ウェーク島　ハワイ　太平洋　東インド　オランダ領　オーストラリア　ガダルカナル島　インド洋

1942.6　1943.7　1943.5　1941.11　1945.2　1942.6　1941.12　1945.4　1941.12　1942.3　1944.6　1944.6　1944.7　1942.1　1943.11　1942.1　1942.2　1942.3

❶ 1942年6月　ミッドウェー海戦
❷ 1942年8月　ソロモン海戦
❸ 1941年12月　マレー沖海戦
❹ 1944年6月　マリアナ沖海戦
❺ 1944年10月　レイテ沖海戦

➡ミッドウェー海戦で連合軍の攻撃をうける重巡「三隈」。ミッドウェー攻略作戦の失敗以後、戦局は日本の劣勢に転じた。

日本の歴史年表

1 日本の国の成り立ち

時代	世紀	おもなできごと（政治・経済・社会）
旧石器時代		数十万年前ころ ●日本列島はアジア大陸と陸続きだった。
		一万年前 ●日本列島が、現在のような形になる。
縄文時代		●狩りや漁のくらしが長く続いた。
弥生時代		前三〇〇ころ ●このころから、米づくりが始まる。
		●小さな国が、あちこちにできる。
	1	五七 ●倭奴国の王が中国に使いを送り、金印を授かる。
	3	二三九 ●邪馬台国の女王卑弥呼が魏（中国）に使いを送る。
大和時代	4	三五〇ころ ●大和朝廷がほぼ全国を統一する。
	6	五九三 ●聖徳太子が推古天皇の摂政となる。
	7	六〇四 ●聖徳太子が十七条の憲法を定める。
	7	六〇七 ●小野妹子を隋（中国）に送る。（遣隋使）
	7	六三〇 ●初めて唐（中国）に使いを送る。（第一回遣唐使）
	7	六四五 ●中大兄皇子、中臣鎌足らが蘇我氏をほろぼし、大化の改新が始まる。

文化の流れ

（縄文文化）
●縄文土器がつくられる。
●たて穴住居に住む。

←旧石器時代の打製石器

（弥生文化）
●弥生土器がつくられる。
●鉄器や青銅器が伝わる。

↑銅鐸（神戸市立博物館）

（古墳文化）
●古墳が各地につくられる。
●漢字が大陸から伝わる。
●儒教や仏教が大陸から伝わる。

（飛鳥文化）
●法隆寺を建てる。（六〇七）

世界のおもな動き

●エジプト、インダス、中国、メソポタミアの四大文明がおこる。
●シャカが仏教を開く。（前五〇〇ころ）
●キリストが生まれる。
●漢帝国やローマ帝国が栄える。
●隋が中国を統一する。（五八九）
●イスラム教がおこる。（六一〇）

② 貴族の世の中

鎌倉時代	平安時代				奈良時代
13	12	11	10	9	8

六七二 ●壬申の乱がおこる。

七〇一 ●大宝律令が完成する。

七一〇 ●都を平城京（奈良）に移す。

七四一 ●国々に国分寺、国分尼寺を建てる。

七五二 ●東大寺の大仏が完成する。

●このころ荘園ができ始める。

七五四 ●唐の僧、鑑真が来日する。

七九四 ●都を平安京（京都）に移す。

八五八 ●藤原良房が摂政となる。

八九四 ●遣唐使がとりやめになる。

九三五 ●平将門の乱がおこる。

●このころ、荘園がひろがる。

一〇一六 ●藤原道長が摂政となり、藤原氏が栄える。

一〇八六 ●白河上皇が院政を始める。

一一五六 ●保元の乱がおこる。

一一五九 ●平治の乱がおこる。

一一六七 ●平清盛が太政大臣となる。

一一八五 ●壇ノ浦の戦いで、平氏がほろびる。

一一九二 ●源頼朝が征夷大将軍となり、鎌倉に幕府を開く。

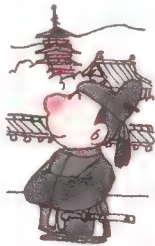
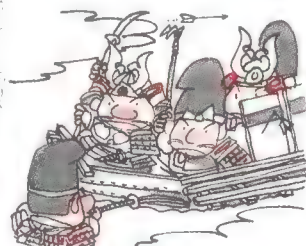
一二一九 ●源氏の将軍がほろび、北条氏が実権をにぎる。

（白鳳文化）

●薬師寺を建てる。（六九八）

（天平文化）

●唐風の文化が栄える。

●「古事記」ができる。（七一二）

●「風土記」の作成を命じる。（七一三）

●「日本書紀」ができる。（七二〇）

●このころ「万葉集」ができる。

●最澄が天台宗を伝える。（八〇五）

●空海が真言宗を伝える。（八〇六）

●国風の文化が栄え、かな文字の使用がひろまる。

●「古今和歌集」ができる。（九〇五）

（平安文化）

●このころ、「枕草子」や「源氏物語」ができる。

●平等院鳳凰堂ができる。（一〇五三）

●中尊寺金色堂ができる。（一一二四）

⬆奥州藤原氏の栄華をしのばせる金色堂

●このころ「平家物語」ができる。

●イスラム帝国が栄える。

●フランク王国が三つに分かれる。（八七〇）フランス・ドイツ・イタリアのおこり。

●中国の唐がほろびる。（九〇七）

●中国の宋がおこる。（九六〇）

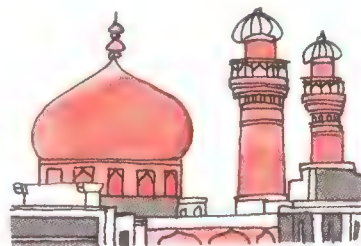
●ヨーロッパで十字軍の遠征が始まる。（一〇九六）

●チンギス＝ハンがモンゴルを統一する。（一二〇六）

③ 武士の世の中へ

時代	鎌倉時代	(南北朝時代)	室町時代	(戦国時代)	安土桃山時代

世紀	13	14	15	16

おもなできごと(政治・経済・社会)

- 一二二一 ●承久の乱がおこる。
- 一二三二 ●北条泰時が御成敗式目(貞永式目)を定める。
- 一二七四 ●元の大軍がおしよせる。(文永の役)
- 一二八一 ●再び元の大軍がおしよせる。(弘安の役)
- 一三三三 ●鎌倉幕府がほろびる。
- 一三三四 ●建武の新政が行われる。
- 一三三六 ●後醍醐天皇が吉野に移り、南北朝の対立が始まる。
- 一三三八 ●足利尊氏が征夷大将軍となり、京都に幕府を開く。
- 一三九二 ●南北朝が統一する。
- 一四六七 ●応仁の乱がおこる。
- ●このころ、土一揆や国一揆がさかんにおこる。
- 一五四三 ●ポルトガル人が種子島に鉄砲を伝える。
- 一五四九 ●ザビエルがキリスト教を伝える。
- 一五七三 ●織田信長が室町幕府をほろぼす。
- 一五八二 ●本能寺の変で、織田信長が死ぬ。
- ●豊臣秀吉が検地を始める。
- 一五八七 ●豊臣秀吉がキリスト教を禁止する。
- 一五八八 ●豊臣秀吉が刀狩を行う。
- 一五九〇 ●豊臣秀吉が全国を統一する。
- 一五九二 ●豊臣秀吉が朝鮮に兵を出す。
- 一五九八 ●豊臣秀吉が死ぬ。

文化の流れ

(鎌倉文化)

- ●新しい仏教がひろまる。
  - 法然—浄土宗
  - 栄西—臨済宗
  - 親鸞—浄土真宗
  - 道元—曹洞宗
  - 日蓮—日蓮宗
  - 一遍—時宗
- ●「徒然草」ができる。

⬆「徒然草」の作者吉田兼好。(常楽寺)

(北山文化)

- ●書院造がおこる。
- ●金閣を建てる。(一三九七)
- ●能や狂言がはやる。

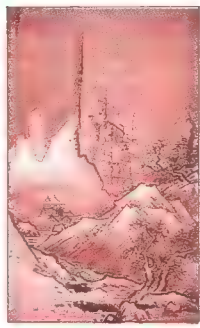
(東山文化)

- ●銀閣を建てる。(一四八九)
- ●雪舟が水墨画を大成する。

(東京国立博物館)

(桃山文化)

- ●九州の大名が少年使節をローマに送る。(一五八二)
- ●千利休が茶道を大成する。

世界のおもな動き

- ●元が中国を統一する。(一二七九)
- ●ヨーロッパでルネサンスが始まる。
- ●グーテンベルクが活版印刷術を発明する。(一四四五)
- ●コロンブスがアメリカ大陸を発見する。(一四九二)
- ●ルターが宗教改革を始める。(一五一七)
- ●ヨーロッパ諸国がアジアやアメリカ大陸へ進出を始める。

④ 士農工商の世の中

江戸時代

17 ・ 18 ・ 19

一六〇〇 ●関ヶ原の戦いで、徳川家康が豊臣方を破る。

一六〇三 ●徳川家康が江戸幕府を開く。

一六一五 ●大阪夏の陣で、豊臣氏がほろびる。
●武家諸法度が定められる。

一六三四 ●長崎の出島がつくられる。

一六三五 ●日本人の海外渡航と、海外の日本人の帰国を禁止。
●参勤交代の制度ができる。

一六三七 ●島原の乱がおこる。

一六三九 ●ポルトガル船の来航を禁止する。(鎖国の完成)

一六四三 ●田畑の永代売買を禁止する。

一六四九 ●慶安のお触書が出る。

一六八七 ●生類あわれみの令が出る。

一七一六 ●徳川吉宗が享保の改革を始める。

一七八二 ●天明の大ききんがおこる。

一七八七 ●松平定信が寛政の改革を始める。

一八二五 ●幕府が外国船打払令を出す。

一八三三 ●天保の大ききんがおこる。
●このころ、百姓一揆・打ちこわしがはげしくなる。

一八三七 ●大塩平八郎の乱がおこる。

一八四一 ●水野忠邦が天保の改革を行う。

一八五三 ●ペリーが浦賀(神奈川県)に来て、開国をせまる。

一八五四 ●日米和親条約を結ぶ。(日本の開国)

(元禄文化)

●このころ、姫路城が完成する。

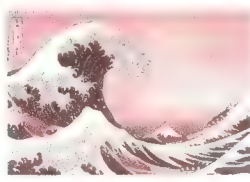
●林羅山が学問所をつくる。(一六三〇)

昌平坂学問所の講義 (東京大学史料編纂所)

●上方中心の町人文化が栄える。
井原西鶴―浮世草子
松尾芭蕉―俳諧
近松門左衛門―浄瑠璃
歌舞伎がさかんになる。

●寺子屋がたくさんできる。

●蘭学や国学がおこる。
「解体新書」(一七七四)
「古事記伝」(一七九八)

(化政文化)

●江戸中心の町人文化が栄える。
葛飾北斎・歌川広重―浮世絵

葛飾北斎の「富嶽三十六景」の一つ。

●イギリスが東インド会社を設立する。(一六〇〇)

●イギリスで清教徒革命がおこる。(一六四二)

●清が中国を支配する。(一六四四)

●イギリスで名誉革命がおこる。(一六八八)

●このころ、イギリスの産業革命が始まる。

●アメリカが独立を宣言する。(一七七六)

●フランス革命がおこる。(一七八九)

●中国でアヘン戦争がおこる。(一八四〇)

5 明治からの新しい世の中

時代	世紀
江戸時代	19
明治	19

おもなできごと（政治・経済・社会）

年	できごと
一八五八	●井伊直弼が大老になり、日米修好通商条約を結ぶ。 ●安政の大獄が始まる。
一八六三	●薩摩藩とイギリスが戦う。（薩英戦争）
一八六四	●外国の連合艦隊が下関をこうげきする。（下関戦争）
一八六六	●薩長同盟が結ばれる。
一八六七	●徳川慶喜が政権を返上し、江戸幕府がほろびる。
一八六八	●鳥羽・伏見の戦いがおこる。 ●五か条の御誓文が出される。 ●江戸を東京と改める。
一八六九	●版籍奉還が行われる。
一八七一	●廃藩置県が行われる。 ●岩倉具視らが欧米の視察に出発する。
一八七二	●新しい学校制度が決められる。
一八七三	●徴兵令が出される。 ●地租改正が行われる。
一八七四	●板垣退助らが、国会開設の意見書を出し、自由民権運動が始まる。
一八八一	●政府が国会を開くことを約束する。 ●板垣退助が自由党をつくる。
一八八五	●内閣制度ができ、伊藤博文が内閣総理大臣になる。
一八八九	●大日本帝国憲法が発布される。
一八九〇	●第一回帝国議会が開かれる。
一八九四	●イギリスとの条約改正に成功する。 ●日清戦争がおこる。
一九〇一	●八幡製鉄所が生産を開始する。
一九〇二	●イギリスと同盟を結ぶ。（日英同盟）

文化の流れ

（明治）

●慶應義塾が設立される。（一八六八）
●文明開化が始まる。
●新橋—横浜間に鉄道が開通する。（一八七二）
●福沢諭吉が「学問ノスヽメ」をあらわす。（一八七二）
●鹿鳴館を建てる。（一八八三）
●東海道本線が全通する。（一八八九）
●志賀潔が赤痢菌を発見する。（一八九七）

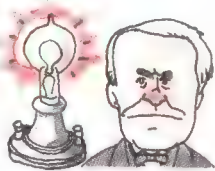
↑福沢諭吉が創立した慶応義塾大学の三田演説館。

←鹿鳴館

世界のおもな動き

●アメリカで南北戦争が始まる。（一八六一）
●スエズ運河が開通する。（一八六九）
●ドイツ帝国が成立する。（一八七一）
●このころ、ヨーロッパの国々による東南アジアの植民地化が進む。
●エジソンが電灯を発明する。（一八七九）
●レントゲンがX線を発見する。（一八九五）

大正　昭和　平成

20

一九〇四 ●日露戦争がおこる。

一九一〇 ●韓国を併合する。

一九一一 ●この年までに、諸外国との条約改正が終わる。

一九一四 ●第一次世界大戦に日本も加わる。

一九一八 ●米騒動がおこる。 ●原敬が本格的な政党内閣をつくる。

一九二三 ●関東大震災がおこる。

一九二五 ●普通選挙の制度ができる。

一九三一 ●満州事変がおこる。

一九三三 ●日本が国際連盟を脱退する。

一九三七 ●日中戦争が始まる。

一九四〇 ●ドイツ・イタリアと三国軍事同盟を結ぶ。

一九四一 ●太平洋戦争が始まる。

一九四五 ●広島・長崎に原子爆弾が落とされる。 ●ポツダム宣言を受け入れ、連合国に降伏する。

一九四六 ●日本国憲法が公布される。

一九五一 ●サンフランシスコ平和条約。日米安全保障条約が結ばれる。

一九五六 ●ソ連との国交が回復する。 ●国際連合に加わる。

一九六四 ●オリンピック大会が東京で開かれる。

一九七〇 ●大阪で日本万国博覧会が開かれる。

一九七二 ●沖縄が本土に復帰し、沖縄県となる。 ●日本と中国との国交が開かれる。

一九七八 ●日中平和友好条約を結ぶ。

一九八九 ●平成時代が始まる。

（大正の文化）

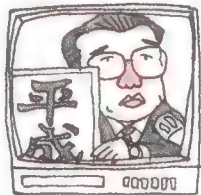
●夏目漱石が「吾輩は猫である」を発表する。（一九〇五）

↑『吾輩は猫である』の表紙

●白樺派やプロレタリア文学などがおこる。

●ラジオ放送が始まる。（一九二五）

↑日本ではじめてのラジオ

（昭和の文化）

●湯川秀樹がノーベル賞を受賞する。（一九四九）

●テレビ放送が始まる。（一九五三）

●日本とアメリカのテレビ中継が行われる。（一九六三）

●東海道新幹線が開通する。（一九六四）

↑現在の東海道新幹線

●第一次世界大戦が始まる。（一九一四）

●ロシア革命がおこる。（一九一七）

●国際連盟が成立する。（一九二〇）

●世界恐慌がおこる。（一九二九）

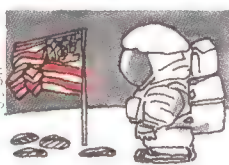
●第二次世界大戦が始まる。（一九三九）

●国際連合が成立する。（一九四五）

●中華人民共和国が成立する。（一九四九）

●朝鮮戦争が始まる。（一九五〇）

●人類が初めて月に立つ。（一九六九）

●南北のベトナムが統一する。（一九七六）

●東西のドイツが統一する。（一九九〇）

あ

明智光秀 …… 130・132・133・134・273
足利尊氏 …… 112・113・114・115・116・117
足利義政 …… 122・123
足利義満 …… 111・115・116・117・118・122・123
飛鳥文化 …… 36・56
安土桃山時代 …… 142
阿倍仲麻呂 …… 62・63・64
天草四郎時貞（益田四郎時貞） …… 156・157
安政の大獄 …… 192
安徳天皇 …… 99・100・101
井伊直弼 …… 189・190・191・192・193・275
板垣退助 …… 208・209・210・275
一向一揆 …… 120・121・135
石田三成 …… 147・148
石橋山の戦い …… 99
一ノ谷の戦い …… 101・270
伊藤博文 …… 211・212・214・215・216・219・275
犬養毅 …… 223・230・231・245
伊能忠敬 …… 167・184
井原西鶴 …… 163・181
今川義元 …… 124・129・130・272・273
岩倉具視 …… 202・208・275
岩宿遺跡 …… 15
院政 …… 82・83・84・96
上杉謙信 …… 124・125・126・272
『浮世草子』 …… 163・181
歌川（安藤）広重 …… 164・183
衛士 …… 61・71
江戸時代 …… 177
江戸城 …… 159・177・273
江戸幕府 …… 146・152・153・274
延暦寺 …… 84・93・120・131
奥州藤原氏（清衡・基衡・秀衡） …… 82・103
王政復古 …… 200
応仁の乱 …… 122・123
大海人皇子→天武天皇
大王 …… 27・29
大久保利通 …… 194・196・275
大隈重信 …… 206・210・212・220
大阪城 …… 134・136・149・150・273
大阪夏の陣 …… 146・150
大阪冬の陣 …… 149
大塩平八郎 …… 174
大村益次郎 …… 204
阿国 …… 143・163
『奥の細道』 …… 162・181
桶狭間の戦い …… 129・130・272・273
尾崎行雄 …… 223・230
織田信長 …… 124・127・128・129・130・131・133・272・273
小野妹子 …… 36・39・40

か

『解体新書』 …… 166・167
貝塚 …… 16
学童疎開 …… 265
『学問ノススメ』 …… 206・207
化政文化 …… 163・183
刀狩 …… 135
勝海舟 …… 198・199・275
葛飾北斎 …… 164・183
歌舞伎 …… 143・162・163・181・182
鎌倉時代 …… 137・138
鎌倉幕府 …… 104・108・111・113・274
賀茂真淵 …… 166
川中島の戦い …… 124・126
川端康成 …… 258
冠位十二階の制 …… 36・38・39
官営工場 …… 206・207・237・276
勘合貿易 …… 116・118
鑑真 …… 64
寛政の改革 …… 172
関税自主権 …… 221
関東大震災 …… 223・229
関白 …… 72・73・135
桓武天皇 …… 68・70・71・72・78・79・80・92
管領 …… 117・274
『魏志倭人伝』 …… 25
喜多川歌麿 …… 183
北里柴三郎 …… 240
北山文化 …… 111
木戸孝允（桂小五郎） …… 195・208・275
吉備真備 …… 62・63・64
旧石器時代 …… 14・49
行基 …… 66
享保の改革 …… 170
キリスト教 …… 128・144・156
金印 …… 24
『金槐和歌集』 …… 104
金閣 …… 111・116・117・118・140
銀閣 …… 122・140
金属器 …… 22・52・53
空海 …… 92・93
公事方御定書 …… 170
楠木正成 …… 112・113・114
口分田 …… 61・71
黒船 …… 187・233
郡司 …… 44・68・71
慶安のお触書 …… 152・155
下剋上 …… 124・125
元 …… 108・109・271
元寇 …… 109・110
『源氏物語』 …… 76・77・95
遣隋使 …… 39・40
憲政会 …… 231
検地（太閤検地） …… 135・273
遣唐使 …… 62・63・94・269

建武の新政 112・113・114
元禄文化 162・180
五・一五事件 245
弘安の役 109・271
豪族 27・29・54・96
公地公民 43
公武合体 190
御恩 104・105・106
五街道 158・159・178
『五か条の御誓文』 195・200・201・235
国学 165
国際連合 257
国際連盟 244
国司 44・68・70
国分寺 65・66・67・81・90
国分尼寺 65・66・67・81・90
御家人 104・105・106・108・110
小作争議 228・229・243
後三年の役 82・83・103
御成敗式目 107
『古事記』 30・58・166
後白河天皇(上皇・法皇) 85・86・87・88・99・104
後醍醐天皇 111・112・113・114・115
骨角器 14・17・51
国家総動員法 246
後鳥羽上皇 106
五人組の制 152・156
古墳 31・54・55
小牧・長久手の戦い 134・273
小村寿太郎 219・221・222
米騒動 225・226
墾田永年私財法 65

さ

西郷隆盛 198・199・208・209・275
最澄 92・93
斎藤道三 124・272
坂上田村麻呂 70・71
坂本龍馬 195・275
防人 61・71
桜田門外の変 192・193
鎖国 157
薩英戦争 194・234
薩長同盟 195・196
参勤交代 151・152・153・158・171
三国干渉 216
サンフランシスコ平和条約 255・256・266・267
志賀潔 240
賤ケ岳の戦い 134・273
氏姓制度 29
執権 104・105
地頭 103・104・274
持統天皇 48・58
士農工商 154
柴田勝家 133・134・273
島原の乱 152・156
四民平等 202・203
下関条約 215・216・220
自由民権運動 209・210・214
十七条の憲法 36・39
守護 103・104・274
守護大名 115・117・118・122・125
朱子学 173
荘園 75・76・88・103
蒋介石 246
承久の乱 106
正倉院 91
聖徳太子 36・37・38・39・40
聖武天皇 65・66・67・90・91
縄文時代 15・16・17・18・50・51
縄文土器 15・51
生類あわれみの令 168・169
昭和天皇 260・266
白河上皇 82
壬申の乱 45・46・47・48
寝殿造 77・94・111
親藩 151・274
親鸞 139
隋 36・39
推古天皇 36・38
菅原道真 72・73
杉田玄白 166・184
崇徳上皇 85・86・87
征夷大将軍 70・104・146・148・273
征韓論 208・209・210
清少納言 76・77
青銅器 22・52
西南戦争 208・209
世界恐慌 242・261
関ケ原の戦い 146・147・148・273
摂関政治 72・82
雪舟 141
摂政 38・72・73
前九年の役 82・83
戦国時代 122・127
戦国大名 125・146
先土器(無土器)時代 14
千利休 143
前方後円墳 7・31・55
宋 86・88
蘇我入鹿 41・42
蘇我馬子 37・41・42
蘇我蝦夷 41・42
尊王攘夷運動 193・234

た

第一次世界大戦 224
大化の改新 41・42・43・44・45・46・48

大正時代 223
大正デモクラシー 223
太政大臣 46・86・87・96・135
大政奉還 153・197・200・234
第二次世界大戦 247・264
大日本帝国憲法 200・211・238
大宝律令 45・48
大名 151・179
平清盛 78・85・86・87・88・96
平将門 80
高杉晋作 194・195・275
高床式倉庫 9・21・52
武田勝頼 131・132・273
武田信玄 124・125・131・272・273
打製石器 14・15・49
たて穴住居 9・15・16・19・50
田沼意次 172
壇ノ浦の戦い 100・101・102・270
治安維持法 232
治外法権 189・221
近松門左衛門 162・180
地租改正 205
朝鮮出兵 136・273
朝鮮戦争 255・257・258
徴兵令 205
チンギス＝ハン 108
土一揆 121・135
帝国議会 239
鉄器 7・10・22・53
鉄砲(火縄銃) 127・128・272
天下統一 136
天智天皇 41・42・43・44・45・46・47・58
天平文化 63・65
天保の改革 176
天武天皇 42・45・46・47・48・65
唐 44・48
銅鏡 22・24
銅剣 11・22
道元 139
東郷平八郎 218
唐招提寺 64・90
東条英機 248・264
東大寺 64・65・66・67・90
銅鐸 22・53
銅矛 22・53
土器 10
土偶 18
徳川家光 151・152・158
徳川家康(松平元康) 130・134・136・146・147・148・149・150・153・158
徳川綱吉 158・165・168
徳川慶喜(一橋慶喜) 191・196・197・275
徳川吉宗 170
徳政一揆 121
外様大名 151・274
鳥羽法皇 85
朝永振一郎 258
豊臣秀吉(木下藤吉郎・羽柴秀吉) 133・134・135・146・147・149・150・272・273
豊臣秀頼 147・148・150
渡来人 33・35・66
登呂遺跡 19・52

な

長篠の戦い 130・132・272・273
中臣(藤原)鎌足 42・44・45・65・72
中大兄皇子→天智天皇
夏目漱石 240
奈良時代 58・89・90
『南総里見八犬伝』 183
南蛮貿易 128
南北朝時代 115
日英同盟 217・222・224
日独伊三国同盟 244・247・264
日米安全保障条約 256
日米修好通商条約 188・189・275
日米和親条約 186・187・233
日明貿易 118
日蓮 138・139
日露戦争 218
日清戦争 215
新田義貞 112・113・115
日中戦争 245・246・263
日中平和友好条約 256
二・二六事件 245・263
日本国憲法 252・253・254・256・266
『日本書紀』 30
農地改革 252
野口英世 240
ノルマントン号事件 221

は

『花の御所』 111・116・118
廃藩置県 195・196・202
はにわ 32
原敬 226・230
ハリス 189・233
藩校と寺子屋 165
版籍奉還 195・196・201
班田収授の法 43・70
ヒトラー 250
日野富子 123
卑弥呼 7・23・24・25
平賀源内 166・167
福沢諭吉 206・207
武家諸法度 151・152
富国強兵 204・205
富士川の戦い 100・101

藤原鎌足→中臣鎌足
藤原純友 80
藤原秀衡 102・103
藤原道長 74・83
藤原基経 72・73
藤原良房 72・73
婦人参政権運動 228
普通選挙運動 230
『風土記』 58
フビライ=ハン 108
ふみ絵 157
フランシスコ=ザビエル 128
文永の役 109・271
文明開化 207・236
平安京 68・69・70・92・268
平安時代 70・92・94・96
『平家物語』 138
平治の乱 86・87・96・98
平城京 58・59・60・68・268
ペリー 186・233
貿易まさつ 259
保元の乱 85・86・87・96
奉公 104・105
方広寺 149
北条高時 112・113
北条時政 104・105・106
北条時宗（相模太郎） 110
北条政子 105・106
北条泰時 107
北条義時 106・107
ポーツマス条約 219・222
法隆寺 36・56
戊辰戦争 198・199
細川勝元 122・123
ポツダム宣言 250
本能寺の変 133・273

ま

前島密 207
『枕草子』 76・77
磨製石器 15・17
松岡洋右 244・262
松尾芭蕉 162・181
マッカーサー 252・266
松平定信 172・173
満州事変 244・262
政所 104・274
『万葉集』 47・166
水野忠邦 175・176
源実朝 104・106
源義家 82・83・99
源義経 101・102・103・270
源義朝 85・86・87
源義仲（木曽義仲） 100・270
源頼朝 70・78・87・98・99・101・102・105・270
明 116・118・136
陸奥宗光 216・220・221
紫式部 76・77
室町時代 119・121・140
室町幕府 111・114・116・117・131・273
明治天皇 200・201・235
目安箱 170
毛沢東 246
毛利元就 124・133・272
以仁王 98・99
本居宣長 165・166・184
森鷗外 240

や

屋島の戦い 102・270
山県有朋 204・275
山崎の戦い 132・133・273
邪馬台国 7・23・24・25
大和時代 54・56
ヤマトタケル 28
大和朝廷 27・29・54・56
山名宗全 116・122・123
弥生時代 19・52
郵便制度 207
湯川秀樹 258
吉田茂 256・267
吉田松陰 192・275
吉野ケ里遺跡 6
吉野作造 223・230
淀君 148・149・150

ら

蘭学 165
立憲改進党 210・212
立憲政友会 212・226
律令制度 43・65
両替商 161
ルーズベルト（F・ルーズベルト） 242
蓮如 120
老中 152・274
六波羅探題 107・113
鹿鳴館 221
盧溝橋事件 245・263

わ

倭寇 118
和同開珎 60

●学習に必要な項目や人名をのせてあります。
●数字は、項目や人名が出ているおもなページです。

■写真・資料提供

東京国立博物館／佐賀県教育委員会／安居院／東北大学考古学研究室／野尻湖発掘調査団／南山大学人類学博物館／大深山考古館／福岡市埋蔵文化財センター／陽明文庫／隅田八幡神社／宮内庁／談山神社／東京大学総合図書館／埼玉県立博物館／慶応義塾大学考古学研究室／国学院大学考古学資料館／早稲田大学文学部考古学研究室／静岡市立登呂博物館／九州歴史資料館／芝山はにわ博物館／埼玉県立さきたま資料館／奈良県立橿原考古学研究所／中宮寺／法隆寺／津南町教育委員会／奈良国立文化財研究所／吉備寺／高野山文化財保存会／出光美術館／誠心院／文化庁／神護寺／奈良市役所／鳳来町立長篠城址史跡保存館／唐招提寺／東大寺／薬師寺／興福寺／東京大学建築学科教室／東寺／神奈川県立博物館／京都国立博物館／平等院／田中春子／神泉苑／林原美術館／中尊寺／志羅山兹順／願成就院／大通寺／水無瀬神宮／菊池神社／満願寺／鹿苑寺／如意輪寺／鑁阿寺／湊川神社／津村禮次郎／赤間神宮／建仁寺／慈照寺／国立国会図書館／藤田美術館／西本願寺／京都大学付属図書館／国立歴史民俗博物館／神戸市立博物館／東洋文庫／上杉神社／方広寺／徳川美術館／富士銀行／東京大学史料編纂所／新居関所史料館／柿衛文庫／小杉一雄／天理大学附属天理図書館／長崎大学付属図書館経済学部分館／本居宣長記念館／伊能忠敬記念館／MOA 美術館／明治神宮聖徳絵画館／鹿児島市立美術館／財団法人三笠保存会／尚古集成館／味燈書屋／浅倉哲／黒船館／重要文化財開智学校管理事務所／国学院大学図書館／山口県立山口博物館／東京国立文化財研究所／共同通信社／朝日新聞社／読売ニュース写真センター／慶応義塾大学／内田滋／天真寺／京都大学文学部博物館／博物館明治村／長崎市立博物館／宮内庁正倉院事務所／歓喜光寺／清浄光寺／福富太郎コレクション／身延町観光協会／妙喜庵／龍安寺／円覚寺

学研のまるごとシリーズ

まんが日本の歴史2000年

1991年7月17日　初版発行

監　　修■埼玉大学教授　田代脩
指導／文■前神奈川県川崎市立宮前平中学校教諭　柳川正実
協　　力■佐賀県教育委員会　高島忠平
歴史漫画■人見倫平
表紙絵　■七瀬カイ
絵　■野崎猛／下田信夫／高田勲／中村頼子／斉藤みゆき／風博士／森正人
図　　版■ユニオンプラン／アートライフ／ユニゾン／誠興
装丁／デザイン■村松幹三
発行人　■本郷左智夫
編集人　■福田昌弘
発行所　■株式会社学習研究社
東京都大田区上池台 4-40-5（〒145）
振替　東京 8-142930
印刷所　■図書印刷株式会社

企画／編集■葛坂　登
編集協力■冬陽社（岡村浩史／沢村啓之）

この本の内容や製本に関するお問い合わせがありましたら，文書は，〒146 東京都大田区仲池上 1-17-15　学研お客さま相談センターへ。
電話は，東京 03(3726)8281へお願いいたします。

1991 Printed in Japan
138 411
ISBN4-05-105644-9
NDC 210

古代の国々（8世紀ごろ）
国界
主要道路
現在の県境（県名）
（青森）
（秋田）
（岩手）
出羽
陸奥
（山形）
（宮城）
佐渡
能登
（石川）
越後
（新潟）
（福島）
越中
（富山）
加賀
信濃
上野
下野
越前
飛騨
（長野）
（群馬）
（栃木）
常陸
美濃
（茨城）
武蔵
（岐阜）
甲斐
（埼玉）
尾張
（山梨）
（東京）
下総
三河
（愛知）
（静岡）
相模
（三重）
遠江
駿河
（神奈川）
上総
（千葉）
伊豆
志摩
安房
畿内の国々
国界
丹波
近江
摂津
山城
播磨
伊賀
河内
大和
淡路
和泉
紀伊